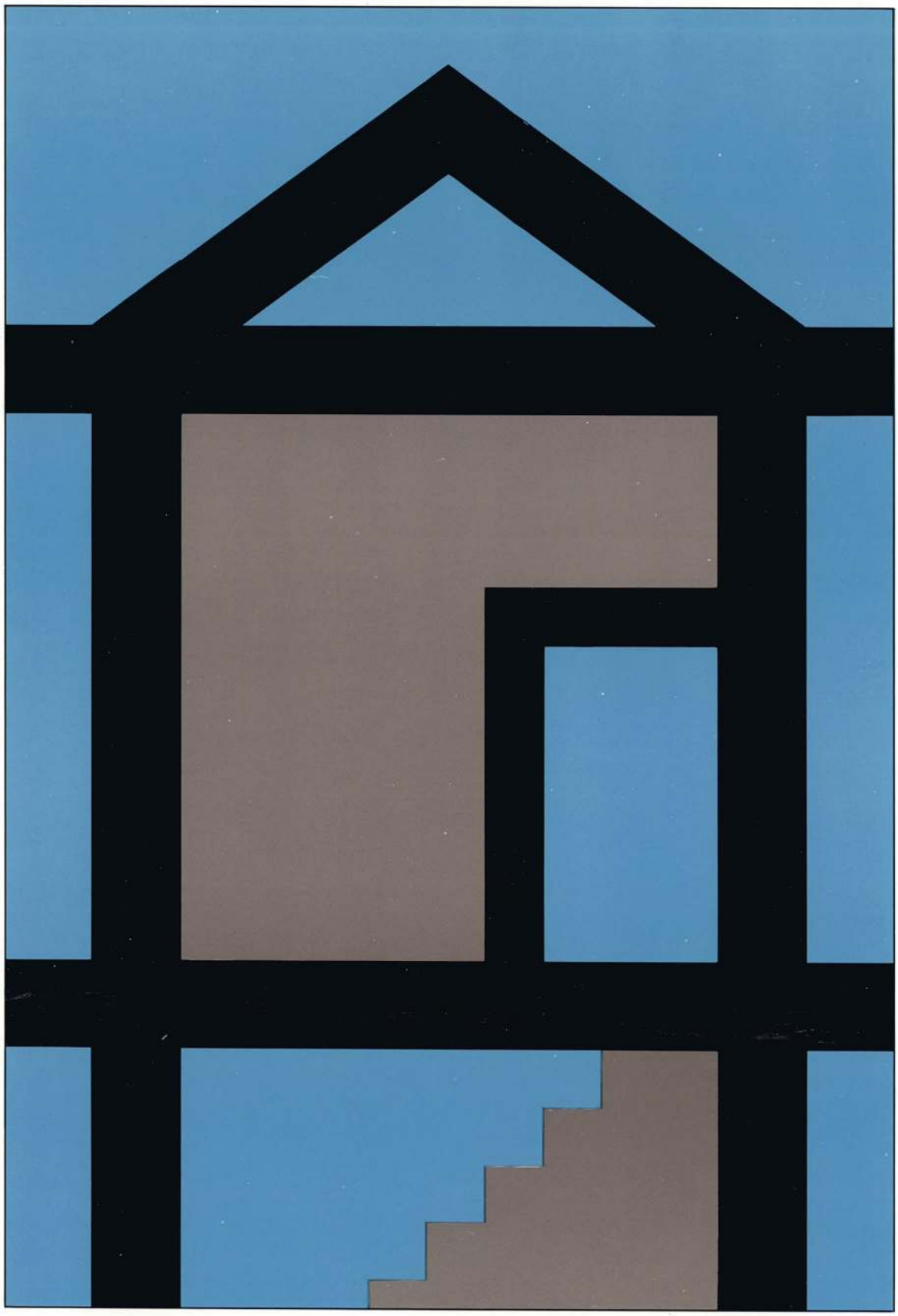
建築と社会

社団法人 日本建築協会
昭和44年10月25日発行 第50輯第10号
毎月1回25日発行
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

10 1969
VOL. 50

特集／民家の系譜と保存計画

ARCHITECTURE AND SOCIETY



創業50周年
50
1919－1969
50年の信頼



屋根防水/地下防水/橋梁防水に

三ッ星ベルト

E・P・Tゴム完全防水シート

ネオ・ルーフィング EB

- シート厚み1.1mm→1.3mm！
  工法は簡単に、性能も一段と向上しました。いままでのブチルゴム系、クロロプレン系のものにくらべて耐候性、耐摩耗性、耐破断強度は特にすぐれています。
- PC版、ALC版、木毛板、鉄板、木材、発泡断熱材などほとんどの下地材料に完全施工できます。



ネオ・ルーフィングシーティング作業

三ッ星ベルト
ネオ・ルーフィング工業会

札幌	(株)浜建	TEL (0122)26－5 6 7 6 代
仙台	日新建工(株)仙台支店	TEL (0222)25－5 4 3 1 代
東京	高山工業(株)	TEL (03) 251－0 1 6 1 代
東京	(株)三柏商会	TEL (03) 251－7 5 1 7 ～ 9
東京	金岡工業(株)	TEL (03) 363－4 3 4 1 代
東京	桑原建材(株)	TEL (03) 368－6973・8794
茨城	(株)奈良屋商店	TEL (0292)31－0 1 7 1 ～ 6
茨城	(株)奈良屋商店日立支店	TEL (0294)22－1 1 5 5
静岡	(株)三井工業所	TEL (0542)85－9 1 5 1
富士	(株)三井工業所富士営業所	TEL (0545)61－1 6 8 8
山形	(株)山形建材	TEL (02362)2－8161・3－0175
名古屋	中央建材工業(株)	TEL (052) 251－3 5 4 1 代
金沢	北川瀝青工業(株)	TEL (0762)41－1 1 3 1 代
福井	北川瀝青工業(株)福井営業所	TEL (0776)23－8 8 4 7
富山	北川瀝青工業(株)富山営業所	TEL (0764)41－3 2 6 1 ～ 2
新潟	北川瀝青工業(株)新潟営業所	TEL (0252)45－7 6 8 8 ～ 9
長野	五十鈴建材(株)	TEL (02657)2－7 1 8 1 代
大阪	(株)久保商店	TEL (06) 364－0 2 0 6 代
大阪	(株)木下謹三商店	TEL (06) 443－0 1 1 5 代
大阪	高山工業(株)大阪営業所	TEL (06) 364－9 0 1 5
大阪	ネオ・ルーフィング防水(株)	TEL (06) 372－4571・5608
高松	ネオ・ルーフィング防水(株)高松出張所	TEL (0878)31－6 3 3 2
神戸	石井建材有限会社	TEL (078) 51－5 3 5 3 代
山口	(株)山本商会	TEL (0899)31－6 2 6 1
島	青盛建材(株)	TEL (0822)21－2 2 8 1 ～ 6
岡山	青盛建材(株)岡山営業所	TEL (0862)23－8 2 8 5 ～ 7
福岡	青盛建材(株)福岡営業所	TEL (092) 28－5 5 6 6 ～ 8
福岡	(株)工材社	TEL (093) 38－1 4 6 8 代
宮崎	(株)大二商会	TEL (0985) 2－5001・6084
鹿児島	(株)北原建材商会	TEL (0992)23－9 3 9 5

※くわしくは下記へお問合せください。

三ッ星ベルト

本社／神戸市長田区浜添通4丁目　TEL (078)67－5071大代表
東京支店 (03) 552－1421　名古屋支店 (052) 262－3551
福岡営業所 (092) 29－5931　北海道営業所 (0122) 23－9101

着色亜鉛鉄板の諸問題

見事に解決

tsukiboshi colour

polyform

☆月星ポリフォーム鋼板

建築の近代化にともない着色亜鉛鉄板の需要が増大！
建材としての断熱性や防露性などに問題の解決が強くのぞまれています　日新製鋼ではこれらの諸問題を見事に解決　まったく新しい建築素材《月星ポリフォーム鋼板》の開発に成功いたしました
このポリフォーム鋼板は月星カラー及び亜鉛鉄板の裏面に発泡ポリエチレンを熱融着させたもので　すぐれた断熱性と防露性　さらに経済性・防音性・加工性をもかねそなえた画期的な新製品　屋根材として最適です

- 夏は涼しく　冬は暖かいすぐれた断熱効果！
- 防露性（結露防止）にすぐれ錆びの心配から解放！
- 別に断熱材を用いることなく　労力や工期の節減にきわめて経済的！
- 赤茶・青・緑・薄緑・グレーなどカラーフルな色彩
- 雨音を完全にシャッターアウト　すぐれた防音性！
- 1tRの密着曲げにもびくともしない抜群の加工性！

日新製鋼株式會社

本　　社　東京都千代田区丸の内3丁目4番地　新国際ビル　TEL 東京(216)大代表5511
大阪支社　大阪市東区大川町1番地(勧銀ビル)　TEL 大阪(202)大代表1331
名古屋支店　名古屋市中村区笹島町1丁目221番地2(豊田ビル)　TEL 名古屋(582)代表6061
営業所　札幌(24)7524・広島(47)9456・八幡(67)4235・福岡(28)5304

画期的新製品

大きな音を遮ぎる壁は重い！

というのが常識でした

この KILD® 壁は

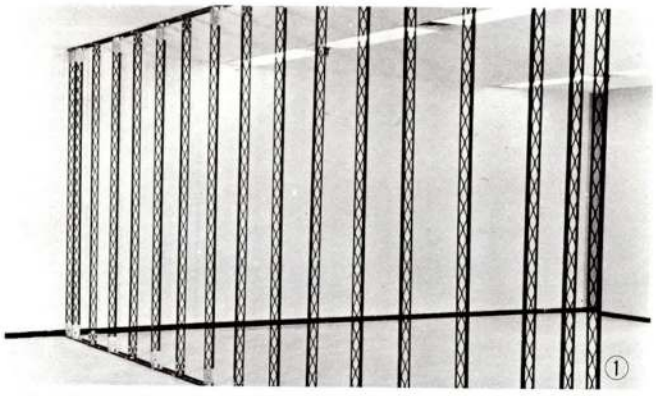
その常識を打破ったのです

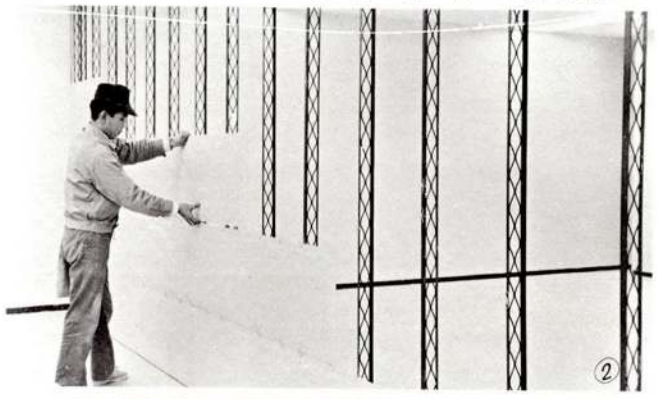
乾式軽量遮音間仕切壁　(特許実用新案 11件出願中)

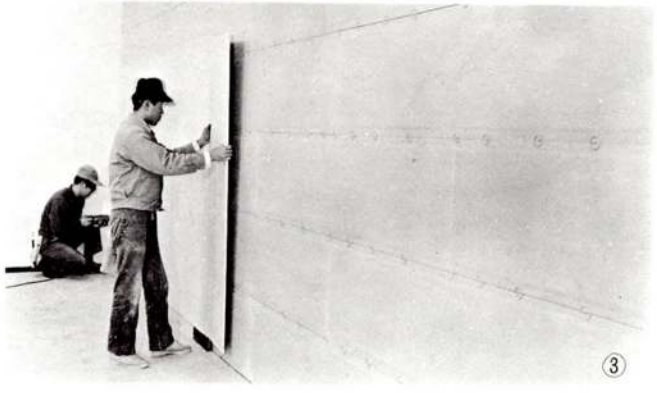
KILD®

専用遮音ボード

丸ツバメ遮音ボード


①


②


③

遮音性能

遮音値　49デシベル(コンクリート 176㎜厚相当)

重　量　63kg／m²　(コンクリート 400kg／m²)

高層ビル・ホテル/集合住宅/病院/会議室/学校に最適

KILD壁の特長

■遮音性大　■軽量　●防火性大　■仕上自由

■配線配管自由　■施工簡単　■工期短縮

■変位対応性大

写真説明

①床と天井にランナー（エコニースタッド）を取付け、床ランナー、天井ランナーに間柱(エコニースタッド)を取付ける。

②下地ボードを間柱に下段よりクリップで止める。

③仕上げボードを下地ボードの上に接着剤と釘で貼りつける。あとはペンキまたは布貼りで仕上げる。

（ご一報次第カタログ進呈）

ボード製造

三井東圧化学(株)
建材部

本　社　(〒100) 東京都千代田区霞が関　霞が関ビル
電話 (03) 581−6111(大代)
支　店　大阪・名古屋・福岡・札幌

製造・販売・施工

株式会社 マンテン

本　社　(〒542) 大阪市南区日本橋筋3−2
電話 (06) 632−1151(代)
東京営業所　(〒136) 東京都江東区亀戸2−3−17
電話 (03) 682−3241(代)
名古屋出張所　(〒460) 名古屋市中区宮前町4−16 東海塗料ビル
電話 (052) 262−6771(代)
福岡出張所　(〒812) 福岡市博多駅東1−12−26 岩瀬ビル
電話 (092) 43−4356

◀実務に直結した建築工事別説明会（第1回）
「改正消防法の施行とその必要機器について」

最近消防法施行令並びに消防施行規則の一部が改正され，いずれも去る4月1日から施行されています。今回の改正は人命の安全対策についての規制強化がねらいであり，とくに消防用設備の設置および維持に関する技術的基準が強化されています。

ついては大阪市消防局予防課建築係長田中隆夫氏からその要点についてお話を願い，つづいて煙感知器や避難器具について下記3社の担当者から，見本やカタログ，スライドにより，詳しくご説明をしていただくことになりました。

最近頻発した火災の大事故にかんがみ消防の重要性は特に建築関係者にとって今さら申しあげるまでもありません。この際時宜を得た催しでありますので会員多数のご聴講を期待しております。当日会場の受付において改正消防法に関する資料や3社のカタログを取揃え，お渡しいたします。

日　時　10月29日（水）13.30→17.00
会　場　大阪市西区靱1—118　大阪科学技術センター4階401号室
定　員　200名
申　込　10月27日までに電話（231—9640番）で事業課へ。ただし定員に達したときは申込期限前でも〆切ります。

プログラム

○開会の挨拶　社団法人日本建築協会事業副委員長　近藤義雄氏
○「改正消防法の要点について」
　大阪市消防局予防課建築係長　田中隆夫氏
○説明題名・説明者
1.　「煙感知器について」
　(1)　「イオン化式について」
　　東京報知機株式会社技師長　桑形忠和氏
　(2)　「光電式につて」
　　東北沖電気株式会社研究部部長　谷和明氏
2.　「避難器具について」
　　上田消防建設株式会社代表取締役　上田博己氏
○閉会の挨拶　社団法人日本建築協会事業委員会幹事　三宅浩氏

説　明　要　旨

■「改正消防法の要点について」

群馬県水上温泉旅館の火災をはじめとし，有馬，磐梯他各地温泉旅館で多数の焼死者を伴なう火災事故が発生した。とくにこのことにかんがみてということではないが，火災から人命の保護をはかる手段としての色々の規制をすることの必要性が痛感されるものであり，火災の早期発見，早期通報そして早期の安全な避難のための消防法令の改正が，去る3月に行なわれ4月より施行されている。こんご建築されるものは勿論，既設の建築物についても適用される規定の改正が行なわれたのであって，設計，施工の業務にたずさわられる各位においては，この点充分了知，理解されなければならないものである。ここにその改正内容についての概要，とくに今回の改正で警報設備(煙感知器の採用)については従前にくらべ，かなりきびしく規制されているのでこれを中心として，避難設備，放送設備などその設置についての技術上の基準について説明をしようとするものである。

■「煙感知器——イオン化式について」

従来イオン式感知器の呼称で実用されていたが，このたび消防法規の改正に伴ない煙感知器の設置が規制され，また新しく規格に折込まれ，名称も標記の通り変っている。この規格および検定について紹介する。

ここでは特に工事省力化が図られている「中継器不要」のイオン化式煙感知器について，その動作原理・特長・設備方法を説明する。

■「煙感知器——光電式について」

1. 概要：本器は煙を検出することにより動作するもので，燻(クン)焼の段階で火災を感知することができる。
2. 動作原理：本器内に煙が侵入すると，常時点灯している白熱ランプの光がその煙により散乱され，その散乱された光が受光素子cdsに照射されて，cdsの電気抵抗が低下することにより動作するものが一般的である。
3. 構造：外光，ほこりなどが内部に侵入しにくいようになっている。しかも，煙が内部に侵入しやすいように工夫されている。
4. 性能：人間の眼とほとんど同じように煙の濃い，薄いを判別できる。これがイオン化式感知器とまったく異なるところであり，最もすぐれた性能である。

■「避難器具について」

避難設備については昭和43年11月に消防法施行令が改正され，昭和44年10月より施行の日が近づいたということであって，本年に入ってからの改正はない。

設置対象物別に見て病院などでは30人以上が20人以上，ホテル，旅館，寄宿舎などにおいては50人以上が30人以上と多少強化されたが，緩和される規定が今迄は建築基準法との関連がほとんどなかったのが，今回改正の避難設備の減免の規定では，建築基準法施行令の最低数以上に屋外避難階段を設けた場合，バルコニーの有効に廻っている場合等々，関連がでてきている。

また避難器具も，その製品銘柄など多くなり，使用上から見て，より使用しやすいものが販売されてきている。

誘導灯および誘導標識については本年3月大幅に改正があり，設置の高さの規定，また非常電源を必要とするなど，相当強化された感がある。

附記　今回，本年度の各種説明会は消防・防火と1．2回にわけて催しますが関連のあるテーマですのでなるべく2回ともご出席を希望いたします。

◀実務に直結した建築工事別説明会（第2回）
「建　築　の　防　火　材　料　に　つ　い　て」

いよいよわが国も超高層ビル時代を迎え，優秀な耐火被覆材料や防火材料が出現し，適切な工法と相まってわが建築界に防火上にも大きな期待がかけられています。

このときに当り斯界の権威，京都大学教授工学博士堀内三郎先生をわずらわし，掲題について有益なご講話を拝聴し，併せて下記有名3社の担当者から見本や図面，カタログにより製品の特質や工法を詳しく，ご説明をしていただくことにしました。

この説明会は本会員である建築家の皆様にとって見逃がせない機会であります。当日会場の受付において3社の沢山のカタログを取り揃えお渡しいたします。また，会場には実物見本を展示し，工法を実演してお見せする予定です。

日　時　11月6日（木）13.30→17.00

会　場　大阪市西区靱1—118　大阪科学技術センター4階404号室

定　員　150名

申　込　11月4日までに電話（231—9640番）で事業課へ。ただし定員に達したときは申込期限前でも〆切ります。

プログラム

○開会の挨拶　社団法人日本建築協会事業副委員長　近藤義雄氏

○「建築の防火材料について」　京都大学教授工学博士　堀内三郎氏

○説明題名・説明者

1. 「岩綿吸音板——ダイロートンについて」
（新しい天井のメカニズムと工法）
大建工業株式会社社工事部大阪工事課長　藤岡喜典氏
2. 「鉄骨耐火被覆材——トムボードその他について」
日本アスベスト株式会社主任技師　坂本吉弘氏
3. 「鉄骨耐火被覆板——浅野ダイアスライトその他について」
浅野スレート株式会社企画建築センター課長　赤塚睦雄氏

○閉会の挨拶　社団法人日本建築協会事業委員会幹事　三宅浩氏

説　明　要　旨

■「建築の防火材料について」

わが国の建築界も，いよいよ"超高層時代"を迎え，各地に数十階建のビルがぞくぞくと出現しつつある。この輝かしい成果は，耐震・耐風など構造力学上の進歩によるところが大であるが，全体の重量を軽減するために鉄骨構造が採用され，その鉄骨構造の弱点の一つである「防火性」を確保するために，優秀な「耐火被覆材料および工法」が開発されたことも見逃し得ない重要なキーポイントであったのである。さらに最近では，超高層のみならず，鉄骨の特長を生かした建築工法が，工場，事務所，商業建築は申すにおよばず，住宅建築にまで進出しつつある状況である。しかもその発展の重要なカギを握っているものの一つは，実にこの「防火」の問題であるということができる。この意味から，優秀な防火材料や工法の出現が，各方面から要望されているわけであり，日進月歩するそれらの特長を知り，適材適所に駆使されることは，今日最も緊要なことである。

■「岩綿吸音板——ダイロートンについて」

（新しい天井のメカニズムと工法）

高層ビル時代の到来に伴なって建物自体の軽量化，構造の簡易化，簡便な耐火被覆，工期工賃の短縮軽減が要求されている。全く新しい考え方の「天井—小梁—床」を一体とした耐火工法が開発され，建設大臣に認可された（指定番号F—2013，F—2015）。これに加え新しく指定番号F—2029が官報告示第3389号として告示され，耐火工法として充実したものとなった。この工法と合せ大建工業KKでは天井のユニット化を進めている。これにより開発されたのがアルミやスチールのTラインを採用し，天井の諸設備を含めモジュール化した「ダイロートンTライン工法」である。特にダイロートンとタイタスTラインを組合せた空調吹出し口兼用Tライン工法は，最もモジュール化の進んだ工法として超高層の世界貿易センタービルでも採用され今後の天井工法の主流になるものと期待されている。

■「鉄骨耐火被覆材——トムボードその他について」

(1)　「鉄骨耐火被覆材トムボードについて」
(2)　「鉄骨耐火被覆材キヤスライトについて」
(3)　「建築用煙突ライニング材カポスタックについて」
(4)　フリーアクセスフロア材，アスベストフロアについて」

最近の超高層建築は勿論一般建築においても，骨組を鋼構造とする場合が非常に増加してきている。これらの鋼材の耐火被覆材として，吹付石綿「トムレックス」は広く使用されてきたが，最近吹付石綿成型板「トムボード」および成型耐火被覆材「キヤスライト」開発し，耐火被覆材としての個別指定も受け，各建築物に採用されている。上記2点についての製品紹介および施工性についての説明を行なう。

同時に「カポスタック」および「アスベストフロア」について最近反響を呼んでいるので説明する。

■「鉄骨耐火被覆板——浅野ダイアスライトその他について」

浅野ダイアスライトは，石綿・珪藻土・および石灰を主原料とし，特殊耐熱性向上添加剤を加え，板状に圧搾成型して，オートクレーブ処理をした石綿珪酸カルシウム板である。嵩比重は0.7〜0.8，熱伝導率0.1Kcal/mh℃と軽量で断熱効果も高く，また曲げ強さは50kg/㎠以上であるため鉄骨柱，梁などに直張りができ，その上に直接塗装，または寒冷紗などを貼った上に塗装・吹付などの仕上げが簡単にできる。従って工期の短縮にもなり，また経済的でもある。柱，梁各々の1〜3時間耐火に必要な厚さは，柱の場合1時間25mm，2時間40mm，3時間55mm。梁の場合は各々20mm，30mm，40mmの厚さとなり認定済である。また施工は，熱的に性能のよいASボンド（当社製品）を使用し，接着を主体とした施工で，補助的に釘・金具などを使用する。

◀第10回関西都市・住宅会議開催
―― 職 住 近 接 ――

都市化時代の今日，最も緊急に解決を迫られている課題は，住宅問題と交通問題であります。

そこで職場の近くに適正な規模と質の都市住宅を大量に供給する「職住近接」をはかる動きが活発化して参りました。

当大阪においても，中核都市大阪市を中心とした人口のドーナツ現象からスプロール現象へと移行し，通勤距離は30キロ圏から50キロ圏，あるいはそれ以上へとますます長大化しつつあります。

つきましては標記会議を下記により開催し「職住近接」について諸問題を検討いたしたく存じますので，ご多忙のところ洵に恐縮ながらお繰り合わせご出席賜わりますようご案内申し上げます。

記

と　き　昭和44年10月27日（月）1時～5時

ところ　大阪商工会議所4階401号室（大阪市東区内本町橋詰町）

プログラム

開会挨拶　大阪市街地再開発促進協議会　代表幹事　樫原章雄氏

Ⅰ 講　演

「職住近接」　建設省住宅局建築生産企画室　技官　鎌田宜夫氏

Ⅱ パネルディスカッション

（司会）　大阪府建築部市街地建築課　課長　椚座正信氏
大阪市総合計画局企画調整課　課長　花木幸一郎氏
日本住宅公団大阪支所　支所長　青樹英次氏
大阪大学医学部　名誉教授　梶原三郎氏
近畿日本鉄道㈱経営企画室　次長　砂田純男氏
日本高層住宅協会大阪支部　支部長　陣内恒雄氏

閉会挨拶　大阪市街地再開発促進協議会　代表幹事　西川勝氏

会　費　無料

申　込　電話にて下記のうち所属団体へ

共催団体　（社）日本建築協会・（社）大阪府建築士会・大阪建設業協会・大阪住宅建設促進協議会・大阪市街地再開発促進協議会・（社）日本建築学会近畿支部・（社）日本建築家協会関西支部・（社）日本建築材料協会

後　援　朝日新聞社

◀日本万国博建築工事講演会（第3回）
――展示館の特殊工法について――

共催　日本建築協会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部・日本建築家協会関西支部

日　時　11月15日（土）13.30～17.00

会　場　大阪市西区靱1―118　大阪科学技術センター4階401号室

講　演

1. 住友童話館の施工について
   万博住友館建設工事共同企業体工事事務所工務主任　藤田孝吉氏（鹿島建設）
2. 電力館の施工について
   竹中工務店万国博工事本部技術担当　木村住雄氏
3. 富士グループパビリオンの施工について
   大成建設万博富士グループパビリオン建築工事事務所所長　藤井達夫氏
4. 古河パビリオンの施工について
   清水建設万国博古河パビリオン建設担当工事課長　村田冨士雄氏

定　員　200名（本会割当50名）

会　費　200円（資料代，当日会場受付にていただきます）

申　込　往復はがきに限ります。はがき1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号・返信宛名を記入の上11月5日までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

◀ 永大の本社工場と男山団地の建設状況見学会

日　時　11月19日（水）集合12.30（雨天でも参ります）

集合場所　大阪市北区中之島・中央公会堂・西裏
大阪観光バス１台（提供　永大産業）・目標会旗

行　程　**1.永大産業株式会社本社工場（合板）**
大阪市住吉区平林南之町33
12.40 中央公会堂西裏発，御堂筋→国道26号線を住吉公園へ
13.30 本社工場着，合板の製作状況を見学
14.30 本社工場発，国道26号線→阪神高速→国道１号線を京阪八幡町へ
2.永大の男山団地　京都府綴喜郡八幡町字園内
16.00 男山団地着，完全木造２階建住宅<富士>その他を見学
17.00 男山団地発，国道１号線を大阪へ
18.00 京阪電車天満橋駅着・解散

定　員　50名

申　込　往復はがきに限ります。はがきは１枚に１名とし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上11月９日までに事課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

附　記　本見学会は永大産業株式会社のご厚意により催すことになりましたが，同業の方はお申込をうけても参加をご遠慮願うことがありますから，あらかじめご了承おき下さい。

◀ 関西で初めて完成した超高層建築の見学会
—神戸商工貿易センタービルディング—

共催　日本建築協会・大阪府建築士会
日本建築学会近畿支部

日　時　11月27日（木）14.00（集合）→16.30（解散）

集合場所　国鉄，阪急，阪神電車三宮駅下車，海の方へ徒歩約10分，センタービルの山側，鹿島建設出張所前（目標会旗）

建築概要

所在地	神戸市葺合区浜辺通５丁目２－１
建築主	株式会社　神戸商工貿易センター
設　計	日建設計工務株式会社
施　工	鹿島建設株式会社
敷地面積	8,534.20 ㎡　　建築面積　　1,421.665㎡
延床面積	44,357.993㎡　　基準階床面積　1,345.70 ㎡
構　造	ベタ基礎・地下1.2階ＲＣ造・地上１階ＳＲＣ造２階以上Ｓ造
階　数	地下２階・地上26階　　高さ　ＳＧＣ＋107m
外　装	アルミジュラクロンメタリック塗装
工　期	着工　昭和42年11月４日→竣工　昭和44年11月10日

定　員　150名（本会割当50名）

申　込　往復はがきに限ります。はがき１枚に１名とし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上11月17日までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

● 箱根国際観光センター企画設計競技

運輸省大臣官房観光部はこのたび箱根国際観光センターを箱根芦の湖畔畑引山に建設するため、まず公開企画設計競技を行い、その入選者達による指名設計競技によって最優秀案及びその担当建築家をえらぶ方針である。

畑引山は国立公園である箱根芦の湖の南端に位し、芦の湖の最も奥行き深い景観と富嶽を望む景勝の地である。

競技の形式：

公開企画設計競技

入選案及び担当建築家の決定：

入選案は4案とし、別に等級を設けない。担当建築家は、本企画設計競技の入選者による指名設計競技により決定する。

競技の主催者：

箱根国際観光センター（仮称）企画設計競技業務受託共同体（日本建築家協会。日本建築学会。日本建築士会連合会）

代表　日本建築家協会

競技事務局：

「箱根国際観光センター企画設計競技事務局」

東京都中央区銀座３－２－19　建築会館２階　郵便番号104　電話東京（561)7182

受付事務の取扱い：

連絡はすべて競技事務局にすること、関係事務は土曜日午后及び日曜、祭日は行わない。

応募者の資格：

建築士にもとづく一級建築士。

募集要項等の交付：

募集要項及び関係資料は、昭和44年10月１日（水）より昭和44年10月31日（金）まで事務局において交付する。

募集要項等を郵送により入手する場合：

募集要項等を郵送により入手したい場合は１部につき 100円の切手を添えて申し出ること。

登録受付期限：

応募しようとするものは、昭和44年10月１日（水）から昭和44年10月31日（金）までに登録申込をしなければならない。

質疑応答：

質疑は昭和44年11月15日（土）から昭和44年11月30日（日）まで受付ける。

質疑応答書は昭和44年12月中旬頃発送する。

応募設計図書受付期限：

応募設計図書は昭和45年２月16日（月）から昭和45年２月28日（土）正午までに事務局に提出しなければならない。

応募設計図書の種類：

1. 敷地全体計画図（１／1200）
2. 平面図（１／500）
3. 立面図（１／500）４面
4. 断面図（１／500）２面
5. 断面詳細図（１／20）１面
6. 模型写真　３面（模型は受付けない）
7. 設計要旨（3000字以内）
8. 敷地全体計画要旨（1000字以内）
9. そ　の　他

審査会の構成：

審査会長　　前　川　国　男

審査員（50音順）　大江　宏　大谷幸夫　白井晟一　千家哲麿

武内龍次　平田敬一郎　堀木鎌三　吉村順三

入選発表：

入選は、昭和45年３月下旬入選者に通知するが、その氏名は指名競技が終了するまでで公表しない。

賞　　金：

賞金は1200万円とし、本企画設計案の入選者に等分する。

常温で使えるアスファルトの
フリントコート



屋根防水工事に

世界各地で40年間の実績があり、その安全性には定評があります。

床工事に

セメント、砂、砕石と混合した独特の床で、一例をあげると各地日本専売公社の倉庫の床に採用されております。

■施工特約店

（北）高梨組　札幌（56）3217
陽光建設　仙台（22）6273
東京（268）4929
シエル石油大阪発売所　東京（562）4646
大阪（303）7131
福岡（77）1961
名建商会　名古屋（261）3671
日建工材　福岡（75）7752

シエル石油土木建設部

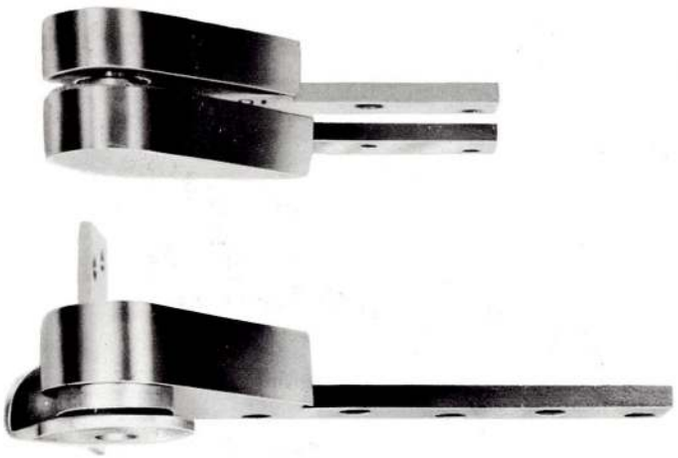
東京都千代田区霞ヶ関3—2—5 TEL（580）0111大代表

SHELL
シエル石油

サンエイ

●回転軸部にナイロンベアリングを採用した耐久品

立枠付 ピボットヒンジ



■ 本品は特に各部品の材料を吟味し、表面が錆びないようボンデライジング加工を施した上に**防錆塗装**をしております。

■ 焼付塗装仕上製品の他に、他の持出し吊の腕部（吊込後扉から露出する部分）にＳＵＳ27（18.8）**ステンレス製ヘアーライン仕上**の化粧カバーを付けてあります。

■ 回転部分にナイロンベアリング及びスラストベアリングを嵌入してあります。

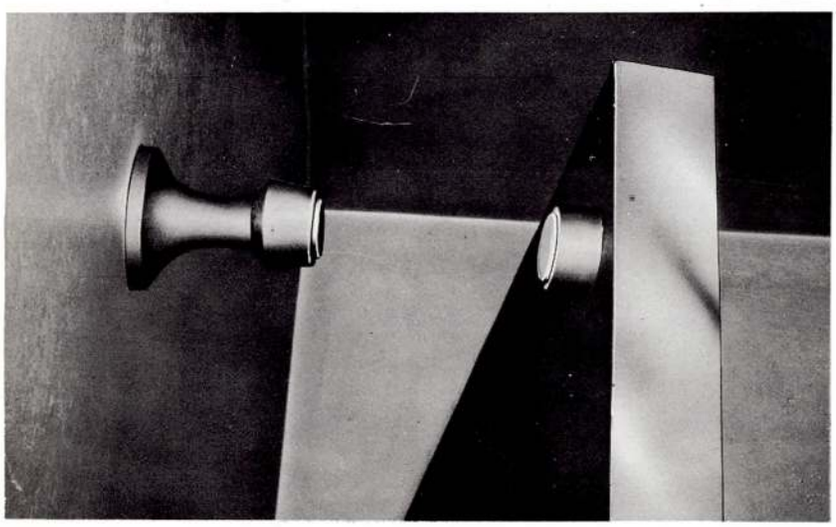
■ 別製の設計製作をも歓迎致します。

■弊社製立枠付ピボットヒンジは……
実用新案登録第517316号の立枠には何んら抵触致しておりません。

住友の永久磁石を使った〈新しいドアー・ホルダー〉

サンエイ

マグダー



＊軽快なワンタッチ

従来のゴム戸当りと違って、ワンタッチで軽く接触するだけで、ホールドします。

＊強い磁気力

磁気力が強力なため、風力などであふられて離れるようなことは全然ありません。

●設備場所を床にお求めの場合、**床用デザイン**のものも用意しております。

555

三榮建材工業株式会社

大阪市生野区巽矢柄町一五一番地　大阪(751) 3653～5
東京出張所　東京都墨田区本所２－11－11　東京(623) 7677

法令コーナー

26

日本建築協会法規委員会

質疑などの投稿をお待ちしております

◇法令相談

新都市計画法が昭和44年6月14日施行されてより約3カ月がたちました。その間施行にあたっての問題点が明らかになってきましたので，そのうち市街化区域，市街化調整区域の問題についてお答えします。なお開発許可制度につきましては，後日ご専門の方よりご説明があるものと思います。

質問1　市街化区域，調整区域はいつごろ指定になるのでしょうか

答　各府県とも昭和45年3月までに指定すべく作業を進めています。

質問2　市街化区域，調整区域決定までにどのような手続がとられますか

答　(1)　案の作成の段階で公聴会などを開催することにより住民の意見の反映を図ります。
(2)　案の固まった段階でこれを2週間公衆の縦覧に供し，関係市町村の住民および利害関係人に意見書の提出を求めます。
(3)　知事はその案について関係市町村の意見を聞きます。
(4)　都市計画審議会に付議して，その議決をもとめます。
(5)　知事は計画を決定する前に予め建設大臣の認可を受けます。
(6)　計画が決定すれば，その旨告示して住民に知らせます。

質問3　都市計画審議会のメンバーはどんな構成ですか

答　都市計画審議会委員は各府県の条例で定められています。大阪府の場合は次の通りです。

学識経験者（都市計画だけでなく法律，経済，農政，建築などの学識経験者）	11人
府議会議員	11人
市町村の長を代表する者	2人
市町村議会の議長を代表する者	2人
大阪市長および大阪市議会議長	2人
関係行政機関の職員	7人
計	35人

質問4　市街化区域，調整区域は，一度指定されれば変更はないのでしょうか。

答　新都市計画法では，知事は，おおむね5年ごとに都市計画に関する基礎調査を行なうこととされていますので，市街化区域，調整区域についても，少なくとも5年に一度はこの調査結果により検討され，必要な場合には変更されます。また高速道路，鉄道，大規模な住宅開発の計画などが決定されれば変更されることになると思います。

質問5　市街化区域内の農業はどうなりますか

答　市街化区域はおおむね10年以内に計画的優先的に市街化を図るべき区域ですから，農業のための長期的な効用をおよぼす公共投資は行なわれないことになります。しかし当分の間は農業が行なわれる土地の区域も市街化区域に含まれていますので，これらの農業を経営するに必要な投資は行なわれます。

質問6　市街化区域内の農地を転用して建築物を建てようと思いますが，農地転用の手続はどうするのでしょうか

答　市街化区域内の農地を転用する場合および採草放牧地の権利を転用するため取得する場合の届出手続については，農地法施行規則の一部が去る6月14日から改正になっています。その主な内容は，届出を知事に提出するにあたって①原則として農業委員会を経由すること。この場合，転用行為に着手しようとする日の50日前までに農業委員会に届出書を提出しなければなりません。②届出に係る農地などが賃貸借による小作地である場合には，その賃貸借について農地法第20条の規定による解約などの許可があったことを証する書面を添付すること。③取得する農地などを宅地にし，建築物を建築しようとする場合で，都市計画法の開発許可を必要とするものであるときは，その許可を受けたことを証する書面を添付すること。④土地改良区の地区内にある場合には，転用または転用のために権利を取得するという届出を知事にする旨をその土地改良区に対して通知したことを証する書面を添付すべきことが定められています。なお届出の効力は，届出書が受理された旨の知事の受理通知書に記載された期日に生ずることになっていますが，その期日は正しい届出書が知事に到着した日とすることになっています。

質問7　市街化区域内の農地に対する固定資産税の課税はどうなりますか

答　農地に対する固定資産税の課税は，現在のところ，農地が市街化区域に編入されても，従来と変らないと思います。しかし，昭和43年7月の税制調査会の「土地税制のあり方についての答申」では，「市街地として都市施設が整備された地域における農地，山林などについては，周辺住宅地と評価の均衡を図ることが必要である。」と指摘されていますので，将来はそういう方向で制度の改正が行なわれるかもしれません。

質問8　新都市計画法では従来国の定めていた都市計画の決定権を地方に移譲したといわれていますが，知事や市町村の定める都市計画の区分はどうなっていますか

答　知事の定める都市計画は，市街化区域，市街化調整区域など広域の見地から決定すべき地域地区，都市施設，あるいは根幹的都市施設であり，従って国の利害に重大な関係がある都市計画ですから，決定にあたっては建設大臣の認可が必要です。知事の定める主なものは次のとおりです。（大阪府の場合）
(1)　市街化区域，市街化調整区域
(2)　臨港地区，近郊緑地特別保全地区，流通業務地区
(3)　用途地域，専用地区，空地地区，容積地区，風致地区
(4)　幅員16m以上の道路（指定都市の区域については22m以上）
(5)　自動車専用道路
(6)　都市高速道路
(7)　4ha以上の公園　（指定都市の区域については10ha以上）
(8)　公共下水道で排水区が2以上の市町村の区域にわたるもの
(9)　集団住宅が1,000戸以上の1団地の住宅施設
(10)　土地区画整理事業などの市街地開発事業
市町村の定めるものは上記以外のものです。その主なものとしては，特別用途地区，高度利用地区，特定街区などの地域地区や学校，病院，ごみ焼却場などがあります。

質問9　用途地域で市街化区域内の未指定地や市街化調整区域で，すでに指定されているものはどうなりますか

答　市街化区域は積極的に市街化を進めるところですから，その土地利用の基本となる用途地域は当然市街化区域決定と同時に指定されるものと思います。また用途地域がすでに指定され，かつ市街化調整区域に指定されたところでは，原則として用途地域の指定は取消されるものと思います。これは市街化調整区域が市街化を抑制すべき区域だからです。しかし，農村集落などがありとくに用途規制を必要とする場所では特例として用途地域が残ることがあります。

（法規委員：**上田隆夫**）

完全責任施工　年限保証



日本アスの アスファルト防水

■シグマートによるウエルドシステム防水工法
■特殊絶縁防水工法（特許出願中）
■メルタン防水工法



50 年の実績が生んだ防水

シグマート・SPウエルドルーフィング

■全国に配置された組合員の強力な連繋で完全な施工工事をお受けいたします

地区別	会社名	電話
北海道地区	日本スレート株式会社	札幌 23—7511代
	日新建工（株）札幌出張所	札幌 22—5015
東北地区	信栄工事（株）仙台出張所	仙台 23—1735
	日新建工（株）仙台支店	仙台 25—5431代
関東地区	伊藤建材株式会社	東京 842—1431代
	春日工業株式会社	東京 802—3871代
	金岡工業株式会社	東京 363—4341代
	木下工業株式会社	東京 634—0821代
	協立工業株式会社	東京 433—1961
	日新建工株式会社	東京 803—2411
	日本綜合防水株式会社	東京 403—0171代
	野口工材株式会社	東京 444—3531代
	鍋田工業株式会社	東京 263—4861代
	藤井工業株式会社	東京 941—0271
	富士工材株式会社	東京 634—0161代
	藤瀝青興業株式会社	東京 362—5697代
	北条瀝青工業株式会社	東京 551—2676
	マサル瀝青工業株式会社	東京 842—6311代
	大和工業株式会社	東京 802—4751代
	瀝青建材株式会社	東京 861—2706～8
	石田建材工業株式会社	高崎 22—3301～3
	同和建業株式会社	新潟 45—2251代
	株式会社奈良屋商店	水戸 31—0171代
北陸地区	石橋建材株式会社	福井 23—0775
	有限会社折橋政次郎商店	高岡 22—0999
	有限会社小島工業所	高岡 23—0391
	島屋建設株式会社	金沢 42—5151

地区別	会社名	電話
東海地区	協和建材工業株式会社	清水 2—2221代
	中央建材工業株式会社	名古屋 251—3541代
	東京建材工業株式会社	名古屋 411—6621
	日本建材鋼業株式会社	名古屋 571—5541～4
	株式会社三井工業所	静岡 85—9151～3
	宮崎建材	名古屋 331—1531代
近畿地区	清水興業株式会社	大阪 372—0250～3
	棚田建材有限会社	神戸 22—9182代
	中村瀝青工業株式会社	神戸 34—5884
	日新工材株式会社	大阪 541—3785～6
	フタバ興業株式会社	大阪 458—7431～3
	マサル瀝青工業（株）大阪営業所	大阪 313—3817代
	マルエス工業株式会社	大阪 458—4841～3
	日新建工（株）大阪出張所	大阪 538—1621
中国地区	株式会社三洋技建	大竹 2—5155代
	東中国防水工業有限会社	岡山 23—1181代
	豊永建材株式会社	広島 61—6371～3
	大和工業（株）広島出張所	広島 71—4687
四国地区	大三工業株式会社	高松 51—6811～5
	大三工業（株）高知支店	高知 83—1786
	徳島大三工業株式会社	徳島 54—4161代
	株式会社マルマス河野商店	今治 2—5000代
	株式会社山本商会	松山 31—6261～3
九州地区	安藤工事株式会社	福岡 28—5207～9
	株式会社北原建材商会	鹿児島 3—9395～6
	株式会社　工材社	北九州 38—1468～9
	株式会社大二商会	宮崎 4—1625
	日建工材株式会社	福岡 74—3548
	日新興業株式会社	延岡 2—4305～6

■建設省東計第240号認可

日本アスファルト防水工業協同組合

東京都足立区千住東2—21—28 日新工業株式会社内　電話（882）2424（代）
関東支部　東京都足立区千住東2-21-28 日新工業株式会社内　電話（882）2424（代）
関西支部　大阪市西区新町北通1—18日新工業株式会社大阪支店内　電話(531)5281～3
九州支部　福岡市大手門1—6　日新工業株式会社九州出張所内　電話（74）3461

読者の頁

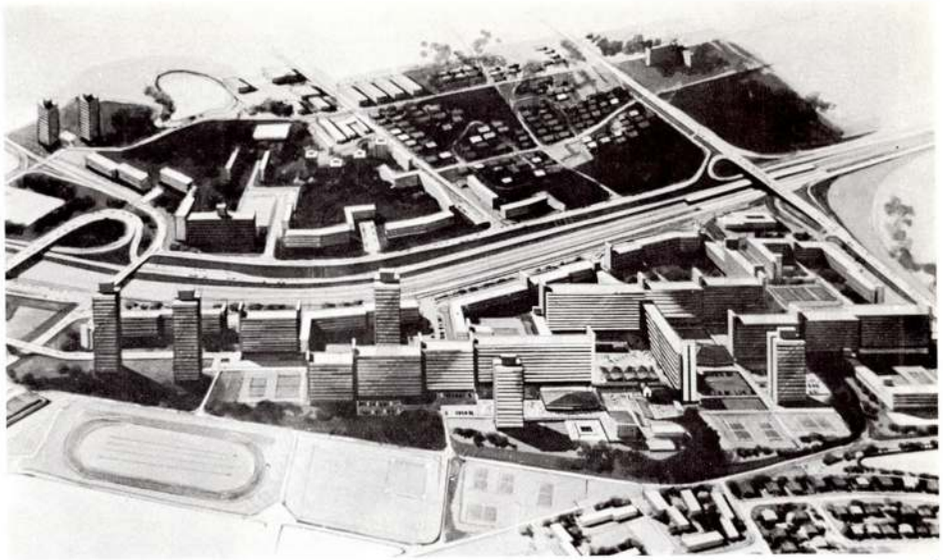
投稿をおまちしております。掲載の分には規定の稿料を差上げます。

□ ヤングタウン建設計画進む

大阪府では，泉北ニュータウン泉ケ丘地区の一部に，勤労青少年の街"ヤングタウン"の建設計画をすすめているが，府労働部と企業局でまとめている構想案の概要は次の様である。

府営住宅はもとより，公団住宅や千里ニュータウンでも，建設される住宅のほとんどが世帯向きであって，単身者用はきわめて少ないのが実情である。しかし環境のよい住宅を必要とするのは，一般世帯と同様に青少年単身者も同じである。特に遠い地域から就職して来て，まだ大都会になれない青少年に対して整備された環境に良好な住宅を集中的に供給することは住宅対策だけでなく，労働福祉対策として，重要な問題であって，この意味からも，ヤングタウンのもつ意義はきわめて大きいといえる。ヤングタウンは，単身者用の住宅を建設するのみでなく，運動場や集会，研修室を含む福祉厚生施設，さらに購売施設を総合的，計画的に建設しようというものである。建設位置は泉ケ丘地区C住区の西部，泉北1号線に隣接する面積約20ヘクタール（7万坪）が予定されており，新設される泉北鉄道の駅から徒歩10分から30分の位置にある。ここには，11,000人の単身者用住宅，勤労青少年センター（仮称）と運動公園がそれぞれ建設される。住宅部分は面積11.9ヘクタールあり，街の景観と勤労青少年センターの利用効率を高めるため中央附近には高層住宅を採用し，その高層住宅の1階，2階部分に店舗飲食店，理容，美容，郵便局などの利便施設が設けられる。住宅の建設は雇用促進事業団，大阪府住宅供給公社などが，6,000人分の単身者用賃貸住宅と中心部の利便施設を担当し，民間企業が社宅として5,000人分の単身者用住宅を建設することになっている。

勤労青少年センターはヤングタウンの中央に位置し，面積は約2.5ヘクタール。この街に住む青少年にグループ活動，レクレーション活動を通じて暖かい人間関係を形成させるためのもの。健康管理施設として体育館，屋内プール，文化教養施設として研修室，青少年劇場（多目的ホール），小集会室が設けられる。これらは専門の青少年活動の指導者のもとに運営される計画で，国の資金で施設が建設できるよう労働省に働きかけている。一方，運動公園は面積5.6



ヘクタールで，野球，陸上競技，ソフトボールなどのできる大運動場，テニスコート，バレーボールコートなどの球技場とプール，遊歩場，花壇広場といったものが完備し，文字どおり青少年にとって，あらゆる角度からの配慮がなされている。現在，ヤングタウンの一部はすでに造成工事が完了し，来年の春には，雇用促進事業団の住宅建設が始められ，昭和46年の泉北鉄道開通時には一部入居ができる見込みである。

（大阪府企業局　**福家　敬**）

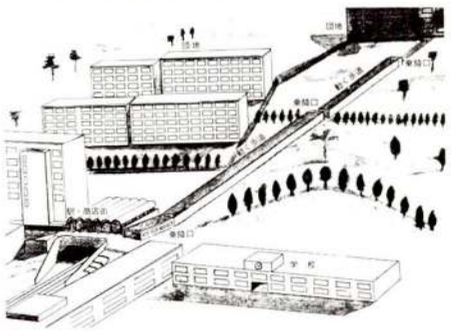
□ 動く歩道，都市計画に本格的登場

——屋根つきで駅と団地をむすぶ——

世界的なスチールベルト・コンベヤ・メーカーであるスウエーデンのサンドビック製鋼所はこのほどスウエーデンのヨーテボリ電鉄会社に人員輸送用コンベヤ「サンドビック・ムーベータ」4台を納入することとなった。

ムーベータに使用するスチールベルトは幅1mでみぞ付きゴムの被覆を施したものである。低い側の2台は長さ約82mで傾斜10°，高い側の2台は約42mで傾斜12°である。ベルトは毎分45mの速度で運転し，1台につき毎時最高7,200人の乗客が運搬できる。

この施設は，スウエーデン最初の屋外形人員輸送用コンベヤで，電車駅およびそれに隣接した商店街・文教地区から丘陵地の住宅団地に至る区間の人員輸送を行なうものである。工事完成は1970年1月の予定で，受注額は約140万クローネ（邦貨約1億円）にのぼっている。



□ 明治建築土木史年表・関西篇（その32）（明治11年10月17日）□

明治
11年10月17日　大坂川口波止場を，従来より西へ七十間余拡張すると報ぜられた。また汽船の発着に際し，各船問屋（船便会社）が乗客の職業，本籍地を詳しく調べて本田警察署に届ける事になった。

〃　〃　〃　士族の貧窮対策に発行された秩禄公債に関する各地の情報が見える。金沢では地券証を抵当に百姓の金策に応じて貸して，政府からの公債への利子と，借りた百姓の利息とで生計が成り立つ様にしたし，高知では他県へ売払わぬ様に深尾某が斡旋して，一番有利な使途を日々協議しているとある。併し一方，福山（広島県）・福岡などでは換金を焦って，大坂へ持って来た為，奸商にだまされて高価い船賃などでかえって足を出す士族も多いとある。

〃　〃　〃　七日福井発の明治天皇北陸御巡幸記事がこの日に載っている。（電信は高価かったからか官業優先で長文の新聞投書文などには使えなかったのか，御巡幸の祥報はいつもこれ位かかっている）福井行在所は東本願寺別院。旧松平越前守三十五万石余の城下で，人家は約一万戸。「市街の賑はひも亦新潟。金沢に亜ぐ」とある。大隈参議（重信）が天皇御名代として赴いた先として，「男女師範学校。病院。裁判支庁」を挙げている。

（東京都北区神谷2ノ22ノ13　**須藤欣二**）


東京神田・小学館ビル

ブラインドを内蔵した　住友の回転式アルミ二重窓

エルミン窓

ビルが変れば窓も変ります

ビルが高層化・マンモス化するにつれて、その窓も変ります。大きなビルの窓には、気密性・遮蔽性・清掃の安易さ・熱損失の多少・採光性能など、あらゆる面から検討され、すぐれたものが要求されます。さらにビルの顔ともいえる窓には、ビルの外装を生かす美しさも忘れることはできません。スイスで生まれたエルミン窓が各方面で話題になり、注目を集めているのも、こういうビルのマンモス化時代に窓の性能が再検討された結果にほかなりません。

◆エルミン窓は ブラインド内蔵・回転式アルミ二重窓です

二重構造と内蔵ブラインド、すぐれた断熱構造及び高い気密性が、抜群の遮蔽性を発揮します。騒音・外気は室内にオフリミット。冷暖房効果もたかめます。外光調整も思いのままです。またエルミン窓は横軸180度回転式ですから、ロックをはずし障子部分を回転させることにより、高層窓の外面も手がるに清掃できます。ブラインドにも埃りがつきません。このように数々の特色を持つエルミン窓は、ホテル病院・学校・寒冷地の住宅など各方面で、時代の要求にこたえた新しい窓としてご好評いただいております。


標準換気位置（約15度回転）

◆エルミン窓には8つの特徴があります

①二重ガラスにより熱損失が少い
②遮音性能がすぐれています
③アルミ形材に挿入された断熱材により熱伝導が少ない
④水密・気密が完全です
⑤ガラスにも枠にも結露を生じません
⑥ブラインドが内蔵されているので冷房負荷をへらします
⑦横軸180度回転し内部から外部ガラスの清掃が可能です
⑧大窓にも適します
エルミン窓は住友軽金属のすぐれたアルミ形材を使用しています

製造・販売・施工

日本エルミンサッシ株式会社

本　社 東京都中央区日本橋江戸橋3－7（第2三木ビル）電(272)1841代表
営業所 大阪市西区京町堀1－125（東洋ビル）電(441)1979直通

住友軽金属工業株式会社

EXPO '70 NEWS

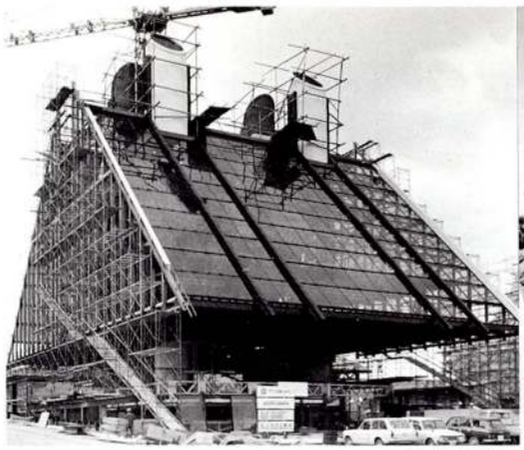
日本万国博建築ニュース

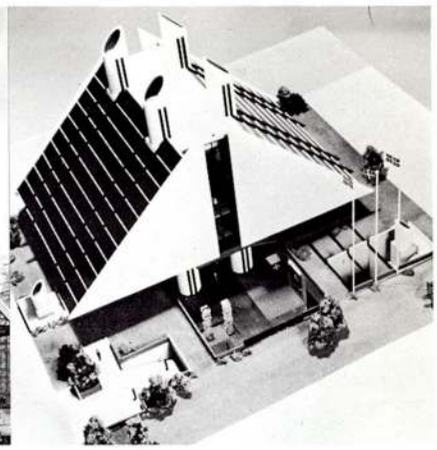
6

■ケベック館

設　計　Jacques de Blois Arch.
協力設計　徳永正三
施　工　株式会社竹中工務店

敷地面積　2,300m²　　階　数　地上3階、地下1階
建築面積　920m²　　最高高さ　28.6m
延面積　2,261m²　　起　工　昭和43年12月14日
構　造　鉄骨鉄筋コンクリート造

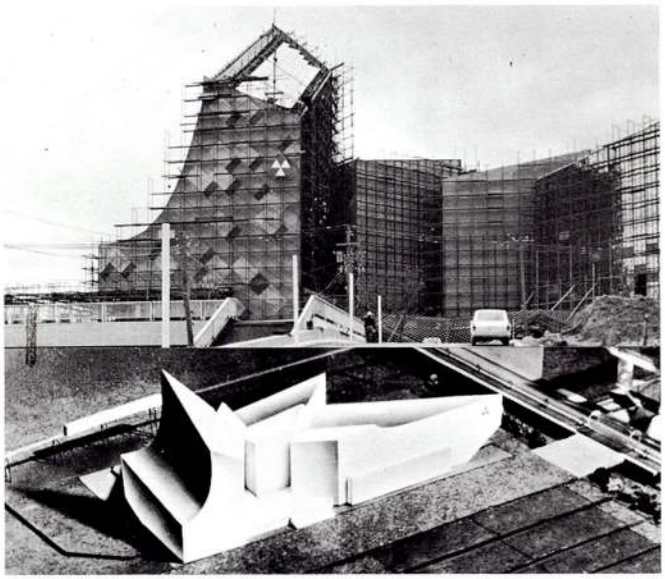




69.9.11現在

鋼鉄製の4本の柱で空間に突き出された〈巨大なプリズム形〉の建物。これは、伝統的なケベックの建築様式である切妻風を生かしたものである。
メーン・フロアでは天然資源を中心とした大規模な立体地図や8台の映写機によるマルチプルスクリーンを使ってケベックの姿を紹介する。地階は多目的劇場になっている。

69.9.11現在

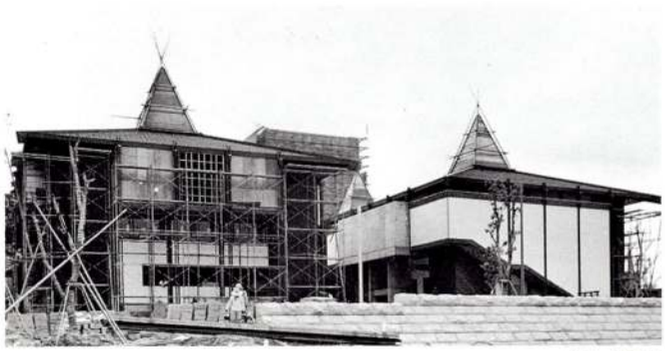


■三菱館

設　計　三菱地所株式会社
施　工　株式会社竹中工務店

敷地面積　9,600m²　　階　数　地上2階
建築面積　5,665m²　　最高高さ　52m
延面積　8,116m²　　起　工　昭和43年7月1日
構　造　鉄骨造

展示館は、直線や曲線を強調した前衛彫刻を思わせる4つのブロックからなり、量感と流動感にあふれた建物。太陽光線の変化により形が変わって見えるよう設計されている。
館内は5つの展示室と待合室に分かれ、全行程の3分の2以上がベルトコンベア方式。第1室は、ホリ・ミラー・スクリーンと呼ばれる立体的画面による“日本の自然”の展開、第2室は、世界気象管理センター・情報局のドームが設けられる“日本の空”、第3室は海底都市・開発を示す“日本の海”、第4室は“日本の陸”、第5室はレクリエーション・ルームとなっている。



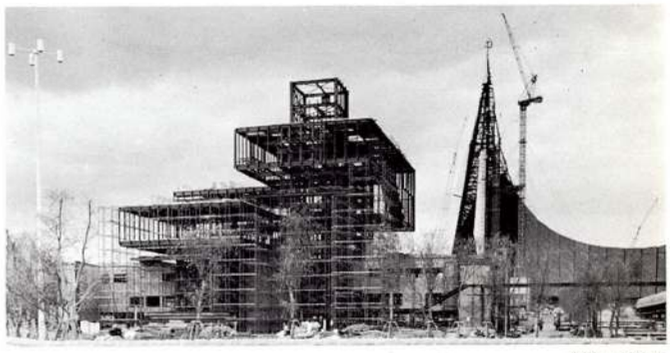
69.9.11現在

■ニュージーランド館

設　計　John L. Newnham
協力設計　芦原義信
施　工　戸田建設株式会社

敷地面積　2,914m²　　階　数　地上2階
建築面積　1,487m²　　最高高さ　12.6m
延面積　2,398m²　　起　工　昭和43年12月15日
構　造　木　造

同じ大きさの木造の建物5棟（事務局館、展示館1号・2号、映画館、食堂）を配列したもの。各建物は1辺約15mの正方形で山荘風に設計されている。木材・外装材はすべてニュージーランドから直接運びこまれた。



69.9.11現在

■オランダ館

設　計　J.B. Bakema Architect
協力設計　村田政真
施　工　株式会社竹中工務店

敷地面積　4,080m²　　階　数　地上6階
建築面積　1,659m²　　最高高さ　23.9m
延面積　3,502m²　　施　工　昭和43年11月21日
構　造　鉄骨造

水中に建てられた4本の柱の上に立方体を重ねたような形の建物で、全体として非常にカラフルであり、外面は地上4m50まではオランダの国土をシンボル化した水色、それから上は銀色・オレンジ色になっている。床・壁にALC板を使用し、内部構造もすべてモデュール化されている。

すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス



新森小路分譲住宅

設計　大阪市住宅供給公社
（伊東建築設計事務所）
施工　佐藤工業株式会社
使用場所　外壁、間仕切

軽　　量（比重 0.5コンクリート1/4の重量）

断　　熱（コンクリートの１０倍の断熱性）

耐　　火（法　定　耐　火　材　料）

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまで
あらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被
覆に使用されますが次の建物には特に最適です

1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

SIPOREX

シポレックス販売株式会社

本　　社　東京都千代田区岩本町２ノ１ノ16(森川ビル)
電話　東　京（861）代　表　７　２　４　１
大阪支店　大阪市西区京町堀通１ノ125(東洋ビル)
電話　大　阪（443）代　表　７　７　４　１
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通３ノ２(大商ビル)
電話　名古屋（581）代　表　７　４　２　１

□ 写真と概要をどしどしお送りください。
凡例：a．所在地　b．建築面積　c．延面積　d．構造規模　e．工　期



469. 富士銀行北浜ビル

設計：大　成　建　設KK
施工：大　成　建　設KK
a．東区北浜２丁目６５番地
b．1,000.827m²
c．11,586.142m²
d．SRC造，B３，８F
e．昭和43年３月～昭和44年７月



470. 新大阪センイシティー

設計：ＲＩＡ建　築　綜　合　研　究　所
施工：大林組、鹿島建設、熊谷組、竹中工務店、西松建設、藤田組
a．大阪市東淀川区西宮原町１～２丁目
b．１号ビル・2号ビル・3号ビル計 31,340.77m²
c．１号ビル・2号ビル・3号ビル計129,086.90m²
d．ＲＣ造,1号ビルB1,3F・2号ビルB1,3F1部７Ｆ・3号ビルB1,3F、各塔屋付
e．昭和42年11月～昭和44年９月



471. フジアビタ

設計：K.Y.M. 建築企画事務所
施工：栄　興　建　設　ＫＫ
a．名古屋市千種区鏡池通２丁目
b．169.10m²
c．863.37m²
d．ＲＣ造、５Ｆ
e．昭和43年11月～昭和44年４月



472. ライオン歯磨ＫＫ明石工場

設計：ＫＫ松田平田坂本設計事務所
施工：清　水　建　設　ＫＫ
a．兵庫県明石市魚住町西岡 800
b．5,438.74m²
c．6,428.598m²
d．工場棟RC.PS造２F,厚生棟ＳＢ造
e．昭和43年７月～昭和44年１月



473. 佐太東山来迎寺本堂

設計：亀田正也建築事務所
施工：大日本土木ＫＫ大阪支店
a．守口市佐太中町７丁目１０７
b．404m²
c．522.0m²
d．ＲＣ造、２Ｆ
e．昭和43年12月～昭和44年８月



474. 立命館大学体育館

設計：富　家　建　築　事　務　所
施工：清水建設ＫＫ大阪支店
a．京都市北区等持院北町27番地
b．2,700.95m²
c．4,640.40m²
d．ＳＲＣ、２Ｆ
e．昭和43年７月～昭和44年６月
特徴：講堂兼用、各特殊競技クラブ練習場完備



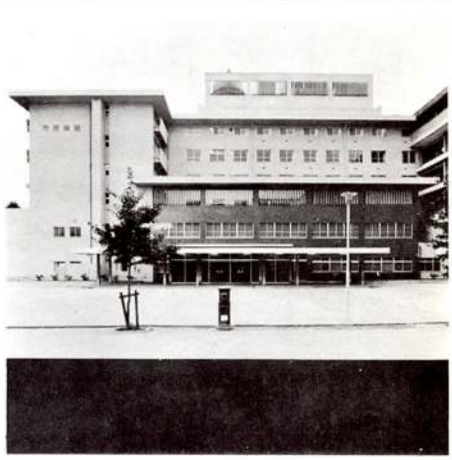
475. 室蘭市文化センター

設計：ＫＫ　久米建築事務所
施工：鹿　島　建　設KK
a．室蘭市幸町６番２０
b．2,613m²
c．6,493m²
d．大ホール　SRC，B1，３F
　管理棟　RC，　B1，４F
e．大ホール　昭和38年３月～39年11月
　管理棟　昭和41年３月～42年３月



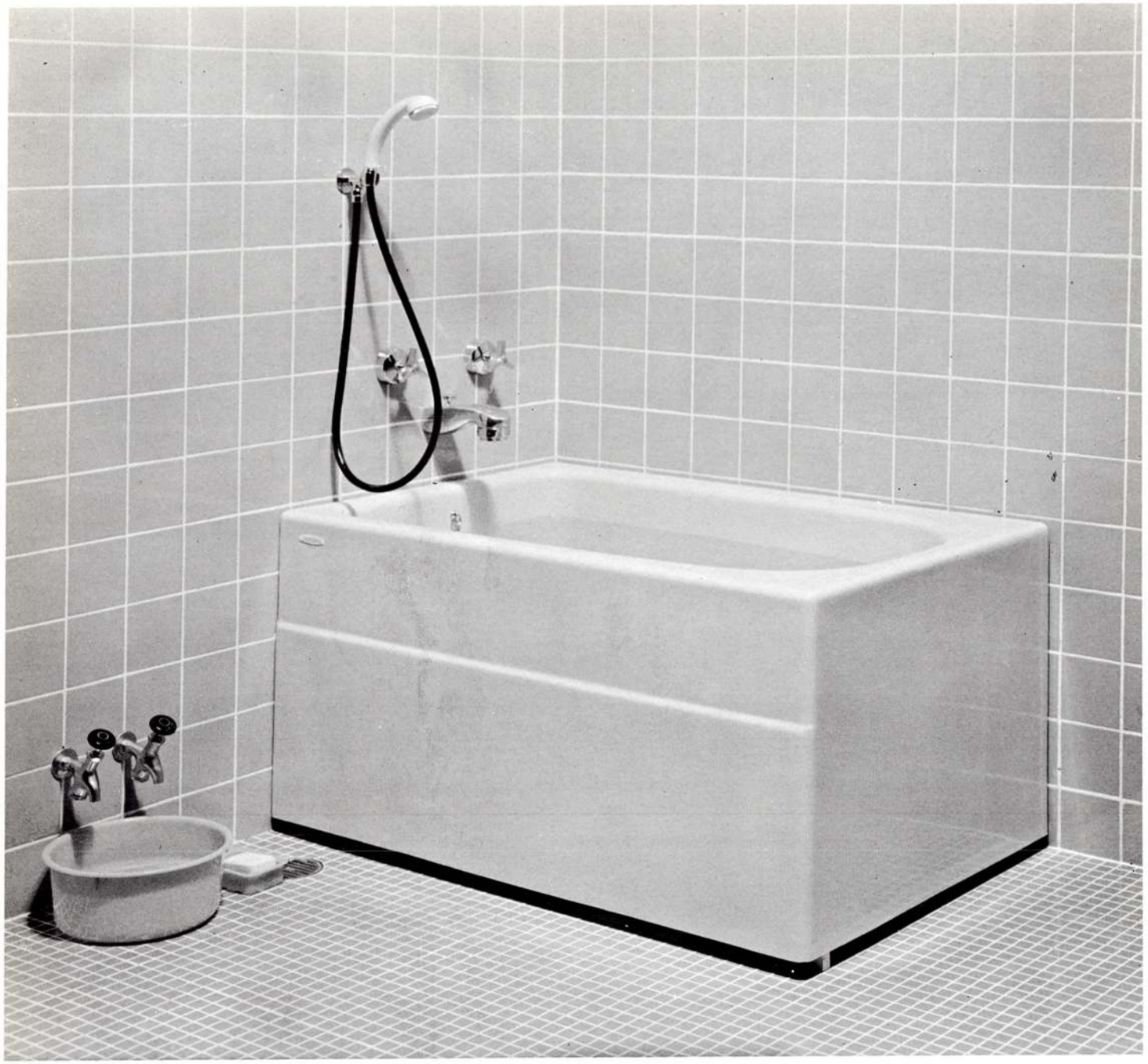
476. 明舞中央病院

設計：ＫＫ　昭和設計事務所
施工：ＫＫ　浅　沼　組
a．丘庫県明石市松が丘４－２
b．560.74m²
c．1,723.77㎡
d．ＲＣ造、Ｂ１、３Ｆ、100床
e．昭和43年11月～昭和44年７月



477. 高知市立市民病院

設計：ＫＫ　内藤建築事務所
施工：ＫＫ　態　谷　組
a．高知市西弘小路５
b．2,921m²
c．8,175m²
d．ＲＣ造、１部B1、６Ｆ、塔屋付
e．昭和43年３月～昭和44年５月



和風と洋風の持味をプラスしたポリバス=P1801

P1801は、洋風バスのゆったりと足を伸ばしてくつろげる寸法と、和風バスのたっぷりと首までつかれる深さを生かした、和洋折中タイプのポリバスです。材質は丈夫さと保温力に定評のあるFRP。美しいピンク・ブルー・グリーン・ライトブルー、4色がそろっています。

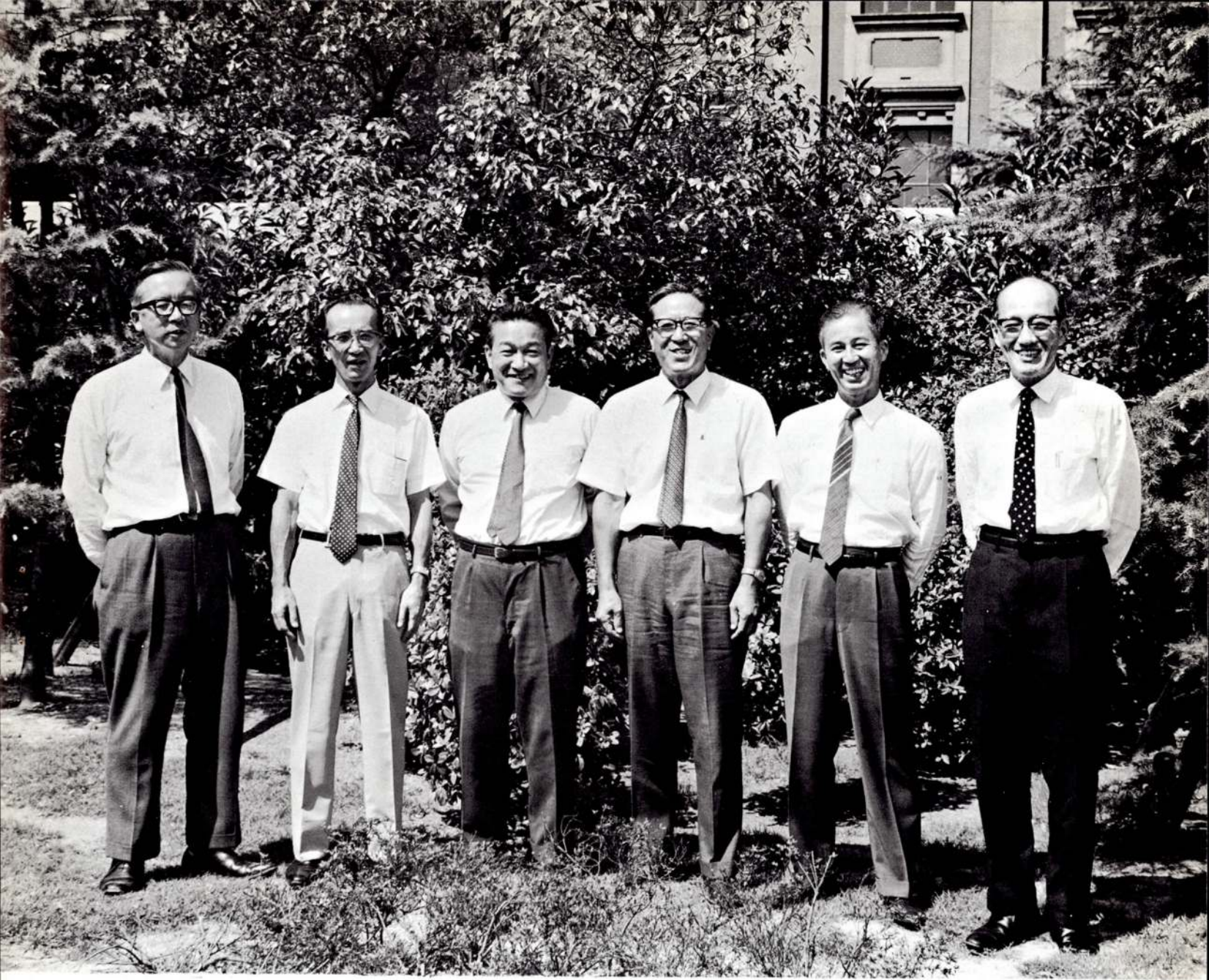
埋込工事のいらない据置タイプの利点として、工事費が安上りな点も見のがせないポイント。給湯式・外釜式・BF釜いずれのセットも可能にしました。日本で最初にFRP浴槽を開発した東洋陶器が、これからの浴室におすすめする、新しい自信作です。

TOTO

東陶

東洋陶器株式会社

本　　社　北九州市小倉区篠崎町４５８
ＴＥＬ　(093)－93－5151　〒８０２
大阪営業所　大阪市東区高麗橋５の３２
ＴＥＬ　(06)－203－5701　〒５４１



クラスメート

53〔早稲田大学　昭和14・15年卒〕

（左より・敬称略）

阿部寅次郎
（ＫＫ大林組建築本部設計部主査）

小笠原祥介
（ＫＫ大阪建築事務所取締役企画担当）

石堂正三郎
（大阪市立大家政学部教授）

奥田忠男
（奥田石材出張所）

種村恒夫
（大成プレハブＫＫ長岡工場副工場長）

岡野武司
（ＫＫ岡野組取締役社長）

（中之島公園にて昭和44年９月12日）

昭和14年という年を思い出してみる。大東亜戦争は勿論まだ始まっていない。日支事変最中である。日常生活物資はまだそれ程不足ではなかった。ただし建築界では鉄鋼使用制限令など出て、軍や、軍需以外ではあまり大したものは建てられそうにない状態であった。まゝよ、大陸へでもと朝鮮、満州にとび出したものも40名余りのうちの、８名にものぼった。御先はどうなるか、全くあなたまかせであったが、まだ必ずしもそれ程暗いムードではなく、それぞれ希望と意欲をもって卒業したような気がする。数名の戦死者が名簿に見られるのは痛惜に堪えない。

石堂　卒業以来の労研での実績を買われ、28年に故伊藤正文博士の後継として市大家政学部に招かれた。あたりの柔かいところは女子学生相手に適任と思われるが、最近の大学紛争に手を焼いているのはどこの教授方ともご同様である。

小笠原　建築設計は親ゆずりの二代目、息子さんも大学は建築科の由、二代続きは割合あるが、三代続きは珍しい。

奥田　卒業後日建に入ったが、戦後家業の北木石の石材会社をつぎ、建築用石材の需要の少なくあった時世に販路開拓に苦労しているが、宅地開発ブームによる需要に愁眉を開いてる模様。

阿部　建築について建築家の期するところは、総じてはなやかであるが、それはまたなんとなくはかないものではないか、というような事を今頃考えている男である。　（以上阿部記）

昭和15年卒の人物紹介を記してみる。

種村　容姿がスマートで、心が素直で親しみやすく、種さんで通っている。学友で彼に好感を持たない者はなかったし、現在も変わりはない。卒業後ずっと大成建設に奉職、現在プレハブと取っ組んでいる。

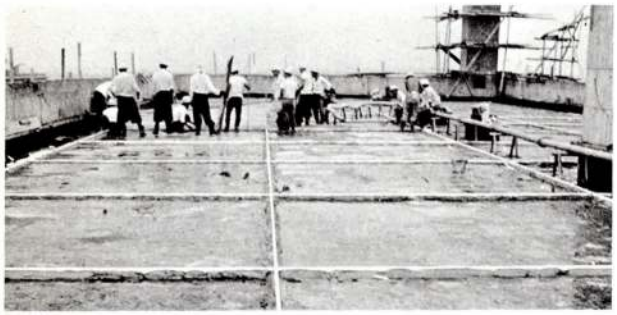
岡野　性来大した人間でもないと自分ながら判断しているのだが、学生時代から現在に至るまで色々な役を仰せつかったり、頼まれたりするところから見ると、商売柄とはいえ、どこか良い処もあるのでしょう。

つぎに当日欠席した者には、卒業のとき辰野賞（設計製図優等）を受賞した直木升平（石原建築事務所）や、福井高工卒後早稲田に学び、鉄骨に関しては同輩でその右に出る者はないエキスパートである網本繁一（松尾橋梁ＫＫ）がいる。そのほか、学生時代道頓堀辺りの料理屋で大いに飲みかつ食った時、今はなき本領千吉郎（京都出身、ダンスの名人）と共に臭気芬芬たるどぶ川に座敷から飛込んでクロールで泳いだ中村定春（甲陽建設ＫＫ）や、ミーちゃんというニックネームをもつ純情青年だった本田稔（東洋紡績ＫＫ）が健在で活躍している。　（岡野記）

防水層の保護と軽量、断熱に

共栄(ともえ)のパーライトコンクリート PC－D工法

（歩行用及び防水下地用）



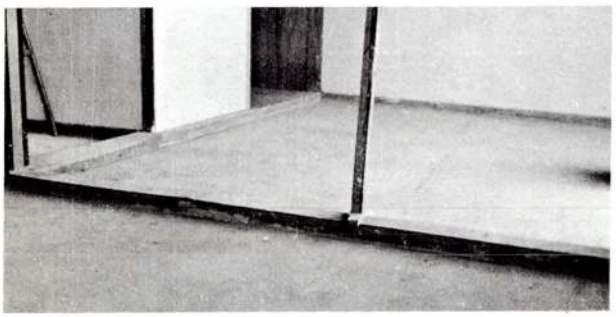
共栄パーライトコンクリートＰＣ－Ｄ工法採用の京都工芸繊維大学
（設計　教育施設研究所、施工　ＫＫ大林組）

作業が一工程省け工期の短縮と コストが安くなる合理化工法

- 防水層の押えに使用し仕上モルタルの要らない金ゴテ一パツ仕上工法
- デッキプレートの軽量化や露出防水下地、または貼物下地にナラシモルタルの要らない金ゴテ一パツ仕上工法

共栄パーライトの特徴（独立気泡のため、吸水もない）を生かした

共栄(ともえ)のパーライトモルタル PM－C工法



共栄パーライトモルタルＰＭ－Ｃ（普通タタミ下地）採用
の住友電工西島社宅（設計施工　ＫＫ竹中工務店）

- タタミ下地の床組（大工仕事）が全く要らないので**工期短縮とコストが安くなる**
- 床組しないので建物の**ボリュームの節約ができる**
- 無機質 100％絶対耐火
- 塩ビ系タイル下地の**防湿、防音、軽量、断熱**（剥離防止）に
- **川砂を使わず**防水液を使用した完全防水パーライトモルタル

比重・断熱共木材並１：３
（比重0.85kg／ℓ、熱伝導率0.14kcal／mhc）

遂に出た…ベニヤ仮枠コンクリート下地の**かべ**、天井の一パツ吹付化粧仕上

ネオパールスキン®

化粧、吸音、防湿、断熱（結露防止）と多目的用に

- ベニヤ仮枠コンクリート下地（天井及びかべ）に直接吹付して剥離の心配がない
- **かべ面は金ゴテ押え**すれば聚洛壁タイプの表面強度のあるソフトでデラックスなムードである（ネオパールスキンの特徴）
- 一工程で仕上るので**工期の短縮とコストが安くなる**
- 下地はボード類、鉄板類、石綿板、モルタルなど何んでもよい
- 標準色20色と特別色もできる



ネオパールスキンをベニヤ仮枠コンクリート下地の天井（吹放し）壁（金ゴテ押え仕上）採用の西宮トラピスト修道院
（設計　村野森建築事務所、施工　ＫＫ竹中工務店）

共栄(ともえ)パーライト販売株式会社
大阪市東区森之宮西の町５９４　TEL代表(941)9243

建築の眼

野々村五四男
関西大学教授・工博

小菅滋夫
日建設計工務KK監理部長

坂内幾男
坂内建築設計事務所専務取締役

篠田駿二
KK大林組工務課長

この四つの主張のそれぞれに対して，会員読者より，ご感想・ご意見を求めます。読者の頁欄に収録します（薄謝呈上）

（七月号より十二月号まで上記の四人の執筆者で担当してもらいます。）

新都市計画法と近郊農業

新都市計画法が施行され、市街化調整区域の設定にあたって、そこでの農業をどのように整備し保全するかがひとつの問題となっている。

調整区域の農業に対しては、従来からの粗放な農業から脱却して、都市化に対応した新しい近郊農業への構造改善の必要性がしばしば叫ばれている。なるほど近郊農業は、新鮮な野菜や花を手近かに住民に供給することができるし、それらの契約栽培も不可能ではなく、また家畜の飼料源にも恵まれている。だから施策のあり方さえ適切であれば、きわめて明るい展望を期待することができる。

ところが、これら農地は市街化調整区域の名の示すように、将来市街化区域に組み変えられる可能性のある、いわば市街化への予備地であるともみなされる。

これでは農業サイドで、じっくり近郊農業の振興にとりくむ姿勢は生まれてこないし、近郊農業の問題解決も近郊農業政策も永久にでてこないであろう。しかしこれが、近郊農業のことなど全く考えることのない最近の大都市政策の真の姿なのかもしれない。

単なるグリーンベルトといったものではなく、都市計画の方法として、真の生産緑地としての近郊農業の整備保全に対する具体的な方途がたてられなければ、スプロールの問題は永久に解決されないであろう。（No）

歩道橋

近頃は全国的に横断歩道橋が普及し交通戦争の苛烈さがうかがえる。最少限度の応急策として止むを得ない措置で、今後ともこの傾向はますます強くなるものと思われる。

ところがこの歩道橋至って風情がない。一方では「花を、緑を、」と街並の美化に努力しながら歩道橋だけが無神経に造られているように見えるのは、私一人のひが目か？

高速道路、青函トンネル、関門架橋あるいは瀬戸内夢の架橋等々にトテツもない叡智と工費を投入しその技術は世界の水準を抜くものと思われる。これからの歩道橋も街のたたずまいを充分に考慮し、千遍一律のものでなくそれぞれの街に相応したものを期待したい。（Ko代理）

二つの現実

東京に東洋一の高さを誇って建つ「京王プラザホテル」の設計体制が伝えられたが、これによると意匠を日本設計事務所、構造を武藤研究室、設備を鹿島建設設計部が担当して「特別設計室」を設け、代表に土岐鹿島建設専務が就任し、地下3階地上47階高さ170米というホテルの設計監理に当るという。またNHKの第三期計画も佐藤武夫氏を長とした設計室に山下、日建、武藤研究室が相集い大手建設業者11社のJ、V、が施工を担当しつつそれぞれ設計協力者として参加するという。このような高層や複合建築という大型プロジェクトの中における建築家、設計体制、そして巨大資本と施工技術に密着した建設設計部のあり方は、今後の設計組織として問題はあっても、それぞれの分野で独自の実力をもったものの協力し合う必要が多くなってきたのが現実の姿である。これらの大型の話に消されているがもう一つ悲しい現実もある。労働省の発表した「労災遺族の生活実態」によると亡夫の職業の実に4割が建設関係事業であるということだ。交通災害も激増の一途をたどるがその影に入って労災事故の悲惨さはあまり目立たないが、その家族の生活はどちらかといえば下積みの人々が多いだけに、その生活の苦しさが思いやられ、国や、公的機関のこれらの人々への一層の援助を願う次第である。我々建設にたずさわるものとして、大型化する工事がそのまま事故の大型化へ進まぬ為にも、それこそ全建設関係者の総力を上げての協力と、安全へのチームワークが必要な時である。（Sa）

無技能労働者をどうするか

万国博工事は今や仕上段階へと入りつつあるが、予想されていた程の労務者不足が起っていないという。この場合の労務者というのは、主として鳶、土工、大工などの主体工事関係の作業員を指しているのは明らかである。

国の経済にまで影響すると迄いわれたこれらの業種の不足に対して、彼等を最も必要とする「コンクリート現場打ち」の作業の極めて少ない鉄骨造乾式構法を、多くのパビリオンが採用しているのは建築界の智恵といえようし、万国博の建築に明日を指向するものが多いとすれば、将来の労力需要の方向も判る筈である。ところで、最近某パビリオンの工事を実際に担当してみて、まことに肌寒い思いがするのは、無技能労働者、所謂「土方」というもののこまった状態である。彼等は全く箸にも棒にもかからないのだ。およそ働いて金を得ている者のうちの最低以下の人間の集まりなのである。まともな連中は高度雇用の波にのまれて、もはやこの世界にはいない。問題は、今なお建設の仕事が、このような労力に負うところが多いということである。例えばかの「コンクリート打ち」が、この無意志、無気力の連中によって行なわれている事を見れば、彼等を指揮監督して厳しい要求にこたえる立場が如何に困難であるか想像に難くないと思う。

高度成長・高度雇用の一つの極点としての万国博工事の現象で済めば幸いであるが、そろそろ、新たな状勢に対応しつつある建築労働事情の中で、早急な解決を要する問題ではある。（Si）

住宅



きんき

● 400,000枚の生産実績を誇る

プレスドア

防火ドアー



住宅用として開発

きんきアルミサッシ

〔KJ指定メーカー〕

製造元 **近畿車輛株式会社**

本社建材工場　大阪府布施市橋本1番地の1　電話大阪(782)1231代表
所沢建材工場　埼玉県所沢市大字所沢1415番地　電話所沢(22)5101代表

販売元 **近畿工業株式会社**

本社　大阪市北区梅ケ枝町108番地　新梅ケ枝町ビル　電話大阪(363)3371代表
東京支店　東京都千代田区神田松永町19　東京近鉄ビル　電話東京(255)8271代表
名古屋支店　名古屋市中村区平池町4丁目48番地2　電話名古屋(551)2522
福岡事務所　福岡市大名町2丁目9番地　上野ビル　電話福岡(76)3556

御一報次第カタログ拝送します。

建築と社会

特集
民家の系譜と保存計画

1969. VOL. 50. 10

会　　告　実務に直結した建築工事別説明会(第1回)「改正消防法の施工とその必要機器について」・実務に直結した建築工事別説明会(第2回)「建築の防火材料について」・第10回関西都市住宅会議開催・日本万国博建築工事講演会(第3回)・永大の本社工場と男山団地の建設状況見学会・関西で初めて完成した超高層建築の見学会 … 3
法令コーナー　26. 法令相談 …… 7
読者の頁　ヤングタウン建設計画進む・動く歩道都市計画に本格的登場・明治建築土木史年表(その32) …… 9
日本万博建築ニュース　ケベック館・三菱館・ニュージーランド館・オランダ館 …… 11
スケッチブック　最近竣工の新建築9点(№469～477) …… 13
クラスメート　53. 早稲田大学　昭和14・15年卒業
(阿部寅次郎・石堂正三郎・小笠原祥介ほか) …… 15
建築の眼　担当：野々村五四男・小菅滋夫・坂内幾男・篠田駿二 …… 17
海外写真　過去の栄光―インド・ガンダーラの遺跡(4)(ウデグラム山城) …… 21
作品作風　大阪府立松原職業訓練所……設計：大阪建築事務所… 22
施工：KK　大末組
公立学校共済組合大阪宿泊所・なにわ会館……設計：東畑建築事務所… 24
施工：KK　銭高組
大阪マーチャンダイズ・マート……設計施工：KK竹中工務店… 26

特集＝＝民家の系譜と保存計画

1 序　説
日本民家の系譜……浅野　清… 32
2 地方の民家
東部：山形県の民家……白木小三郎… 33
群馬・栃木・茨城・千葉県の民家……大河直躬… 34
中部：福井県の民家……宮沢智士… 37
近畿：滋賀県の民家……永井規男… 38
奈良県・和歌山県の民家……伊藤延男… 39
大阪府の民家……林野全孝… 40
兵庫県の民家……多淵敏樹… 41
西部：岡山県の民家……佐藤重夫… 42
島根県の民家……白木小三郎… 43
愛媛県の民家……林野全孝… 44
九州：長崎県・熊本県の民家……青山賢信… 45
3 民家の修理復原……鈴木嘉吉… 46
4 民家の保存計画
妻籠宿の保存計画……太田博太郎… 49
民家保存の種々相―主として都市の保存と民家集落について― 伊藤延男… 50
歴史的街区の保存―奈良県今井町の場合―……足達富士夫… 53
スカンセンとウイリアムスバーグ……浅野　清… 55
5 民家文献目録(1966年1月以降) …… 57

生活と空間の原理　――京の町内1――……UDO… 59
万国博跡地開発計画1……TEAM BARK(奥保，小北ほか)… 65
技術の頁　86. 消防法令と火災感知器……田中隆夫… 73
建築データシート中間総合目次 …… 75
月報　日本建築協会月間の動き(昭和44年8月分) …… 81

編集人　松井昭光
印刷　昭和44年10月20日
発行　昭和44年10月25日
発行人　福中定三郎
発行所　(社)日本建築協会
大阪市東区北浜3―37
電 大阪231―9648
振替口座 大阪39975

印刷者　網野栄
印刷所　(株)研文社
大阪市北区堂山町66
電 大阪361―2091
売価　1部　300円・送料共

表紙デザイン：表紙ザデイン小委員会 & 山田崇雄

KENTIKU TO SHAKAI No. 10 Vol. 50, October 1969

(Architecture and Society)

A Journal of "The Architectural Association of Japan"

Cover design: T. Yamada

Editor: *Akimitsu Matsui*
Publisher: *Teisaburo Fukunaka*
Published by
The Architectural Association of Japan.
37, 3-chome, Kitahama, Higashi-ku, Osaka, Japan
Price: *single copy price ¥300*

CONTENTS

Column for Laws & Ordinances about Architecture	7	
Column for Readers	9	
EXPO '70 Architectural News	11	
Column of New Buildings	13	
Class-mates	15	
Essayes ("Kentiku no Me")	17	by *Ishio Nonomura, Shigeo Kosuge, Ikuo Sakauchi, Shunji Shinoda*
Photograph: A Past Glory-Gandhara Ruins of India (Castle Udegran)	21	Photo: *Koji Nishikawa*
WORKS OF NEW ARCHITECTURE ASSESSED		
Matsubara Vocational Training School, Osaka	22	Design: *Osaka Architectural Office* Construction: *Daisue Gumi Co., Ltd.*
Public School mutural Relief of Osaka lodge "Naniwa Kaikan"	24	Design: *Tohata Architectural Office* Construction: *Zenitaka Gumi Co.,Ltd.*
Osaka Merchandise Mart	26	Design & Construction: *Takenaka Komuten Co., Ltd.*
SPECIAL FEATURE=GENEALOGY OF FOLK HOUSE (MINKA) AND ITS PRESERVATION		
1. Introduction		
Genealogy of Japanese Folk House	32	by *K.Asano*
2. Local Folk Houses		
Folk Houses in Yamagata Pref.	33	by *K.Shiraki*
Folk Houses in Gumma, Tochigi, Ibaragi and Chiba Pref.	34	by *N.Okawa*
Folk Houses in Fukui Pref.	37	by *S.Miyazawa*
Folk Houses in Shiga Pref.	38	by *N. Nagai*
Folk Houses in Nara and Wakayama Pref.	39	by *N.Ito*
Folk Houses in Osaka Pref.	40	by *M.Hayashino*
Folk Houses in Hyogo Pref.	41	by *T.Tabuchi*
Folk Houses Okayama Pref.	42	by *S.Sato*
Folk Houses in Shimane Pref.	43	by *K.Shiraki*
Folk Houses in Ehime Pref.	44	by *M.Hayashino*
Folk Houses in Nagasaki and Kumamoto Pref.	45	by *Y.Aoyama*
3. Repair and Restoration of Folk Houses	46	by *K.Suzuki*
4. Preservation Plan of Folk Houses		
Preservation of "Tsumagojuku"	49	by *H.Ota*
Various Features on Folk House Preservation-Mainly on Urban Preservation and Folk House Communities'	50	by *N.Ito*
Historical District Preservation-Imai-cho, Nara Pref.	53	by *F.Adachi*
Skansen and Williamsburg	55	by *K.Asano*
5. Folk House Literature List (since Jan. 1966)	57	
A Design Survey In Kyoto (1)	59	by *U D O*
Redevelopment of EXPO' 70 Site 1	65	by *TEAM BARK*
COLUMN OF ENGINEERING		
86 Fire Regulation and Fire Detector	73	by *Takao Tanaka*
Index of Architectural Deta-sheet	75	
BULLETIN	3, 81	



海外写真

写真と文　西川幸治

過去の栄光　インド・ガンダーラの遺跡 4

ウデグラム山城

ウデグラムは西パキスタンの西北・スワト地方にのこる山城址の一つである。嶮岨な山にひらかれたこの山城址は前4世紀ごろのものといわれ、アレキサンダー大王の侵入とも深い関わり合いがあったという。イタリア調査団によって調査と保存工作がすすめられた。

大阪府立松原職業訓練所



本館外観

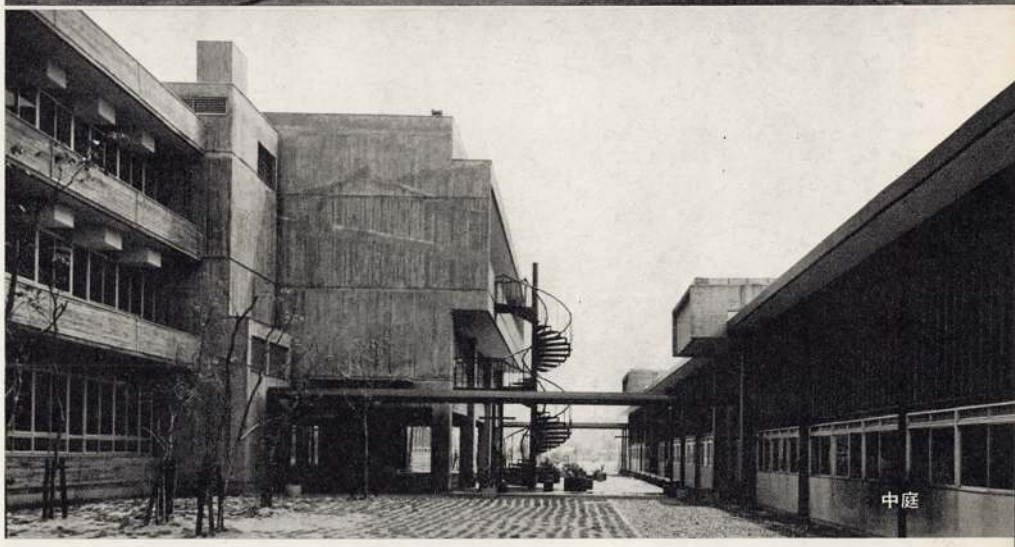


実習場外観

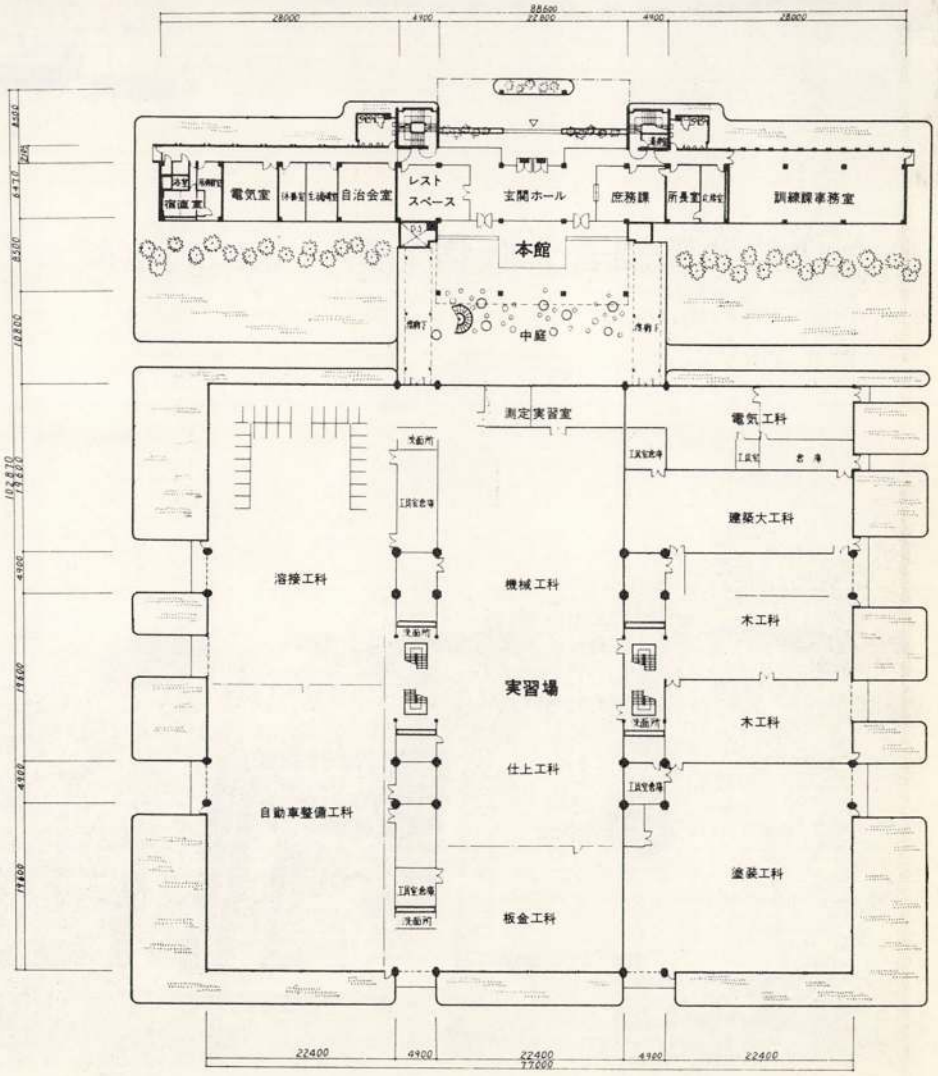
設計監理　大阪府建築部営繕課
株式会社大阪建築事務所
担当　建築　西村源之助・益金俊夫
鎌田榮三・小川克彦
川ノ上嘉文
設備　兒玉俊・吉田宏久
施工　建築　株式会社大末組
衛生・暖房　株式会社建材社
電気　中央電気工業株式会社

所在地　大阪府松原市上田町
規模　実習場　鉄骨造及鉄筋コンクリート造
平家1部2階
本館　鉄筋コンクリート造3階1部地階
坪数　敷地面積　26.087.00m²
建築面積　7,657.89m²
延床面積　10,439.64m²
工期　昭和43年1月～昭和44年3月
主要仕上
実習場　外部　壁　コンクリート化粧打
プロフィリット
屋根　三晃式折版
内部　天井　蛭石吹付
建具　アルミサッシュ
本館　外部　壁　コンクリート化粧打
内部　床　モザイックパーケット
壁　モルタルEP
天井　バミクライト吹付
建具　アルミサッシュ


アプローチより本館をみる


中庭

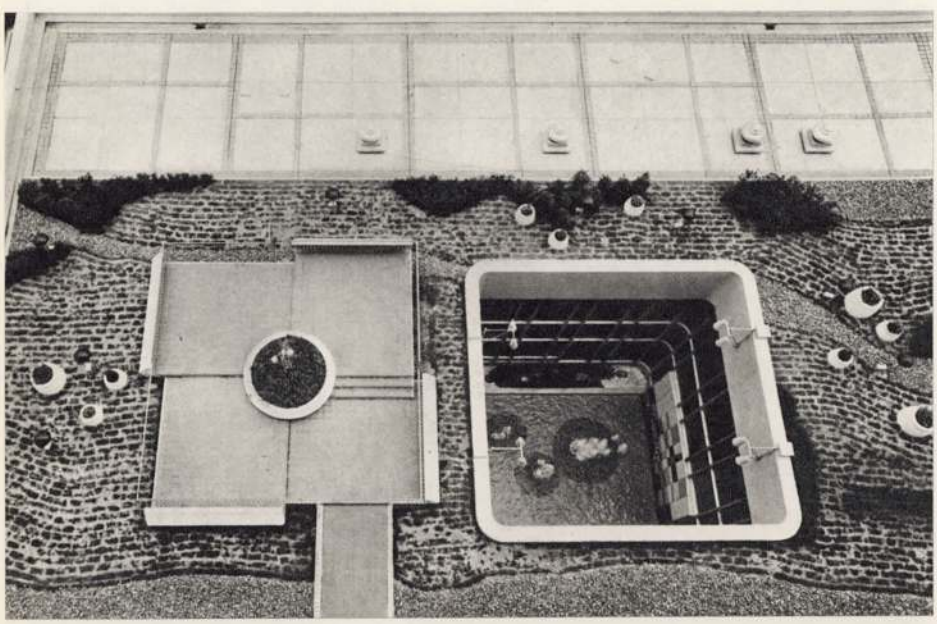

実習場内部



労働力不足時代にそなえて、一般技能者の養成確保、および中・高年令失業者の転職促進等を目標として考えられたものが職業訓練所である。新たに技能を身につけようとする人々の意欲を盛り上げるような環境であらねばならないということをテーマとして設計に当った。
実習場は明るいのびのびした空間として、充分な採光と可能な限り視覚的な広さを考慮した。平面的には1つの単位を22.400m×19.600mとし9単位で構成され、各単位の区切りは動線上・構造上・設備上の流れとなっている。また将来の職種の変化を考え、主架構のみを鉄筋コンクリートとし、間仕切は簡単な鉄骨となっている。本館は各教室と管理部門等を含むものであり、単調な長い教室の連続をさけ、実習場からの動線を2本のたてのコアーに連絡し、その結果東・西に分けられ、動線の集中化を防いだ。玄関ホールは可能な限り広さを確保し、作品の展示等中庭との結びつきにより多目的に使用されるように考慮した。
外部は敷地北側の池を借景としたアプローチ、本館と実習場との間に設けた中庭等は訓練生の交流の場であり、訓練の合間のやすらぎの場として利用されるように心掛けた。

公立学校共済組合大阪宿泊所・なにわ会館

低層部屋上庭園



設計者のことば

90万人に近い組合員の福祉事業の1部として全国90ヶ所に及ぶ宿泊所や保養所がある。この大阪の宿泊所は最大のもので、もとの浪速荘の敷地に既設のＲＣ造の1棟を増改築して従業員に残し、新しく宿泊者定員300人、会議集会定員 700人、結婚式年間 1,500 組の規模として計画された。

基本計画は大阪府建築部により、またその技術的計画、実施設計及び監理を東畑建築事務所が担当した。計画の要点を列記すると、つぎのとおりである。

1. 平面計画では3の異なる用途をうまく分離して、動線の混乱を避けるために思いきって1.2階の低層部を広くとり、会議及び結婚式関係の諸室をこれに配し、宿泊関係の諸室を3～9階の高層部にまとめた。
2. 従って元来狭い敷地は周囲を駐車場として全面的に利用し、道路から開放的に取扱った。
3. そのかわり、1階中央に中庭を設けて内部空間の中心としてまとめ、また低層部屋上にやゝ広い造園をして都心ホテルとしては充分緑を与えるようにした。
4. 宿泊者に対しては低料金を主旨としているので、一切のルームサービスをやめるようにした。
5. 教職にある方々が利用される施設であるという観点から、内外の表現も華美をさけて、つとめて控え目とし親しみやすくそして堅実なものとした。

（香取禮三）

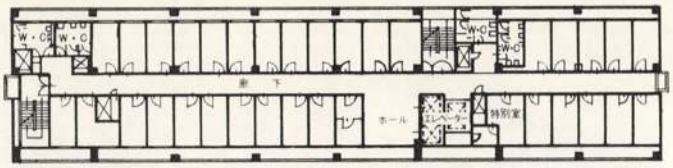
基本設計　大阪府建築部営繕課

実施設計及び現場監理　株式会社東畑建築事務所

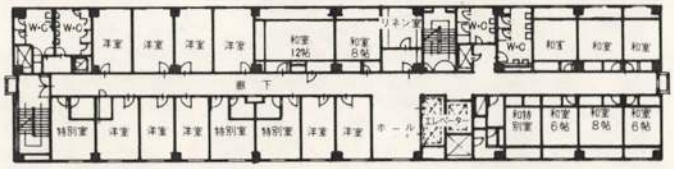
施　工　建築工事　ＫＫ銭高組

機械設備工事　ＫＫ建材社

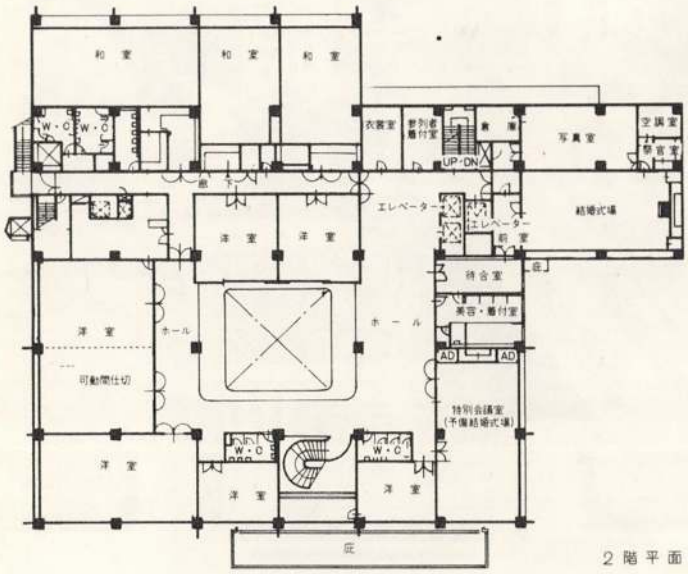
電気設備工事　栗原工業株式会社



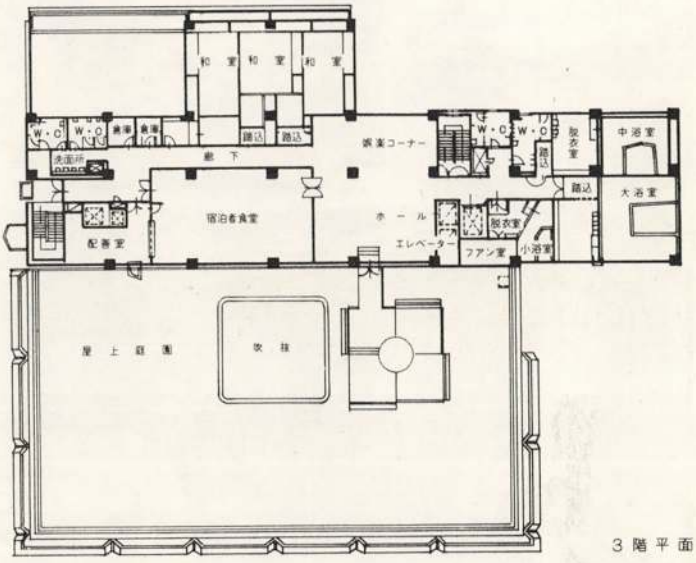
9階平面図
(全室洋1人室)



6階平面図
(7・8階も同じ)



2階平面図



3階平面図

所在地　大阪市天王寺区石ヶ辻町３８の１

敷地面積　4,496.31m²（1,360坪）

建築面積　本館　2,073.17m²

従業員宿舎　266.19m²

計　2,339.36m²

延床面積　本館　10,048.83m²

従業員宿舎　1,022.83m²

計　11,071.66m²

構造　鉄骨鉄筋コンクリート造（４階以上は軽量コンクリート使用）

階数　地下１階、地上９階、塔屋２階。

軒高　30.800m　最高高さ　41.850m

工期　昭和42年12月～昭和44年７月

内容　地階　機械室、倉庫、電話交換室

１階　ロビー、ラウンジ、グリル事務室等

２階　結婚式場、和洋集会場、宴会場

３階　食堂、大中小浴室、和室宴会場

４～９階　和、洋宿泊室

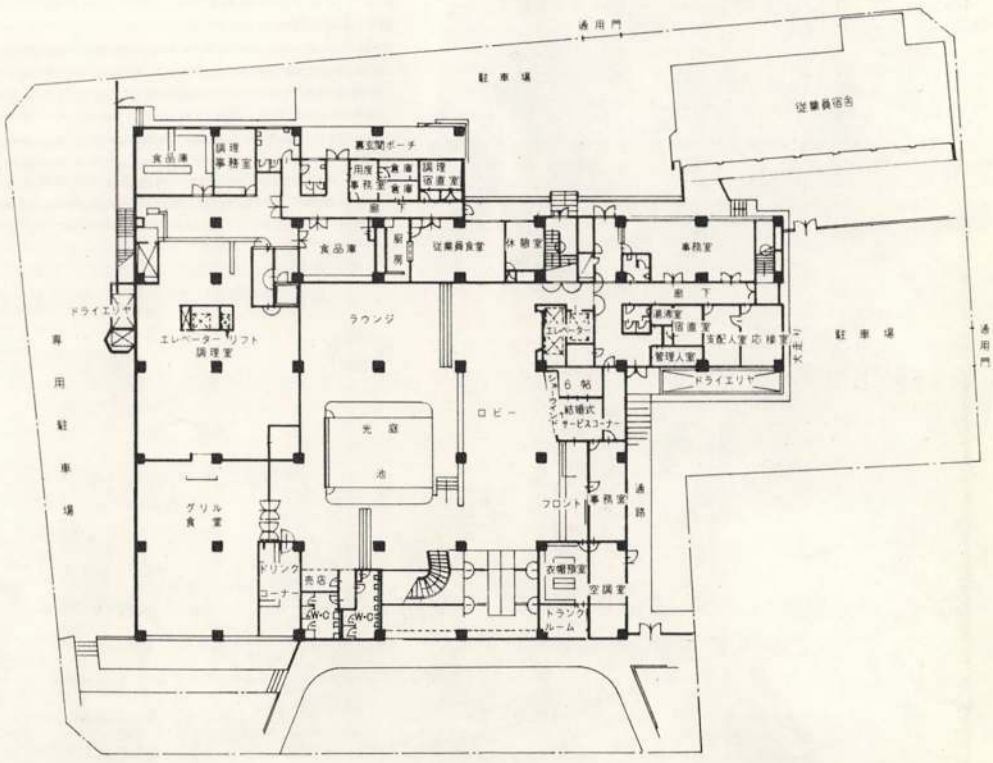
宿泊室数　137室　定員　約300名

集会室数　13室　定員　約700名

設備　エレベーター、乗用２基、人荷用２基、リフト（厨房用）１基

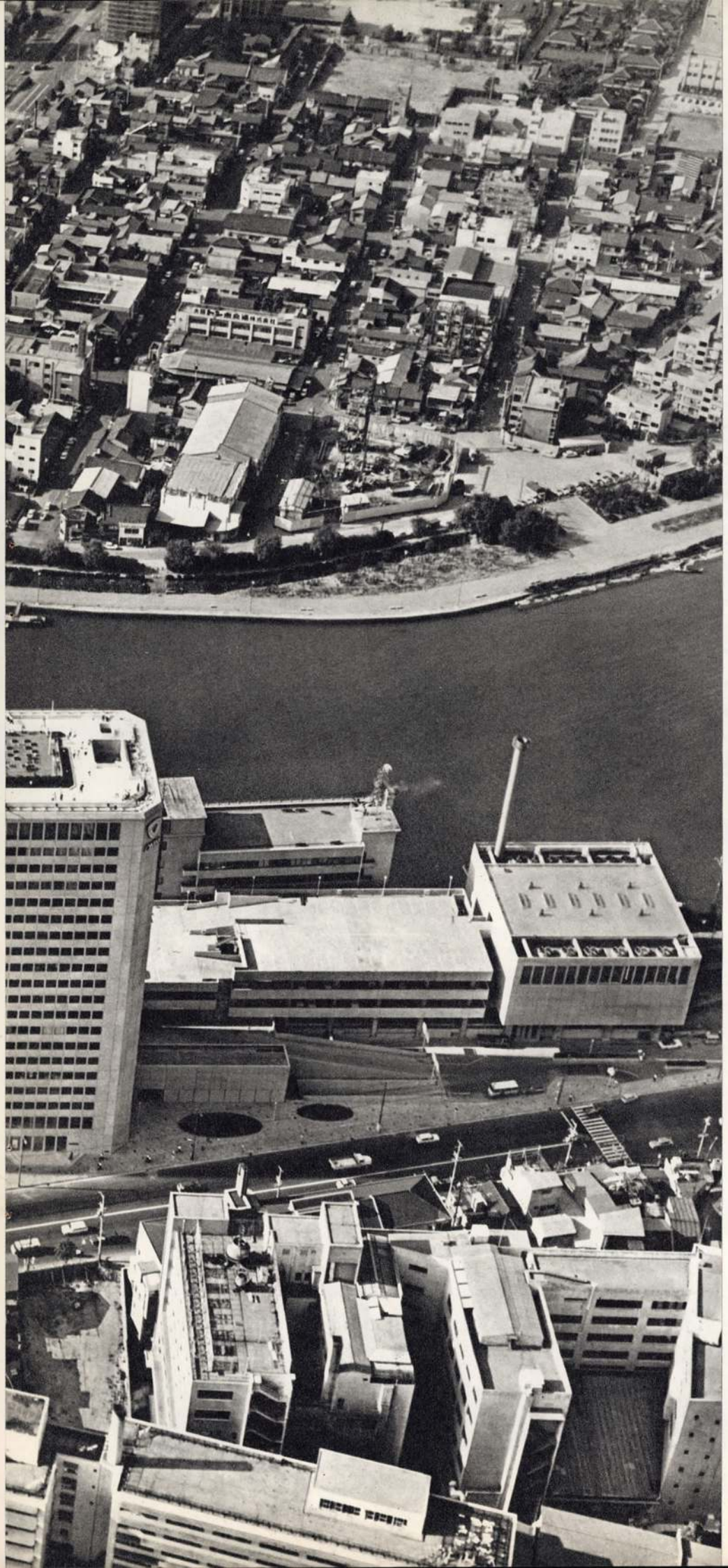
受変電、照明、テレビ共視、放送時計、電話、自動火災報知設備等

給水、給湯、衛生器具、ガス、空調、換気、エヤーシューター、噴水設備等



1階平面図





Osaka Merchandise Mart

大阪マーチャンダイズ・マート

設計施工　株式会社竹中工務店

位　　置	大阪市東区京橋1丁目 大阪都市計画　天満橋特定街区
敷地面積	街区面積　20,412.920m²
延床面積	大阪マーチャンダイズ・マート 131,415.668m² 既存部分　5,844.127m²
建築面積	大阪マーチャンダイズ・マート 10,515.348m² 既存部分　987.515m²
空地率	37.15%
容積率	特定街区指定　600% 実容積率　572%
階　　数	地下4階、地上22階
高さ、深さ	最高部　GL＋78.0m＝OP＋85.400m 基　礎　GL－19.8m＝OP－12.400m GL＝OP＋7.400m 大阪城天守閣の高さ　OP＋88m
構　　造	高層部　鉄骨鉄筋コンクリート造 低層付属棟　鉄骨造
使用材数量	鉄　骨　約12,900t　0.098t/m² 鉄　筋　〃 7,900t　0.060t/m² コンクリート 〃 76,200m³　0.58m³/m²
外　　壁	プレキャストコンクリート版、ボンタイル吹付 高層部外周壁面積　約 23,000m² 外壁パネル枚数　約 5,000枚

工　　期

起工までの経過

昭和41年4月　実施設計開始
42年1月　準備工事着手
地中障害物撤去
2月　電波障害に関する協議成立
〃　日本建築センター高層構造審査終了
3月　「天満橋特定街区」の指定
〃　起　工

工　　期

昭和42年3月～44年8月　29か月



大阪マーチャンダイズ・マート設計メモ

山中　孔

生産と消費を結ぶ流通分野における変革の主役として、商都大阪に大阪マーチャンダイズ・マートが新しい副都心天満橋に誕生した。

卸売商のもつ機能を分析すると、見本取引を主体とする商品取引機能と物的流通機能の二つに大別され、現状の船場地区問屋街ではこれらが混在し交通麻痺を起しているのが実状であるが、大阪マーチャンダイズ・マートのねらいは商品取引機能のみを分離して純化し、適切な立地と最新の施設、業務の集約化、共同化などにより卸売活動の合理化を進めることにある。

計画当初、卸売センターは日本では前例がなく計画の基礎となる資料は皆無であったが、大阪市経済局、大阪商工会議所、株式会社大阪マーチャンダイズ・マートの協力を得て、卸売商実態調査や入居予定者を対象とした調査、各関連業界との共同研究等により計画案の修正を重ね成案にしていったことは大きな特色の一つである。

ブロックプランとしては北・東の河川、京阪電鉄軌道により建築計画に制約が加えられた。すなわち敷地各部の条件に応じて低層部、高層部を適切に設け、かつ公共性を考慮した充分な広場をとって積極的な環境整備を計画の基本とした。高層部については当初8階、18階、22階、30階の各案各要素を比較検討の結果、卸売センターとしての機能や貸室の均質性を考慮して22階案が採用された。また大架構を擁する低層部は電車を完全に通しながら構築する画期的工法の考案を得て軌道上部空間の有効な利用が可能となった。このような基本計画に基づいて大阪都市計画天満橋特定街区の指定を受け地上78Mの高層ビルの建設が確定した。

主要な施設として、卸売店舗の他に4300M²の展示ホール2階、1500M²の会議室群19・20階、8700M²の駐車場・荷捌場B_4階～4階、倉庫B_4階、電算・医療センター3階、サンクガーデンにより採光のある商店街B_1階、飲食店街B_2階などがある。屋上は強化ガラス風防を巡らし圧倒的な景観を誇るスカイガーデンや回転展望レストランがある。来客のアプローチは地下鉄2号線、京阪電鉄によりB_2階から直接連絡でき、また車は敷地3ヶ所の出入口により将来の周辺交通規制にも対応できるように考えられている。

主要構造方式は比較的剛構造と考えられる鉄骨鉄筋コンクリート造を主体としている。これは用途上積載荷重のばらつきのあること、この規模の構造物では必ずしも柔構造が耐震安全性が高いとは考えられないこと、大阪層群上にある良好な地盤により充分な支持能力のあること、層間変位を少なくして内外壁の取付けの簡易化を計る等の理由による。

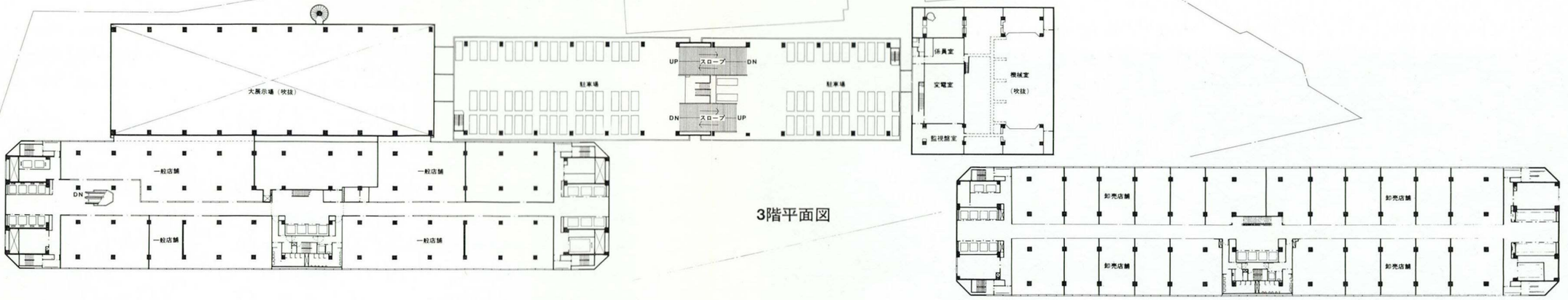
外壁プレキャストコンクリートは単一体で諸性能を発揮する最も経済的部材であり、取付け方法の開発と相まって各種実験により安全性が実証されている。すなわち200 galの地震（変位±6MM）に耐え、400kg/m²（瞬間最大風速85 Mに相当）の風圧にも安全であることが示された。

設備計画上の特色としては、ビル全体の有効性を高めるために冷熱源機器を別棟機械室へ設置し、また基準階においてはゾーニングされた空調により効率よく設備している。配電方式も同じく別棟で特高受電したものをビル内副変電所に給電、さらに各負荷に配電されている。また集合自動電話の導入による情報伝達の円滑化、エレベーター・リフトの高能率な稼動、煙感知器、全館スプリンクラー設置による十分な防災設備等が考慮されている。

この建築の表現については、ダイナミックな商活動の場としてすべてドライな感覚で追求されている。高層ビルの量感、それを装うプレキャストコンクリート版の明快で力強いパターンが白に近いカラーで構成されている。内部も、豊富な色彩をもつ商品があふれる空間の背景として白系統で統一されている。

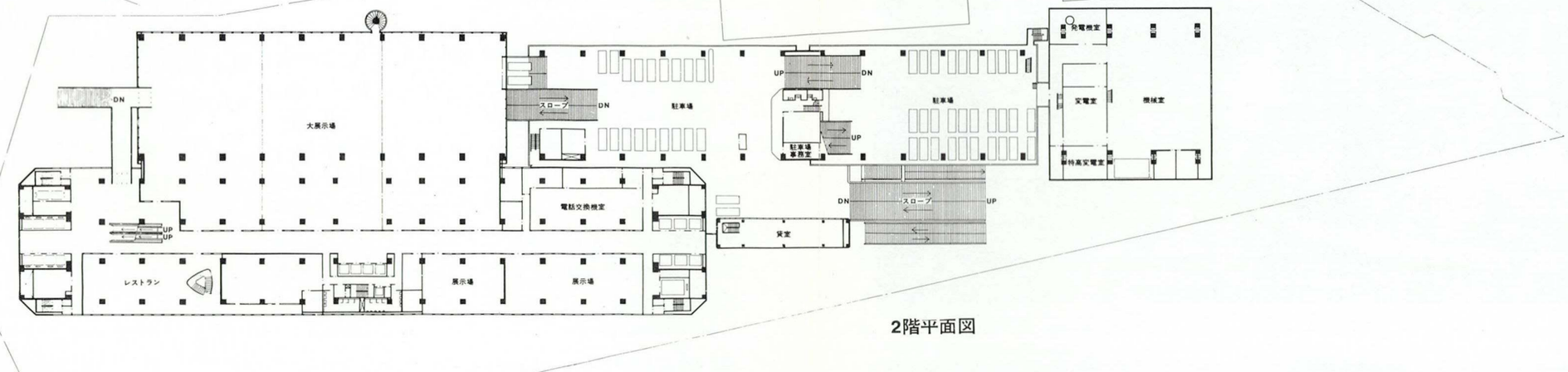
このように大阪マーチャンダイズ・マートの完成により在来の問屋街ではできなかった新しい卸売活動が大阪を中心とする全国的な有力企業を擁して活発に始められようとしている。情報通信システムの利用等による協業化の特色を遺憾なく発揮して、世界最先端の流通機構として、流通革命のパイオニアとなることを期待したい。

大阪マーチャンダイズ・マート

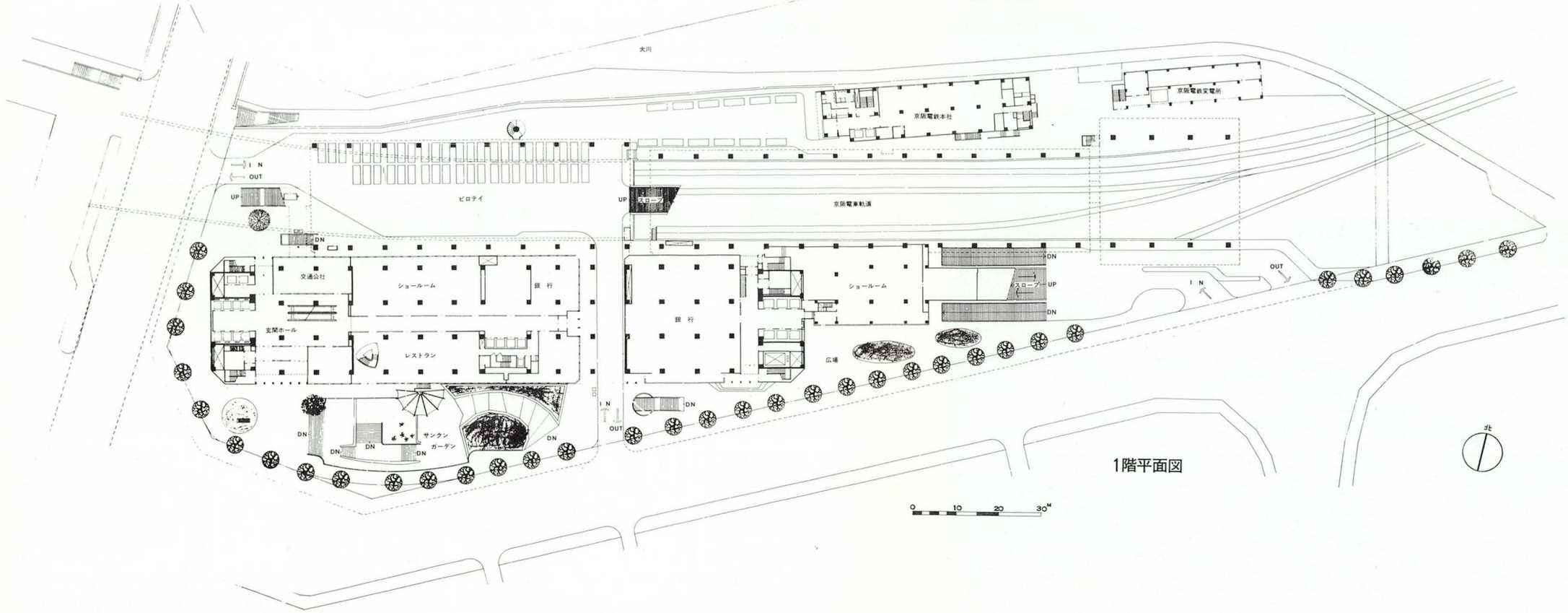


3階平面図

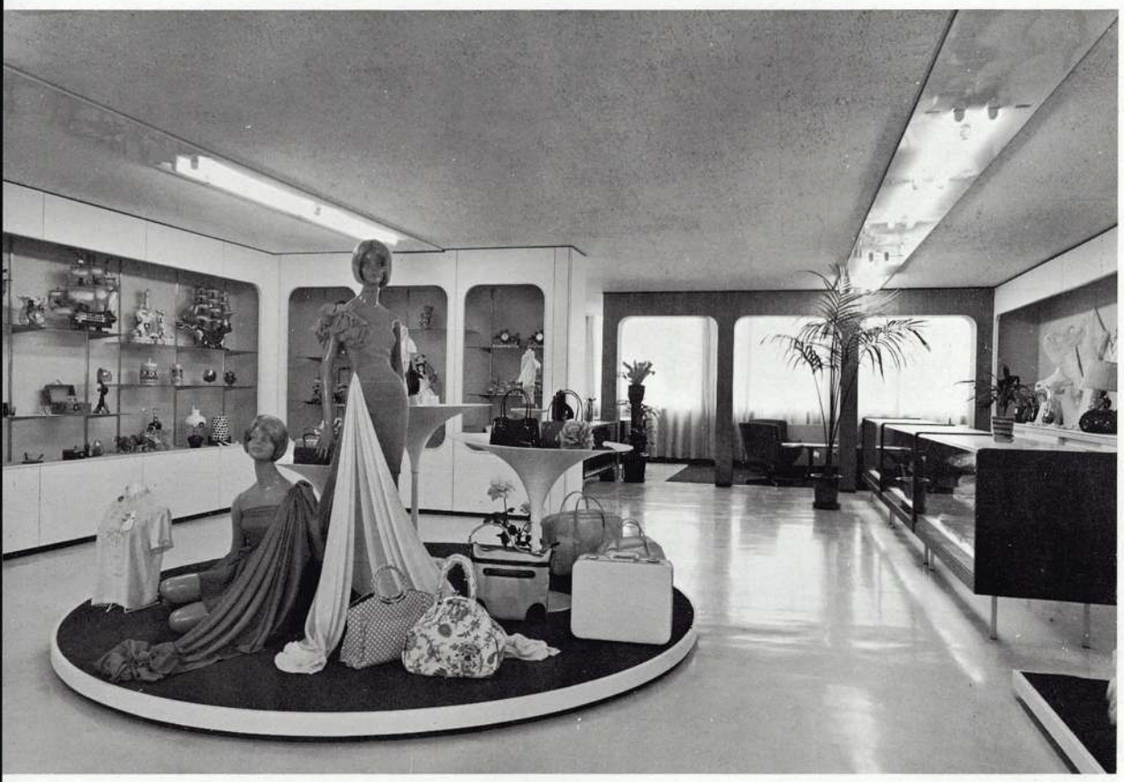
12階平面図



2階平面図



1階平面図





都市再開発とOMM

田村 真二

大阪と卸商

近畿圏の中核都市として，また西日本経済の中心として大阪を考える時，卸売商業を度外視することは不可能でことである。かって商都大阪の名をゆるぎないものとしたのは実に大阪卸売商業の全国的優位性にあったからに他ならない。

もともとわが国の流通機構の中において，卸売商業の果たす機能は極めて重大なものがあるが，加えて近年における経済成長に伴う生産量，消費量の飛躍的な増大と，一方における消費構造の変化，多様化に伴う商品の種類の著しい増加などにより卸商にかけられた役割はますます大きなものになりつつあるといえよう。

しかしながら戦後の経済政策の重点が主として生産部門の近代化合理化に注がれたため，工業部門がいち早く目覚しい成長を遂げ，経営基盤を強化したのにひき比べ，資本配分に恵まれなかった流通部門は，その体質の改善，設備投資に著しくおくれをとり，極めて非能率，非機能的態勢のままで，エスカレートする物品，組織，情報などに対処せざるを得なかったわけである。このことは一種の経済成長のひずみとして経済の円滑な活動を妨げ物価上昇の一因ともなっているのである。

このような情勢の中において昭和30年代後半における流通革命の登場以降，大阪卸商の全国的優位性が急速にくずれだし，いわゆる関西における経済的地盤沈下をひきおこす要因となったことは耳目に新しいことである。

大阪市卸売商業の比重は東京都（区部）に比べて商店数および従業員数に関する限り，もともと低かったのであるが，その販売額において常に東京および他都市をリードしてきたというところに商都大阪の真骨頂があったといえよう。それが昭和35年を境に首位の座を東京に奪われてしまった理由には次の二つの側面が考えられる。

戦後とくに昭和30年以降におけるわが国の経済成長が重化学工業の急速な発展に支えられてきたことは周知のことである。このいわゆる産業構造の変革を反映して，わが国の卸売商業の業種別構成は著しい変化を示している。すなわち医薬品・化粧品・化学製品・金属材料・材料器具および建築材料等がその比重を高めてきたのに対し，繊維・衣服・身の回り品等の諸業種はいずれもその比重を低下してきた。

ところが大阪市の卸売商業の中心は実にこの繊維品部門であった。すなわち昭和31年48.2%，33年54.3%，35年46.5%と大阪市卸売商業総販売額の約半ばを前後していたのである。このように全国的に停滞的傾向にある軽工業，とりわけ繊維製品に大阪市卸売商業の重心があったところに，その理由の一半が存在したものと思われる。

もう一つの側面として，大阪卸売商業の立地の特殊性が考えられよう。大阪卸売商業は中央4区わけても東区に密集している。商店数の約¼，従業員数のほぼ70%，年間販売額に至っては実に90%前後を東西南北の4区が占めている実情である。このような集中現象は顧客の吸引力を高め，また関連施設の整備を呼びおこす。これがいわゆる外部経済の利益であり，集積の利益であるが，これがまた一層の集中を促し集積は加速度的に進行する。大阪市の卸商の中心地区，すなわちいわゆる船場地区などはこのようにしてでき上ったものである。しかも個々のスケールは小さく中小企業中心であり，通常商品単位に問屋街を形成しながら極めて平面的に分布しており，近年における取扱商品の種類，数量の飛躍的増加に比べ既存の店舗や倉庫の狭隘化は著しいものとなっている。さらに最近における市街地の過密化，道路事情の悪化など外部経済の諸条件はますます悪化しており，企業内部がいかに近代化され合理化されても，外部経済条件との関連において輸送，保管などの関連経費が増大する弊害を生じている実情である。

都市再開発と卸センター

このような大阪都心部の実体に対処して，近年に至り流通機構の合理化・近代化とこれら卸商の立地する都心部の再開発に対する要望と気運が漸く高揚してきた感がある。卸センターの構想はまさしくこれらに応え得る解決の一つになるであろう。

都心部の再開発，特に卸商地区の再開発には二つの行き方がある。一つはその地区またはその周辺において，在来の機能を集約・整理・効率化する集中化・高層化であり，他の一つは他地区，特に市周辺地区への分散である。

このことは卸商の取扱品目の内容と卸商自体の機能分析によって分けられる。たとえば繊維製品などについては見本取引が可能である種類のものは都心部に立地性を有しており，生産財や耐久消費財など比較的重量のあるものについては必ずしも商機能と物的流通機能と一致させる必要はないと思われる。

いずれにしてもこれらの再開発は都市計画との斉合性を保持しつつ，都市機能の再開発に資するべきで，それによって初めて再開発のメリットを得ることが可能であると断言できる。

大阪マーチャンダイズ・マートは実にこのような時点において，このような問題意識の中において市・財界・市民の一体的な協力によって企画され生まれた特筆すべき施設であるといえよう。

この施設はいわば現在の船場の問屋街が，より効率的により機能的に再編成され，しかもその街並みの特徴を生かしつつ，立体的に積み上げていったものということができる。したがってその集積の利は今まで以上に享受が可能であり，併せて保管・計算・小売商店指導・マーチャンダイジングなどの多くの協同事業が，入居者の協同意識の高揚と相俟って強力に進められるであろう。結果として卸売商業の生産性の向上，流通コストの低減，商品市場の拡充などに果たす効果に大きな期待がかけられるのである。

さらにこの建物の再開発的意義の上に見逃せないものは1階道路面における広場の確保である。建物を高層化することによって外部にオープンスペースを確保し，それを積極的に広場として一般に解放するこの計画は特筆すべきであり，過密化した都心部において人々に安らぎと憩いの場を与えるこの広場によって，都市も建築も人々も大きなメリットを享受することに気付くであろう。

特集：民家の系譜と保存計画

民家，つまり大衆の住宅は建築の中で最も長い歴史をもち，しかも民衆の生活に密着した分野でありながら，久しく建築史の範疇としては扱われてこなかった。その理由は種々考えられるけれど，その一つに果して民家の研究が建築の歴史として把握できるかどうか疑問視されていたこともあげられるであろう。事実1955年頃より少数グループによる民家の実証的研究調査が始まった当初には，建築史学の一環として方向づけるために多大の困難な問題に遭遇したのである。しかし以来今日までそれらの問題も克服され，地域的にはかなりの程度民家の史的研究も確立し，多くの成果をあげるに至っている。

さらにこのような成果があってこそ，始めて民家の価値判断も可能になり，そして改めて秀れた民家の保存問題が提起されるに至ったのである。ひるがえって今日，大衆の生活を無視した無計画無秩序な産業開発が全国的に急速に広がり，多数の祖先の文化遺産を破壊し廻っている。その時点において，今静かに過去の生活の所産である民家を地域的に再現し，その系譜を察知し，その価値を認識した上で，開発の波に抗しそれらを保存しようとするたくましい計画案の一端を展望することは決して無意義ではないだろう。

なお，本会ではかって，「ふるさとのすまい」（1962）を刊行しているが，本号では重複をさけて，それ以後の成果に絞って問題点を要約するように努めたことを付言しておく。

執筆者紹介（けいさい順）
浅野　清（大阪工大教授・工博）
白木小三郎（大阪市大教授・工博）
大河直躬（千葉大教授・工博）
宮沢智士（奈良文化財研究所技官）
永井規男（関西大，講師・工博）
伊藤延男（奈良文化財研究所技官・工博）
林野全孝（近畿大助教授・工博）
多淵敏樹（神戸大助教授）
佐藤重夫（広島大教授・工博）
青山賢信（大阪工大助教授・工博）
鈴木嘉吉（文化庁技官・工博）
太田博太郎（東京大教授・工博）
足達富士男（奈良女子大助教授）
吉田高子（近畿大助手）



1 序　説

日本民家の系譜

民族学者や地理学者に呼応して，建築側の分野で，最初に日本民家の調査に手を染めたのは，建築史家ではなくて，デザインにたずさわる人々であった。その頃（大正中期）建築史の分野では社寺建築がようやく系統立てられて，細部様式の推移などが関心の的であり，文献の基礎的研究の不徹底さが反省されていた。邸宅史，茶室，城廓，建築遺跡といった新分野の研究が開拓されだしたのもその後のことである。そんなわけで，建築歴史家が民家の研究に本腰を入れだしたのは，戦後も昭和30年代に入ってからのことであった。

その大きい動機となったのは戦後急激に上昇した開発と生活方式の激変によって，民家が続々消滅したり，改造されたりするのに危機感を覚えたことにあった。こうした現状に手をこまねいていたのでは，遂に日本民家の系統的理解を不可能にし，代表的なものを保存する道も閉ざされてしまうことが恐れられた。

この建築歴史家の研究方法が在来のものと異なっている点としては，地理学者が現象面の分布などに意を用い，民族学者が生活面との関連を重視し，デザイン関係の人々が民家の現状観察に止まることが多かったのに対し，原形の失なわれているものについては，中古における改造を復原し，それを資料として，地区ごとにその変遷を明らかにしたうえで，かつての分布や，それらの間の相互関連を追求する方法をとったことが指摘される。

復原の方法は柱その他の部材に残された古い仕事の痕跡を追求するのであるが，障害物があったり，旧材が失なわれていたりして，調査の徹底し得ない場合もあるので，その判断については類例の存在が役に立つ場合が少なくない。したがって一地域について，多数の民家を系統的に調査する必要があった。いずれにしても，改造されている家屋が余りにも多いので，その現状の羅列に止まる限り，研究の進展は望めなかったことを指摘したい。

以上のような調査は大阪市大による大阪府の民家調査，横浜国大による神奈川県民家調査，東京大学による長野県の民家調査のように，長年にわたって小地区毎に継続されたもの，昭和30年代前半に実施した文部省科学研究費によるもの（横浜国大，大阪市大，東京大学などが中心となって，数年にわたり，滋賀，京都，岐阜，福井，富山，新潟，愛知，鳥取，岡山，広島，島根，山口などの各地で行なった調査），その他地方史編集の機会になされた調査，個人の努力に負う調査（関東の各地，奈良，佐賀，熊本など）などがあげられる。こうした段階で，民家研究に多年のキャリヤを持たれる川島宙次氏の資料や地方の研究家による補足的な資料提供を受けて，粗密の斑はまぬがれないまま一応全国的な視野で編集されたのが，建築協会45周年記念出版の「ふるさとのすまい」（1962年）であり，1966年1月号で，建築雑誌が民家特集号を出したのも，ほぼ同じ段階であった。後者は建築史関係者の企画によっている。

一方民家の保存対策として，文化財指定の緊急性が強調された結果，その前提としての民家調査を文化庁の補助金によって，各府県毎に実施することになり，昭和38年から，毎年数府県づつ実施されている。これは金額も少なく，調査者もさまざまで，まだ完全なものとはいえないが，建築歴史の民家研究グループのメンバーが依嘱をうけて活躍している府県も多く，次第に成果が蓄積されている。

このようにして，民家調査はここ十数年の間に大きく進展し，おぼろげながら，全国にわたる民家の系譜も明らかになりつつある。こうして本号の特集では，1966年以後における民家調査にスポットをあて，次第に解明されつつある，その系譜的なつながりを示唆していく方向をとることになっている。

しかし，同時に日本民家の歴史的研究にも限界があることを認めないわけにはいかない。それは残された民家のほとんど全部が江戸時代以後のもので，それ以前にさかのぼる可能性のあるものは全国を通じても数棟を数え得るにすぎず，しかもそれらは改造がはなはだしくて，原形を復原することが至難なものばかりであることが明らかになってきたからである。したがって，江戸時代以後に生じた分化，発展，交流などは跡づけられても，それ以前における動きを実証的にとらえることができないため，全国的にその発展の系譜を明快に描き出すことは許されず，一定の仮定の下に推察する域を出ないのである。

そんなわけで，そうした点を期待されている読者にはこの特集ももの足りないかも知れないが，ここで従来明らかにされてきた間取の系統のうち，全国的に最も広く分布していた広間型三間取（田の字型四間取の土間にそう二室が一つの広間となり土間との間が開放される）と近畿の先進地帯にすでに江戸時代のはじめから成立していた田の字型四間取の関連について，多少否定的な示唆を与える事実が出てきたことを付記しておこう。（奈良，和歌山，大阪の項参照）

最後に民家保存のさまざまな試みについても，現段階の紹介にかなりの頁を割いた。その本格的な対策は今後の課題であるが，文化財指定による，修理費の補助金交付の方法のみでは，次第に実生活から遊離しつつある古民家を保存することは不可能で，現段階より格段に大きい規模の民家博物館建設の緊急性を痛感するのである。同時に個々のものの保存に止まらず，奈良県今井町の場合のような，都市ないし集落形態をそのまま保存することも困難ではあるが，緊急問題であることを強調したい。

（浅野　清）

2 地方の民家

山形県の民家

山形県下の「中門」造民家形式について

山形県下だけでなく，秋田から新潟にかけての裏日本側に，広く分布している民家形式の一つとして「中門」造と称する一類型がある。この中門部分の形式にもそれぞれ地域差が見られ，海岸部の庄内地方の形式は「せいがい」造といい，破風のきれいな，秋田県の海岸部に見られるものと同じ類型である（**図1**）。庄内地方の場合には現在も，両中門，片中門，真屋の形式格差が旧開拓主（庄屋），高持百姓，無高百姓（水呑）の身分格差をそのままあらわしている例も見られる。海岸部の庄内地方の類型に対して最上，村山，置賜などの内陸部のものは相当な形式差が見られる。最上郡真室川町中村の例には<**図2**>のように寄棟が交叉し，その上，上手に切妻の玄関中門のついた形式も見られる。また，同じ最上郡の新庄市の例には入母屋形式の「厩中門」のほか寄棟（「葺き廻し」ともいう）や切妻の中門形式の棟が取りついている例もある（**写真1**）。

村山地方には「中門」形式のものが少なく，特に表側の典型的なものは少なく，ただ裏中門などの変化形のものが多少見られる。屋根形式としては，上ノ山市の武家住居に見られる寄棟，または切妻切落形式のものなど，種々なものがある（**写真2・3**）。このように変化形の多いのは，典型的な中門形式の分化というよりは近世末期以来の生活機能の分化に伴う便宜的な多棟化方法の現われといえよう。

置賜地方には切妻形式の「中門」の例が多く見られる。東置賜郡川西町の例には両中門とも切妻形式のもの（**写真4**），また飯豊町の例のように片中門の場合はほとんどが二階建の切妻形式を，正面にしている（**写真5**）。

これらの「中門」形式は，次第に減少傾向にあるのが各地方の一般性といえる。この減少は，農作業場としての小屋を新築することに，大きな関連がある。北村山郡尾花沢市の丹生の場合には，家格の表示としての中門造りよりは農作業場としての意義が大きく，小屋を持つようになって，中門（厩中門，あるいは土間中門）の意義が，次第に失なわれてきたことが示されている。この村の場合は，戦前から中門部分を除去する例が多くなり，代って，庇（二面……にめん）を取り付けた「とのぐち」に代ってきた。除去した主な理由として最も多いのは，「小屋新築のため不必要になった」，次は「雪下しの不便と屋根の谷の部分が朽ちやすい」，そのほかに「中門のため主屋が暗くなっていた」，などがあげられている。また，中門部分は例外的に平屋になっているものもあるが，ほとんどが<図1>の例のように中二階（つし二階）になっている。この中二階は若衆（若勢……下男）の「ねどこ」になっていたが，最近は物置に代ってしまい，未だ「ねどこ」に使われている例は珍しくなってきた。本来，中門部分の，特に「つし二階」の機能からもわかるように，雇傭労働力や畜力に依存した大手作農家の家構として建てられたところに，中門造の村落社会における身分的形式の背景が考えられる。（白木小三郎）

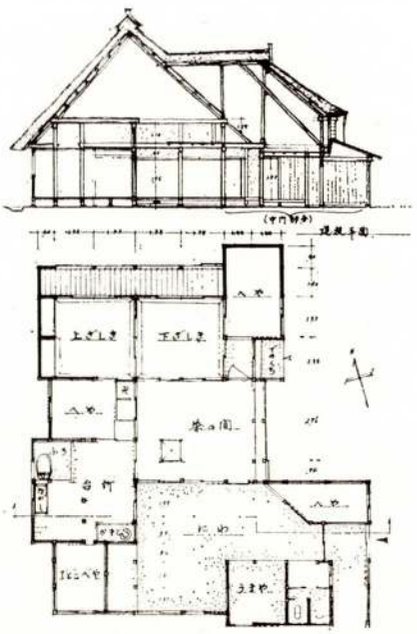


図1　庄内地方の中門造の例
東田川郡櫛引町，納井（甚）家

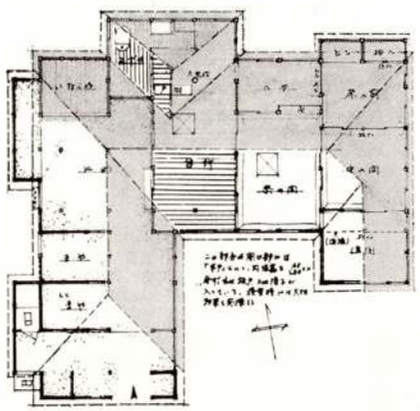


図2　最上地方の中門造の例
最上郡真室川町中村，沓沢（久）家



写真1　新庄市，矢作家
正面（右）は入母屋，その下手（中）切妻，その裏手（左）に寄棟の中門が付いている

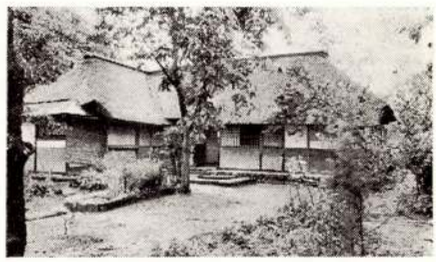


写真2　上ノ山市，須藤家
旧家中層の居住区には同じような寄棟形式の玄関部分が中門になっているのが見られる。



写真3　東根市，高橋（善）家
2階建，切妻の裏中門



写真4　東置賜郡川西町・平家
左手の平家中門は玄関，右手の二階中門は土間，ともに切妻形式

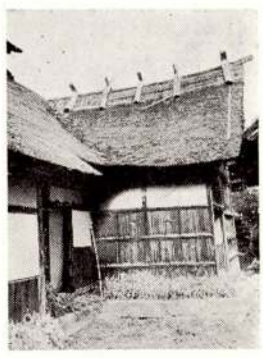


写真5　西置賜郡飯豊町，男鹿家
左手の母屋から土間中門が二階建になって突き出している

群馬・栃木・茨城・千葉県の民家

1. はじめに

関東地方で，すでに民家緊急調査の実施された県は，栃木・茨城(41年度)・千葉(42年度)・群馬(43年度)の4県で，今年度には埼玉県が予定されている。残っているのは東京都と神奈川県であるが，この2地区はこれまで個々の研究者によって比較的よく調査が行なわれたところである。一般的な調査の進み具合では，関東は近畿とならんでもっとも進んだ地域といってよい。

したがって，これらの諸調査の結果が整理されれば，ある程度まで，関東の民家の概観ができそうにも考えられるが，そう楽観視はできないという問題もある。私自身にとっても，関東の民家をなんらかの基準にもとづいて整理・概観せよという課題に対しては，やはり現在の段階では，まだ不可能だと答えるよりほかにないと思う。

たしかに，緊急調査によって関東のこれまで調査のゆきとどかなかった地域について，思いがけない古い民家や，珍しい形式が発見されたという例はかなりある。その一例として，東部の千葉県から茨城県にかけての古民家に分棟型のものがあるということ，あるいは北部の群馬から栃木にかけて，江戸前期あるいはそれ以前の大型の民家の遺構がかなり残っているという事実などは，従来の研究に新しい知識をつけ加えるものであろう。しかしこれらの事実は，もう少しつっこんで調査をしてみないと，どういう範囲や内容をもつものかは明らかでない。緊急調査それじしんの目的は，民家の保存の現状と，それへの保護対策をつくるためのデーターを緊急に明らかにすることであるから，そのような研究的な課題にまではまだ手がまわらない。また緊急調査を行なった県のなかには，調査体制の不備から全県的な組織的調査を行なえなかった地区もある。

そのようなことを考えると，関東の民家の研究は，緊急調査で明らかにされた諸事実を，これまでの研究の蓄積の上に加えて，これから新しく本格的な調査研究に進むべき段階にあるといった方がよい。この報告でも，各県の民家の概況を述べるよりも，緊急調査の結果のなかから，新しい問題を含むと考えられるものを中心にして紹介し，今後の研究の資料に供したいと思う。

2. 群馬県

群馬県の緊急調査は，1次調査でほぼ県内全地方にわたって約300棟の民家を選びだし，そのうちから第2次調査を111棟について，第3次調査を26棟について実施した。第2次調査は県内在住の建築・民俗の研究者の方に依頼し，第3次調査は持田照夫と大河直躬が行なった。第3次まで残った主要民家はつぎの4グループに大別することができると思う。

A．中規模の古民家＝17C後期～18C前期
B．大規模の古民家＝17Cあるいはそれ以前
C．養蚕農家　＝18C以降，各種の形式をもつ
D．その他　　＝町屋，幕末農家など

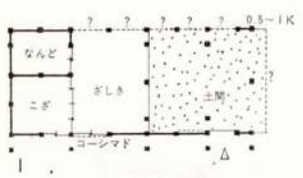
つぎにそれぞれの代表的な例を紹介しよう。

〔A〕平野部の中規模農家のもっとも古い時期のものは阿久沢家（**指図1**）のように梁行3間半程度の大きさで，間取は広間型である。外部の間仕切は，関東の他地域と同様に壁が多く，広間の表側は格子窓である。土間の規模も小さく，妻側の馬屋を後に増築している。注目すべき特色は，土間に壁から半間離れて上屋を支える独立柱が1間あるいは2間おきに立っていることである。地元ではこれを「そですりばしら」と呼んでいる。このような土間に上屋を支える多くの独立柱が立つ例は，東北や栃木の民家にあるが，関東南部には見られない。平野部ではこの例が3棟発見されたが，そのうち2棟は組みかえをしており，なかでいちばん新しい阿久沢家のみ図のような間取を復原できた。

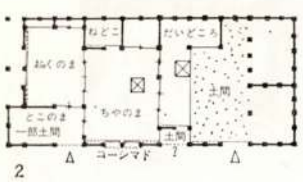
山間部，とくに利根郡にもこのような独立柱をもつ家が残っていたが，これらは時代的に少し新しく，規模も大きく間取も複雑になっている。（**指図2**）広間の前面が格子窓になり，周囲に壁が多い形式が現在まで残っており，地元ではこのような家を，領主真田伊賀守の圧制（窓税）によるものとして，「伊賀づくり」と呼んでいる。座敷の表側の部屋が土間になっているのは珍しいが，このような例は千葉県の上総山地にもある。

〔B〕Aグループとは別に，古民家には梁行5間以上のかなり大規模な家が数棟発見された。これはいずれも中世末期の城主，土豪の子孫といわれる家である。この例も大きな改造や組みかえをした家がほとんどである。そのうちで比較的よく残っているのは，入沢柳太郎氏宅（渋川市）と茂木六次氏宅（富岡市）で，前者は江戸時代初期，あるいは桃山までさかのぼる古い家。後者は年代の推定は不可能であるが，文政11年に書かれた墨書銘によると，このときの修理でなんどの大根太から大永7年（1527）に建築したという銘が発見されたという。現状では間仕切の復原は不可能で，また明治末年に土間と後側がとりこわされているのが惜しいが，太いうねるような丸太材を使用した小屋構造をみると，室町の建物である可能性はあると思う。

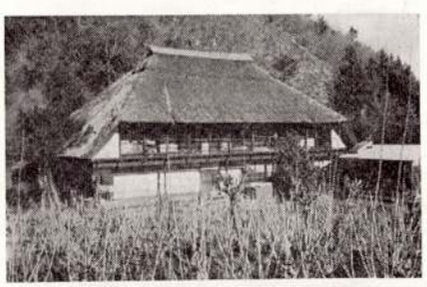
〔C〕群馬県は古くからの養蚕県であるから，各地域に養蚕農家が発達している。従来も，赤城山麓の切上げ屋根をもった形式（赤城型と呼ばれる）や，切妻屋根の瓦葺あるいは板葺の巨大な農家などが注目されてきた。しかし今回の調査によると，これらはかなり新しく幕末ごろに普及した形式で，より古い時期のものが山間部の吾妻郡や碓氷郡にみられる。屋根の形は吾妻郡では正面の平を「かぶとづくり」にし，碓氷郡では妻を「かぶとづくり」にしている。これらはほぼ18Cのなかごろから普及しはじめたらしく，構造に土間の中2階，登り梁，総2階などの工夫をしている。いわゆる赤城型の屋根をもつ民家は，調査した民家では，幕末から明治初期に新築したものか，そうでなければ従来の寄棟屋根を改造したものであった。この形式がいつごろ発生し，どう普及したかは今後の問題として残された。**指図3**は富沢吉陳氏宅（中之条町）の外観で，形式的によくととのい美しい意匠を示している。

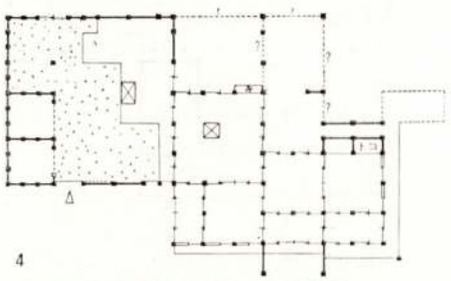


1
（群）宮城村　阿久沢秀夫氏宅（17C後）
復原平面



2
（群）川場村　戸部織衛氏宅（18C初）
復原平面


3.（群）中之条町　富沢吉陳氏（寛政4年）外観


4
（栃）河内町　岡本憲氏宅（18C）復原平面
文化庁資料による

〔D〕以上のほかに注目すべき遺構として町屋がある。沼田町の生方誠氏宅は，火災を何度も免れたことで有名な家であるが，調査結果では当初の構造をよく残し，年代も17Cに入るような古いものであることが判明した。城下町の町屋としては全国的にみてももっとも古い時期に属し，珍しい遺構といえる。そのほか幕末の好景気によってつくられたたいへん大規模な上層民家のいくつかも調査することができた。これらは外観は立派であるが内部の意匠はそう優れていない。

3. 栃 木 県

栃木県では，1次調査でほぼ県内全地方にわたって約400棟を選びだし，そのうちより第2次を127棟，第3次を16棟について行なった。主任調査員は私の担当であったが，第2次調査が翌年度まで延びたので，第3次は文化庁の担当者が実施された。この調査結果にもとづいて，つぎの5件の民家が重要文化財に指定されている。

荒井家住宅（矢板市　17C後期　付表門）
岡本家住宅（河内郡河内町　18C　付表門）
入野家住宅（芳賀郡市貝村　天保8年文書付表門）
羽石家住宅（芳賀郡茂木町　元禄2年棟札）
三森家住宅（那須郡那須町 17C後期 付表門）

これらの調査結果のうち，まず第一に注目されるのは上記の岡本家（**指図4**）および入野家にみられるような，特異な形式をもつ大規模民家であろう。これは土間＋広間＋寝室部分と客座敷部分を棟を少しずらして平行に配置し，棟は乙の形になる。屋根の両端は寄棟づくりであるが，中央正面の折れ曲り部に入母屋破風をつけて格式的表現をするものがある。この民家形式は間取からみても明らかなように一般農民層のものでなく，かつて村役人を勤めていたような上級の家にみられる。また年代は17Cにさかのぼるものから，入野家のように幕末のものもある。分布の範囲は明確でないが，調査民家では宇都宮東方の県内でもっとも水田の発達した豊かな地域に集中してみられ，また地元の方の話ではもう少し南の茨城県に近い方にもあったということである。このグループの民家は客座敷の設け方に，他の地方に見られない特色があり，その点でもう少し詳しく検討すべき価値があると思う。

一方，荒井家と三森家は県北部の大規模古民家で，いずれも直家である。年代はともに17C後期と考えられ，間取もよく似ている。このように床上部分に部屋が3列にならぶ大規模な間取は，その後幕末まで栃木県上層民家の主流となる。なお三森家（**指図5**）では土間に上屋を支える独立柱が2間おきに立っている。これはさきの群馬のものと同じような構造法である。

中規模の農家の例としては羽石家がある。梁行4間で間取は広間型である。さきの群馬県の例と同じように，江戸前期において，関東北部の平坦地域における中規模農家の基本的な間取が，広間型であったことを示唆するものであろう。なお，栃木県では西北の山村にはかなり複雑な間取をもつものも見られるし，また東部では茨城県と関係があり，曲り屋もみられる。今回の緊急調査ではその全般的な傾向はまだつかめていない。

4. 茨 城 県

茨城県では，1次調査を県内の各地方について172棟選びだし，そのうちより第2次を59棟第3次を34棟について行なった。主任調査員は関口欣也氏である。この調査結果にもとづいて，つぎの5件が重要文化財に指定されている。

坂野家住宅（水海道市　18C初期　付表門）
太田家住宅（笠間市　17C後期　付表門）
中崎家住宅（東茨城郡内原町　元禄1年墨書）
飛田家住宅（久慈郡金砂郷村　18C前期）
椎名家住宅（新治郡出島村　17C後期）

調査結果の一部は民家速報集№2に報告されている。

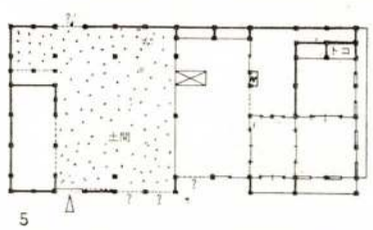
茨城の民家は，一般的にみて関東の西寄りの地域に比べてかなり複雑な内容をもっている。たとえば地域によって分棟型あるいは曲り屋形式の民家がかなり見られること，また東京都や神奈川県でみられるような典型的な3室の広間型の間取が，一般的な形式としては用いられていないことなどである。

分棟型の代表的な例は上記の太田家（**指図6**）で，主屋と土間部分の棟がたがいに直角の方向を向き，相互のあいだの屋根の谷には木樋を入れたと考えられ，東海地方の一部にみられる「棟木づくり」「釜屋づくり」と似た形式である。

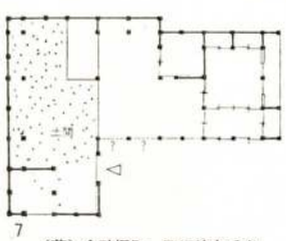
曲り屋は北部の久慈川流域にかなり見られ，その一例が飛田家（**指図7**）である。土間部分の使い方は岩手県のものと似ている。床上部分では広間の一隅に寝間がつきだしており，その奥の列に座敷がつく。この飛田家や太田家のように寝間が広間につきでた例は，東京都や千葉県でもときおりみかける。一般に広間がかなり大きなばあいに多いが，そのような広間型の一変種であるのか，あるいはもっとほかの要因に基づくのかは検討に値する問題であろう。

元禄1年の墨書をもつ中崎家は，規模もそれほど大きくなく，茨城民家の基本的な間取をよく示すものである。床上は4室に分かれ，曲り座敷になり，したがって寝室は広間の裏側に設けられる。このような性格の整型4室プランは千葉県の北部地方においてもひろく用いられている。（年代が古かったり，少し下の層の家では曲り座敷にならず裏の2室がともに寝室になる）これは3室の広間型の発展してできた整型四間取とは内容を異にし，年代的にも広間型の時期に相当する。千葉県の調査からみても，この形式が関東の東寄りの地域の江戸前期から中期にかけての農家の一つの基本的間取ではなかったかと考えられる。

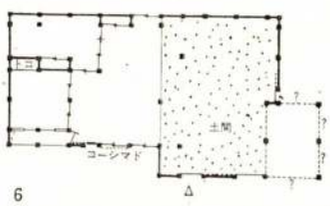
椎名家（**指図8**）は，17C後期のかなり古い家で，そのプランの特色は，座敷の前面に一間巾の玄関様の小室がつくこと，広間の前面も一間巾の入側のような空間をもつこと（間仕切はないが構造的にそのような表現になる）広間の後側では寝間がはみだしてきて，それにしたがって「かって」に相当する空間も土間の方につきだしていることなどである。これらのプランの傾向は千葉県も含めた利根川下流沿岸のかなり広い地域の上層農家に認められる。その点では椎名家はこの系統の民家のうちでもとくに古い年代のものとして貴重な資料になる。



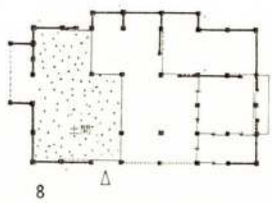
（栃）那須町　三森忠雄氏宅（17C後期）復原平面
文化庁資料による



（茨）金砂郷町　飛田徳有氏宅
（18C前期）復原平面
文化庁資料による



（茨）笠間市　旧太田家住宅（川崎市に移築
17C後期）復原平面　文化庁資料による



（茨）出島村　椎名晃一郎氏宅（17C後期）
復原平面文化庁資料による

5. 千 葉 県

千葉県の緊急調査は，1次調査でほぼ県内全地方にわたって約400棟の民家を選び，そのうちから第2次調査を132棟について，第3次を36棟について行なった。第2次は県内在住の各分野の研究者の方に依頼し，第3次調査は大河直躬が川村泰夫，佐藤光和2氏の協力をえて行なった。この調査結果にもとづいて下の5件の民家が重要文化財に指定されている。

花野井家住宅（流山市　17C後期）
滝田家住宅（印旛郡白井町　17C後期）
渡辺包夫氏宅（夷隅郡大多喜町　町屋　1850年代）
尾形岩雄氏宅（安房郡丸山町　18C初期）
御子神好氏宅（同上　安永8年普請帳）

千葉県の民家は地域によってかなり異なった間取をもっている。北部の下総から中部の上総にかけての地域は，ほぼ同じ系統の間取であるが，南の安房地方にはかなりはっきりした特色をもつ分棟型の民家が分布している。また九十九里浜沿岸には安房とは異なる形式の分棟型民家がある。つぎにそれぞれの代表的な例について紹介しよう。

岩井家（**指図9**）は銚子市郊外の農家で，県北部ではいちばん古い（17C中～後期）と考えられる家である。この家の間取はさきにみた茨城の椎名家の間取とよく似ている。この家は後に北西の隅に床の間をつけて曲り座敷に改造している。この曲り座敷（3室）をもつ間取の系統が千葉県北部の上層民家の主要形式となる。重文指定の花野井家と滝田家は名主あるいはそれ以上の役人層の家で，そのような形式を大規模につくったものである。**指図10**は18Cのなかごろにつくられた中規模な家で，千葉県北部中部の標準的な間取と考えてよい。このほか茨城の中崎家のような4室の間取もかなりみられる。

安房地方以外には，現状では分棟型の民家を見出すことはできなかったが，九十九里町の作田家（**指図11**）は復原の結果，当初は分棟型であることが判明した。土間部分は失なわれていたが，発掘によって，主屋から1間の間隔をおいて土間部分が建てられていたことが判った。この家は現在川崎民家園で復原工事中である。作田家の間取は，土間と主屋の関係という点では茨城の太田家とよく似ている。作田家の建築年代は太田家と同様に17C後期と考えられるが，この時期にこのような分棟型が現在ではそれがみられない地域にもつくられていたことを明らかにするものである。

上総地方の民家は，漁村を除けば，北部の下総地方とそう大きなちがいはない。上総山地の18Cの間取には客座敷前面に土間がある群馬の山間部のものに似た例がある。

安房地方には，現在でも分棟型がひろくみられるが，これらは分棟型だけが集まっているということはなく，非分棟型と混在している。分棟型の古いものはすべて土間部分を失なっており，**指図12**は主屋のみの古い例，**指図13**は年代は新しいが土間部分の残っている例を示した。

安房の分棟型は，太田家や作田家のように主屋と土間部分の屋根を接触させ，その間に樋を設ける形式ではなく，少し距離を離して建て，中間に廊下状の建物を設けている。この部分は一部土間，一部板の間がふつうであったらしく，「ろーか」と呼ばれている。主屋部分の間取は4～5室で県北部のものとほぼ同じ形式である。ただ安房地方では分棟型も非分棟型も，古い時期には土間とのあいだを開放にせず，棚や壁を多く設け，主要な出入口は主屋の表側に設けている。

安房の分棟型は，主屋と土間部分が若干離れており，中間につなぎの建物を設けている点で，茨城と千葉北部の分棟型や東海地方・熊本地方の分棟型と異なり，むしろ鹿児島地方の分棟型（なかえづくり）と似た点がある。またそれは南西諸島や伊豆七島のようなはっきり建物が分離した分棟型とも異なっている。このような日本の分棟型民家の分布，相互関係を考える上で，安房地方の例は重要な内容をもつものと考えられる。

指図14は安房地方の非分棟型の標準的な間取をもつもので年代もはっきりしている。分棟型の分布はかならずしも安房全域におよぶものでなく，その南西に多く，東海岸では鴨川から北には見られない。この分布や非分棟との関係の問題も今後明らかにしてゆきたいと思っている。

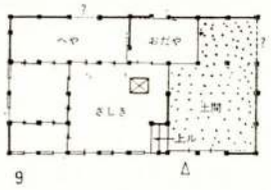
6. む す び

関東の民家の研究は，これまでその詳しい調査は東京に近い地域に重点がおかれていた。これは調査の便宜からまず近くのものをということであったが，そこでの主な問題は3室の広間型を基本的間取とする中規模民家の発展過程の究明にあった。また大規模で年代のとくに古い民家の調査例は，神奈川県の関家（重文）以外はまれであった。

しかし今回の緊急調査の進行によって，北部の栃木・群馬県では大型のかなり古い民家がまだ残っていることが判り，これらはふつうの民家とはかなり間取の系統を異にしている。また中規模民家の基本的間取についてみても，東部の茨城・千葉のものはいわゆる広間型の3室タイプではなく，4～5室構成のものが発見される。そのほか従来あまり注目されることのなかった関東の分棟型の存在の重要さも明らかになってきた。

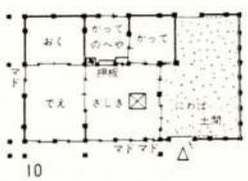
このようにみてくると，関東の民家の研究はこれまでに比べて展望がより広くなったと同時に，とり上げなければならない問題も多様になり，またかなり困難だが興味ある問題をいくつかもつようになったといえるであろう。

（大河直躬）



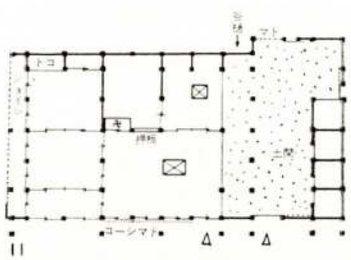
9

（千）銚子市　岩井与惣衛門氏宅（17C後期）復原平面　取壊了



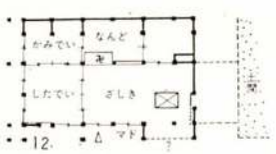
10

（千）千葉市　平木三蔵氏宅（18C中期）復原平面



11

（千）九十九里町　作田紋平氏宅（主屋17C後期）復原平面



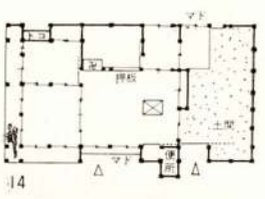
12

（千）丸山町　亀田謙爾氏宅（17C後期）復原平面



13

（千）館山市　黒川薫氏宅（主屋18C後期台所19C前期）復原平面



14

（千）丸山町　御子神好氏宅（安永8年普請帳）復原平面

福井県の民家

—越前と若狭—

日本一長い北陸トンネルを境にして，その北側と南側とでは民家のようすがたいへん違っている。同じくかやぶきの入母屋造の屋根であっても，南側のものは破風が大きく装飾的にとりあつかわれており，直線的な感覚で軒まで低くふきおろされるのにくらべ，北側のものは軒がやや高く，あるものは丸みがあり，あるものは荒々しくもったりとした線でふかれる。北側ではツノヤが発達しており，破風は南側のものとは違った意味で主張されている。

内部ではオイエ・オエあるいはダイドコロなどとよばれるイロリが切られている広い部屋を中心にして，家族生活が営まれている。この部分はいわばリビング・ダイニング・キッチン（L・D・K）の機能をもっており，江戸時代民家に共通して存在する空間であり，北側でも南側でも，この点は同様である。しかし，オイエあるいはダイドコロと他の部屋との関係，その他の特徴によって北側，南側の民家にいくつかのタイプが認められる。いま仮に北側を越前型，南側を若狭型として，その概略をしるそう。

〔**越前Ⅰ型**〕平入で，棟通りより後側に部屋を横にならべ，前側に土間・台所・馬屋などをとる。南越に分布する。武生市などではツノヤの発達が著しく，変型が生じている。

〔**越前II型**〕多くは妻入である。前方に土間・台所・馬屋などの部分をとり，後方に部屋を2列にならべる。越前平野から大野盆地に分布し，やはりツノヤが発達している。

〔**越前III型**〕妻入で，Ⅱ型と似ているが，土間と台所とをひとつの空間とせず，構造的に区分している。越前北部に分布する。

このほか奥越の美濃境に以上と異なったタイプがあるが説明を省略する。

〔**若狭Ⅰ型**〕平入で，棟通りより後側に部屋，前側に土間をとることは越前Ⅰ型と同様であるが，前側が台所・土間・馬屋（あるいは物置など）の3部分，後側が寝間と2室の座敷からなって定型化している。小規模なものは馬屋と座敷1室が省略される。小浜より敦賀市にわたって分布する。

〔**若狭Ⅱ型**〕妻入で，棟通りで左右にわかれ，片間に土間・台所・寝間，もう一方に馬屋と2室の座敷をとる。小屋組は棟束・タルキ構造で，これまでのものがサス組であるのと異なっている。

ふたたび越前型と若狭型を比較してみると，若狭Ⅰ型・Ⅱ型とも規模の大小の差があまりなく，間取りの内容にも大きな違いがなく，安定した型となっているのに，越前型では規模の大小に著しい差があり，したがって同じ型のなかでも間取りの変化が豊富である。

つぎに柱間寸法についてみると，若狭Ⅱ型では京間の畳（6.3尺×3.15尺）を入れるように内法制で計画されているのに対し，越前の各型では中京間の畳（6尺×3尺）で計画されている。このことは越前型のすべてにいえることでなく座敷部分についてであり，畳が入らない部分は柱間心々制で計画され，1間が6.25尺となる。ところによっては6尺となることもあって，かならずしも一定していない。

各型の分布状況の県内の概略はすでに記したが，周辺の地域にも目をむけると，若狭Ⅰ型は南側の琵琶湖の北部に分布し，Ⅱ型は京都北部に広く分布している。そして，これらの型は若狭が中心として分布するのではなく，むしろ湖北や京都のものが若狭におよんでいるとみることができよう。京間の畳割などはこのことを示している。若狭型に対し越前Ⅰ型・Ⅱ型は分布範囲が他におよばず，ここ独特な型とみることができる。越前Ⅲ型と同じ型のものは湖北の若狭Ⅰ型の東に接して分布し，さらに尾張地方にもあり，また北方では石川県にも分布している。ただこの間の越前平野部では越前Ⅱ型に圧倒されており，比較的薄い分布を示している。

ところで福井県の民家として特徴ある越前型について若干みておこう。真宗の勢力が強い北陸地方では，住いにもこの影響があらわれている。仏壇は大きく立派であって，もっとも格式の高い座敷にかまえられる。そして坊さんのために仏間の裏手などに休息間を設けることが行なわれる。小規模な古い家では部屋1室を囲うのみであるが，最初に部屋として出現するのが仏間であることは注目すべき点である。今立郡池田町の例でみると，仏間に寝間を加えて2室となり，さらにトコノマのある座敷を加えていき，越前Ⅰ型の典型的な間取りである棟通りより後半に部屋を横にならべる型が成立する。越前Ⅱ型においても，オイエの奥の2室のうち1室は仏間であり，他の1室は穀物を収納する部分とするのが古い間取りらしい。仏間1室の間取りにおいて，ここが寝間としても使用されたであろうが，なによりも仏間が最初に成立するという例は他の地方ではみられない。若狭型では座敷にトコノマとならんで仏壇をかまえるのが普通である。

福井県では，江戸時代後半になって出現する複雑な間取の形成過程やツノヤの発生など問題は多いが，別の機会にゆずりたい。（**宮沢智士**

越前Ⅰ型の民家（今立郡今立町）



若狭Ⅰ型の民家（三方郡三方町）



滋賀県の民家

県下民家の分類　本県の民家を概観すると，南と北の違いを次の三点において指摘できるようである。

1. 平面を構成する構造方法　南では側間仕切線と上屋構造柱筋が一致し，北では上屋構造柱筋が内側（半間であるのが普通）に通る。
2. 入口形式　南はほとんど平入であるが，北に行くほど妻入が目立つ。
3. 間取り形式　南では整形四間取が一般的で，北では広間型が多くなる。

以上を地図の上においてみると，それぞれの組合せから五つのタイプが浮び出てくる。それを北からⅠ余吾型，Ⅱ大浦型，Ⅲ安曇型，Ⅳ湖東型，Ⅴ湖南型とし，それぞれの特質と相互の関係について述べてみよう。

Ⅰ余吾型　典型的な広間型平面を基本とする。土間と広間（ダイドコロ）は一つの空間からなり，梁，桁の各中央線で大梁を十文字に交叉させることにより，土間と広間境の棟下にくる柱を省いている。平面で入側柱をつないでいくと亀甲型になるのはこの型でも古い方の民家に見られる特徴であろう。分布域は伊香郡・東浅井郡・坂田郡の三郡にまたがり，長浜市を南限，西浅井村を西限とする琵琶湖東北部である。この型は本来妻入であるが，平入のものもあり，その傾向は南に行くほど著しいようである。

Ⅱ大浦型　伊香郡西浅井村から高島郡北部のマキノ町・今津町にかけて分布している。この型は平入で，間取りは梁間を前後に二分し，前側をニワ・ダイドコロ・マヤなどとし，奥側を一段高くしてザシキ・ネマをとるのである。構造の中心は前側にあり，奥側はつけ足し的な要素が濃い。奥側は元来下屋であったのが発達したものと仮定すると，本来の構造は余吾型とかなり似てくるのでないかと考えられる。しかしこの型の系統についてはなお研究の余地が多く残っている。

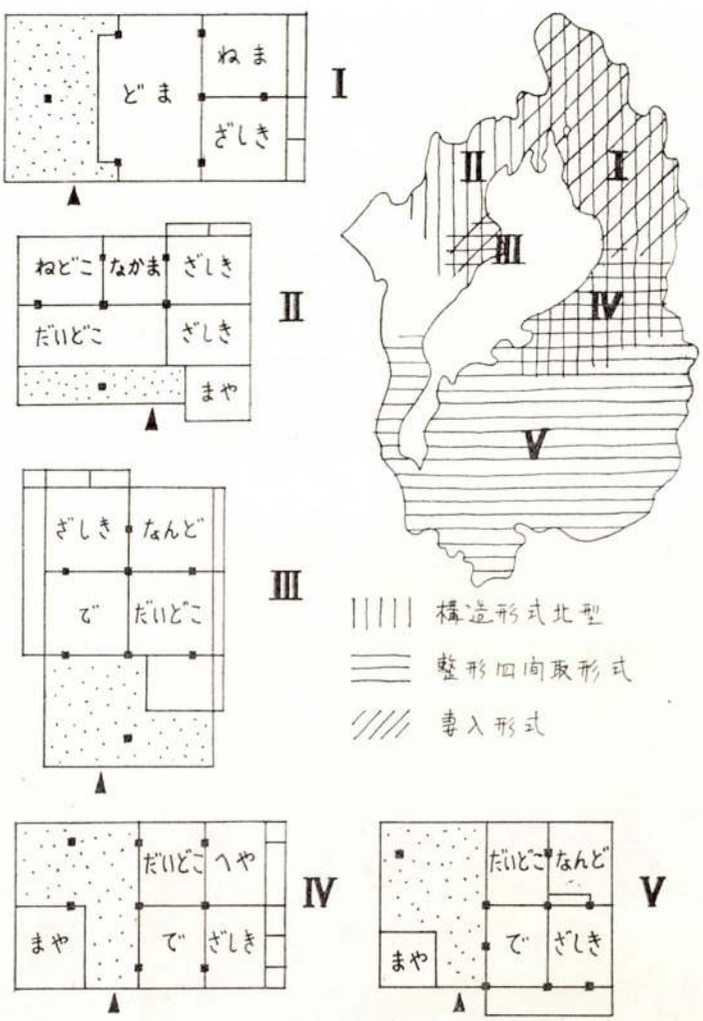
Ⅲ安曇型　高島郡南部の安曇川流域は，県下で最も調査されることの少ない地域である。したがってこの地域にどのような民家があるのか，まだよく分っていない。ただ安曇川河口附近の民家が多少知られただけである。それは妻入の整形四間取形式のもので，構造は余吾型によく似ているが，土間と居室部境の棟下に柱をたて明確に四間取であることを主張している点で決定的に異なっている。ただしこの型が余吾型から分化したと考えることは可能である。

Ⅳ湖東型　県の南半部の民家は平入整形四間取形式に統一されているが，構造的に見るとそれを二つに分けることができる。すなわち最初に述べた北型のものと南型のものとである。そしてここでいう湖東型とはその北型のものである。すなわちこの型は梁間を等分して居室を前後に配し，上屋柱を側間仕切より半間内側にたてるのである。この型は前の安曇型とともに，県北系と県南系との接点に生じた折衷形式といえる。

Ⅴ湖南型　この型を特徴づけるのはその構造形式である。この型では上屋梁を支承するのに4本の柱を用い，それによって梁間をほぼ三等分している。そしてその三分の二を表側ザシキ・デの部分とし，裏側三分の一をダイドコロ・ナンドとして四ツ間を構成している。もちろんこれでは裏側がせま過ぎるから下屋をとり込んでそれをカバーしている。同じ整形四間取でもその構成法が湖東型と全く異なるのである。この型は奈良県北東部，京都府南東部にも見出されるから明らかに畿内の系統に属している。

湖東型と湖南型の境界は明らかでないが，同じ神崎郡でも八日市の民家は湖東型であり，永源寺では湖南型になっているから，このあたりが両者の接点と考えてよいと思われる。

以上は昭和41年実施の緊急民家調査の結果を主体としてまとめたものである。調査員は川上貢を主任とし，以下中村昌生，西川幸治，室谷誠一，藤原勉，浜田五郎の諸氏および永井規男の7名である。なお本稿の内容については永井が責任を負う。　（永井規男）



滋賀県の民家類型

奈良県・和歌山県の民家

1

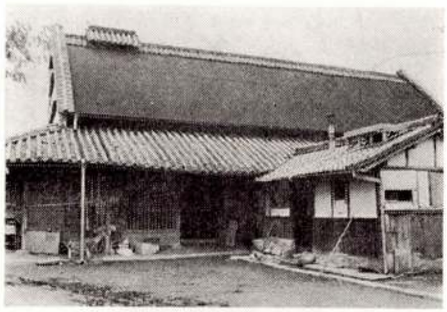
奈良県の民家については昭和41年度，緊急調査が行なわれた。調査は奈良国立文化財研究所と奈良県教育委員会の協同のもとに実施された。その成果は，本年度中に報告書として上梓される予定である。ここでは簡単にその調査の概要を報告しておく。

調査対象として第1次リストにあげられたものは353件にのぼった。そのうち192件が実査され，第2次分97件，第3次分16件が詳しい調査を受けた。ほかに既往の調査で利用しうるものがかなりあるので，それを加えると，第1次584件，第2次206件，第3次41件を調査したことになる。これはひとつの県の調査としてはかなり大規模な調査といえる。

奈良県の民家には，二つの面がある。ひとつは古式な平面をよく残すもの，他は時代の先端をゆくものである。まず古式な方からのべよう。奈良県では1室または2室のきわめて単純な平面がある。2室のようにみえても，背面は土間と若干の板間があるだけという場合もある。これにつづく平面は三間取である。西吉野村の西田家住宅のごときはその例で，立派な帳台構が残っている。年代もきわめて古い。

このような単純な平面は奈良県の南および東の山村地帯に広くみられるものであって，後述する和歌山県の場合とは若干の相違はあるが，基本的には同じものといえでるあろうから，近畿地方民家の成立過程を知る上に貴重な資料となる。

これにくらべ平野部においては，かなり古くから民家の発展がいちじるしく，大規模で発達した平面のものがみられる。たとえば，安堵村の中家住宅，御所の中村家住宅などは相当に古いものである。その平面をみると，すでにかなり発展しているが，突き止め溝がたくさん使用されていたり，敷居が高い所が多いことなどは，年代の古さを物語っている。やや小規模な例では橿原市の吉川家住宅（元禄16年）が四間取ながら，整型ではない。町屋については，五条市の栗山家住宅，今井町の今西家住宅など，すでに著名な例が知られている。



第1図　大和棟その1（森村家住宅）



第2図　大和棟その2（吉川家住宅）

次に構造であるが，奈良県の場合は茅葺の時は多くサス構造とする。垂木構造は南部を中心に限定されるようである。この点は和歌山県の場合と異なる。

屋根については，奈良県の場合，大和棟を忘れることはできまい。元来大和棟という名称は古いものではなく，かつ定義があいまいであるが，遺構からみると，二つのグループに分けられるようである。ひとつは切妻造茅葺の両端に，茅面よりやや高く瓦屋根を造り，多くの場合カマヤを大棟にとりこむものであり（第1図），他は両端の瓦屋根を茅面より少々低めるもので，たいていカマヤは落屋根となる（第2図），前者は古くから上層の家に一般的で「高塀造」の名がふさわしく，後者としては，吉川家住宅あたりが上限となる。以上のような分類はまだかたまったものではないが，将来研究が進めば，大和棟という語は，やがて考えなおさねばならぬ時が来るであろう。

2

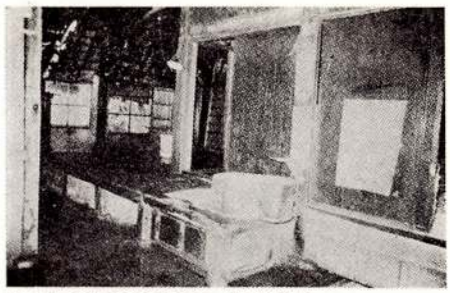
和歌山県の民家についても，昭和42年度，緊急調査が実施された。調査は奈良国立文化財研究所の手でおこなわれ，その成果は，「和歌山県の民家」（和歌山県文化財学術調査報告書第4冊）として公表された（現在配布中）。

和歌山県の場合は，市町村より報告されたものはたいてい第2次調査を行なった。その数は169件で，うち第3次調査をしたものは19件であった。和歌山県の場合は，既往の調査が数少ないので，この調査が組織的なものとしては最初のものであった。

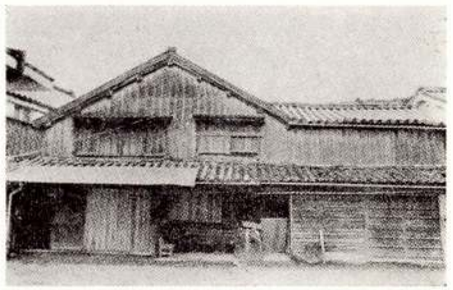
和歌山県の場合は，奈良県とちがって，年代の古い民家がきわめて乏しい。年紀のある例では，宝永3年(1707)がいちばん古く（増田鍾氏住宅），年代のはっきりしないものにも，これより古い形式をますものは発見されなかった。次に和歌山県では地域的な差がはなはだしい。もっとも発展しているのは紀ノ川流域であるが，南にゆくにしたがい川ひとつごとに様相がちがっている。年代も順次新しいものばかりとなってゆくし，平面も単純なものとなってくる。

まず平面からみると，有田川以南には，もっとも簡単な二間取がみられる。すなわち前面にいちばん広い部屋(デエ)をとり，背後に幅のせまい室を設けるのである。この背面室は土間に向かって開かれていて，ダイドコロであるが，上手の部分はネマともなる。場合によってはデエとダイドコロの境の間仕切もない。このように2室（あるいは1室）で，ネマが閉鎖的でないというのは，かなり珍しい平面といわざるをえない。

二間取が一段階進むと三間取になる（第3図）。すなわち背面のネマとダイドコロが分割されるわけである。かように，この三間取は普通の三間取（広間形）とは異なっている。ネマは一応は仕切られるが，帳台構式の入口はほとんどみられない。このことは，現存する遺構の年代が新しいためとも解されようが，しかし前記の二間取の傾向から考えるならば，帳台構が失なわれた，と考えるだでは十分ではない。和歌山県はその点かなり特殊な場所であるようである。次にダイドコロは土間に向かい開放となっていて，往々にして土間に張りだしができる。このことは，この地域の民家平面の大きな特徴である。



第3図　三間取のダイドコロ（谷村家住宅）



第4図　漁家（谷山家住宅）

三間取が進むと，四間取となる。つまりデエが二つに割れて，カミノマとシモノマに分かれるわけである。その場合シモノマを小さく，ダイドコロを広く(ネマを縮めて)したいので，しぜん梁行に通る間仕切はズレる。またダイドコロが土間に張り出すことは，前段階と同じである。かくしてできる四間取は，異形の喰違形となるのである。四間取となる時期は県北ほど古く，所によっては早くから整形四間取になるが，中部以南では江戸末にならないと四間取とはならない。以上が農家平面の発展の大筋である。

次に農家の屋根は，瓦葺も多いが，茅葺もたくさんある。茅屋根の構造は，梁の上に地棟をおき，棟束をたてて，これに垂木をかけわたすいわゆる垂木構造であって，サス構造はごく新しくなって入ってくるだけである。和歌山県においては農家のほかに町屋もあり，また漁家において，寛延2年(1749)の年号が発見されたことは貴重である（第4図）。町屋の平面は普通の通庭式であるが，南部にゆくと，農家と同様1室または2室という小規模な町屋または漁家がある。

以上のように，和歌山県の民家は，総体に新しい。しかし，その形式にはたいへん特異なものがあって，平面，構造とも注目される。たぶん，そこには近畿地方の中央部においてすでに失なわれてしまった古い手法が，温存されているのであろう。したがって，近畿地方民家について，その成立過程や，発展段階の比較などを行なう場合には，興味ある資料を提供すると考えられる。

（伊藤延男）

大阪府の民家

大阪府の民家は過去10年余にわたり高密度に調査されてきた。その結果17世紀に属する遺構もおおよそ20棟近く発見されるに至った。この数は全国的にみても驚くべきもので，民家の宝庫といえば山間僻地という観念を変えさせるに十分であった。

これらの調査結果，大阪府の北部能勢地方一帯には古くから「妻入縦割型」民家が分布し，中央平地部には東方奈良県一帯にかけて「四間取型」，さらに南部泉南地方から紀ノ川流域一帯にかけて「喰い違い三間取型」というそれぞれ異なる型の民家が分布していることが分ってきた。このうち四間取型と喰い違い型とは構造は全く同じで（年代による変化もない）かつ後者はいずれも後には四間取平面へ移行していることも分り，両者の間には著しい親近性が認められたのである。しかし両者とも妻入縦割型民家とは平面も構造も全く異質である。

四間取型の古い例に有名な**吉村家住宅**があり，また最近重文に指定された河内長野市の**山本信一家住宅**など17世紀の初めごろからの遺構が多い。それらは当初から差鴨居を用い，梁架構も単純である（梁は一重，その上に束または叉首組とし，二重梁は絶対に組まず，天井を張り小屋を見せぬ）。これらの変遷を辿ってみても平面，構造ともほとんどめぼしい変化を見せず，ただ納戸廻りが閉鎖性から開放的に向かうぐらいで，早くから四間取民家が完成されていた観があるのは大阪平野の民家の大きい特色といえる。

ところで喰い違い三間取型には四間取型よりも古い遺構があって，府下の四間取を考える上で重要な役割をなしているので，その一二を紹介してみたい。

奥ノブ子家住宅（重文・泉佐野市樫井）

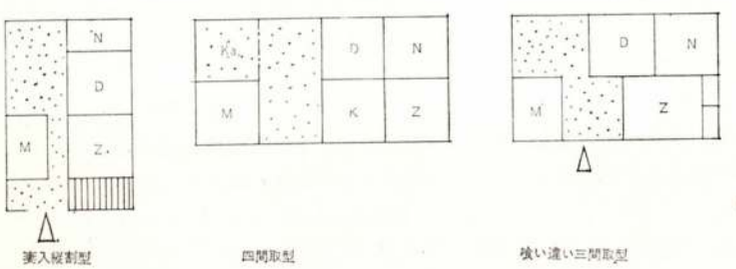
この家は中世の豪士の家柄で，系図によると慶長6年（1601）と元和2年（1616）の2回樫井へ帰住し，農家となっている。この家の建築年代も建物の古さから考えて，そのころには建っていたと推察できる。当家の規模は現状では甚だしく巨大であるが，古い部分は主屋のほぼ中央，全体の約三分の一ほどである。この部分の柱はすべて太く，差物も野材の下端を捉えた程度の粗い材を用い，また開口部分の柱も多く用いられていてまことに古風な構えである。

特に注目すべきは平面で，当初は表裏の居室が互に喰い違っていて，そのために中央棟下列の柱が原則として1間ごとに並び，ダイドコが1間土間方へ突出することになる。この家は豪士の大きい住宅であるために表のザシキは2室とられるが，この型の中型のものは，表は1室で，喰い違い三間となり，この型が基本となっていると考えられる（例・上野伏家住宅など）。ところで奥家住宅よりもさらに古い遺構はどうなっているのであろうか。幸いに私が奈良県西吉野村で発見した**西田敏一家住宅**はこの疑問に答えてくれた。図のように西田家住宅は奥家住宅などと一連の平面構成をもっているが，居室表裏の閉鎖性は一層強く，納戸の一つもザシキに向かって設け，千年家のような構えをとり，また土間とザシキ間も土壁で閉ざしていたのである。しかし構造は単純で，しかも表裏に居室を割る方式をとるのは畿内の四間取型と共通しており，もしもこれが畿内の四間取り民家の祖形の一つとすれば今後の民家研究に大きな意義をもつものであろう。

（参考文献は巻末参照のこと）

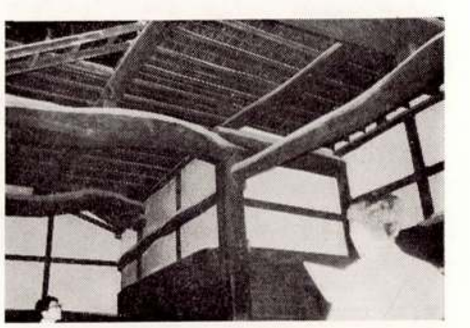
（林野全孝）



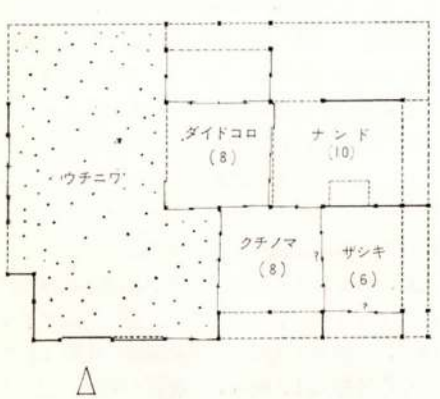


大阪府の民家型別説明図
（N：ナンド，D：ダイドコ，Z：ザシキ，K．クチノマ，Ka：カマヤ，M：マヤ）

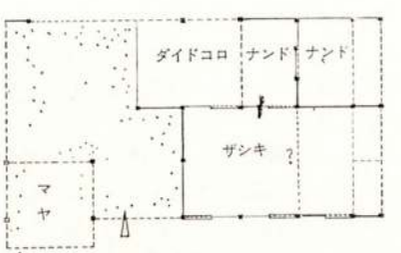




写真上：奥家住宅主屋外観
中：奥家住宅ダイドコロ突出部分と土間架構
下：上野伏家住宅土間部分



奥ノブ子家住宅復原平面図



西田敏一家住宅復原平面図



兵庫県の民家

兵庫県は但馬・播磨・淡路の3国と丹波・摂津の西半を含む広い地域を占めている。特に中央に横たわる中国山脈によって分けられる山陰と山陽では，気候・風土はもとより，生活・文化・言葉などいろいろな面で大きな違いをもっている。民家もその例にもれず，それぞれの地域でその系譜を異にしているようである。以下ごく簡単にその概要をのべることにする。

但馬地方

この地方の民家で，確実に江戸時代前期である民家は今のところ知らない。先年とりこわされた竹中四郎旧宅(城崎郡竹野町林)は江戸前期と伝えられるもので，広間型の3間取の古いものであった。中期のものでは，庄屋層のものとしては北村末治邸(城崎郡日高町東河内)がある。広間型の3間取で，オモテとナンドの間は土壁で間仕切られ，正面にはヌレ縁があって，前期の傾向をそのまま踏襲しているようである。小作層の代表的なものとしては柴垣勘一郎邸（朝来郡山東町柊木）や田村茂邸（朝来郡生野町上生野）などがこの時期のものだが，やはり広間型の3間取で，庄屋層のそれと比較して，規模が小さくなっているにすぎない。

ところで，江戸時代後期から明治初年にかけて，この地方の民家は大きな変化をみせる。養蚕家屋の出現とその普及がそれで，広間型の3間取の小屋組を大きくし，軒を高くし，小屋裏を利用して蚕をかうようにした。西村強邸(養父郡関宮町葛畑)や小谷正雄邸（城崎郡香住町三川）などがそれである。さらに文化以後になるとその系譜のなかで2階屋が出現する。石田利勝邸(養父郡養父町養父市場)や長島健一邸（同町小城）などがその代表的なもので，4間取を基本型としている(**写真1**)。また3階の建築もあらわれる。この形式は養父郡を中心に但馬一円に広く分布していったが，基本の平面は，やはり広間型の3間取であった。松本梅平邸(朝来郡山東町与布土）や対中亮邸(美方郡村岡町丸味)などがその例である。一方養蚕家屋でない系統の民家では，上層では4間取から6間取への発展がみられた。今井敏郎邸などがそれである。しかし小作層の民家で4間取が一般化するのは他と比べておそく，江戸末から明治へかけてである。

播磨地方

播磨の民家は古井徳次邸（皆河千年家）と永富ゆきゑ邸の2棟の文化財が象徴している。日本の最も古い民家の一つである千年家の2間取の平面や，桁行の柱通の1間ごとの柱配置，細い梁と束立とサス併用の小屋組や，さりげない外観などが，永富家でみられる12間取を基本とした大規模な平面，複雑で巨大な構造や美しくほこらしげな外観，広大な敷地に所せましと建並んだ附属の建物にまで展開してきたなかに，この地方の民家の系譜は位置づけられる。また技術的にも先進性があるようである。

古井邸の技術は，江戸時代前期まで一部は継承される。内藤卓邸(加西市泉町満久)は平面は田字形式の背面に1間の広庇をつけていて，縦割6間取の原形ともいうべき構成にまで進んではいるが，外廻りの1間ごとの柱割や束とサス併用の点は千年家のそれである。また梅沢義一邸もナンドが2分され，身舎が5間取になってはいるが，部屋境にも柱を建てるなど，中世の技術を残しながら平面の拡大の方向がみられる。

江戸中期の建築は，揖保川以東と千種川流域とで異なった発展をとげる。東側の地方では庄屋層の家で土間に沿って3室ならぶ縦割の6間取が成立し一般化していった。城戸正光邸（加古川市平岡）本岡篤信邸（同八幡下村）などが代表的なものである。

一方千種川流域では，横割の6間取が成立しつつあった。今はない尾崎五六旧宅（佐用郡佐用町淀）がそれで(**写真2**)，正面に2間，背面に3間並ぶ5間取であった。この形式は隣の美作地方のものと共通点があるが，千年家の牛梁下の間仕切を牛梁をなくしても残したものと考えられる。

また小作層の民家でもすでに4間取が成立していた。志水武夫旧宅（宍粟郡安富町三坂）や岸本貞市邸（同千種町黒土）などがその例である。また中国山脈の南山腹では山陰との交通路沿いには但馬と同じ広間型の3間取もみられる。山名誠一邸（神崎郡大河内町川上）岸元二六邸（宍粟郡波賀町上野）などがあげられる。

江戸後期の民家は規模が拡大していく。縦割型式のものは6間取からさらに9間取へと部屋数を増してくる。加古川附近は別棟を建築することでそれを解決するが，他では清野国広邸(姫路市妻鹿）は2間加えた8間取であるし，八瀬正秋邸（竜野市揖西）は3間増した9間取としている。

横割型式でも拡大される。横山匠邸（赤穂郡上郡町苔縄）は7間取であるし，石堂宗本邸(佐用郡上月町）は2間加えて8間を完成させている。

このような縦割，横割の最大限の平面を合成したような平面が，両者の接点である揖保川流域で完成する。永富家がそれで，縦3間横4間の12間取である。堀真一邸（竜野市日飼）でも増築を行なって，これと同じ平面を完成している。平面構成のみならず，建築技術の上でも，この12間取は播磨の民家の終着点であった。

一方小作層では，中期に完成した4間の継承であったが，広間型の地方で，くい違4間取が成立した。菅野隆三郎邸（宍粟郡波賀町斉木）などにその例がある。

淡路地方

この地方は江戸時代には阿波藩の城代稲田家に支配されていて，文化的にも四国との関係が深かったためもあって，民家の系統は山陽とは異なっている。ただ古い民家がほとんど残っていないので江戸前期以前のことは確かでない。柳沢誠司邸（津名郡五色町鳥飼上）は江戸中期と思われるが，不整形の5間取で，桁行，梁間方向とも部屋さかいに1間ごとに柱を建てている。同じ上層部の建物でも後期の中野篤一郎邸(洲本市中川原町安坂）では6間取となっていて，梁間方向の1間ごとの柱はない。また山添肇邸（同市原）は不整形の7間に発展している（**写真3**）。

これに対して小作層は規模が小さいくい違4間取が一般である。なお南岸の土生(ハエ)を中心とした地方は形式がちがっていて，通庭でないくい違4間取で，部屋の呼称もコザ（入口横）オマ（台所）ヒドコ（かまど）などと中北淡と違っている。原田守邸（三原郡南淡町灘土生）などがその例である。

摂津と丹波地方

両地方とも大阪，京都などで述べられるのでごく簡単にふれておく。

摂津や丹波の民家は古くは能勢型といわれる妻入民家が多かったようで，その分布は六甲山北麓から丹波にまで及んでいる。しかし最も古い民家である箱木勇家（衝原千年家一神戸市兵庫区山田町衝原）が平入である点問題が残っている。しかし箱木家は加古川の上流にあたり，文化的にも播磨とつながりがあったから，摂津の一般的傾向と異なっていても不思議でないのかもしれない。妻入民家はその構成上桁行方向への増築がむずかしいので，江戸中期以後に上層の民家では中門造が考案されて普及していく。

しかし妻入民家でも波部光茂邸（多紀郡城東町日置）のように6間取の大きな平面が建てられることもあった。しかし妻入は，播磨と接する地方では手入に移行していく傾向があるし，但馬の近くでは，広間型や養蚕家屋が多い。妻入民家はその構成のゆえに建替えられる運命にあるようである。

以上は兵庫の民家の系譜についての概要であるが，兵庫県は地理的条件や歴史の古さ，さらに数や質の高さなど，民家研究上重要な位置をしめているといえよう。（多淵敏樹）

写真1　但馬の2階建養蚕家屋　岩浅満子邸



写真2　横割5間取の尾崎五六旧宅



写真3　淡路の7間取の民家　山添肇邸



岡山県の民家

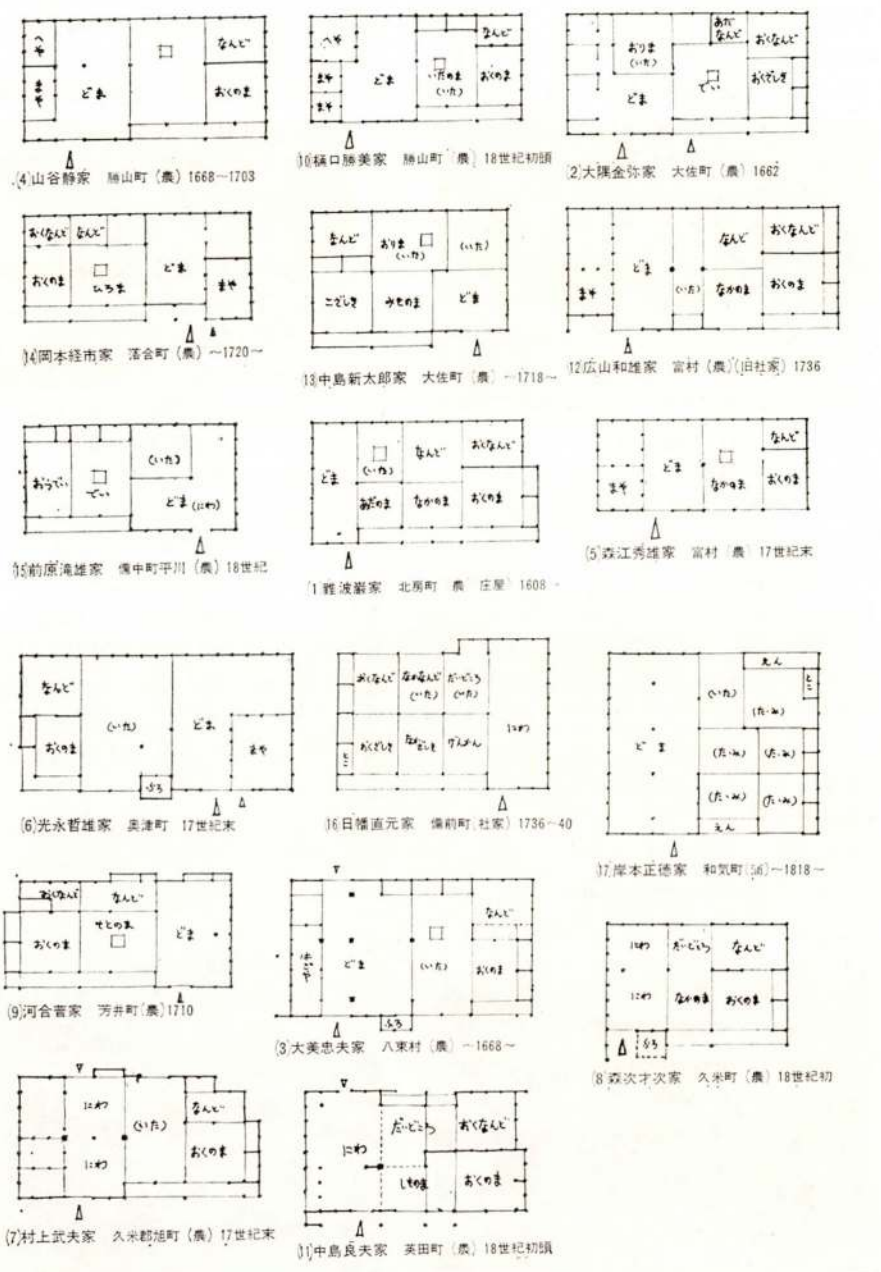
緊急調査によって一応選択された家屋はいろいろの種類の民家で，その数は344戸にもおよび，これらは土井卓治，吉井淳，佐藤米司，友田辰正，加原耕作，湧田森徳，鶴藤鹿忠，中西忠彦，巌津政右衛門，原田孝行，三浦秀宥，長尾斉（敬称略），のご協力により二次にわたり調査が行なわれた。そうしてそのうちから66戸を選び，再調査を行なうこととした。しかし期間その他の関係からその50%程度を復原的に調査した。ここにこれらの概要を僅かではあるが標準的なものを選んで岡山県の民家の紹介をしよう。

岡山方面の農家は現在の外観上はいわゆる田の字平面とかそれの喰い違った間取を主にしたものと思われ，また改造されて室数も多くされつつ，そのようになっているようだが，これらを復原的に平面をとってみるとおよそ附図のようなものになってしまう。そうしてここにあげた例を見ても解るように，古いものほど広間型が多くなる。ただ河合家，岡本家あるいは前原家のように北庇が幅せまい納戸になるものや，全く納戸を欠く型のものが広島県境近くに見られ，県の南部および東部に行くほど土間(にわ)が狭いものになる。しかも，納戸が壁で閉さ的になっているものほど古式をのこしていることはいうまでもない。また島根県境近くなるにつれ，どまの奥が板床(おりま)になってくるようになる。日幡，岸本の二軒は農家ではないが，町家と関連しつつ4間取に連なる例としてあげておく。紙数の関係から充分の説明は出来ないが，ご協力下さった多くの方々に謝意を表して筆をおく。

（佐藤重夫）

一　覧　表

	氏名	種別	所在地	年代	柱	屋根	屋	土台	納戸	間取	特徴
1	難波	農(庄)	北房町	1608	オノ，鉋	入，草	又，折	無	閉さ型	4間取型	年代はいい伝え，小舞は竹と雑木
2	大隅	農	大佐町	1662	オノ，鉋	入，草	又，折	無	開放	変形広間	おりまあり
3	大美	農	八束村	～1668～	オノ	入，草	又，折	無	閉さ型	広間型	殆んど改造なし
4	山谷	農	勝山町	17C末	オノ，鉋	入，草	又，折	無	閉さ型	広間型	歴代庄屋
5	森江	農	富村	17C末	オノ	入，草	又，折	無	閉さ型	広間型	
6	光永	農	奥津町	17C末	オノ，鉋	入，草	又，折	無	開放	広間型	
7	村上	農	旭町	17C末	オノ	入，草	又，折	無	開放	広間型	
8	森次	農	久米町	18C初	鉋，オノ	入，草	又，折	一部有	開放	広間型	
9	河合	農	芳井町	18C初	オノ，鉋	寄，草	又，折	無	開放	3間取北庇付	上層農の代表
10	樋口	農	勝山町	18C初	オノ，鉋	寄，草	又，折	無	閉さ型	3間取	
11	中島良夫	農	英田町	18C初	オノ	切，柿	和	無	閉さ型		現在瓦葺
12	広山	農(社)	富村	18C	鉋，オノ	入，草	又，折	無	閉さ型	くいちがい型	32cm八角柱あり
13	中島新太郎	農	大佐町	18C	鉋，オノ	入，草	又，折	無	閉さ型	4間取	
14	岡本	農	落合町	18C	オノ	入，草	又，折	無	開放	3間取北庇付	
15	前原	農	備中町	18C	オノ	入，草	又，折	無	なし	3間取北庇付	おりまあり
16	日幡	社家	備前町	18C	鉋	入，瓦	種，和	有	開放	6間取	
17	岸本	商	和気町	19C初	鉋	入，瓦	種，和	有	なし	町家型	船持の商家で造酒業もした



島根県の民家

島根県下の民家に見られる間取の類型

島根県は出雲と石見の二カ国のほか隠岐島をも含み，それぞれに民家形式にも相当な相違が見られる。歴史的な条件はもちろん地理的な条件にも大きな相違があり，それらが生活条件に集約され，生活慣行の相違となり，それぞれに異なった民家類型となって，伝承されてきたものといえよう。基本的な生活条件の相違は，端的に生活の型に投影して，まずは，間取形式の違いになって表われる。ただ，出雲と石見の相違というよりは，江川以東と以西の間取形式の違いには，明治5年の浜田地震の影響による古い形式を伝える遺構の多少にも関係し，経年上の格差も考慮の要があろう。

仁多，飯石の両郡には，屋内の半分が土間で，またその半分が庭になっている形式が多い。このような間取類型は，大原郡の一部に内庭を持たない例外はあるが，出雲地方に一般的なものといえる。また，上手の床上部分は<図1><写真1>の今度，重文に指定された堀江家のように「おもて」・納戸・広間の三間取か，三間取に復原される形式が卓越している。そのほか，石見地方との対比的特徴としては，「おもて」と納戸（「へや」ともいう）の境が壁で仕切られ，納戸の方に入り込んで，平床（ひらどこ）と仏壇が設けられている。このような広間型三間取の形式も，江戸末期から広間部分が前後に仕切られ四間取形式が一般化してくるとともに，多様な間取変化ができてくるのである。

石見地方の間取形式は四間取で，土間部分が狭く，内庭のないのが一般的である。<図2>のように四間取の場合，桁方向の間仕切が出雲地方とは反対に裏側にずれている。したがって，台所部分は狭くなり，おもての間は広くなって，上手に「ながれ五畳」と称する梁行に細長い部屋のある形式，またはそのような形式に復原される例が多い。また，床の間は上手の妻側にあって，出雲地方の平床と対比的な相違になっている。

隠岐では<図3>に見られるように，土間部分の奥に板の間が張り出し，座敷はかぎのてに裏側に位置している。隠岐でも，島前は島後と異なり，出雲地方と同じ平床が多い。なお，古い家構には表側上手などに縁側は見られず，この部分の開口部は<写真3>のように竪格子が入り，肘掛窓の形式になっている。

構造的には，出雲と石見とで，梁方向の部屋境の柱の位置に多少の相違が見られる。そのほかには基本的な相違は見られない。古くは梁行の間仕切ごとに，側，入側，棟通の5列に柱をならべ，指鴨居と陸梁でつなぎ，それを棟通，入側通の3列に渡した桁行梁で固める。部屋や土間の中間では，入側柱を抜くため，側柱から棟通梁に登梁を架け，入側通の桁行梁を支える。時代が下ると，棟通の柱あるいは前後の間仕切境の柱から側柱に成の高い指物を入れて，入側柱を切り，束で代用するようになる。桁行梁を棟通と入側通の中間にも通すようになり，次第に天井が高くなる。　（白木小三郎）

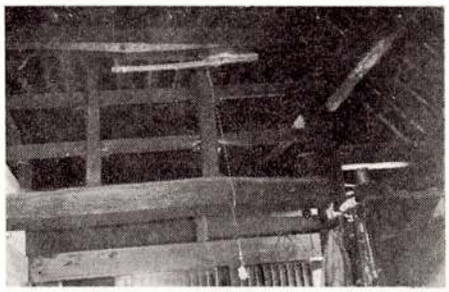


写真1　飯吉郡吉田村，堀江家
繁梁と小屋梁との間の架構

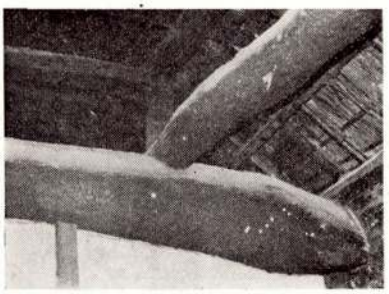


写真2　美濃郡美都町，梅津家
陸梁と入側通りの桁行梁。その上の小屋組



写真3　隠岐島後周吉郡西郷町，佐々木家東側・正面
右が上手で引込み部分が表玄関。竪格子の部分が肘掛窓に当る

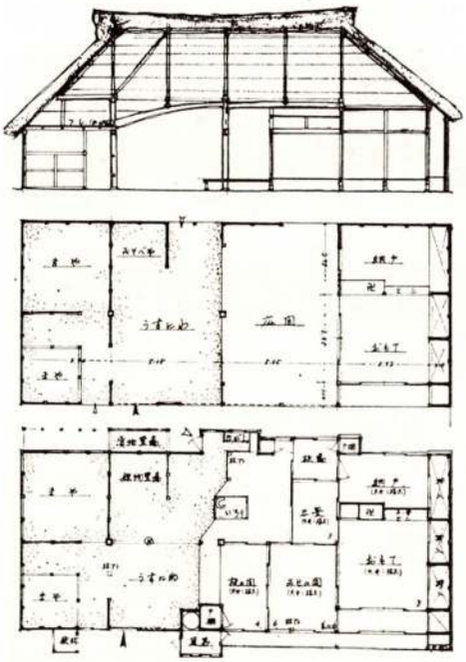


図1　飯石郡吉田村，堀江家
江戸中期の建築で約270年経ったもの
上：桁行断面（土間〜上手おもて）
中：復原平面　　下：現況平面

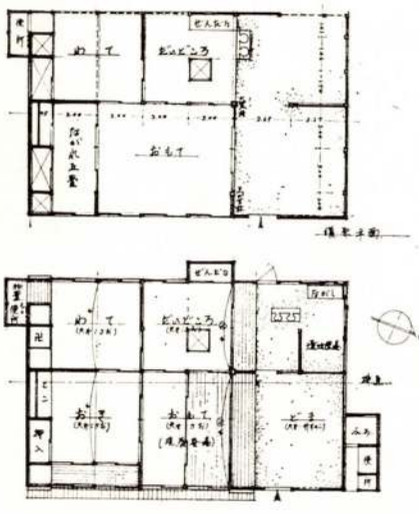


図2　美濃郡美都町，梅津家
上：復原平面
下：現況平面

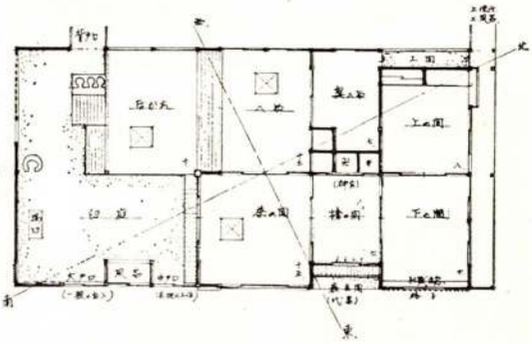


図3　隠岐島後周吉郡西郷町，佐々木家
寛政の家相図をもとにした復原平面

愛媛県の民家

愛媛県の民家は復原調査を通じて大別すると,「三間取型」と「一列並型」の二系列が主流となって分布していると考えられる。前者は土間沿い2室（裏をナンドとする）とその奥に1室の3室住居を基本とし，後者は土間沿い1室その奥1室の横に長い型を基調とするもので，不思議なことにナンドをもたない。ここでは両形式のうち今まで発見された最も古く，かつ保存状態のよい例を一つづつあげて説明したい。

真鍋広一家住宅（川之江市金生町）

この家は15代前に建てられたと伝えられ，天正から寛文に至る検地関係文書もあって由緒ある家柄である。間取は三間取型で，ナカノマは台所兼居間，オクは甚だ閉鎖的な寝室で，奥のザシキの表庇を縁，裏庇に仏壇と物入をおく。この種の三室住居は最近各地で，しかも古い遺構に多く見出されてきており，民家の原流を考えるためには重要な意義をもってきている。

外廻りのうち表以外はすべて大壁で閉ざし，表側ですら柱を多く配して壁を作り開口面積は極めて少ない。部材も柱に至るまで野材を多く用い，一見して古風なことが知れる。先年祖谷口で発見した元禄の棟札のある引地信明という家もこの家と類似しているが，真鍋家の方がより一層古風である。そうするとこの家は17世紀前半を降らない頃の貴重な遺構といえる。

毛利等家住宅（北宇和郡三間町）

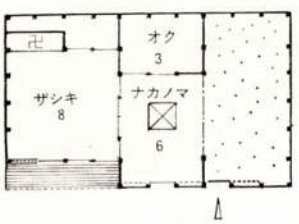
この家は主屋の奥から表に別座敷を角屋で設けた大きい構えである。家系によると宝暦3年（1753年）に当地へ移住したときに建てたことが明らかで，建築年代の分る点からも貴重である。平面は広い土間（現在は細分されている）と土間に接して18畳という巨大なヒロマを1室設け，その奥に裏よりナンド，ニノマ，ザシキと表方へ続くが，中間のニノマはヒロマからザシキへの通路ともなるので，主屋と角屋の両方にまたがって作られることとなるが，もしも角屋ザシキのない場合にはヒロマの奥は1室で終っていたと考えられ，現にそのような遺構も多数存しているのである。

この巨大なるヒロマはもとは村の寄合などに用いられた会所的役割をなすもので，当地方の庄屋層の家には応々に見られるのである。しかし現在ではあまりに広すぎるために，いずれの家も幾つもに分割されてしまった。このような平面は広間型と混同しがちであるが，基本的に異なる。

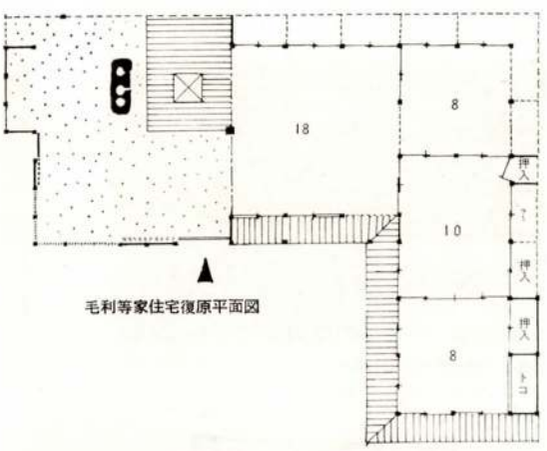
なお愛媛県には古い広間型の遺構は皆無で，19世紀になってやっと，しかも前記「三間取型」からも後記の「一列並型」からも派生して生ずることが分った（巻末文献目録）。

このように当県には「三間取型」と「一列並型」の二系列が早くから分布し，特に前者は県の北半，後者は南半に多く，中央では両型が混在していると考えられる。　（林野全孝）





真鍋広一家住宅復原平面図



毛利等家住宅復原平面図



◀真鍋家住宅外観

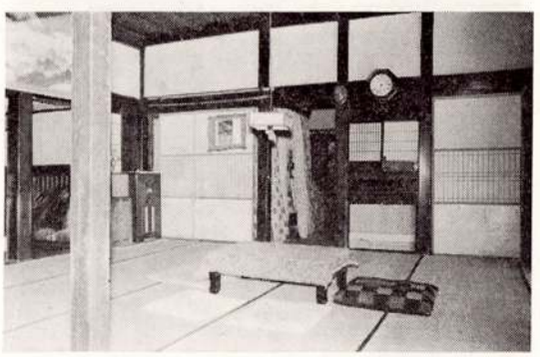


毛利家住宅外観▶



◀真鍋家住宅居室部分

毛利家住宅ヒロマ▶



長崎県・熊本県の民家

長崎県の民家

平面および構造の特色によって対馬・五島列島（壱岐を含む）・本土と3ブロックに大別することができる。

(1) 対馬地域（**第1，2，3図**） 家の半分を台所とし，その隅 1～1.5間を切り下げて土間（ドウジ）を設け，残りの半分に座敷と納戸を前後に配した三間取形式をとる。この基本形式は給人（郷侍），農民，漁民の家とも共通し，その後台所をドウジ境で前後に二分し，さらに座敷も前後に分割する形式が完成する。この場合でも台所は2.5間に2.5～3間程度で平均し，土間も 1～1.5間四方と狭いのが一般で，他地方のごとき広い土間を取る例は有力給人，有力農民の一部で見られるにすぎない。この地域特異の形式としては台所の表側を除く三方の柱に見付25～30cmの偏平柱が使われていることがあげられる。これはこの地域に見られる高床式で板石で葺く小屋の構造と共通するものである。また台所と納戸座敷境には三尺間と呼ぶ押板様の飾りを設ける点も県下の他地域には見られない。

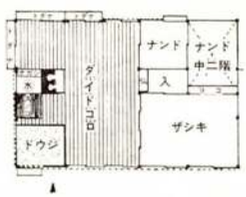
(2) 五島列島地域（**第4図**） 農家の間取りは，土間に接して梁行全体にわたる広間（オモテ・アダ）を取り，奥に納戸と座敷を配するいわゆる広間形三間取である。土間の妻側には1間幅の棚のない庇が設けられる（内庇の形式はこの地域のみ）。広間の背面に幅の狭い部屋（ナイショ 炊事場の一部として使用）が設けられるようになり，これが拡大されて四間取に発展する。この形式は武家も漁家も同様で，ただ漁家では土間が狭くなるのと，武家ではナイショとアダを前後に入れかえたにすぎず基本的には変わるところがない。この地特有の特色としては，指物に2～3間の長大なものを用い，間に立つ柱と相欠に仕口し，軸部を固めている点である。

(3) 本土地域（**第5図**） 広間型三間取形式から広間を中央で分割した四間取に移行する。第5図は県下最古の遺構で，広間（オウエ）表側の格子窓や土間広間境では梁行を三分して柱を立て，中央を壁で閉ざすなどきわめて閉鎖的で古風な形式が見られる。その後，この壁は縮少され，棟通りに柱を立てる形式となり，この柱を利用して前後に分割する四間取へ発展する。またこの地域には曲家が分布するが，島原半島以北では座敷を角にしたL型の家が上位の家にのみ散見されるのに対し，島原半島，特に東海岸地域には集中的にL型コ型T型などの曲家が見出される。これらは佐賀県の曲家の影響によるものである。

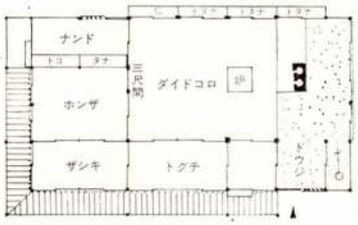
熊本県の民家

平面および構造によって分類すると，(1)平入三間取形式，(2)妻入縦割形式，(3)妻入縦割別棟形式，(4)平入並列形式，(5)曲家形式に大別される。(1)は**第6図**のごとき形式で，以後広間の背面に狭い部屋を造り，それが拡大して四間取に発展するもので，阿蘇山麓一帯に分布する。この発展形態は長崎県五島列島のものと共通した方式を示している。(2)は**第7図**のごとき平面で，東北部の街道筋に散見するにすぎない。(3)は(2)と同様な縦割平面を取るが，土間と室はそれぞれ独立した構造を取り，軒を接して並列し，いずれも梁間2間を越えることがない。**第8図**は土間1棟，室2棟を並列させた形式のものである。これらは県下で最も特色ある民家形式で，中央平地部から西北部地域にかけて広く分布する。(4)は横に一列に室を配する形式で東南山間部に分布し，奈良県十津川などの山間部に共通の間取り形式である。(5)は南部人吉市を中心とする地域に分布し，L型コ型T型などの形式を取る。

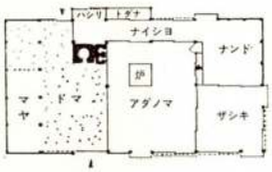
この地域は北部の別棟型と，鹿児島県の別棟型との間に位置するが，別棟形式は見出されず，土間あるいは座敷が取りついて鍵手に曲るといった形式で，むしろ南部山間部の並列形式との類似性が強く感じられる（**第9図**）。以上のごとく，両県下ともそれぞれ異なった民家形式が混在しており，それらの関係を解明することは民家の系統をを明らかにする上で重要な課題の一つだといえる。 **（青山賢信）**



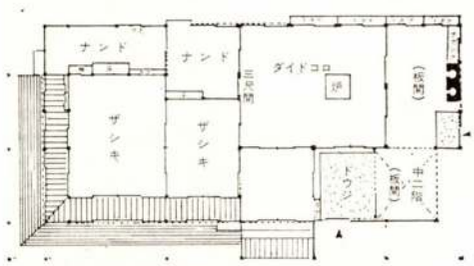
第1図 宮原幸蔵家18～19世紀
上県郡上対馬町



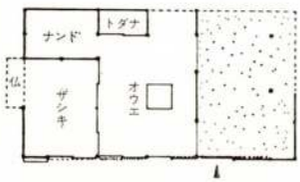
第2図 主藤長太郎家19世紀（重文）
下県郡厳原町



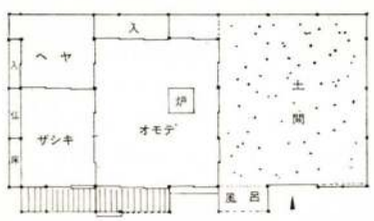
第4図 森脇卯喜家18世紀
福江市



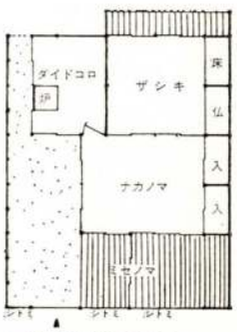
第3図 島居伝家18世紀（重文）
上県郡峰村



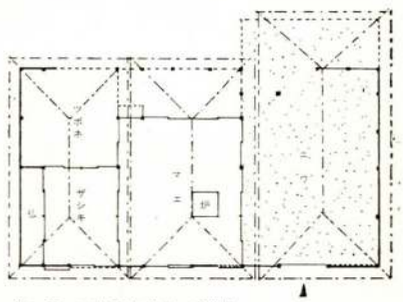
第5図 本田広衛家17～18世紀（重文）
長崎市



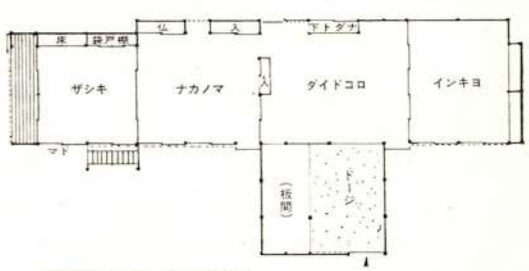
第6図 山本重信家19世紀
阿蘇郡阿蘇町



第7図 奈須隆家19世紀
阿蘇郡阿蘇町



第8図 田中賢次家18～19世紀
上益城郡矢部町



第9図 上淵一人家19世紀初
球磨郡上村

3 民家の修理復原

民家の修理復原

1. 民家の保存と指定

戦前に重要文化財に指定された民家は大阪府吉村家住宅と京都市小川家住宅（二条陣屋）の2件であったが，後者は特殊な町家なので，実際には1件だけに過ぎなかった。戦後も昭和38年頃までは指定民家の数はごく少なかった。それは古社寺建築などと同様に指定申請のあったものや，書院建築的にみて特に意匠の秀れている住宅―それらはすべて地方の有力名家である―を指定対象としたからで，わずかに飛騨白川郷などダム水没のため文化財保護委員会が緊急調査を行なったものが，それにプラスされる程度であった。この間の指定件数は18件，その例は以下のごとくであって，民家指定の基準がどこにあったかが窺えよう。(例―新潟県の笹川家，渡辺家，山梨の高野家，静岡の江川家，滋賀の大角家，大阪の降井家書院，奈良の今西家，宮崎の那須家など，なお白川家・五箇山地方では矢篦原・大戸・岩瀬・村上など5件）。

学界の民家研究も戦後ようやく盛んになったが，同時に昭和30年代に入っての生活環境の急速な発展が，非常なテンポで古民家の改築や消滅をうながし，古民家保存の必要性が強く叫ばれ始めた。しかし住宅史の一部として民家の研究調査を発足させたばかりの学界では，比較的狭い地域での実証的な調査がやっと軌道にのった程度で，一府県または一地方のうちでどれが代表的民家であり，またその中から何を保存すべきかという展望にまでは達していない恨みがあった。保存の必要性のみは明確であっても，さて実際に民家を指定しようとすると，地方名家に限られてくる事情も，前記のごとき結果をもたらしている。そこで指定保存を目的とした緊急調査が計画され，昭和37年からようやく文化財保護委員会にその予算が認められた。始め4年ほどは金額も少なく，調査対象も1県づつに限られていたが，これでは貴重な民家がこわされてゆく速度にとても間に合わないため，昭和41年度からは毎年5府県づつに補助金を交附して，緊急調査を実施するよう改めた。

そしてその成果をできるだけ早く指定措置にまでもちこみ，重要民家の消滅をくいとめるように進んできたのである。緊急調査を実施した府県は41年度は茨城，栃木，滋賀，兵庫，奈良，42年度は千葉，和歌山，島根，岡山，長崎，43年度は山形，群馬，福井，愛媛，福岡の各5県宛で，本年度は福島，埼玉，富山，岐阜，香川の各県を行なっている。このうち41年，42年実施済みの各県については既に3～10件づつ民家を新しく国の重要文化財に指定し，43年度のものは今その準備を進めている。その結果38年以降現在までに指定された民家は73件となり，44年9月現在の指定民家は計93件167棟となった。(主屋だけでなく門長屋，蔵などの附属屋も1件のうちで指定しているので，棟数は多い）。緊急調査はやっと半ばに達したところで，指定はまだその一部まで措置しただけにすぎず，今後数年は毎年20～30件程度の新規指定が続けられる予定であるから，緊急調査一巡の段階では指定民家の件数は250件前後に達することが予想されている。これは現在の建造物指定総数1587件2454棟からみて，そのなかでかなりのウエイトを占めるものといえよう。

2. 民家の修理と復原

民家の指定数がこのように急速に増加するのに併行して，その修理も近年急にふえてきた。ここ3～4年前から毎年2～3棟づつ修理をしていたが，文化庁が補助事業として43年に修理したものは5件，44年9月現在では工事中のものが5件，10月から年度末にかけて着工するものが5件で，本年度は計10件に急増している。このように民家の修理が急増している原因は，勿論指定後すぐ修理を要するほど傷みの甚だしいものが多いというごく単純な理由にもよるが，もう一つ大きな原因は，古民家がすでに住いの容器としての機能を失ない，所有者が建て替えを希望していて，そのため地方公共団体が新たな所有者となって移築・保存せざるを得ない例が多いことである。民家は人の住いであるから時代の移り変わりとともに少しづつ姿を変える。古民家の場合も多かれ少なかれ後世の改造をうけ，それでようやく現代生活の場としての役割を果している。それが一たん重要文化財の指定をうけると，原則としては現状で凍結され，新たな改造を加えることを禁止される。流行の新建材で内装された民家を想像して頂けば，それが地方を代表する民家の典型としては不都合なことが，容易にわかっていただけよう。

指定後，地方公共団体などの所有になり，移築された例は岩手県の旧後藤家住宅，茨城県の旧太田家，神奈川県の旧伊藤家，旧北村家，旧石井家，長野県の旧竹村家，岐阜県の旧矢篦原家，旧大戸家，石川県の旧小倉家などすでに9件あり，特に今年からは各県1カ所づつ建設予定の県立歴史公園「風土記の丘」に移築するケースが生まれ，滋賀県で宮地家住宅，和歌山県で柳川家・谷山家住宅の2件が着工されて，この傾向はますます増加すると予想されている。

さらに国が指定保存の手を延ばすまで待てずに破壊されてゆく民家を救おうとして，大阪府の日本民家集落博物館や川崎市の日本民家園も移築保存に当っており，移築完成後ようやく指定したものが民家集落では旧泉家（もと大阪府），旧山田家（もと長野県），民家園では旧佐々木家（もと長野県），旧江向家(もと富山県)と，これも漸時増加しつつある。

こうした民家の修理の際，つねに問題になるのは復原である。すでに記したとおり古い住宅は何回もの改造をうけて今日に至っているのが普通で，建立当初の形式のままの建物はないといってよい。それは建立年代が古い民家ほどはなはだしく，たとえば元来は壁で囲まれたまっくらな「へや」には窓があけられ，側廻りも一間の開口部でありながら実際には3尺ぶんしか戸口としては使えない袖壁付戸口や三本引戸口（一間に板戸2枚と明障子1枚を建て込んだ戸口）は，明るい明障子・雨戸建てに，さらには硝子戸建てに改造されている。古い民家は側柱を1間毎に建て，内部も要所にびっしり柱を建てるのが典型であるが，2間またはそれ以上におよぶ指物（せいの高い鴨居）で中間の柱を抜きとり，開放的な構えとする改造も，どの民家にも見られる通例である。当初はなかった天井が張られるのも，防寒のためのやむを得ない改造で，復原すると天井がなくなる例は意外に多い。

こうした民家の修理であるから，復原を行なえばそれでなくても住みにくくなっている住宅が，一層不便になるのは明らかで，それはもう日常生活の場としてはまったく不適格な建物となる。前には指定後の現状凍結が居住者の大きな負担になることを記したが，復原修理後は負担どころではなく，現実に住めなくなるケースが生まれる。民家の建立年代が古いほど，復原の程度も大きくなり，今日では住めない住宅が再現されるのである。

府県	件数	棟数	指定物件
北海道			
青森			
岩手	2	2	菅野家住宅(40)，旧後藤家住宅(40)
宮城			
秋田	1	1	奈良家住宅(40)
山形			
福島			
茨城	4	5	坂野家住宅(2)，中崎家住宅，飛田家住宅，椎名家住宅， (42年度)
栃木	5	9	荒井家住宅(2)，岡本家住宅(2)，入野家住宅(2)，羽石家住宅，三森家住宅(2) (42年度)
群馬			
埼玉			
千葉	5	5	花野井家住宅，尾形家住宅，御子神家住宅，渡辺家住宅，滝田家住宅 (43年度)
東京			
神奈川	8	9	旧矢篦原家住宅(31)，旧伊藤家住宅(39)，関家住宅(41)，旧北村家住宅(41)，旧佐々木家住宅，旧太田家住宅(2)，旧江向家住宅，旧石井家住宅
新潟	2	11	笹川家住宅(7/29)，渡辺家住宅(4/29)
富山	3	3	村上家住宅(33)，羽馬家住宅(33)，岩瀬家住宅(33)
石川	2	2	時国家住宅(38) 旧小倉家住宅(38)
福井	1	1	坪川家住宅(41)
山梨	2	2	高野家住宅(28)，門西家住宅(39)
長野	1	1	竹村家住宅(41)
岐阜	3	6	旧大戸家住宅(31)，吉島家住宅(2/41)，日下部家住宅(3/41)
静岡	1	1	江川家住宅(33)
愛知			
三重			
滋賀	4	9	大角家住宅(3/29)宮地家住宅，田中家住宅，辻家住宅(4) (42年度)
京都	2	4	小川家住宅(3/19)角屋(27)
大阪	14	26	吉村家住宅(3/12)，降井家書院(27)，旧緒方洪庵住宅(39)，旧泉家住宅(35)，旧山田家住宅(39)，中家住宅(39) 山口家住宅(41)，奥田家住宅(7)，高林家住宅(2)，奥家住宅(3)，山本家住宅，高橋家住宅，三田家住宅(2) 山添家住宅， (43年度)
兵庫	3	10	箱木家住宅，永富家住宅(8)，古井家住宅
奈良	10	15	今西家住宅(30)，片岡家住宅(36)，藤岡家住宅，栗山家住宅，中村家住宅，村井家住宅(3)，菊家家住宅 中家住宅(3)，笹岡家住宅(2)，西田家住宅 (43年度)
和歌山	5	8	柳川家住宅，谷山家住宅，旧名手本陣（妹背家住宅）(3)，増田家住宅(2)，鈴木家住宅 (43年度)
鳥取			
島根	3	3	木幡家住宅，堀江家住宅，道面家住宅 (43年度)
岡山	5	26	旧矢掛本陣石井家住宅(11)，旧矢掛脇本陣高草家住宅(9)，前原家住宅，森江家住宅，林家住宅(4) (43年度)
広島	3	3	木原家住宅(41)，堀江家住宅(41)，荒木家住宅(41)
山口			
徳島			
香川			
愛媛			
高知			
福岡			
佐賀			
長崎	3	4	島居家住宅(2)，主藤家住宅，本田家住宅 (43年度)
熊本			
大分			
宮崎	1	1	那須家住宅(31)
鹿児島			
総計	93	167	

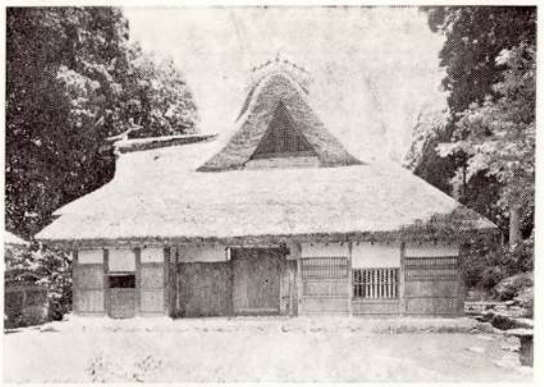
注　右肩の（ ）内は棟数を示す。その他は1棟を意味する。　右下の（ ）は指定年度。　——解体修理または移築。　——屋根替・部分修理

古い民家ではあるが後世改造されたのも一つの歴史であり，むしろそうして便利になっていった過程がそのまま生活の変遷を示す資料であるから，民家修理の場合必ずしも復原する必要はないという意見もあろう。社寺建築についてもこれに似た議論があるが，修理＝復原という原則があるわけではない。しかし民家の指定には社寺建築とは別の意義もある。それは社寺建築の場合には意匠の優秀さとか，技術面での卓越とかが指定保存の中心的意義をなしているが，民家の場合は生活文化の資料としての見方が大幅にとり入れられ，多少の意匠的優秀さより，建立当時の形態をよく保存しているかどうか，それが一地方での或時代の住いの典型であるか否か，といった点が重視されるからである。大地主とか地侍（地方的領主）とかいった特別な家柄の民家を除けば，一地方一時代に普遍的な住宅形式からその代表を残したいのが，民家指定の意図で，そのためには，或地方で一つの民家形式がある場合，その生成期のもの，最盛期のもの，爛熟期のものときめこまかく押える必要がある。

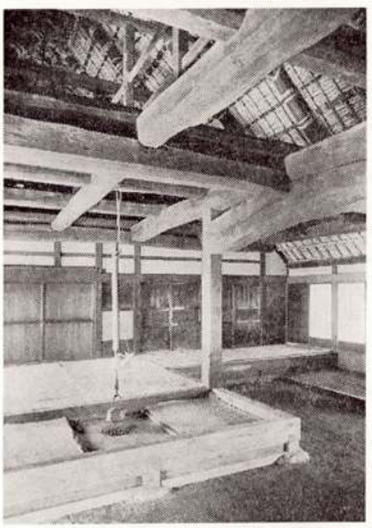
またそうした場合には保存される民家が，どの時期のものであるのか一見して明らかであるのが望ましく，その点で民家は特殊のものを除き復原して建立当時の姿で保存するのが原則となってくるのである。「ひろま」型の民家は後世のひろまの中央に間仕切が設けられて「田の字」型平面に改造される例が多いが、広々としたひろまとゆったり構えたイロリの姿にこそ，その民家本来の機能と美しさとが見出されるのであり，生活文化の実感もそれでこそくみとれるであろう。外廻りを土や板でなく茅でおおった茅壁とか，あるいは土間のうえに直接藁やむしろを敷いた土座とか，今日ではまったく見られなくなった古い形式の民家が復原された姿（民家集落の旧山田家）―それらの家はたかだか150～200年前建立で，近年までそのままの家もあったと村人は話してくれる―には往時のきびしい山村生活が現実のものとしてしのばれるとともに，民家の美しさの意味が社寺とはまったく別の所にあることがわかる。

3. 復原の実例

昭和42年度以降に指定した民家の修理には，今年からようやく5件ほど着工したところであるので，それ以前のものについて数字を記すと，41年度までの指定民家は38件，そのうち解体もしくは移築修理を行なったもの19件，屋根葺替ほか部分修理を実施したもの11件であり，移築19件のうち2件は移築後の指定である。これら民家の修理に際し，解体修理もしくは移築の19件はすべて復原が行なわれ，屋根替などのものはそのうちの1件だけ部分修理した箇所のみ復原し，他はすべて現状踏襲とした。したがって現在までのところでは民家に限っては本格的修理＝復原が原則となっているわけで，一般の人は，これらの復原された民家によって始めて本来の姿を理解することができる。後世改造された姿からは，なかなか当初の形態もわかりにくく，したがって民家の美しさといっても，大半は外観のみで論じられているのであるが，こうして復原された民家によって改めてその真価が見出されよう。このように復原された民家についてはすべて工事報告書が刊行されており，復原の基礎となった資料や調査事項などが詳細に報告されているので，ここでは一々の紹介はやめて43年度に竣工した建物のみ写真をのせ，簡単にその説明を加えることとする。



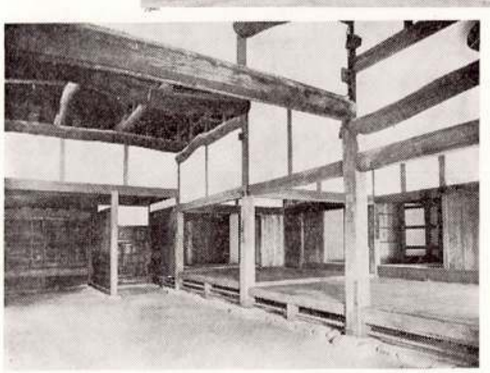
▲坪川家住宅正面



◀竹村家住宅（土間内部）



中家住宅▶
（正面）



◀木原家住宅
（土間内部）

坪川家住宅（福井県丸岡町）　入母屋造，妻入りの農家で，正面左手に主屋と直角に「うまや」を「まえづのや」としてだし，背面にも棟を平行にした「おくりづのや」（座敷）を設ける。このように「つのや」を設けるのが，福井地方の大きな特色で，この家は改造によって両つのやとも失なわれていたのを今回復原された。18世紀始めの家で，内部には上部をまたに開いて上ヤ，下ヤの桁を1本の柱でうける「またばしら」が3隅に使われている。

竹村家住宅（長野県駒ケ根市）　貞享の建立といわれていたが，18世紀中頃まで下るらしい。「ひろま」が小部屋に分割され，土間も縮少されていたが，復原されて名主の住いらしい豪壮さをとりもどした。

中家住宅（大阪府熊取町）　泉南地方の豪農で，建物は寛永頃のもの。中世的な趣を備え，今回，入口の土間，帳台構，奥なんどなどがすべて建立当初の姿に復原され，土豪の住居らしいどっした風格により一層の重みを加えた。

木原家住宅（広島県高尾町）　寛文年間建立の町家。四本柱を主構造とする珍しい架構で，同例は静岡県江川家住宅のみ。正面が全部改造され，資料も残らないので，正面のみは江戸末期の形式で整備したが，ほかはすべて復原された。通り土間脇の板敷と奥のなんど，座敷で少しづつ床高を変え，格式を示す構成が，木太い柱とよく調和している。

（鈴木嘉吉）

4 民家の保存計画

妻籠宿の保存計画

宿場あるいは集落の保存の必要性は，いまさらいうまでもない。いかに古い農家や町家を保存しても，それを取りまく自然および歴史的景観が全く変ってしまったら，その価値は著しく減少する。保存は「点」から「面」へ移らねばならない。しかし，これは言うは易く，行なうは難い。

現実の問題になると，個々の民家の保存すら十分に行なえないのに，少なくても数十軒の家の人々に，保存にすべて同意してもらうとなると，ほとんど不可能に近い。

この不可能を可能にするためには，保存が新しい観光開発となり，住民にとって，経済的にも有利であり，現実の生活を極度に圧迫するものでないということを十分理解してもらうことが必要である。

妻籠宿の保存状態は他の中仙道の宿場に比べて，必ずしも良好であるとはいえない。脇本陣はあっても明治10年の建築であり，本陣や問屋を失ない，その近辺は改変が多く，比較的保存がいいのは宿場成立後まもなく南方に発展した「寺下」と呼ばれる部分である。したがって，現在もっとも保存のいい宿場を全国的に選ぶとなったら，第1位に挙げられるものではない。

しかし，保存はたんにそのものの現在持っている文化財的価値だけで決められるものではなく，各種の条件の総合的判断によって決定すべきものである。とくに「面」としての保存となると，条件は複雑となる。私が中仙道木曽11宿の1つである妻籠宿の保存計画を立てて，保存を計ろうとしたのは，次のような利点があるからである。

1. 宿場として保存が良好であること。
2. 地元の人が保存に非常に熱心であること。
3. 戸数が少なく，全部で70戸ほどであるから，費用も比較的少なくてすむし，地元住民の了解をうるのが比較的容易であること。
4. バイパスができ（42年），通過交通を完全に遮断できること。
5. 島崎藤村ゆかりの林家（旧脇本陣）があり，また隣の馬籠宿には藤村記念館があって，年間相当数の観光客が訪れていること。

調査および保存計画の立案は長野県企業局の費用により，東大都市工学科，名古屋大学，名城大学の建築史研究室の協力をえたが，その骨子は次の通りである。

1. 宿場建築の復原と維持
   - a．重要な建物は買上げ，解体復原工事を行なう。完成後は民俗資料館・町営休憩所（茶店）とする。場合によっては委託経営の旅篭屋か民宿にしてもよい。
   - b．破損のひどい建物は半解体し，正面通り奥行1間を復原，屋根を葺かえ，木の雨樋をつける。（大修理）
   - c．破損の比較的少ないものは正面通り奥行1間を復原，屋根替え雨樋復原をする。（中修理）
   - d．新しい看板などを撤去し，正面の格子などを整え，雨樋をつけ屋根の葺替えなどの改装を行なう。（小修理）
   - e．現状を悪化させないよう，ファサードの改造規制を行なう。
   - f．宿場街道筋に新築・改築をするときはファサードの材料・意匠を規制する。
   - g．新しい建物（たとえば営林署など）で，ただちに改装のできないものについては，塀その他によって，街道から見えないようにしておき，改築時を待つ。

   以上が建築に関するものであるが，奥行1間まで規制したのは，表1間通りを吹放し，あるいは格子付きの縁としたものが多く，ここまで復原しないと宿場景観として整わないからである。しかし，それから奥は全く改造を自由とし，住民の生活を圧迫しないようにし，建物により規制に段階を設けた。
2. 宿場景観の復原と維持
   - a．宿場出入口の枡形を復原する。
   - b．街道両側，家の前にある用水溝を復原する。現在もあるが，多くは道路拡幅のため暗渠となっている。
   - c．電柱を撤去し，町家裏側に移す。
   - d．アスファルト舗装を撤去する。
   - e．大型自動車の通行を禁止し，乗用車も一方通行とする。（将来はこれも禁止したい）
3. そ の 他
   - a．観光客のための駐車場を設け，便所などを新築する。
   - b．分家などのため，住宅を新築する場合を考え，そのための住宅地を定め，土地を確保しておく。
   - c．宿場の裏側に道路を通し，駐車場をつくり，住民で自動車を持つものの利用に供する。
   - b．馬篭宿間の旧中仙道のうち，自動車道と一緒になっているところは，別に遊歩道をつくる。

このような案を立て，県に報告したところ，幸いにも長野県明治百年事業の一つとして採用され，昭和43年度から直ちに着工した。ただ残念なことに，建築だけで私たちが出した総額約8,000万円，5カ年計画が，総額約3,000万円，3カ年計画と縮少されたことである（県補助7割，町負担3割）。このため，ひとまず修理対象とする家屋を，保存のよい寺下に限定し，買上げ3戸，大修理12戸，中修理7戸，小修理5戸，計27戸について復原工事を実施中で，駐車場，便所の設置は別の費用で本年中に着工する。これが来年度で完成すれば，宿場の南半は面目を一新するし，中央部の軽微な改装は所有者の負担で行ないつつあるから，妻篭宿の景観は復原，保存されるであろう。

この事業で，もっとも特徴的なのは，最近史跡の仮指定をうけたが，法律の力によることなく，県と町と住民との自発的な意志により発案，実施されていることで，この点は特記する必要があろう。ただし，近く史跡の本指定をうける予定であり，町としても，妻篭宿保存条例を定め，将来に備えなければなるまい。

（太田博太郎）

民家保存の種々相

主として都市の保存と民家集落について

1

日本の民家はいま壊滅にひんしている。これは決して誇張したいい方ではない。この最悪の事態に対する対策は，残念ながらずいぶん遅れている。その理由はいろいろ考えられよう。いちばん大きな理由は，いうまでもなく行政の問題に帰着するが，この点についてはここでは取りあげないことにする。表題に直接関係することとして，研究→選択→保存という流れを考えてみると，問題点は少なくとも２つある。

その第１は，民家研究そのものの若さである。民家の研究は戦前からあった。しかしそれは多くの場合，現状をそのまま記録し，これを評価するという方法をとってきた。そこで戦後になって，復原と編年という操作を必須とする新しい研究法がはじまると，戦前の成果はそのままでは使えなくなってしまった。だからほんとうの民家研究は戦後のスタートであるといってよい。そこで研究の歴史はまだ浅く，調査は破壊に追いかけられながら進めているありさまである。研究が十分できていなければ，保存が進まないのは道理である。

第２は，戦後の民家研究が，復原と編年に専念するあまり，一般の人々が胸のうちにいだいている“民家の美しさ”へのあこがれに対し，答えていないということである。復原するのであるから，民家は今や原則的には「現状」が否定されているものなのである。では復原した暁にはどんな美がでてくるのか，これを適確に，わかりやすく説明する努力が欠けていたのではなかろうか。民家が保存されるということは，単に研究者のための学術資料という意味だけではない。もっと広く一般の人々が，建築のすばらしさに感動してこそはじめて，国民共通の財産として後世に残ってゆくのである。文化財はそういうものとわたくしは考えている。

2

さて，民家保存の方式であるが，これは必ずしも画一的である必要はなく，それぞれの実情に合った方法がとられればよいと思われる。いま考えうる方式を表にしてみると，次のようになろう。（表）

この表をみてすぐ分るように，各方式とも，それぞれ一長一短がある。順序をいえば，保存が決定された瞬間には，すべての個々の民家は１の状態にあるのであって，これがそのまま継続するならば，とにかくこれがいちばんよい。ところが現在の状勢はたいていの場合，１では永続しないのであって，そこから問題が生じてくる。その対策としては２，３が好ましく，４は篤志家が参加しないかぎり，あまり好結果をうまない。次に５はすでに多数の住民の意志が一つの方向に固まった状態であるから，好ましいことである。６以下は１の状態の民家の再生とでもいうべきものであろう。いずれも本来の立地条件からはずれることに難はあるが，しかし現在の状勢ではそれも止むをえまい。むしろ，見学の便という利点の方をとるべきであろう。

以上，基本的なことをのべてきたのは，実はこれからのべようとする諸都市あるいは諸施設が，民家保存の方式のどれに該当しており，したがってそれらがどんな意義や利点をもち，また問題点をかかえているかを明らかにしたかったからに他ならない。以下具体例をのべていこう。

民家保存方式の各種

番号	保存形態	所有	場所	居住・管理	利点	問題点
1	単独保存	私有のまま存続	従来場所を維持	所有者が住んで管理。場合により一部または別棟を使用	本来の由緒が守られる。管理に配慮がゆきとどく	管理や修理の負担が大きい。生活様式が束縛される。プライバシーが侵される。周囲の環境にとりのこされる。積極的に公開すれば企業化の恐れがある。
2		私有のまま公共団体が借りる 一時的→集会所 継続的→郷土館	同上	所有者が一部または別棟に住んで管理	同上。公共施設として活用できる。管理・修理の負担を公共団体が援助できる	上欄のうち最後の２項は残る
3		公共団体が買上げ公有化する	公園等に移築	居住せず。公園施設等として管理	ある程度の環境造成すれば本来に近い風土に止めたことになる。完全復原できる。十分な公開ができる	生活と切れる。管理が粗雑になる恐れがある。管理・修理費が十分支出されない場合が有る
4		第三者（個人・法人）が買取る	個人邸宅内等に移築	個人・法人の管理。居住，または居住せず	保存に熱意がある	環境が変化してしまう。恣意的な改造が行なわれ，見世物化する恐れがある。所有者の変化・経済的変動があれば不安定な状態になる
5	集団保存	私有のまま存続（多数所有者の協力）	従来の場所を維持	所有者個人個人の居住・管理	建築群（町並）として保存できる。ファサードだけなら割合に実現可能。他に１と同利点	１と同じ問題点。所有者の団結が崩れると駄目になる
6		公共団体が買上げる	民家集落を形成して移築	公共団体が管理する	県単位で集めるならば風土との密着性はある	遠距離のものを移すと本来の立地条件を失なう。管理態勢に問題が残ることがある
7		国で買上げる	国営民家集落に移築	（該当施設はまだない）		
8		第三者（個人・法人）が買取る	民家集落的施設に移築	個人・法人の管理。居住せず	保存に熱意はある	本来の立地条件から離れる。恣意的な改造が行なわれ、見世物化する恐れがある

3

まず都市における民家保存の実例として，高山，倉敷，萩，今井をあげてみたい。

高　山

高山の場合は前表1，2および5の実例があり，その他6の例もある。周知のように高山は飛騨山中の洗練された小都市として，観光的に著名であり，その民家も美しく，保存すれば観光資源として十分役立つのである。

まず1の例としては日下部家があげられる。日下部氏はこの土地の有力者で，家の保存についても熱心であり，邸宅は別に設け，近頃ではこの家はもっぱら公開されている。もっともそのために，若干の改造が加えられたところがあり，またいささか観光的に走ろうとしている面もないわけではないが，ともかくこの家は高山のひとつのシンボルとしての位置を獲得しているのである。

日下部家に隣接する吉島家は2の方式で成功した例である。この家については，時代の波のおしよせ方はずっと深刻なものがあった。しかし，若い建築家として古民家保存に関心のある子息のアピールが効を奏して，高山市がこの家を借りうけ，物産館として活用することによって，今後の保存の途がひらかれたのは，幸いなことであった。吉島氏自身はその館長として，家の一隅に居住し，管理に当っておられる。

日下部・吉島両家は，ともに明治時代の建築であるから，民家としては古い方ではない。しかし高山の場合は，明治の世になってから近世の総決算ともいうべきすばらしい民家ができたという特殊な事情があるので，両家の価値はきわめて高い。しかも二軒がならんでおり（第1図）周囲もあまり改変されていないので，ここには高山のよさがまだ濃く残っている（両家を中心とした一郭の環境をいかにして守るかが，次の課題であろう）。

日下部・吉島両家のある大新町に対し，上三之町は5の好例である。この町並もまた明治年間にできたものであるが，規模や質の点では，前記二軒におよばない。しかしここでは町内有志に強固な保存の意志がある。そのため，たとえ改造するにしてもファサードは変更しないようにするとか，道路上の電柱を撤去するなど，地道な努力がつづけられているのである。わたくしはこの町の人々に会ったことがないので，住民全体の意志を直接たしかめたわけではないが，伝聞するところによると，指定などの拘束になることは辞退する意向という。指定にまさる規制を自主的に行なおうとしているわけである。この日本ではきわめて珍しい保存方式をとっている住民の方々に心から敬意を表したい。

倉　敷

倉敷が江戸時代の商都であり，独特のスタイルをもつ民家を残していることは，すでによく知られている。今ここではいちばん著名な川筋についてだけ考えよう。この町並もまた5の方式の例といえるだろう。しかしそれは表面的な観察であり，実は故大原総一郎氏の努力に負うところ大であったのである。町並のうち相当部分は大原家の住宅，考古館，美術館，民芸館あるいはその関係の用途に用いられていて，すでに大原氏の直接の統御下に入っていたが，さらに残余の家々についても，大原氏の胸中には，一軒一軒について保存の可能性や方策ができていた。この点についてはわたくしも直接ご本人からうかがったことがある。このようにきめ細かな保存策をめぐらした人，そして推測すれば経済的援助もされていたにちがいない人，大原氏があったればこそ，倉敷は残ったのである。

ここでは民家はいわゆる民芸調である。民芸調の美は"意外の美"ともいえるだろう。だから倉敷で周到に計画された修景として民芸調が次々と誕生していくのをみていると，多少とまどいを感じないわけではない。しかしそれよりも，大局的にみた保存の成功に拍手を送ろう。ただし，大原氏がなくなった今後どうなるだろうか，はなはだ将来が気がかりである。

萩

山口県の萩は史跡の町として，城跡をはじめ，明倫館，松下村塾，あるいは木戸孝允，伊藤博文の旧宅などが指定保存されていた。最近に至り，史跡では城下町の景観を残す呉服町，南古萩町が指定され，建造物としても，長屋門1棟が重要文化財に指定されている。このように近年萩に対しては保存の手がのびているが，これは市長菊屋嘉十郎氏の積極的な保存に対する姿勢の成果といってよい。つまり萩では市が主役となって都市の保存が行なわれているわけである。

萩の町で特に注目されるのは，土塀である。かつてその中にあった武家屋敷は，明治の改変でほとんどすべて撤去さて，屋敷地は一面の夏ミカン畑となっているので，土塀だけが昔を物語る。ここに示した土塀（第2図）は，かなり崩れてはいるが，層をなして積み上げられている点，腰積の石垣石の大きな点などから考えると，萩ではいちばん古いものらしい。市ではこのような土塀について，その部分だけを借り上げ，修理していく方針という。萩市のこのような方向は，都市保存の将来を示すものとして特に注目したい。

今　井

今井町は奈良県の中央部にある。ここは400年来の門徒の町であり，そのなかには300年来の古民家を含む町並がまことによく残っていて，都市の景観が旧態のままよく保たれている。しかしこの今井の町が保存できたのは，住民の団結の結果でもなければ，公共機関の努力があったからでもない（わずかに今西家が重要文化財になっているだけである）。今井が残ったのは，橿原市の一隅にあって，発展からまったくとり残されたからに他ならない。この町の産業といえば，わずかに小規模な工業と内職があるだけで，たいていの人々は大阪へ通勤している。今井の場合は沈滞が保存の原因だったといえる。

将来，もし開発の手がのびたならば，今井はひとたまりもあるまい。保存に対する住民の連帯意識がないからである。今井は，はなはだ危険な状態にあるといえよう。だが，保存への曙光がないわけではない。奈良女子大学扇田教授の調査によると，住民の大部分はこの町の由緒を知っており，保存すべきであると考えているのである。もちろん保存に当っての条件はいろいろあるだろう。ただここに示された住民の素朴な意志は，われわれをたいへん勇気づけてくれる。今のままでは，保存への希望は個人個人の胸のうちにあるにすぎないが，保存の中心的テーマがみいだされ，かつ適切な施策が加えられるならば，必ず今井は永く保存されるであろう。しからばそのテーマは何か，適切な施策はいかなるものか，それを見きわめるのが，われわれに課せられた任務といえる。

4

次には民家集落のいくつかについて述べよう。日本における民家集落としては，大阪府豊中市にあるものがまず第1にあげられる。これは大阪府教育委員会と一体になっている財団法人の手によって運営されている。ここについては，すでに紹介があるから，今は他の例について記しておこう。

日本民家園

川崎市立であり，場所は生田緑地内にある。これは金剌市長のすぐれた企画と大岡実先生の指導によってできたもので，すでに神奈川コーナーや，中央山地コーナーができており（第3図），最近では千葉県や山梨県からの移築民家が竣工した。

日本民家園の意義は二つの点にあると私は考えている。第1は，この計画がかなり雄大なものであり，15年間に40棟前後の民家を収容するという。そうなれば，少なくとも東日本についてならば，相当数の民家は集まることになろう。そうなると日本における中央民家集落構想との関連がでてくる。

わたくしは東京近郊に中央民家集落を国立で造るべきだと信じている。何といっても東京には日本の人口の相当部分が集中しているのだし，訪れる外国人も多いからである。いまは国立とか私立とか制度の問

題を抜きにするが，この日本民家園はいずれ中央民家集落の一部となることがきわめて望ましい。この程度の民家集落が数カ所で中央民家集落を形成するわけである。1日のコースとなるひとつの民家集落の広さをある程度に押えた方が，見学者にとっても，適当であろう。

以上はわたくしの試案であるが，そのためには，日本民家園の順調な発展と，中央民家集落構想の早期確立を切望する次第である。

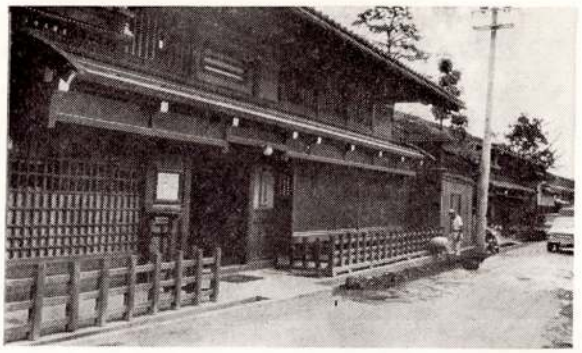
日本民家園の意義の第2は，神奈川コーナーである。つまりここは，県単位の民家集落という意味も十分はたしているわけである。民家集落には，中央のもののほかに少なくとも県単位のものが必要であるから，この点でも日本民家園の意味は大きい。

江戸村

金沢市にあるホテル白雲楼の主人桜井氏が経営されるところである。百万石文化園ともいうだけに，加賀藩内から10棟ほどの武家屋敷や町家，農家が移されている（第4図）。選択は民家そのものの良否よりも歴史性に重点がおかれている点，ちょっとわれわれの感覚とちがうが，しかし個々の建物はたいへん丁寧に移されており，現状が正確に守られていることは，保存の第1段階をふみはずさない措置というべきだろう。また説明や民具展示も良心的である。わたくしは，個人の力をもってここまで民家集落をまとめられ，かつ，まじめな運営をしておられる桜井氏の努力に，文句なく敬意を表わさずにはいられない。ただ欲をいうならば，この江戸村が，県または北陸一円を単位とする民家集落に発展するとともに，いずれは公共性をおびた法人などとして基礎の安定化をはかられんことを望みたい。対象の選択や移築の技術についても専門家の参加を求められれば，成果はさらに増大するだろう。

風土記の丘

風土記の丘というのは，史跡地を中心とする整備計画であるが，そのなかに，民家集落が織りこまれることになっている。風土記の丘はすでに数県において実施されているが，和歌山県の場合，ここに数棟の民家を移築すべく，すでに工事に着手している。かような形は県営，県単位の民家集落のあり方のひとつと考えられる。（伊藤延男）



第1図　日下部家（手前）と吉島家



第2図　萩の古い土塀



第3図　日本民家園



第4図　江戸村

歴史的街区の保存

奈良県今井町の場合

史跡環境保存の二つの型

地域文化財を環境として保存する場合，大きくわけて二つの考え方があるだろう。

一つはいわゆる「史跡公園」にあたるもので，史跡を補修，復原，集約し，公園化したもので，これは狭義の博物館にほかならない。明治村，風土記の丘あるいは現在発掘調査中だが平城宮跡などもこれにあたる。この型の特色は，文化財が現状固定，補修，復原によって，比較的完全な形で一般の鑑賞に供されることで，物自体の完全な保存にはこのような博物館化しかなく，どんな形にしろ，こうした史跡公園が今後も充実されていくことはそれ自身のぞましい。

もう一つは，いわゆる公園化ないし博物館化をさけ，一定地域の中で日常生活を含みながら全体として歴史的な特色を残していくというやり方である。古都保存法の保存地区などは，大体これにあたる。

この型のものが第1のものと異なる点は，その中に現に生きて動いている日常生活を含み，生活の変化発展に応じて環境がたえず変貌をとげることである。史跡の保存という点からはより不完全な，より便法的な手段と考えられがちだが，しかしたえず変化しつつ歴史的な雰囲気を保つところにむしろ積極的な意味があるのである。

史跡公園の役割は，単に古い遺構を完全な形で人びとに提供することだけではない。少なくとも生活空間の一部としての史跡公園（地域）に人が期待するのは，一部専門家，アマチュア研究者は別として，一つの知的レクリエーションとして非日常的な環境の中で歴史を追体験してみることであろう。そして歴史を実感させる環境というのはかならずしも古い姿がよく手入れされてそのまま残っている環境とはかぎらない。

たとえば明日香村を中心とする飛鳥地方の魅力はそうした点にあるのであろう。ここには学問的にも超一級の遺跡が多いが，それらはたとえば法隆寺のように古い姿をそのまま保っているわけではない。飛鳥寺，川原寺などは廃寺に近いし，いくつもある宮跡は地下にうずもれたままである。点在する集落の白かべの農家などはそれ自身いささかも歴史的価値をもつものではない。

にもかかわらず，でなく，まさにその故に，これらの景観全体が一つの媒体となって，知識としての歴史を空気にかえて，実感として訪れる人の皮膚につたえる。仏像や建築の様式史の系統的理解といったことが，いわば客観的な史跡鑑賞の仕方として知的な楽しみをみる人に与えるとすれば，これは主体的，創造的な楽しみ方として，やはり史跡鑑賞の醍醐味を与えてくれるものであろう。変化の連続そのものが「歴史」の表現にほかならぬのであって，歴史的環境を固定化することは，史跡環境の整備にとって，場合によっては必要だがかならずしも十分ではない。現実にも史跡地域の大規模な公園化はそう簡単に実現できないとすれば，生活を含み，変貌を前提とした史跡地域の整備は，理念からしても現実からみてももっとおし進められるべきであり，そのための手段が開発されなければならない。

このような，変化を前提とする保存も実際にはいかに変化を制御するかできわめて困難な問題を含んでいる。変化の中に歴史の表現があるといっても，それにはやはり歴史の連続が暗示されていることが必要であり，ドラスティックな変化は破壊につながる。志賀重昂は『日本風景論』の中で「名所旧跡の破壊は歴史観念の連合を破壊する」といっているが史跡地域での緑のはぎとり，工場，アパート，色瓦の小住宅の出現は，まさしく「歴史観念の連合を破壊する」ものであろう。何らかの形での保存はいうまでもなく必要なのである。ただ，生活の発展，変化といかに折合をつけるか，どの部分をどう変化させまた保存するかが問題であり，この種の史跡保存には，博物館的史跡公園とは異なる前提条件あるいは多様な保存手段——建物についても、完全な保存ばかりでなく外観のみの保存や標識による保存など——の組合せが必要とされる。

町なみ保存の方法

今井町のような民家集団からなる市街地の保存も，このような文脈で考えるべきものである。これは一つの提案だが，計画そのものは現在作業中なので，計画のプロセスについての考え方を中心に若干紹介したい。

今井町はおよそ400年前，一向宗門徒が織田信長の弾圧に抗して称念寺を中心にたてこもったわが国では例の少ない環濠寺内町で，江戸期を通じて奈良盆地南部の商業の中心としてさかえたが，明治以降は衰微の一途をたどり，かつて町の繁栄をささえた木綿，竹細工の生産も過去のものとなり，現在では大阪方面への通勤者が多くなってきている。

その景観的特色は，第1に町家の連続にある。各戸のファサードは本瓦葺の屋根，塗りごめの厨子二階，標準化された格子で覆われた一階壁面で構成され，プランの型よって間口と棟高に変化がつき，町並景観の「統一と変化」がたくみに実現されている。

第2に街路のパターンからくる屋外空間の形がある。環濠をめぐらして九つの城門のみで外と通じていたという道路形態のために丁字型の行きどまりが多い。これがEye stopとなって，格子状パターンの都市にありがちな視線の拡散による単調さがすくわれ，変化にとんだヴィスタをつくりだしている。

第3に環濠と土居がある。土居はほとんど姿をとどめず，環濠も昭和10年頃埋められて道路となり，今では下水用の水路としてほそぼそとのこっているにすぎないが，環濠は今井町成立の歴史ときりはなしえない。

今井町の保存とは，居住環境としての整備をはかりつつ，これらの特色を保存していくシステムをつくることにほかならない。

このような市街地の保存を考える場合には，物的環境の評価と保存計画のみでなく，地域の広域的位置づけ，それを支える居住者の地域の将来にたいする要求，居住者の日常住生活の面からみて可能な保存形態，さらに保存を進める一方で居住環境としての整備を行なうための再開発計画の内容などについて検討が必要である。

このような検討のための資料として，またここ数年来急速に変貌しはじめている町の記録をのこす意味も含めて，町の主要な通りにそう約200戸の住宅についてプランの採集と住み方調査，約300戸にたいする町の現状と将来およびその保存についての意見調査，そして全戸約800戸についてファサード構成の記録とおよび景観分析を行なった。

さて今井町は，それ自身一つのすぐれた史跡であると同時に都市通勤者のための住宅都市として発展することになるとおもわれるが，いずれにしても町の完全な保存は考えられず，全体として特色の保存となろう。具体的には第1に町なみファサードの保存，第2に街路パターンの保存，第3に環濠の一部ないし全部の復原である。ただ今西家住宅をはじめ数戸のそれ自身が価値のある民家は国費による買上げなどによって建物全体を博物館その他の施設に転用し，完全保存を考える必要がある。そしてこうした保存に見合うものとして都市施設，交通系統の整備，建物内部の近代化・合理化を含む再開発を考える。

今井町の場合町なみの保存が中心となるが，その特色の保存には，

「変化」を前提とし，増改築などの際いくつかの型の標準的なファサードを採用していくという方法が考えられる。それにはまず特色の抽象化，パターン化が必要であり，そのために景観分析が必要となる。いわゆるデザイン・サーヴェイの主な目的はそこにある筈で，そうした目的がなければ，しばしばみられるように単なる記録か恣意的な興味の満足に終るだろう。

ファサードの調査によれば，全体の約6割は伝統的なファサード構成を保っており，その6割のうち図に示すような典型ファサード（間口の大きさによって四つの型がある）が約7割，簡単な「犬垣」をもつものを加えると9割以上が5種類の型とその変型で構成されている。この典型からいくつかの標準的なファサードの型を用意することは可能であろう。また上記6割の半分は，部分的な変化（本瓦が桟瓦にかわるなど）はあるが雰囲気を損うにいたっていないもので，逆にいえば標準的なファサードとしてかなりの幅をもった段階を考えても，町なみの特徴の保存は期待できると考えられる。実際にはとくにすぐれた建物を多くのこしている街区を限って外観の十分な復原，修復を行ない，ほかの部分は雰囲気を保護すべき地区として比較的ゆるい基準によるファサードの型を採用させ，あとは屋根，外壁の仕上などに一定の制限を課するといった段階規制の考え方をとるべきであろう。（図参照）なお，こうした一定の意匠の強制にはそのための費用にたいする援助が必要である。

町全体については，道路が車の通行に狭いという不満がもっとも多い。しかし道路の拡幅は町並を完全に破壊する。拡幅はむしろ不要であり，600m×300mの小地域では，周辺にパーキングを十分とり，一般の車の乗入れをさけることが保存問題をはなれても合理的，実際的な対策である。まして史跡地域としては道路は人のために確保したい。

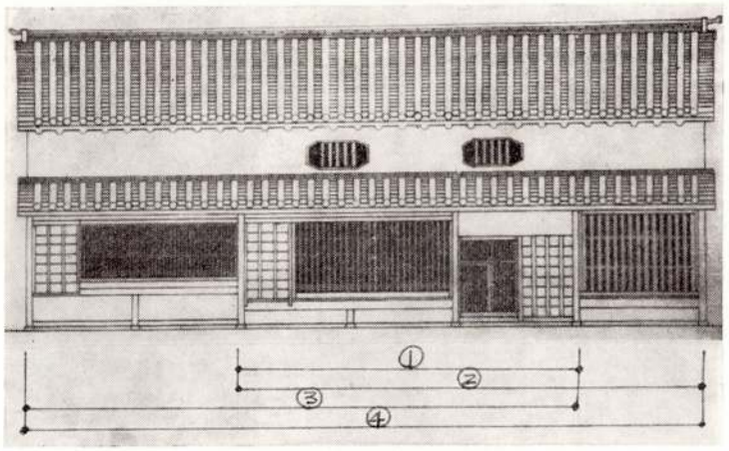
保存問題は，現在のところ町の中では一部の篤志家を除いてはなんら具体的な動きになっていないが，アンケートによれば，この問題に関する住民の関心は予想外に高い。古い町の姿を実物でのこしたい(42%)記録としてのこしたい（43%）をあわせると85%が保存指向を示しており，保存へのエネルギーとして評価しうる。ただ町が観光地化することには反対で（観光地のイメージが問題だが）大部分が建物の住宅としての使用を望んでいる。

今井町はその歴史と現状からいってもまた住民の保存指向の強さからいっても，わが国ではまれにみる街区保存の条件にめぐまれた町であるが，ここ数年来急速にかわりはじめており，早急に保存対策がたてられなければならない。そのためにはたとえば，文化財保護法の指定対象を，現在のように「物自体」のみでなく，個々の建物にはたいした歴史的価値はなくてもその集団に価値があるといったものや，建物ファサードのような「部分」にまで拡げるといった，法制面での整備が必要であり，また住民や市，県，国などへのさまざまの形の働きかけとともに，保存のための具体的な提案を，個人，集団，公共団体など，さまざまなレベルで行なうことが必要である。ここに紹介したのもそうした試みの一つである。

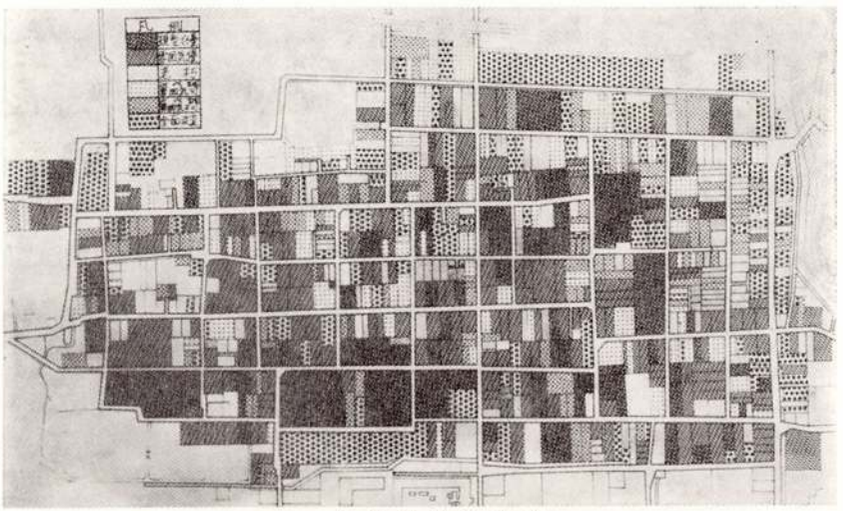
なお，文中にのべた調査は，一部国立奈良文化財研究所との共同作業であることを附記する。（**足達富士夫**）



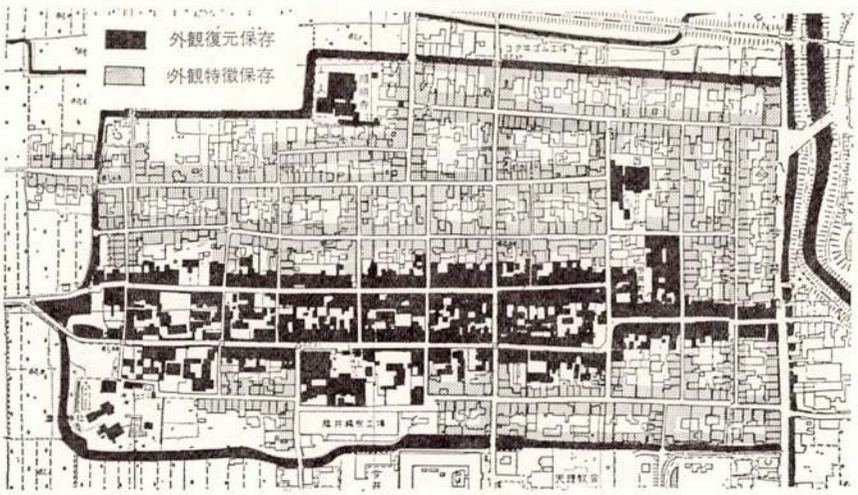
今井町の町なみ



典型的ファサードと4つの型



外観評価の分布



保存形式による地区わけ

スカンセン と ウィリアムスバーグ

はしがき

実生活から浮き上ってしまった過去の文化財を保存するには，博物館を計画するほかないが，北欧諸国では民家をひと所に移建して展観させる計画が進められてきた。スエーデンの首都ストックホルムのスカンセンの丘（城跡）に営まれた民家博物館は世界最初の試みとして知られ，1880年から準備が進められて，1891年に開館している。その面積も約30ヘクタール（９万坪）におよぶ規模のものである。そのほかにも同種の戸外博物館は北欧の各国で計画されているが，デンマークの首都コペンハーゲンの郊外にあるフリーランド・ミコーゼーは未完成ではあるが，その規模はさらに数倍大きく，同国のオオリュースにはガムル・ビイ（古い町）と呼ばれる町家を集めた戸外博物館が完成している。

もちろんこうした人工的に造られた博物館のみでなく，木造住宅の軒並残された町ぐるみの保存をはかっている例もあり，私の見たのではドイツのフランクフルトの郊外のゼーリンゲンスタットなどはすばらしいものであった。木造の民家に限らないならば，中世風の町ぐるみの保存を計った例も各地にあり，ドイツではババリヤ地方のローテンブルグやディンケルスビールなどはすぐれたものである。

新しい国アメリカにも歴史はある。最も有名なものはヴアージニアの旧首都を一部復原して，植民地時代を再現しているウィリアムスバーグである。

しかしここではそれらを一々紹介している余裕もないので，代表者として，スカンセンとウィリアムスバーグについて，概要を記したいと思う。

スカンセン

スカンセンはストックホルムの町に接した，アプローチの楽な所にあるが，静かな別天地である。スエーデン王チャーレス15世（1859—72）やオスカー２世（1872—1902）はすでに趣味として，古い民家を集めていたとのことであるが，こうした動きは建築史上のロマンチシズムと相応じたものといわれる。

スカンセンの民家の集め方も，はじめは偶然目にとまったものをあちこちから持ってくるというケースが多かったとのことであるが，時がたつにつれて，代表的なものを選択するよう努力し，また主要建物一棟だけを移すのではなく，倉庫や家畜小家もすべて含めた一組の農家を運ぶようになり，そこでは家畜までかって，生きた姿を見せるように工夫されている。そして農家のほかにも，領主の家から教会堂，市場の売店，工房，田舎の宿なども含まれ，田舎の孤立したものは互に離して建て，市街地からもってきた建物は道路に面して，町並みをつくるように配置し，そこには住家とともに，印刷屋，製本屋，鍛冶屋，パン焼屋，なめし皮工房，靴屋，陶器工房，ガラス工房，糸紡ぎ，はた織工房なども混じっていて，田舎町の雰囲気をだしている。そしてこれらの工房では実演して，昔の職人の仕事をみせている所もあり，またその製品を売っている店もあるし，教会堂では結婚式などをさせている。なおこの博物館は国営ではなくて，私企業になっているため，収入を増す手段として，動物園，児童遊園地，アトラクションの野外劇場などもあって，休日などには人出も多いのである。

この博物館に現在集まっている家の数は約 130 に達しているとのことであるが，大阪の豊中市にある服部の日本民家集落博物館の収容家屋数は13件で，面積も9,000坪であるから，すべて十分の一の規模になる。

館内の建物の配置は挿図に示した通りで，入口は５カ所にあり，道路が縦横に通じていて，多少の起伏もあり，所々に池も林もあるが，敷地内には，なお相当場所のゆとりがある。挿図の番号を追って解説すると，

スカンセン配置図



1～5　夏の間６～９週間，山林中に放牧する間住まう夏の家。牛小屋，乾草納屋などが付属する。17～18世紀の建物。

6　スエーデンの16世紀の農家の一構え，校倉式の丸太小屋構造で，中庭のまわりを建物がかこう。

10　オランダ。18世紀の農家，屋根はライ麦の藁でふく。

12　鉱山師の親方の家，17世紀。

14　屯田兵の家，農業をしながら訓練をうける制度があった。

15～17　18～19世紀の二階屋の混じた農家。

20　古い形式を模して作った倉庫。

23,113,114　風車，1828年再建。

42,43　鐘塔，18世紀。

110　教会堂，1729—30，木造，こけら葺。

154～157　領主の家，1793年，ルイ16世式装飾をつける。

175,182,183　パン屋、鍛冶屋（以上18世紀），大商人の夏の邸宅（1770頃）

174,177,178,180,184,186,187　薬種商，印刷工房，食糧品店，なめし皮工房，樽造り工房，ガラス工房，陶器工場（18世紀乃至19世紀）

ウイリアムスバーグ

アメリカ合衆国東海岸の首都ワシントンから余り遠くない，リッチモンドの近くにある，ヴァージニアの植民時代の首都である。ここは合衆国の独立に先立つ歴史的事件の勃発したところであり，そこに復原されているグルーチェスター街の東端に立つ政庁では，アメリカの建国にあたって，ワシントンやジェファソンなどの指導者達がはげしい議論をたたかわしたのであった。

この地は中部における植民地として知られていたが，1693年にウイリアム・アンド・メリイ・カレッジが創設されるにおよんで重要な町となった。6年後，ジエームスタウンにあった政庁が焼けると，首都はここに移されて，英国王ウイリアム3世の名をとって，ウイリアムスバーグと名のった。この人口わずか2,000名たらずの片田舎の海岸町が1699年から1780年まで，ヴァージニアを支配することとなる。ヴァージニアはアメリカ植民地の最古のもので，面積も最大であり，ミシシッピイ河岸にまで達していた。従って他の植民地に対しても大きい影響力をもっていたのである。しかし1780年にヴァージニアの政府がリッチモンドに移されると，この町の重要性は減退した。それでも町はそのままの姿で残されたが，年とともに建物もいたみ，あるものは消失していった。

1926年になって，その保存が計画されることになり，ロックフェラー財団の出資によって，失なわれた建物も再建され，残された建物も復原整備されて，かっての植民時代の首都の姿を永久に伝えることとなった。

130エーカーにおよぶ復原地区の主要な建物の半分以上は18世紀に建てられた建物で，その中には重要な邸宅，教会堂，カレッジの建物，裁判所（1770），武器庫，刑務所などがある。政庁，総督の宮殿，居酒屋といった名の知られた建物は他の多くの木造家屋や付属建物とともになくなってしまっていて，旧基礎に従って，復原されたのである。80エーカーをこえる庭園や緑地も18世紀の型に従って造られている。

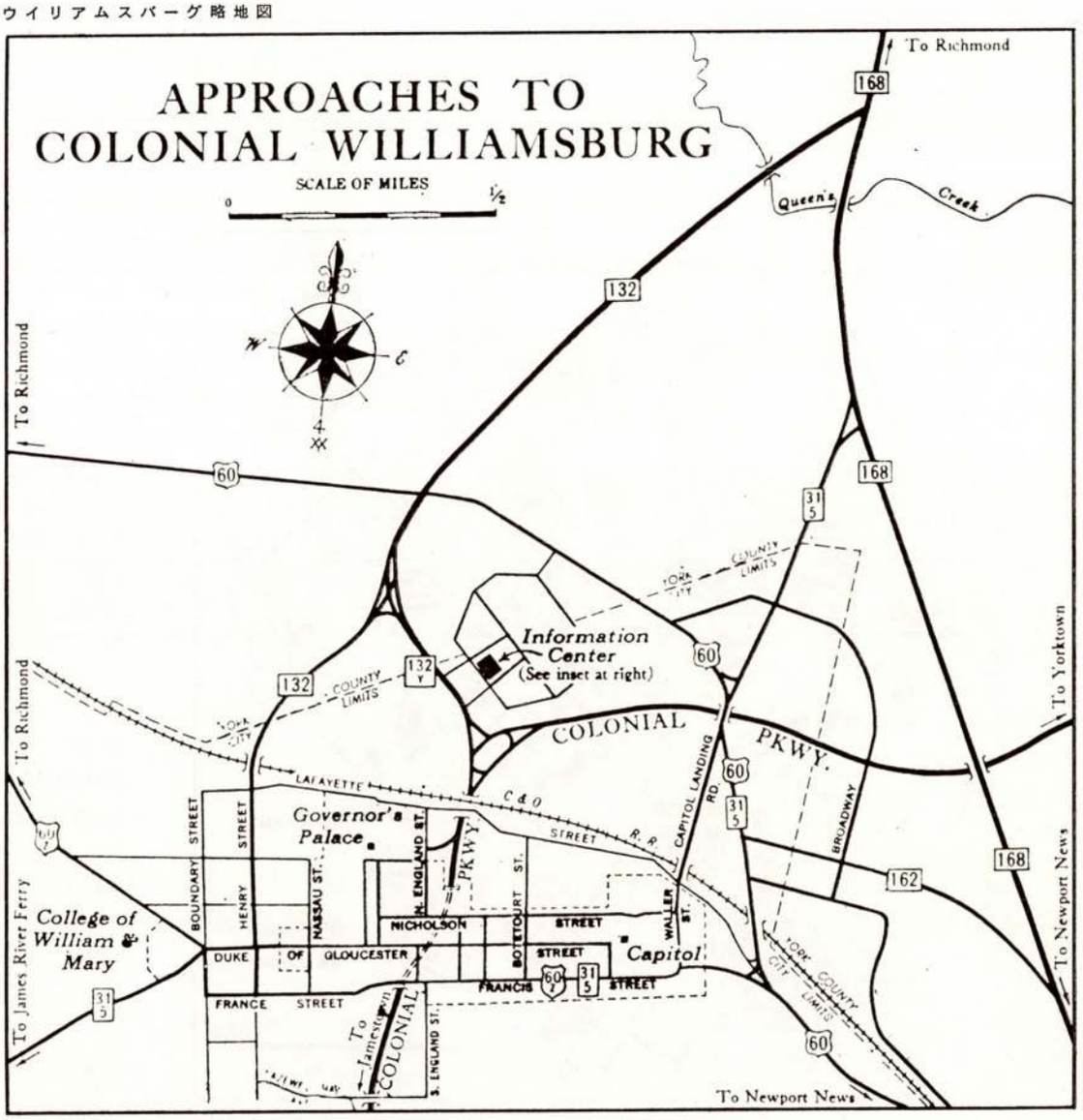
そのうえ，来訪者のための様々なサービス施設である，宿，ロッジ，モーターハウス，マーケットスクエア，酒場，工房，劇場などがつくられ，これらから入る収入は展覧，解説，出版，映画，18世紀の劇，音楽会などの教育費に使用されている。またインフォーメイション・センターでは常に展覧や解説を行ない，町の内部では一般の車を通行止めして，バスを走らせており，またここで働く監視人にはすべて18世紀の服装をさせ，レストランでも18世紀風のマナーで食べさせるし，時折昔の軍隊教練や教会の礼拝などを実演して，来訪者を楽しませている。

建物には今後なお建設を予定されているものもあり，また全部の建物が公開されているわけではない。公共建築と私邸の一部が公開され，薬屋，車屋，印刷屋，鍛冶屋，かつら屋（18世紀には男がかつらを用いた），機織屋，靴屋といった店では仕事の実演も行なっている。

町の構成は挿図に示したように，グルーチェスター街を主要道路として，その東端に政庁，西端にカレッジをおき，この通りと直角にのびる道の北端に総督の宮殿を配しており，番号のついた外部からの新しい交通路は町の中へは進入しない。そして通過交通路は地下をくぐっている。またインフォーメイション・センターの新式の建物は旧町からかなり離れて，見通せない所に建てられていて，古い景観を損わない配慮がされている。ホテルやレストランもその背後にあり，充分近代的設備を享受できるようよにされている。

（浅野　清）

ウイリアムスバーグ略地図



民家文献目録

本稿は，建築雑誌1966年1月号所収の民家論文目録との重複をさけて，同号以降発表されたもののみ収録した。（林野全孝・吉田高子）

単行本

文献名	執筆者	掲載誌	(号)	(頁)	(発行年月)
近世農家の作業空間形成変遷に関する研究	草野和夫	学位論文 東大			'66.11
京都の民家 調査報告第1冊	京都府教育委員会				'66
京都府の民家 同上 第2冊	同上				'67
同上 同上 第3冊	同上				'67
高山ダム水没地区調査報告書―民俗・民家―	同上				'66. 3
滋賀県緊急民家調査報告書	滋賀県教育委員会				'66
大鹿村の民家 長野県民俗資料調査報告 8	長野県教育委員会				'66. 3
大阪府の民家Ⅱ 大阪府文化財調査報告書第16輯	大阪府教育委員会（浅野清，林野全孝）				'67. 3
同上 Ⅲ 同 18輯	同上				'67. 3
大阪府を中心とする四間取民家の研究	林野全孝	学位論文 大阪市大			'67.12
旧野原家住宅修理工事報告書	川崎市				'68. 3
名古屋市古建築調査（佐屋路を中心として港区，中川区）名古屋市古建築調査報告書	（橋本敬治郎 中谷 勉）				'69. 3
京都府文化財図録民家編	京都府教育庁文化財保護課（川上貢，永井規男）				'69. 6
東村山市の民家	早稲田大学理工学部建築史研究室				
民家速報集№1	日本建築学会民家小委員会				'66.10
同上 №2	同上				'67.10
同上 №3	同上				'68.10
中国地方の民家	鶴藤鹿忠	明玄書房			'66.12
四国地方の民家	鶴藤鹿忠	明玄書房			'68.10
民家のみかた調べかた	文化庁	第一法規			'67
民家入門，上巻調査編	林野全孝	古美術鑑賞社			'68. 9

論文

総括

民家研究および保存の将来計画	浅野清，林野全孝，鈴木充	建築雑誌	966	P. 5	'66. 1
現在の民家研究の方向	大河直躬	同上	966	P. 1	同上
文献目録，戦後の主要民家調査報告（地域別）	吉田靖	同上	966	P.28	同上
文化財集中地域の保存と開発手法に関する研究	太田博太郎	同上 研究年報	978	P.764	'67. 3
重要文化財民家の修理工事―ニュース―		同上	986		'67. 9
国立民家博物館	西山夘三	同上 建築年報	996		'68. 5
文化財入門講座近世の衣食住文化	関忠夫	月刊文化財		P.36	'68. 7
美術館・博物館めぐり日本民家園	工藤圭章	同上		P.44	'69. 1
文化財と自然をめぐる保護と破壊	藤島亥治郎	同上 建築年報	1007		'69. 3

青森県

角地よりみた弘前侍町	佐藤巧 舛岡和夫	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.905	'69. 8
弘前侍町とOrientation	同上 同上	同上		P.907	同上

岩手県

家作足材木の申請史料について(2)――岩手県岩泉町中村文書による――	宮内悳	日本建築学会東北支部研究報告集			'66. 8
南部藩における家作用材の供給制度――家作用材木の申請史料3――	同上	同上			'67. 2
同上 Ⅱ ――岩手県志波郡山五海村庶務文書による――	同上	同上			同上
内丸侍屋敷の構成について（城下町成立期における盛岡の例）	阿部和彦 佐藤巧	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.909	'69. 8
岩手県の民家	伊藤延男	建築雑誌	966	P. 8	'66. 1

文献名	執筆者	掲載誌	(号)	(頁)	(発行年月)
福島県					
福島県田村地方の農家について（近世階層分出と作業空間形成過程との関連研究13）	草野和天	日本建築学会大会東北支部研究報告集			'66. 8
19世紀後半の農家作業空間(1)（福島県南地方の例）	同上	日本建築学会論文報告集	号外	P.1009	'67.10
19世紀後半以降の営農空間(3)（福島県信達養蚕地帯の一般農家蚕業施設について）	同上	日本建築学会東北支部研究報告集			'67.10
19世紀後半以降の営農空間（4.一般農家規模とその蚕業施設について）	同上	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.857	'68.10
民家の中古について（1.一白河地方の農家の例）	同上 武正須美恵	同上		P.893	'69. 8
群馬県					
利根郡白沢村の民家遺構について（群馬県下における民家の研究―その2）	桑原稔	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.895	'69. 8
東京都					
町田市鶴川地区の民家	矢野和之 広瀬鎌二	同上		P.897	'69. 8
神奈川県					
神奈川県の民家	関口欣也	建築雑誌	966	P.10	'66. 1
新潟県					
新潟県特に信濃川中流域の民家	宮沢智士	建築雑誌	966	P.14	'66. 1
新井市史第一次調査報告民家調査	同上	立教大学 MOUSEION12 および郷土乃新井特集号			'66. 3 '66
新潟県の一民家の普請とその衆中	同上	物質文化	№. 8		'66.10
新井市における第二次民家調査	宮沢智士，吉川，宇都宮，中岡	新井市史第2次調査報告		P.41	'67. 9
石川県					
民家集落の形態的研究Ⅱ（その1金沢，高山の町家の実測調査Ⅰ）	篠原一男，坂本一成 小池一臣，白沢宏規 堀野匡義，遠藤巌	日本建築学会論文報告集	号外	P.974	'67.10
同上（その2 同上 Ⅱ）	篠原一男 坂本一成	同上	同上	P.975	同上
同上（その3平面構成について）	同上 堀野匡義	同上	同上	P.976	同上
同上（その4面積算定からみた平面）	同上 遠藤巌	同上	同上	P.977	同上
同上（その5立面構成について）	同上 白沢宏規	同上	同上	P.978	同上
同上（その6道と町家との結びつき）	同上 小池一臣	同上	同上	P.979	同上
福井県					
福井県遠敷郡名田庄村の民家	川上貢	日本建築学会近畿支部研究報告集		P.61	'68. 5
長野県					
旧中山道妻籠宿について（妻籠宿保存計画基本調査）	小寺武久	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.863	'68.10
旧中山道妻籠宿の民家について（妻籠宿保存計画基本調査）	小寺武久，川村力男 佐藤彰，上野邦一	同上		P.865	'68.10
長野県川中島平の若干の民家	宮沢智士	日本建築学会近畿支部研究報告集		P. 9	'66. 5
民家集落の形態的研究Ⅲ その1中仙道旧宿場町民家の実測調査	篠原一男	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.783	'68.10
民家集落の形態的研究Ⅲ その2平面とその面積算定からみた集落	篠原一男，矢崎武	同上		P.785	'68.10
民家集落の形態的研究Ⅲ その3道と民家集落との結びつき	篠原一男，大沢良二	同上		P.787	'68.10
長野県の民家	吉田靖	建築雑誌	966	P.12	'66. 1

文献名	執筆者	掲載誌	(号)	(頁)	(発行年月)
岐阜県					
美濃市附近の紙すき農家について　近世階層分出と作業空間形成過程との関連研究12	草野和夫	日本建築学会関東支部研究報告集	37回		'66
墨俣宿について（美濃路の人家についてその4）	橋本敬治郎	日本建築学会論文集	号外		'66.10
墨俣宿の本陣について　I（同上　その5）	同上　中谷勉	同上	同上	P.1005	'67.10
同上　II（同上　その6）	同上　同上	同上	同上	P.1006	同上
墨俣宿の脇本陣御開本陣，その他宿泊施設について（同上　その7）	同上	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.867	'68.10
起宿の本陣について（同上　その8）	同上	同上		P.917	'69.8
愛知県					
小原の民家(愛知県小原村)	川村力男	日本建築学会東海支部研究報告集			'68.6
名古屋城下町における武家屋敷地規模について（名古屋城下町の研究－2）	大野耕嗣	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.911	'69.8
近畿地方					
元禄期の土蔵について－京都，大和を中心として－	富山博	日本建築学会東海支部研究報告集			'68.6
畿内民家における四間取の成立時期	宮沢智士	〃　近畿支部研究報告集		P.56	'69.5
京大工頭中井家における慶長，元和期の指図について（建築指図の研究－その1）	平井聖，小池幸彦，後藤久太郎，斎藤英俊，宮原義昭	〃　大会学術講演梗概集		P.925	'69.8
滋賀県					
湖北地方の民家	鈴木充	建築雑誌	966	P.16	'66.1
滋賀県下の民家（前）	川上貫	民俗文化	48		'67.9
同上　（後）	同上	同上	49		'67.10
湖西の民家	永井規男	同上	53		'68.2
近江蒲生郡における二つの大工集団について	沢登宜久	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.923	'69.8
京都府					
亀岡における町屋建築の変遷と特徴	林野全孝	日本建築学会論文集	号外		'66.10
大阪府					
大阪の民家	林野全孝	建築雑誌	966	P.18	'66.1
家構と文書記載の対比－布施市域の古民家調査から－	白木小三郎，島田多津子	日本建築学会近畿支部研究報告集		P.13	'66.5
柏原市三田実家の普請について	林野全孝，吉田高子	日本建築学会論文集	号外	P.733	'66.10
富田林の町と町家の建築的変遷	林野全孝	日本建築学会論文集	131	P.57	'66
能勢地方の平入民家	青山賢信	同上	124	P.50	'66
田中啓二家の普請について	林野全孝，吉田高子	日本建築学会近畿支部研究報告集		P.29	'67.4
村方文書に見られる家屋規模の記載に関する考察	白木小三郎，島田多津子	日本建築学会近畿支部研究報告集			'67.4
河内長野市民家の編年に関する一考察	林野全孝，横山泰昇	日本建築学会論文集	号外	P.1001	'67.10
河内長野市民家の変遷について	同上　吉信都夫	同上	同上	P.1002	同上
河内長野市滝畑の民家	同上　沢田清	同上	同上	P.1003	同上
大阪町人の家屋敷の所有状態とその変化－道修町三，五丁目の場合－	白木小三郎	日本建築学会近畿支部研究報告集		P.52	'69.5
兵庫県					
近世末期町屋の変遷に関する一考察－旧伊丹城下町の町家遺構について－	富崎正，沢田清	近畿大学理工学部研究報告	3	P.271	'68.3
伊丹市町家の平面と小屋構造の発展	林野全孝，富崎正，沢田清	日本建築学会近畿支部研究報告集		P.45	'68.5
伊丹市町家の小屋構造の発展について	同上	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.859	'68.10
奈良県					
奈良の民家	工藤圭章	建築雑誌	966	P.20	'66.1
大和郡山「城下と町割」および「郡山内町の町屋建築」	林野全孝	大和郡山市史		P.792	'66.7 '66.10
民家集落の形態的研究その1奈良民家集落の実測調査	篠原一男，坂本一成，鈴木国男，網野精次，志岐孝之	日本建築学会論文集	号外	P.805	
同上　その2面積算定からみた集落形態	篠原一男，網野精次，志岐孝之	同上	同上		同上
同上　その3道と民家平面の結びつき	篠原一男，坂本一成	同上	同上		同上
奈良県菟田野町民家の特徴と建築的変遷	林野全孝，沢田清，富崎正，吉信都夫	近畿大学理工学部研究報告	2	P.205	'67.3
村井好之助家の普請について	林野全孝，吉田高子	日本建築学会論文策	号外	P.1004	'67.10
奈良県における街道沿いの町屋遺構について	林野全孝，富崎正	同上	同上	P.973	同上
菟田野町の民家	林野全孝	菟田野町史			'68
大工松井家の民家普請文書	林野全孝，吉田高子	日本建築学会近畿支部研究報告集		P.41	'68.5
奈良盆地に於ける農業集落の平面形態の研究（その1集落民家の平面形態）	坂本一成	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.781	'68.10

文献名	執筆者	掲載誌	(号)	(頁)	(発行年月)
奈良県生駒郡の大工松井理一家文書（杉本家，中本家の普請について）	林野全孝，吉田高子	同上		P.853	'68.10
和州五組と京都御所安政度御造営についての一史料（大工松井家文書より）	吉田高子	同上		P.927	'69.8
和歌山県					
那智勝浦町市野々にある石積み構造の郷蔵について	富山博	同上			'66.10
和歌山県民家調査概要	宮沢智士	奈良国立文化財研究所年報		P.31	'68
鳥取県					
鳥取県の民家（I）	藤原勉，浜田五郎，鈴木久恵	日本建築学会論文報告集	号外	P.980	'67.10
同上　（II）	同上	同上	同上	P.981	'67.10
鳥取城下絵図について（鳥取城下町の研究－1）	油浅耕三	同上	同上	P.1000	'67.10
鳥取城下町の変遷過程（鳥取城下町の研究－2）	同上	日本建築学会東北支部研究発表会			'69.5
鳥取城下町における武家屋敷地規模について（鳥取城下町の研究－3）	同上	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.915	'69.8
島根県					
島根県，広島県比部の民家	青山賢信	建築雑誌	966	P.22	'66.1
下土師（江川水系ダム水没地）の民家	佐藤重夫	日本建築学会中国支部研究報告集			'68.3
広島県					
広島県比婆郡における四間取民家	青山賢信	日本建築学会論文報告集	130	P.45	'66
広島県比婆郡における民家平面の発展（平入四間取民家形式成立の一契機について）	同上	同上	132	P.54	'66
竹保家住居址柱跡について	佐藤重夫	日本建築学会中国支部研究報告集			'66.9
呉市広町の民家	吉信都夫	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.855	'68.10
山口県					
長州藩における天保期の郷蔵建築（防長風土注進案による）	富山博	同上		P.869	'68.10
四国地方					
四国山間部の民家	白木小三郎	建築雑誌	966	P.24	'66.1
四国山間部に見られる間取の展開方式	白木小三郎，島田多津子，吉田高子	日本建築学会近畿支部研究報告集		P.17	'66.10
愛媛県					
愛媛県民家の平面と構造の変遷	林野全孝，富崎正，吉信都夫，山野昌二，沢田清	同上		P.60	'69.5
伊予の三間取型民家の類例と特色（愛媛県民家調査報告－1）	同上	日本建築学会大会学術講演梗概集		P.899	'69.8
伊予の一列並び型民家の特色と2形式の分布について（〃　－2）	同上	同上		P.901	'69.8
伊予の民家の編年と変遷に関する考察（〃　－3）	同上	同上		P.903	'69.8
高知県					
本川の民家（その1山中頼秀邸について）	川村力男	日本建築学会東海支部研究報告集			'66.11
民家の大引配置と仕口について（土佐大川村）	同上	日本建築学会論文報告集	号外	P.1007	'67.10
本川の民家(2)（高知県本川村）	同上	日本建築学会東海支部研究報告集			'68.6
福岡県					
福岡県の民家	日野智子	日本建築学会九州支部研究報告集			'68.2
佐賀県					
佐賀県の民家	青山賢信	建築雑誌	966	P.26	'66.1
熊本県					
細川家文書による肥後藩作事方棟梁ならびに職人の研究－大工職について－	北野隆	日本建築学会中国九州支部合同研究会報告集			'69.4
求菩提山における修験者の住宅を中心として	太田静六	同上			'69.4
その他					
積算資料としての坪当り大工工数について	西和夫	日本建築学会論文集	号外		'66.10
民家における工費と諸労務の構成について	宮内悳	同上	同上		同上
西サモアの住居形態と住いかた	杉本尚次	日本建築学会近畿支部研究報告集			'67.4
木挽の積算単位「通」について	宮内悳	日本建築学会論文集	号外	P.996	'67.10
木造仕口の形と名称の分布状態について(予備調査1)	広瀬鎌二，木村通男，金子恒雄	同上	同上	P.998	同上
地区共同施設としての郷蔵と郷蔵屋敷の変遷	富山博	同上	同上	P.1007	同上
近世における家普請の工期と工費について(1)	吉田高子	近畿大学理工学部研究報告	3	P.279	'68.3
普請帳にみられる記載形式と地域性にて	島田多津子	日本建築学会近畿支部研究報告集		P.49	'68.5

生活と空間の原理—京の町内 1

A DESIGN SURVEY IN KYOTO by UDO

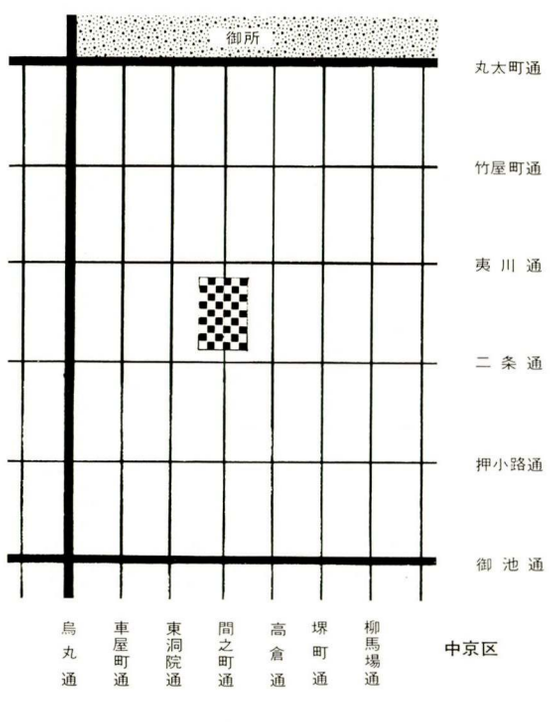
■アプローチ

都市の拡大と変質は近郊農村の都市化，すなわち農村風景の激減，および市街地の更新，すなわち町家風景の消失として，特に大都市圏において急速，顕著に現象している。このような都市化および過密地域を形成する一方，他方では随伴的に過疎地域を形成し，農山村部落の凋落，家屋の荒廃が進行している。

このような社会的変化は，まず景観の変化として，人目をひくと同時に，都市生活環境の悪化は，いまだ都市化に汚染されない農山漁村，空気や水や緑の美しい農山漁村へ建築家たちを駆りたてる。日本アルプスに70万人が殺到するように。すでに発表されているいくつかのデザイン，サーベイの対象地域は主としてこのような農山漁村の部落であり，昔日の俤がいまだ残存している地域，封建的自給的経済圏域を基盤として成立した部落に視点があてられ，ここに伝承される風俗，習慣をもときには織りまぜて，ありし日の部落が，ロマネスクな旋律をもって報告されている。しかしこれらが，現代都市にない魅力を持って現代人の心に訴えるところに，現代都市へのアンチテーゼが含まれているのであろう。

こうして都市の急激な発展は，いわゆる民家やその群構成をあらたな光で照明する。しかし現代都市の疎外的状況をハイマートロージッヒカイトとして宿命的に許容し，幻想的「部落共同体」のスペクトル写真作成の景観的サーベイのみに終るのではなく，民家およびその群構成の空間システムの中に，現代の開発手法をより豊かなものにせんとする方法論を探し求めることでなければならない。そしてこのことは，この空間の歴史性，つまり現代の社会的変動の潮流の中で，なおかつ生き生きと

図1





生命を持って生活されているまさにその空間の容相をとらえることに他ならない。1つの景観が現れるには，その時代の政治的，経済的，文化的要因が作用し，さらにそれに先行する歴史的蓄積の成果であること，逆にいえば，これらの諸要因が空間的現実として結晶しているともいえるのである。

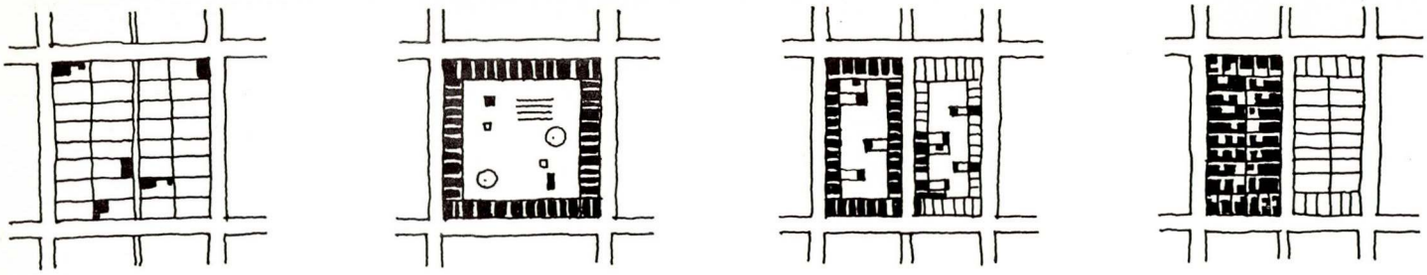
このような観点は，われわれが開発事業に参加し，これを推進する場合に突き当る諸々の問題について，深い示唆を与えてくれよう。そしてまた，デザイン，サーベイもまさにこのようなものとして，位置づけられるべきものである。生活空間の貧困化が，住宅レベルからより広域的な都市生活環境レベルにまでおよんでいる今日，開発事業関係者が生活空間の意味，その機能や質について考え，そのあり方を工夫しなければならないことを痛感する。

現実に開発され，バタリー式鶏舎になぞらえられる住宅団地，劣悪な密集民間建売住宅地などのスプロール地帯の居住空間は，それらが種々の法的規制や日照理論，プライバシー理論に支えられれば支えられるほど，何か大切なものを失なっている。このような居住空間の貧困さは，フイジカルプランニングの段階においても克服されねばならない課題であり，特に居住空間のデザインメソッドが生活と密着したものとして，その日常性の探究を通じて追い求められねばならない理由がここにある。生活と居住空間の融合は，日常生活の諸行為の営まれる近隣空間がウエイトを持つ。住居を拠点とする生活様式が支配的であり，今後もそうであろう場合，現代流行の流動社会やホモ・モーベンスなどの概念に足をさらわれることなく，近隣空間の意味を追求することはこの上なく重要なことである。近隣社会喪失論は，交通，通信の発達による流動性の増加的傾向のみを見て，この傾向性と同じ比率をもって近隣居住空間の価値が増加していることを見落しているのである。意識的にしろ，無意識的にしろ。

このような視点からわれわれは，近隣居住空間が独特の高密度町家群によって構成され，日常生活と深く交り，格子状街路の区画によって明確にその空間単位が決定されている歴史的京都の町内の一つを取り上げて，その空間構成や，現代生活への適応状態，居住者の社会的属性，意識などについてのサーベイを行なった。

■京の町内

平安京以来1200年の歴史をもつ格子状街路によって整然と区画されたブロックは，現代もなお生きつづけている。街路を挟んで向い合う30数戸の家々から成る町内は，近隣居住空間の歴史的な遺産であり，すでに



古代　　中世　　近世　　近代

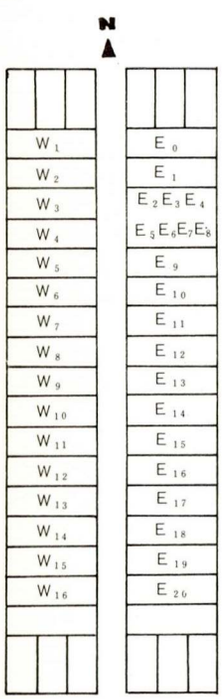
指摘されている低層高密度町家の群構成は，1戸の特殊なプランニングと同時に，それに先行する全体構成がなによりも統一的な居住空間の質を決定している。このような空間構成が現出した社会的背景，現代の町家構成の原型はおよそ室町時代の京商人，職人たちの活躍した近世市民抬頭期に逆のぼらねばならないが，この期の町人たちの自治組織，共同的生活の空間的表現として，これらを見るとき，そこに現代にもなお生命を持ち，さらに今後の開発に組み込まれなければならない多くのものを含んでいると考えられる。

約121Mの格子によって区画されたいわゆる平安京の坊条制ブロック割は，町の源であり市の発達によって発生する中世商人の町家群の構成に受けつがれる。町家に挟まれた街路は，流動的空間であり，相対する家によって町が構成され，方形の家並が囲む内部の庭は井戸，便所，物置，蔬菜畑などがしつらえられた共同広場として，4つの町の人々がコミュニケートする空間でもあった。乱世の戦火をくぐってグリッドはなお生きつづけ，近世商工業者の躍動期に入ると，町人たちの経済力の上昇に裏打ちされて町家は中世の中庭へのびる，クラやハナレが作られ，共同広場の個別化が進行する。と同時に中庭を媒介とするヒューマンコンタクトは薄らぎ，街路を挟んで向かい合う家に，町の緊密性が増大する町家は，グリッドの中で，あたうる限りの空間を機能的に内部化し，高密近代都市住宅の典型として完成され，現代に流れ込む。

（参考：林屋辰三郎：京都：岩波新書）

間口が狭く，奥行の深い町家は，内部の種々の空間，機能，装置を内蔵し，昔日の俤を現代に伝えていると同時に，とくに戦後の激しい生活様式の変化によって，増改築，模様替がおこなわれ，新しい生活様式への適応も明らかに見てとれる。そしてまた，内部化された庭の機能は，高密度都市住宅における自然的空間の必要性，その生活への融合性のゆえに，新鮮な印象を与えた。これらの町家によって構成される一つの町内は，「オチョウナイ」という人格化された通称を持っているように共同性，連帯性が生活の中に融合し，協調的な町内組織を維持してきた。このような組織が維持される一つの要因として，町内の空間的構成はあずかって力があった。

図3



町内構成

■ 夷　町

対象地区の町内は「中京区」によっても表現されるように京都市のほぼ中央，京都御所の南，京都市の中央軸である烏丸通り東に位置し，市によって商業地区に指定されている。歴史的な町（ちょう）の構成を空間的にもまた社会的にもうけつぎ，明確な近隣空間単位を形成している一つの町内である。町（ちょう）を南北に貫通する街路（間之町通り）を挟んで向かい合う36戸の家々は，東側20戸（昭和41年に1戸撤去，新築され隣の町内に帰属したE_0と非居住の倉庫E_{13}），西側16戸（1戸は日本電信電話公社事務所，非居住・W_{15}）よりなり，世帯数38（E_9は2世帯，E_{14}・W_8は1世帯で使用），町内総人口159人（使用人などは含まず）である（昭和43年12月末現在）。

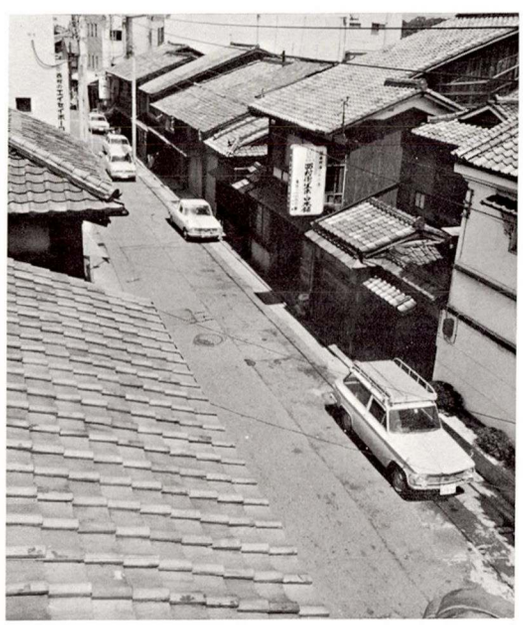
職業は，サラリーマン，自家営業，自由業の各種を含み，したがって専用，併用住宅の混合地区であり，平均居住年限40年，現世帯主からみて祖父の代から居住しているという世帯が2割弱ある。

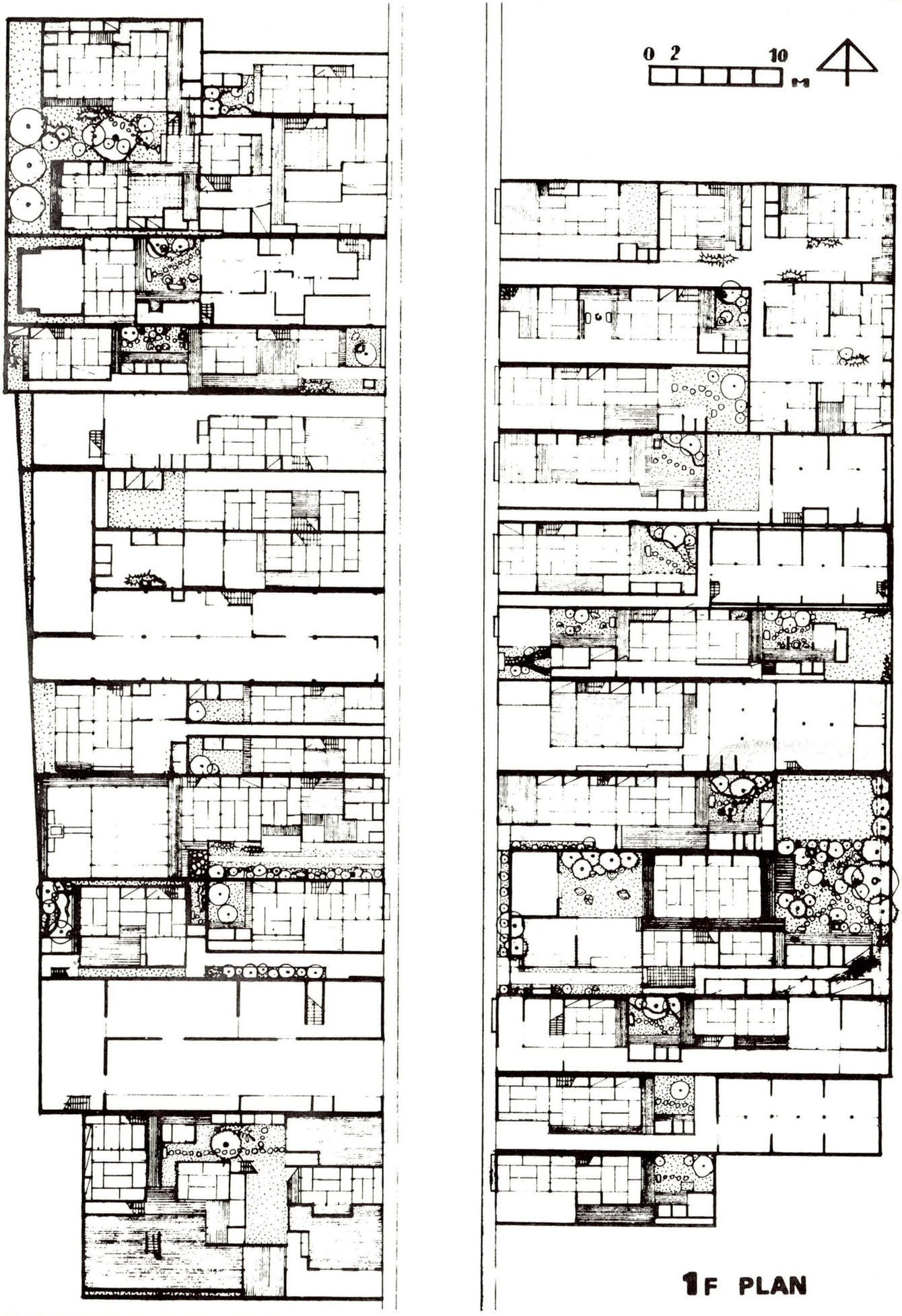
町（ちょう）は町内会をもち，年中行事も活発におこなわれ，町内組織はいまだに生きつづけている。町内居住者の生活意識には，「町内」が深く滲透し，それは居住者の日常生活の安定性にも作用していよう。このようにして，空間的なものと社会的なものがかかわりあう高密近隣居住空間としての町内はすぐれたデザイン・サーベイの対象と考えられた。

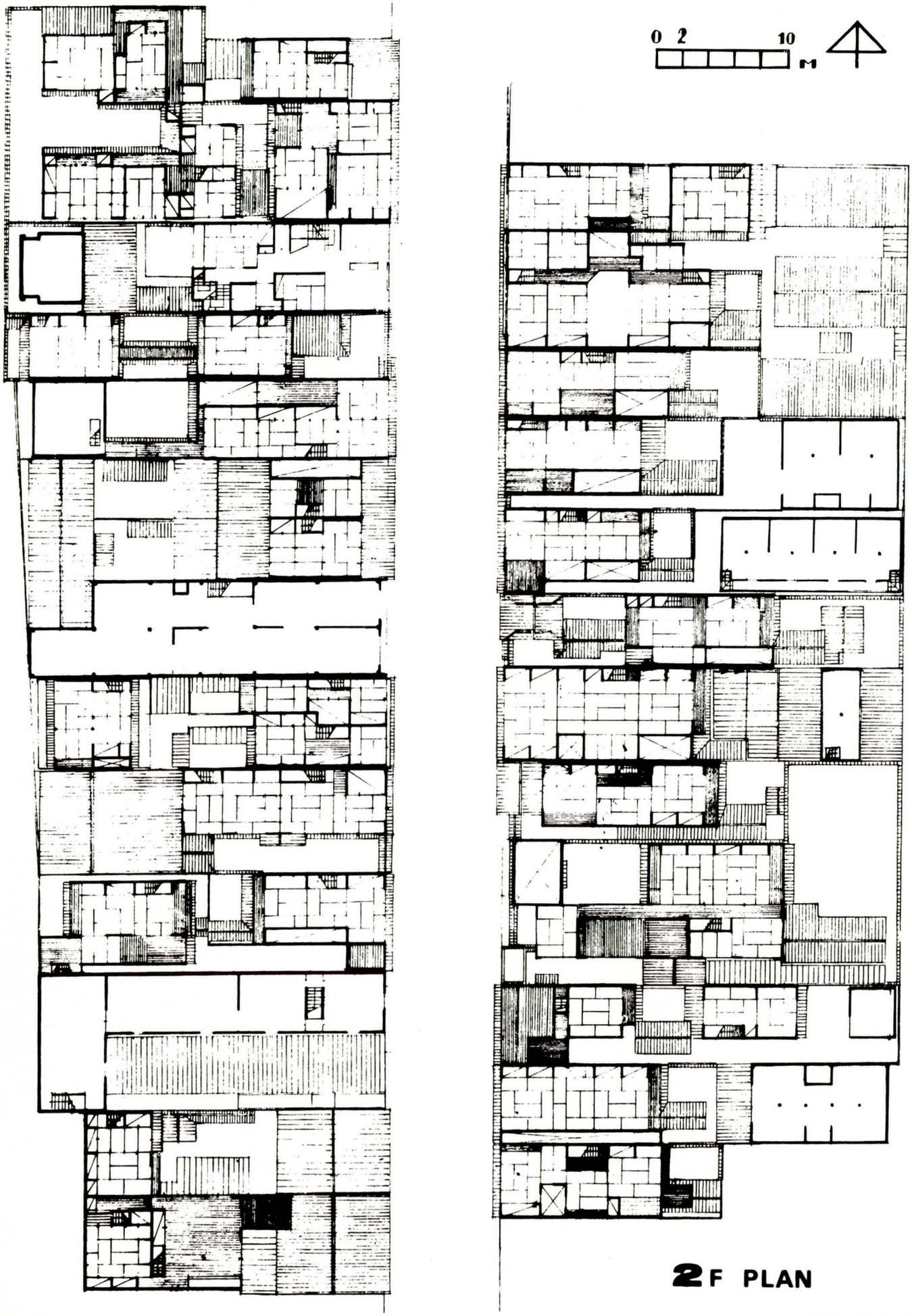
- 対象地区；京都市中京区夷町
- 調査時期；昭和43年9月～昭和44年8月
- 調査方法；ヒヤリング，観察，写真撮影，スケッチ，資料蒐集

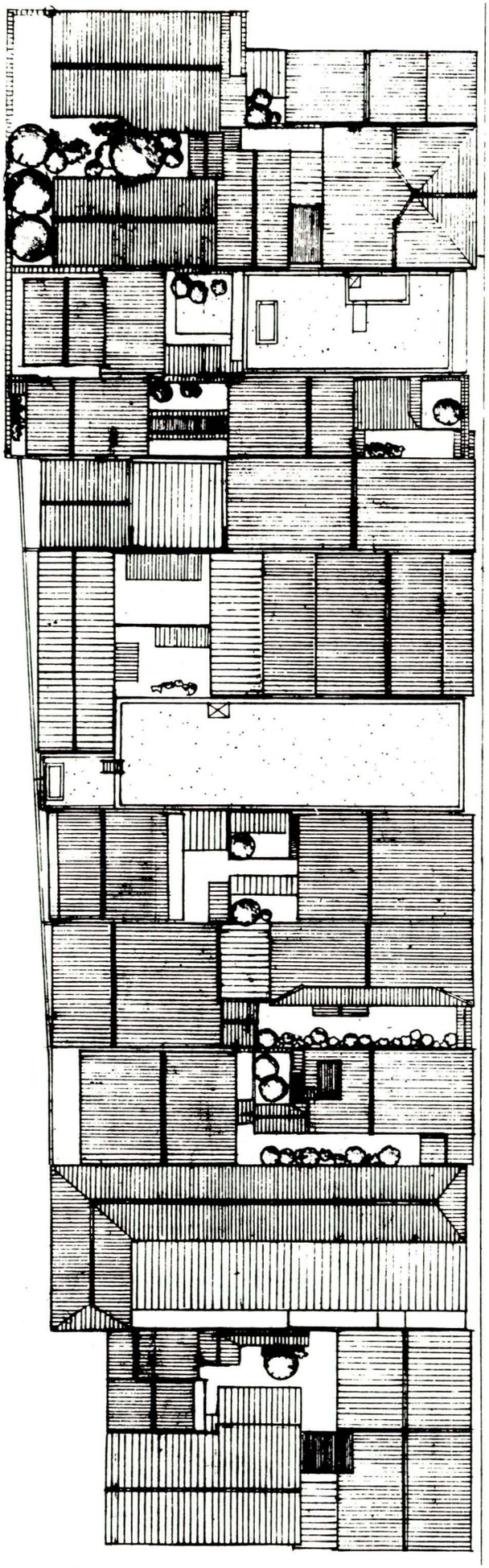
■ 空　間　と　密　度

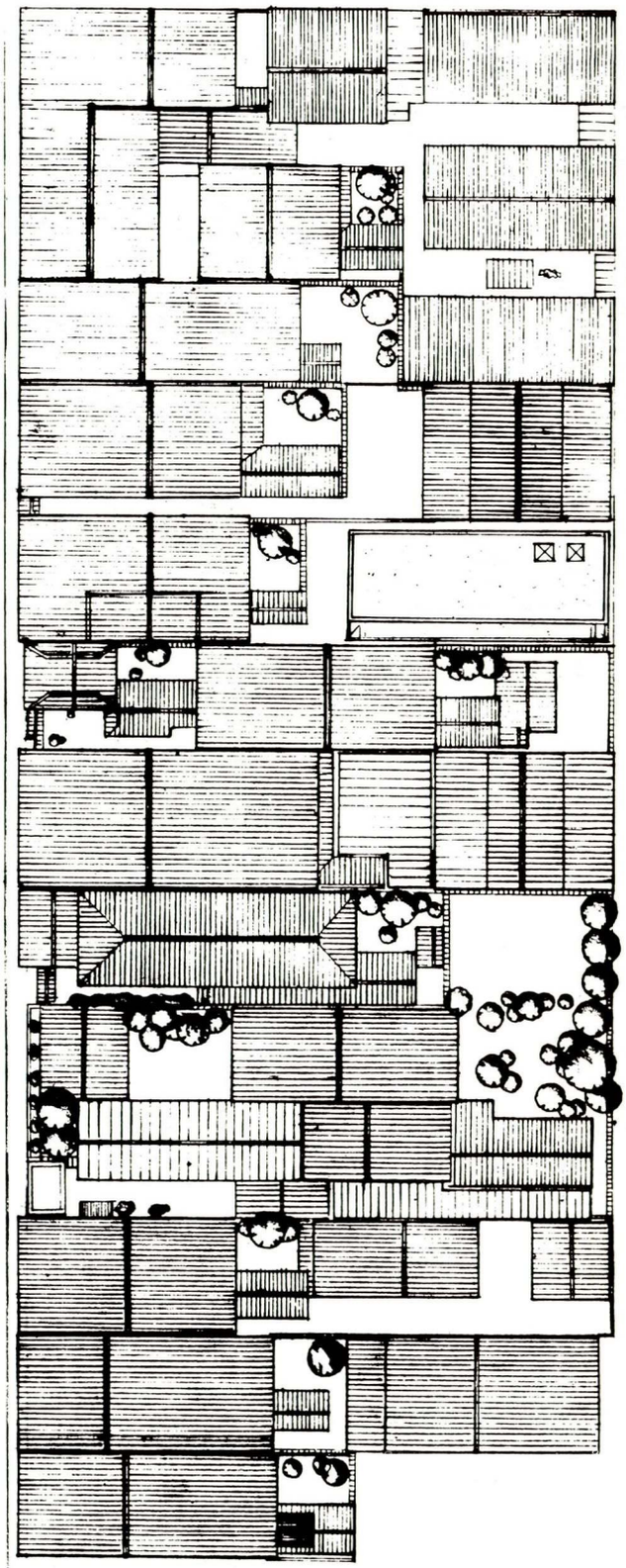
町内の全体的空間構成は，道路オープン・スペースと町家エンクローズド・スペースよりなり，この外部空間と内部空間の関係は居住者によって，オモテ（あるいはカド）とウチというように表現される。しかしこのオモテとウチは空間的には明確に分離されているが，生活行為にお

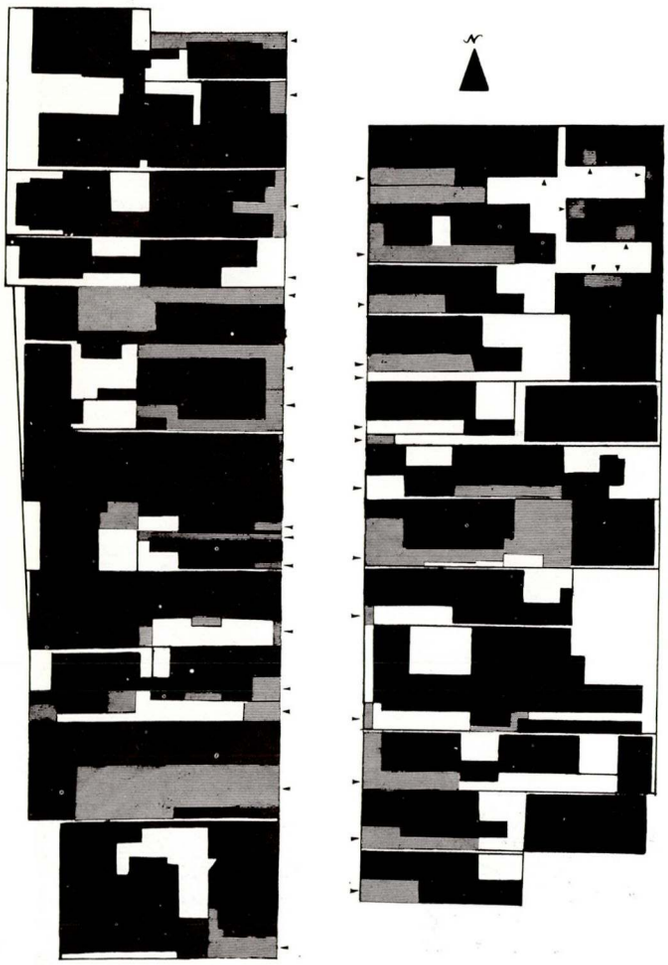



0 2 10 M
1F PLAN

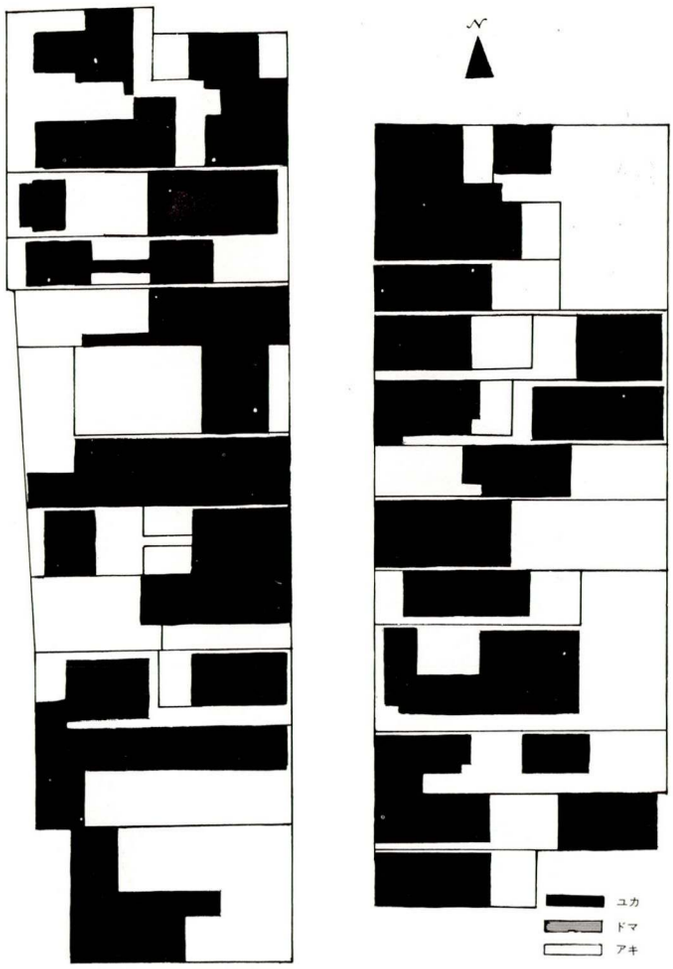

0 2 10
M
2F PLAN







1 階



2 階

いては相互に密接な関連性をもち，ウチの生活行為がカドへひろがり，カドの生活行為がウチへひきこまれる。

このようにして町内近隣居住空間は格子状パターンの規定性のなかで，種々のヴアリエーションをみせる。ウチもまた格子状フレームによる量産的ストラクチヤーをもち，空間ユニットの高密な機能集積とみなすことができる。庭やサービスヤードなどの内部オープン・スペースさえこの空間ユニットとしての性格づけがおこなわれ，空間格子の増殖性の歴史的具体例として，またこの空間格子に充填された濃密な生活内容のゆえに，ひときわ大きな空間価値をもっていると考えられる。

町内の宅地総面積は4805M^2，これに挟まれた道路面積569M^2（幅員6.5M）を含めると，近隣居住空間の敷地面積は5374M^{2}である。したがって町内総人口159人（使用人などを含まず）の日常生活を容れる居住地区の人口密度はネット320人/ha，グロス287人/ha，となり，現在開発されている中層集合住宅団地（公団の場合）の300人/haと比較すると町内がどの程度高密であるかがわかる。

また町内の容積率は現況でネット114.4%，グロス102.2%（付属家床面積を含む）となり，前記中層集合住宅団地の容積率60〜70%，市街地高層集合住宅団地の160〜200%と比較するとその空間利用の密度の大きさがうなずける。

そして町内の町家はほとんど2階造（新築分2戸のみ3階造）であることを考えると，このことは道路オープン・スペースの重要性を意味すると同時に，宅地内部のオープン・スペースが極限的にきりつめられ，内部化され固有の機能と質をもっていることを意味している。

町家の平均的規模については，敷地面積133.5M^2，建ペイ率（付属屋を含む）は64.6%，居住部分の1階床面積69.4M^2，2階床面積56.2M^2，3階床面積6.0M^2，延床面積131.6M^2，付属屋平均床面積は1，2階それぞれ17.0M^2，4.1M^{2}となり，付属屋をもつ町家10戸の付属屋平均床面積は，1，2階それぞれ61.1M^2，14.8M^{2}である　（付属屋は御蔵，倉庫，作業場，工場，本堂）。

居住部分平均延床面積131.6M^{2}は公団住宅の平均規模48M^2（専用部分）（共同部分は4M^2）に比較すると，はるかに大きい床面積をもっていることがわかるが，家族員数との関係をも含めて考えると，町家の場合31M^2/人，公団住宅の場合14M^2/人となり，やはり2.2倍の規模をもっている（平均家族員数は町家5.3人，公団住宅3.5人）。

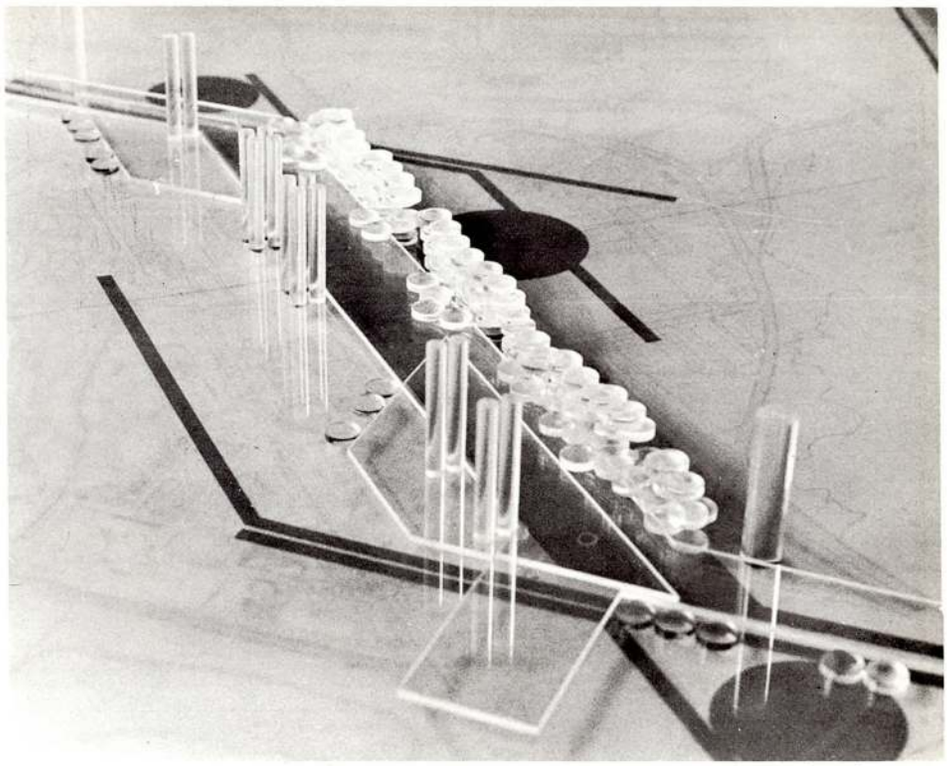
前面道路の重要性を考え，道路面積を各町家にわりふると15.8M^2/戸となり，これに接する平均間口は4.9M，奥行は最短14M，最長31M，平均27.5Mである。平均的な間口と奥行の比率，細長比は1：5.5である。

なお純町家風住宅22戸を抽出した平均敷地面積は134.9M^2，平均居住部分延床面積121.9M^2，付属屋を含めと143.9M^{2}であり，容積率（付属屋を含む）はネット100.6%，グロス89.4%である。　（つづく）

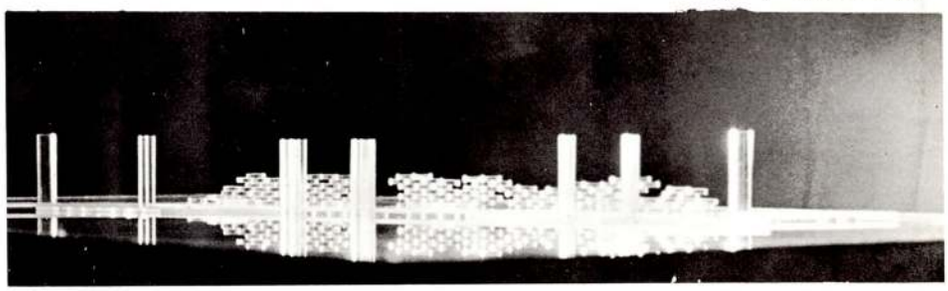
日本万国博跡地開発計画

TEAM BARK

1



写真－1　プロジェクト No.1



写真－2　プロジェクト No.1

TEAM BARK

プランナー　奥保多聞
　　小北博一
　　佐久間照弥
デザイナー　植田昌吾
　　清水正俊
　　中森孝紘
　　松田隆
　　山本良介
リサーチャー　佐野武仁
　　芝野孜
　　中東達男
　　中村守保
（アイウエオ順）

万国博跡地開発計画

プロローグ
第1章　都市人口の策定
1－1　都市環境装置からのアプローチ
1－2　大阪府地方計画における位置づけ
1－3　都市交通機関のキャパシティ
第2章　都市機能は何が適当か
2－1　世論としての跡地利用構想
2－2　新全国総合開発計画との関連
2－3　近畿圏とエキュメノポリス
第3章　都市空間構成
3－1　土地利用計画
3－2　都市軸計画
3－4　交通動線計画
3－4　環境装置計画
3－5　VOLUMEの設定
第4章　建設プログラム
4－1　建設年度計画
4－2　組織と運営計画
4－3　予算計画

プロローグ

小竹の葉は　み山もさやに
さやげども　吾は妹思ふ
別れ来ぬれば
柿本人麻呂（巻2・133）

1．歴史的風土

京の桂の西端，丹波高原の南端から発して南へ摂津山系と称せられるあたり，竹林がなだらかな丘陵をおおいつくしている。万葉集の中にある「さや」という音は魂を鎮める意味，とは折口信夫師によって定説となっている。「竹取物語」は，私たちの幼年期の昔話として，その美しさは血肉化されている。京の地理的環境が日本列島の中において際立った特質は，その歴史的風土性にある。いま山崎の天王山を中心にして，その東西はそれぞれ侵蝕されつつある。万国博の敷地もその西端に位置する。

そもそも万国博の意義は，最終の跡地利用計画による周辺都市への戦略的開発へのモーメントとして解したい。それは，オリンピックなどの都市的スケールのプロジェクトに共通して有している現代的意味であろう。万博跡地利用の方向性は，1に公園，2に大学，3に研究センター，4に流通センターとある。いにしえの竹林は公園にしても地相ごと変われば，その風土は失なわれてしまっている。1日50万人から60万人の入場予定者の万博の都市的環境は，万博のパビリオンが打ち壊されたあと瞬時にして消滅するのであろうか。

2. 都市としてのポテンシャリティ

私たちのチームは，会場基本計画，基幹施設設計，基幹施設共同実施設計，お祭り広場共同監理へと，種々の段階に参加してきたが，都市設計から建築の実施設計監理に至る道程をもう一度逆にたどることによって，第1に，会場内に直接に投ぜられた公共投資を検討し，第2に道路，国鉄，私鉄，高速鉄道，下水道，空港，都市改造などの関連事業を策定し，跡地の地域社会における意義を推定する。さらに第3に新全国総合開発計画を含め，将来への都市開発の戦略的基地としての策定を考察した。

その結果私たちは，業務都市として10万人の収容力のあるオフィス街を想定し，地下に埋没されている基礎施設を活用する。全国の交通ネットワーク体系の中心としての吹田インターチェンジに隣接する近畿・大阪の産業の情報的基地としての性格を，摂津山系に連なる千里ニュータウンなどの住宅都市群と対応させた。

都市とは一種の装置である。1つは生理的環境を人間生活に合わせて制禦する装置，地域冷房・暖房などに表われる環境装置を必要とする。（ただしアイロニカルに今や公害を発生する産業という装置があるが。）1つは，市民生活の中で全体と個人をつなぐ場としての装置，「広場」であろう。現代における広場は，装置化された環境芸術の中にその方向性を暗示させる演出可能の装置を有する「広場性」であろう。さらにそれは自然そのものではなく，四季の律動を民族性の中に生かす「祭」の中に華と表現され，季節の変化を市民に体感させる人間と生活に深いかかわりあいを持つ体系化された装置としての「自然性」がある。

さらに，都市生成発展の過程は，市民の参加がなければならない。都市形成のパースペクティブを一部の官僚機構と産業界が展望するだけでは，現在の市民生活に対する都市は生まれ得ない。今や都市の発展は市民の直接参加の方法が，論理的に可能でなければならない。今や跡地利用は市民の世論の参加をもってしなければならない。

第1章　都市人口の策定

1—1　都市環境装置からのアプローチ

今日私たちの生活領域である「都市」の大きなテーマとして，クローズ・アップされてきた都市スプロール化現象は，さらに，人間の生活環境を阻害し始めている。これらは「公害処理」というテーマとして大きく拡大化されつつある。

都市生活は，「都市人工環境装置」と「自然環境」の中で展開するものであり，公害処理というテーマは，都市人工環境装置の分野からアプローチするものである。

周知の通り公共施設装置不足のままに展開する市街地は，近年スラムを形成する原因ともなり，さらに公共施設装置の過当な要求となっている。また都市の地価高騰は，低密度の広域都市市街地化を促進するものである。これらは当然，公共施設装置の要求となり，無計画に後手に廻った公共施設装置の投資は過大なものとなっているし，社会資本の莫大な損失である。にもかかわらず，問題解決には値していない。

現代の都市が求める「多元」，「多角」の人間活動の展開，莫大な情報処理システム，システム化を求める都市の諸機能，その中で人間を主体とした"生活"をするには，マクロの視野に立ち，常に人間をかかげた現代都市の人工環境装置計画が，新しいテーマとなる。

万博会場における人工環境装置：

日本万国博は，会場面積330haの地域に総入場者3,000万人，休日ピーク時42万人を基礎として計画されたが，休日のピーク時の50%増加に対応し得る諸施設機能のキャパシティを，持ち得るものと推定される。したがってこれらの諸施設は一つの都市を形成するに値するものである。万国博会場内での人工環境装置を作りだす源である諸エネルギー，すなわち，ガス，電気においては，30万人都市の機能を活動させ得る能力をもっている。仮にほかの既成都市における諸エネルギーと比較した場合，冷房10万人，給水18万人，ガス39万人，電力38万人に対する供給能力を持つ諸機能を有している。

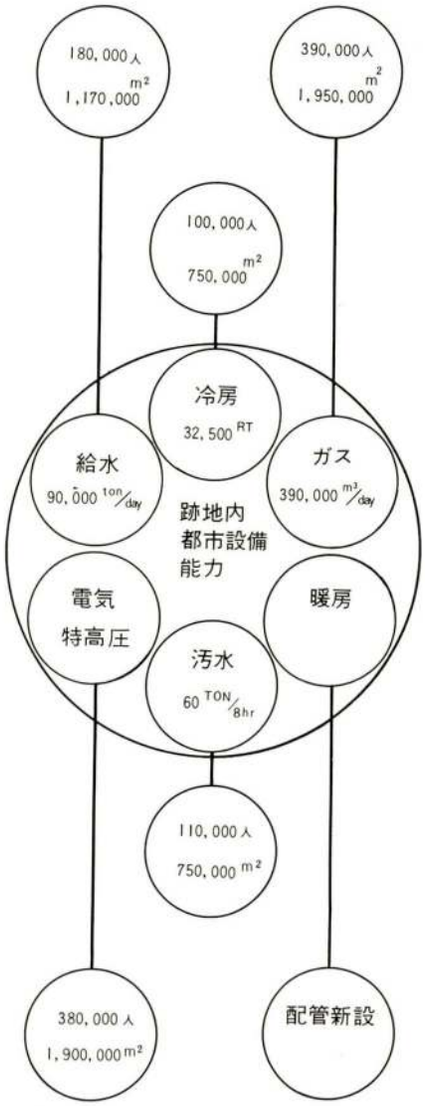
次に，会場内の上記各供給源の諸施設においては，建設費の50%を投入しネットワークシステムによるフレキシビリティのある計画であり，いかなる負荷分布状態にも順応でき得るものである。

とくに会場内での特長としては，情報システムの完備にあり，データ通信システムを始め，通信網のネットワーク，特に非常時における即応性は，ほかにみられない性能を有している。今後の都市環境装置作りにおいて，もっとも要求され得るものとしては，高性能化，防災対策などがあり，その一翼である情報施設は特に留意すべきものである。会場内での防災対策については，その一つの大きな課題である。公害問題も地域供給システムにより対処され，電気エネルギーの充分なる活用により処理され得る能力をもっている。

供給システムについては，上記のごとく，事故，故障による対策を重要視し，分配方式としては，ネットワーク方式，ならびにループ方式が計画されている。今回計画された会場は，山地を開発し，すべて人工環境による一大都市を作りだし，これらのエネルギー，および分配システムなどの計画はほかに見られないものがある。短期間に作り得た人工環境の最大の施設といって過言ではないと思う。"人類の進歩と調和"のテーマにある進歩を，設備機能はかかげ，情報処理機構をもつ都市が必要であろう。

万国博会場に設置される人工環境装置は図—1のごとくである。

図—1　許容都市人口及び推定床面積



この計画は数カ月に渡って本誌に連載するものである。読者の皆さまのご意見を参考にしながら，私たちは研究を進めたいと考えますので，積極的なご意見を歓迎いたします。

大阪マーチャンダイズ・マート

設計施工　　株式会社　竹中工務店



OSAKA MERCHANDISE MART

photo: O.Watari



パイプシャッター工事
設計・製作・取付

株式会社 日本シャッター製作所

大阪市東淀川区田川通6－38 TEL．301−3656





▲16階 天井　　ロックスター

田島応用化工株式会社

大阪 大阪市西区京町堀1－74 TEL．441－5951(代)

東京 東京都千代田区岩本町3－11 TEL．866－6101(代)

▼5階 床　　Pタイル





▲2階　大展示会場

MY－WALL

日本マイウォール販売株式会社

大阪市西区靭本町1-96(ナルトビル)　TEL．532－4686・0021

OMM

鐘淵合成化学工業株式会社

▼屋上

ベルシート防水工法

大阪市北区太融寺町33　TEL．313－4024・3734



カネボウ ゴーレックス





大阪マーチャンダイズ・マート

鉄骨工事

川崎重工業株式会社

大阪市北区堂島浜通り2-4(古河大阪ビル) TEL. 344-1271

株式会社 駒井鉄工所

大阪市港区福崎２－１－３０ ＴＥＬ．572－1112

松尾橋梁株式会社

大阪市大正区鶴町３－１１０ ＴＥＬ．552－1551

三菱重工業株式会社大阪営業所

大阪市北区梅田２(第一生命ビル) TEL. 313－1231

塗装工事

株式会社 中村塗装店大阪出張所

大阪市西区本田町１－５１ ＴＥＬ．581－2771

株式会社 三木塗装店

大阪市住吉区苅田町１－４ ＴＥＬ．699－6565

鉄骨耐火被覆
トムレックス工事施工

日本アスベスト株式会社大阪支店

大阪市南区塩町通４－２５ ＴＥＬ．252－1371

アスファルト防水工事

三星産業株式会社 大阪出張所

大阪市西区京町堀１－７４ ＴＥＬ．443－9721

大理石工事

株式会社 矢橋大理石商店大阪支店

大阪市東区高麗橋2-9(野村ビル) ＴＥＬ．202－4905

消防法令と火災感知器

田中隆夫

1. はじめに

火災感知器が開発されて利用されるようになった歴史は意外と古く，大正初期に始まる。古い大きなビルなどで設備されているものを時折り見ることがある。昭和35年消防法の大改正が行なわれ，昭和36年4月1日より施行された消防法施行令，同施行規則により，その他の消防用設備とともに火災感知器(自動火災報知設備)の設置が義務化されたが，それ以前は一般に義務的でなく，大都市以外においては法規制もなかったので，その普及はすこぶる低調であったといえる。（1部，保険料率の割引対象として，損害保険料率算定会の規則によって設置していた）したがって，昭和36年新法の施行によって，本当に火災の早期発見の必要性が強く感じられ設置の義務化に伴い，現在では広く普及してその設置が見られ，大方，認識もされているところであろう。本年3月にはさらにまた，消防法令の一部改正強化が行なわれ（本誌6月号に概要掲載）とくに警報設備(自動火災報知設備，非常警報設備)については従前に比し，きめ細かな規制の強化が行なわれている。なかんづく感知器については従来，感熱式感知器のみを用いたものであるが，さきに続発した旅館，ホテルにおける火災の悲惨な事例に見るごとく多数の死者をだしたことにより，より早く火災を発見すること，すなわち，煙の発生した時点でこれをキャッチする煙感知器を設置することも義務づけられたのである。ここに消防法令の改正に関連して，火災感知器，つまり自動火災報知設備についてその概要を記し，本設備の設計，施工上参考となり，役立つならば幸甚と思う次第である。

2. 自動火災報知設備とその構成

自動火災報知設備とは，自動的に火災の発生を当該防火対象物の関係者に報知する設備であって，感知器およびP型受信機または感知器，中継器およびP型受信機もしくはR型受信機で構成されたものをいうのである。（昭和44年3月31日自治省令第4号火災報知設備に係る技術上の規格を定める省令。第2条用語の意義による。）ここで感知器とは火災によって生ずる熱または火災によって生ずる燃焼生成物（煙）を利用して自動的に火災の発生を感知し，これを受信機に発信するもののことである。煙感知器（イオン化式，光電式のもの）については，従来，感熱式感知器と同等以上の効果があるものとして特例によりその使用を認められてきたのであるが，今回の法改正，ならびに技術規格の制定により，こんごは正式に検定を受けることになり，合格品を技術上の基準に従って設置することとなったのである。自動火災報知設備の設置方法に関する基準（技術上の基準）は，消防法施行令第21条第2項，ならびに同規則第23条および第24条に規定されており，その構成は大要次のようなものである。すなわち，感知器，受信機，ベル（警報），電源（常用電源と非常電源が必要）およびこれらを結ぶ配線ならびに導通試験装置によって構成されている。（表—1および図—1）

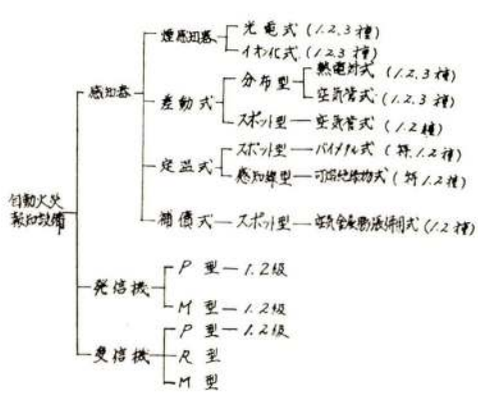
(ｲ) 感知器の構造，機能

ア　**差動式スポット型感知器**はその周囲温度が一定の温度上昇率以上になったときに作動するもので，局所の熱効果によって作動する型式のものであり，感知器の内部は図—2に示すような構造になっている。温度が変化する場合の感圧室の空気は感知器の周囲の温度変化に伴い，膨張または収縮し，それに伴ってダイヤフラムが伸縮し接点を閉じ，感知器が作動するのである。またリーク抵抗は非火災報を防止するために設けられている。

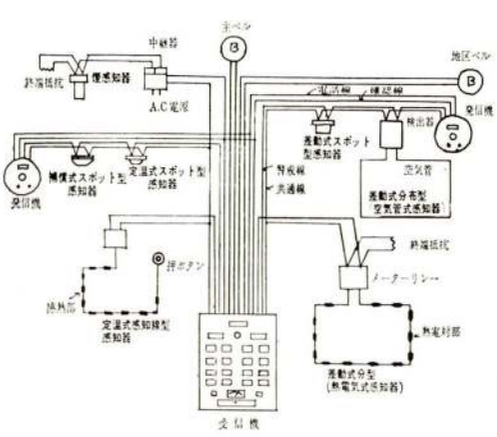
イ　**差動式分布型感知器（空気管式）**は，その周囲温度が一定の温度上昇率以上になったときに作動するもので，広範囲の熱効果の累積によって作動する型式のものである。作動原理は前述と同じく，スポット型の感圧室に相当する受熱部が直径1.94ミリの銅管（空気管と称する）であり，ダイヤフラム，リーク抵抗および接点機構を備えたものが図—3に示す検出器である。この感知器は警戒しようとする部分の天井または床面下の四周に空気管を張りめぐらし，その両端を検出器に接続しているものである。よく検出器のことを感知器といい，感知部分としての中空銅管を空気管と称しているが，消防法令では検出器を含め，とくにこの空気管のことを感知器と称している。一コの検出器に対する空気管の接続長さが余り長くなると非火災報を生じやすいので，消防法令でこれを100m以下としなければならないと規制している。

ウ　**差動式分布型感知器（熱電気式）**は，熱電対部，すなわち，熱容量の異なる温接点と冷接点とからなる熱電対を数対直列接続したもので，これに温度をあたえると回路に起電力が生ずるというゼーベック効果を利用したもので，線状をした熱電対部と検出器（メーターリレー）とによって構成されているものである。（図—4）

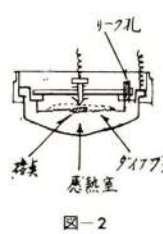
エ　**定温式感知器（スポット型）**は，一局所の周囲の温度が一定の温度以上になったときに作動するもので，電線状以外のものであって，半導



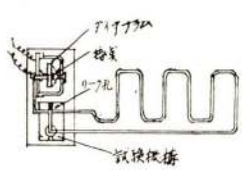
表—1



図—1



図—2



図—3

体を利用したものと金属の膨張を利用したものとの二種類があり，前者の場合は一定の温度以上になると抵抗値が急激に減少する半導体の特性を利用したものである。また後者は金属膨張（バイメタル）を利用したものである。（図―5）

オ　**定温式感知器（感知線型）**は，一局所の周囲温度が一定の温度以上になったときに作動するもので外観は図―6のごとく電線状を示している。これは二本のピアノ線を一定の温度で溶ける物質（可溶絶縁物，ホロウ合成樹脂）で電気的に絶縁して，よりあわせたものである。

カ　**補償式スポット型感知器**は，一局所の周囲温度の変化によって感度が変化するもので，差動式および定温式感知器の性能を有しているものである。（図―7）

キ　**煙感知器（イオン化式）**は熱を受けて作動するものではなく，燃焼生成物の微粒子によって作動するもので，要素としては放射源（ラジウム，アメリシウム）を使用している。この感知器は，放射線源の放射するアルファ線が空気分子をイオン化するのを利用するもので，構造は内部イオン室と外部イオン室からなり，内部イオン室には燃焼生成物は入らず，外部イオン室にのみ燃焼生成物が入るようになっている。作動原理は内部イオン室および外部イオン室を通じて直列に電圧を加え，電流を流しておくと外部イオン室に入った燃焼生成物のために，外部イオン室の空気のイオン化作用が妨げられ電流が減少する，この電流の減少をキャッチして電気的に警報を発するものである。煙感知器は高い電圧を使用していることで，受信機は特殊なものを用いる（中継器）が，最近はこの受信機を使用しないで（中継器不用）P型受信機の回路に接続できるように特殊回路を内蔵したイオン化式煙感知器が開発されている。（**写真**）

ク　**煙感知器（光電式）**は煙は進入するが，周囲の光は進入することのできない構造の函（ラブリンス）に大気中の煙を導入し，光源ランプにより煙粒子に光を照射して，反射光線のみをフオットセルにより検出しその出力を電気的に増幅し火災信号を発するものである。煙感知器の感度は，その種別（1種，2種，3種）に応じ，濃度（一定の距離を置いた送光部と受光部との間の煙により光の強さがランベルトの法則に従って減ることを利用して減光率《1m当りの%》で示す。この場合において，光源は色温度2,800度の白熱電球とし，受光部は視感度に近いものとする）Kが5～20の煙を含む空気に触れたとき非蓄積型（煙の蓄積による作動の有無により区分するもの）のものにあっては30秒以内，蓄積型のものにあっては60秒以内で作動し，濃度2.5～10の煙を含む空気に触れたとき5分以内では作動しないものでなければならないとされている。

㈡　設置の基準

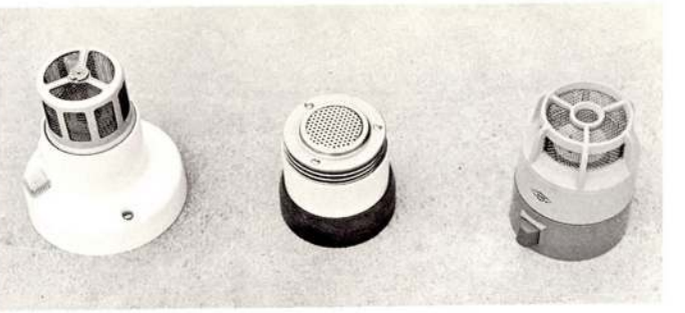
取付け面の高さと感知器の種別は別掲**表の2.3.4**とされている。感知器は必ず1の感知区域（それぞれ壁または取付け面から0.4メートル《差動式分布型，煙感知器は0.6メートル》以上突出した梁などによって区画された部分）ごとに設置しなければならない。またスポット型感知器は**表3.4**中の数字の床面積に1コ以上を，煙感知器でローカおよび通路に設けるときは歩行距離30メートルにつき1コ以上，階段傾斜路に設けるときは垂直距離15メートルにつき1コ以上を設置することになっている。

3.　お　わ　り　に

以上，消防法令の改正に関連して自動火災報知設備の概要について記してみたのであるが，他の消防用設備とともに，その必要性は極めて重要なことであり，火災の早期発見，初期消火，避難のための設備は欠くべからざるものであり，その設置に当っては，より有効に適切でなければならず，また常に点検，整備につとめ適正に維持されなければならない。そしてこれらの設備のもつ機能を有事に際して遺憾なく発揮して，その目的が達成されるならば火災による被害は軽減され，尊い人命が保護されるであろうことが期待される。

参考資料　1.　火災報知設備（日本火災報知機工業会）
2.　消防設備士必携（消防庁予防課編）

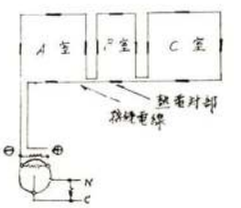
（たなか　たかを　大阪市消防局予防課建築係長）



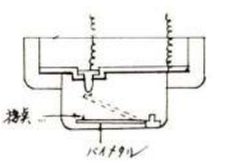
煙感知器（イオン化式）



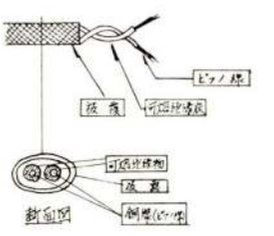
煙感知器（電光式）



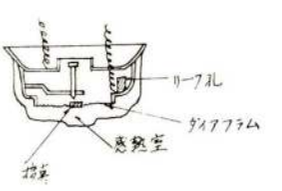
図―4



図―5



図―6



図―7

取付け面の高さ	感知器の種別
四メートル未満	差動式スポット型，補償式スポット型，定温式スポット型，イオン化式又は光電式
四メートル以上八メートル未満	差動式スポット型，補償式スポット型，定温式スポット型若しくは二種，イオン化式一種若しくは二種又は光電式一種若しくは二種
八メートル以上十五メートル未満	差動式分布型，イオン化式一種若しくは二種又は光電式一種
十五メートル以上二十メートル未満	イオン化式一種又は光電式一種

表―2

取付け面の高さ	感知器の種別				
	差動式スポット型	補償式スポット型	定温式スポット型		
四メートル未満	一種	二種	一種	二種	特種
	九十	七十	九十	七十	七十
四メートル以上八メートル未満	五十	四十	五十	四十	四十
	四十五	三十五	四十五	三十五	三十五
八メートル以上十五メートル未満	四十五	三十五	四十五	三十五	三十五
	三十五	三十	三十五	三十	三十
十五メートル以上二十メートル未満	三十	二十五	三十	二十五	二十五
	二十五	二十	二十五	二十	二十

表―3

取付け面の高さ	感知器の種別	
四メートル未満	一種及び二種	三種
	平方メートル 百五十	平方メートル 五十
四メートル以上八メートル未満	七十五	
八メートル以上二十メートル未満	四十	

表―4

▶きりとり線

建築データシート 中間 総合目次

●建築データシートをより一層ご活用いただくために，第1回より第18回（建築と社会・8月号附録）までの，発行全シート（408シート）の目次を作成いたしました。本誌より切取ってご利用下さい。
●目次は，「A．仮設工事」～「X．特殊工事」の24工事順に，各工事の細目次および整理番号，製品名・工法名，会社名を掲載しております。
●建築データーシートは，600シートを発行目標にこんごも編集作業を継続しておこないますので，会員各位のご協力をお願いいします。

建築データーシート編集委員会

A．仮設工事

1．工事機械

1-1-1	ショベル系掘削機	クローラークレーン	石川島コーリング㈱
1-1-2		小松25B パワーショベル	㈱小松製作所
1-1-3		三菱ユンボパワーショベル	三菱重工業㈱ 三菱商事㈱
1-2-1	揚重機	トラッククレーン	石川島コーリング㈱
1-2-2		O.J油圧ジャッキアイザー油圧ポンプ	㈱大阪ジャッキ製作所
1-2-3		越原鉄工クレーン／他	㈱越原鉄工所 越原機械㈱
1-2-4		西部電機ウインチ／他	西部電機工業㈱
1-2-5		ヒシノ式ロングリフトユニクレーン	菱野金属工業㈱ 安宅産業㈱ ㈱西部機電社
1-2-6		トラッククレーン	㈱加藤製作所
1-2-7		多田野ハイドロクレーン	㈱多田野鉄工所
1-2-8		パイロクレーン／他	㈱小川製作所
1-3-1	くい打機，くい抜機	ニツペイパイプロハンマー	日平産業㈱
1-3-2		アースドリル	㈱加藤製作所
1-3-3		三菱ディーゼルパイルハンマー	三菱重工業㈱ 三菱商事㈱
1-4-1	ポンプ	ツルミ水中ポンプ	㈱鶴見製作所
1-4-2		ライカ電潜工事用水中ポンプ	ライカ電潜㈱
1-5-1	コンクリート機械	極東開発コンクリートポンプ	極東開発機械工業㈱
1-5-2		三菱コンクリートポンプ車BP−30T	三菱重工業㈱ 三菱商事㈱
1-5-3		丸紅飯田トムセンコンクリートポンプ	丸紅飯田㈱
1-5-4		HV型フレキシブルバイブレーター	林バイブレーター㈱
1-6-1	コンプレッサー・その他	エアマンポータブルコンプレッサー	北越工業㈱
1-6-2		三井ポータブルコンプレッサー	三井精機工業㈱
1-6-3		ヤンマーディーゼルエンジン／他	ヤンマーディーゼル㈱

2．仮設材料

2-1-1	金属製型わく	中空スラブ用ワイデイングパイプ	㈱栗本鉄工所
2-1-2		メタルフォーム	八幡金属加工㈱
2-2-1	型わく用合板	型枠合板・コンフォーム	住友商事㈱ 林ベニヤ産業㈱
2-3-1	型わく用金物	コンクリート型枠締付金物	岡部㈱
2-3-2		タイバー	東京仮設機材㈱
2-4-1	足場・支保工	ビティ式枠組足場	日本ビティ㈱
2-5-1	仮設組立ハウス	仮設組立ハウス	金曜会
2-6-1	その他	CCR	旭化成工業㈱

B．土工事

1．工事機械

1-1-1	ブルドーザおよびローダ	ブルドーザ・ローダ	キャタピラー三菱㈱
1-3-1	締固め機械	振動ローラ	ダイハツディーゼル㈱

2．山留材

2-1-1	鋼製山留材	山本式鋼製山留	山本商会
2-1-2		ニッケンスター式鋼製山留	広瀬鋼材産業㈱
2-3-1	その他	PSアンカー工法	三信建設工業㈱

C．基礎・地業工事

1．既製鉄筋コンクリートくい

1-2-1	PCくい	アサノPCパイル	アサノボール㈱
1-2-2		大同PCパイル	大同コンクリート工業㈱
1-2-3		NCS−PCパイル	日本コンクリート工業㈱
1-2-4		NHPCパイル・PCウエル	日本ヒューム管㈱
1-3-1	その他のくい	都築クロスパイル	兼松江商㈱
1-3-2		日東鋼パイル D.M.C工法	日東工業㈱
1-3-3		日信三角杭	㈱武智工務所 ㈱坂本組

2．場所打コンクリートくい

2-1-1	ペデスタルくい	場所打コンクリート杭（ペデスタル工法）	㈱鴻池組 大洋基礎㈱ 太洋組㈱ 地建工業㈱ 東洋基礎工業㈱

3．鋼くい

3-1-1	鋼くい	SM式特殊先端付鋼管杭	住友金属工業㈱
3-1-2		KPシュー付スパイラル鋼管杭	久保田鉄工㈱
3-1-3		新鋼管杭ロセットパイル	地建工業㈱

4．地盤改良

4-1-1		パイプロ・コンポーザー工法	不動建設㈱

5．無音無振動基礎工法

5-1	くい打	アサノ式圧入工法	アサノボール㈱
〃		クロスヘッド・パイル工法	大同コンクリート工業㈱
〃		日本コンクリート無音無振動基礎工法	日本コンクリート工業㈱
〃		日東無音無振動基礎工法	日東工業㈱
〃		ジェットリフターパイリング工法	㈱森組
5-2	ピヤ	リバース工法	㈱鴻池組
〃		北辰式深礎工法	北辰工業㈱
〃		ベノト工法	㈱鴻池組
〃		ウイリアムズデイガー工法	大成建設㈱
〃		利根式BH工法	㈱利根ボーリング
〃		アースドリル式ピヤ基礎工法	東洋基礎工業㈱
5-3	柱列土留壁	プレパクトPIPくい工法	清水建設㈱
〃		プレウオール工法	〃
〃		TAW・TAP工法	大成建設㈱
〃		竹中式ソイル・パイル工法 竹中式オーガー・パイル工法	㈱竹中工務店
〃		RGパイル工法	ライト工業㈱
5-4	連続土留壁	OWS工法・SOLETANCHE工法	㈱大林組
〃		KCC工法	鹿島建設㈱
〃		エルゼ工法	㈱熊谷組
〃		イコス・クラムシェル工法	大成建設㈱
〃		利根式BW工法	㈱利根ボーリング
〃		N−SU地下壁工法	日東工業㈱
〃		アース・ウオール工法	㈱藤田組
5-5	井筒ケーソン	送気式井筒沈下工法	公成建設㈱
〃		SAT式潜函沈下工法	成幸工業㈱

D．コンクリート工事

1．セメント

2．骨材

2-1-1	人工軽量骨材	人工軽量骨材ライオナイト	大阪セメント㈱
2-1-2		人工軽量骨材ビルトン	住友金属鉱山㈱ビルトン事業部

2-1-3		人工軽量骨材 アサノライト	日本セメント㈱
2-1-4		人工軽量骨材 メサライト	三井金属鉱業㈱
2-1-5		共栄パーライト コンクリート	共栄パーライト販売㈱
2-2-1	天然軽量骨材	天然軽量骨材	日本ライトグラベル 関西販売㈱

3. 混和材料

3-1-1	混和材料	サンフロー	山陽パルプ㈱ サンフロー㈱
3-1-2		ポゾリス	ポゾリス物産㈱ 日曹マスター ビルダーズ㈱
3-1-3		AE剤ヴインソル	山宗化学㈱
3-1-4		ダーレックス コンクリート混和剤	W.R.グレース㈱ 新東産業㈱

4. 気泡コンクリート

4-1-1	気泡コンクリート	アソウフォーム クリート	麻生フォーム クリート㈱
4-1-2		サーモコン構法	日本サーモコン㈱

5. ALC板

5-1-1	ALC版	ヘーベル	旭化成工業㈱
5-1-2		シポレックス	シポレックス販売㈱
5-1-3		ALC建材YTONG	日本セメント㈱ 日本イトン工業㈱

6. 構造用プレキヤストコンクリート

6-1-1	構造用プレキヤストコンクリート	フジワイラー版	㈱藤田組 藤田商事㈱

7. プレストレストコンクリート

7-1-1	プレストレストコンクリート	シルバークール構法	日本シルバークール㈱

E. 鉄筋工事

1. 鉄筋
2. その他

F. 鉄骨工事

1. 鋼材

1-3-1	鋼材	H形鋼	八幡製鉄㈱
1-3-2		極厚H形鋼	富士製鉄㈱
1-3-3		H形鋼継手	川崎製鉄㈱
1-7-1		クレーン軌条用締結装置	東京ファブリック工業㈱

2. 高力ボルト

2-1-1	高力ボルト	NKYM印高力ボルト	三星産産㈱
2-1-2		八幡ボルテン	八幡ボルテン㈱
2-1-3		ピーアイナット付高力ボルト	㈱三協特殊鋼ねじ製作所
2-1-4		寺内高力ロックボルト	㈱寺内製作所 丸紅飯田㈱ 浪速金属㈱
2-1-5		高力ハックボルト	東邦ハック㈱
2-1-6		エスパー・レンチ	理研精機㈱ 理研機器㈱

3. 溶接

3-1-1	溶接	神鋼溶接用材料(1)	㈱神戸製鋼所
3-1-2		〃 (2)	〃
3-1-3		半自動ノーガスアーク溶接機／他	大阪変圧器㈱
3-1-4		アークスタッド溶接	〃

4. 鋼管柱

4-1-1	鋼管柱	Gコラム	久保田鉄工㈱
4-1-2		NKコラム	日本鋼管㈱

5. プレハブ鉄骨

5-1-1	プレハブ鉄骨	川鉄Hフレーム	川鉄製鉄㈱
5-1-2		スミフレームV	住友金属工業㈱
5-1-3		フジHフレーム	富士製鉄㈱
5-1-4		ヤハタスタンフレーム／ハニカムフレーム	八幡製鉄㈱

6. その他

6-1-1	その他	鉄骨加工(1)	鉄骨橋梁協会関西支部
6-1-2		〃 (2)	〃
6-1-3		パラレルワイヤストランド(P.W.S)	㈱神戸製鋼所

G. コンクリートブロック・煉瓦工事

1. 空胴コンクリートブロック

1-1-1	普通ブロック	空胴コンクリートブロック構造	全国コンクリートブロック工業組合連合会
1-1-2		空胴コンクリートブロック	㈱堀ブロック工業所 笹原ブロック工業㈱ 太陽セメント㈱ ナニワスレート㈱ ハローブロック工業㈱ 福田源㈱ 松尾洋瓦㈱

2. 煉瓦

2-1-1	煉瓦	普通赤煉瓦・耐火煉瓦	松本煉瓦㈱

H. 防水・防湿工事

1. フスファルト防水

1-1-1	アスファルト防水	奥山式デラタイト防水	奥山化工業㈱
1-1-2		近畿防水アスファルト防水工法	近畿防水事業協同組合
1-1-3		工英社ドッグ印防水材料	㈱工英社
1-1-4		三星印アスファルト防水材料	田島ルーフィング㈱ 田島応用化工㈱
1-1-5		強力ギルソイドアスタイト防水	西日本アスファルト事業協同組合
1-1-6		NRC防水材料	日本瀝青工業㈱
1-1-7		マルエス印アスファルト防水材料	日新工業㈱
1-1-8		シグマットによるウエルド防水工法	日本アスファルト防水工業協同組合

2. 塗膜防水

2-1-1	塗膜防水	AR防水	旭化成工業㈱ ㈱ARセンター
2-1-2		フジウレタンタール防水	不二商事㈱
2-1-3		ラバシール防水・エヤーパック	アスニュー工業㈱ 東都化成㈱
2-1-4		ポリゾール#1・#2・他	㈱梅彦
2-1-5		ポリプルーフ塗膜防水剤	㈱大阪防水建設社
2-1-6		ハマタイトウレタン屋上防水剤	横浜ゴム㈱

3. シート防水

3-1-1	シート防水	ベルシート	鐘淵合成化学工業㈱
3-1-2	シート防水	フジシール防水工法	昭和石油アスファルト㈱
3-1-3		スミルーフ防水工法	住友ベークライト㈱
3-1-4		三ツ星ベルトネオ・ルフイングEB	三ツ星ベルト㈱
3-1-5		リベットルーフ(A)(S)	山出興産㈱ 東亜樹脂工業㈱
3-1-6		ニットーゴムプルーフ	日東電気工業㈱
3-1-7		レオパノールBAシート	日本綜合防水㈱

4. 防水剤

4-1-1	防水剤	ニッポン標準セメント防水剤	(有)黒川化学工業所
4-1-2		ベストン	ベストン㈱
4-1-3		マノール防水剤	㈱油脂化工社
4-1-4		ウオータイト防水剤	㈱日本セメント防水剤製造所

5. 急結剤

5-1-1	急結剤	アスニューセメント防水剤ハイキュート急結防水剤・他	アスニュー工業㈱
5-1-2		シンケン防水剤・急結剤	㈱新興建材工業所

6. 撥水剤

6-1-1	撥水剤	シンケン防水剤(吹付・撥水)・他	㈱新興建材工業所
6-1-2		防水・養護剤パンデックス	㈱パンデックスジャパン

7. 止水板

7-1-1	止水板	アロン止水板	東亜樹脂工業㈱
7-1-2		チオコール系シーリング材「ウェザーパン」シーラー	住友スリーエム㈱

8. ジヨイント目地材

8-1-1	ジヨイント目地材	コンプリバンド・コンプリフォームコンプリシーラー	日東紡績㈱

9. コーキング材

9-1-1	コーキング材	ABCコーキング・U	㈱エービーシー商会
9-1-2		ウオーターボンド(水中コーキング剤)	日本添加剤工業㈱
9-1-3		昭石アスファルト不定形シーリング材	昭和石油アスファルト㈱
9-1-4		ハマタイト建築用シーリングコンパウンド	横浜ゴム㈱

I. 屋根工事

1. 金属屋根

1-1-1	金属屋根	オリエンタルメタル	オリエンタルメタル製造㈱
1-1-2		耐酸スタンダードメタル・ケミカラーオーシマメタル	大島応用化学工業㈱
1-1-3		三晃式折版構造	三晃金属工業㈱
1-1-4		月星カラー・月星ポリフォーム鋼板	日新製鋼㈱
1-1-5		複式折版構造アサヒ式Pデッキ	旭スチール工業㈱
1-1-6		古河カラーアルミ・他	古河アルミニウム工業㈱ 古河電気工業㈱

2. 瓦

2-1-1		大仏瓦	㈱大仏
2-1-2		日本瓦	大阪府瓦商工業協同組合

▶きりとり線

3. 厚型スレート
4. 石綿スレート

4-1-1	波型スレート	浅野エレクションボード 浅野フレキシブル波板	浅野スレート㈱
4-1-2		宇部スチレート 宇部耐酸スレート	宇部スレート工業㈱
4-2-1	特殊スレート	クボタカラー瓦 （コロニアル）	久保田建材工業㈱

5. 波型合成樹脂板

5-1-1		新パンポーライト	万邦ポリエステル工業㈱

6. ルーフドレン

6-1-1	ルーフドレン	YM式・ルーフドレン	斎久工業㈱

7. 合成樹脂雨とい

7-1-1	合成樹脂雨とい	エスロン雨とい	積水化学工業㈱
7-1-2		タキロン雨どい	タキロン化学㈱

8. ベンチレータ

8-1-1	ベンチレータ	大島化学の換気装置	大島応用化学工業㈱
8-1-2		内外式電動式ベンチレーター・コンチニアスベンチレーター	内外建材㈱
8-1-3		岩元式固定型ベンチレーター／他	岩元工業㈱
8-1-4		カマクラルーフファン	㈱鎌倉製作所
8-1-5		ナショナル屋上換気扇（ルーフベンター）	松下電気産業㈱ 松下精工㈱

J. 石・タイル工事

1. 石工事

1-1-1	花崗岩	花崗岩	全国石材工業会関西支部
1-2-1	大理石	大理石	〃
1-3-1	凝灰岩	凝灰岩、安山岩 砂岩、粘板岩	〃
1-4-1	テラゾー・擬石	テラゾーブロック／擬石ブロック	〃
1-5-1	その他	テラゾータイル／グラニットタイル	㈱矢橋大理石商店 明治大理石㈱

2. タイル工事

2-1-1	一般タイル	陶磁器質タイル	有田タイル㈱ 伊奈製陶㈱ 岩尾磁器工業㈱ 近江化学陶器㈱ ㈱上山製陶所 佐治タイル㈱ ㈱大仏 ㈱泰山製陶所 淡陶㈱ 日本タイル工業㈱ 日本陶管㈱ 不二見タイル㈱

K. 木工事

1. 一般木材

1-1-1	一般木材	一般木材 (1)	関西納材協会会員有志
1-1-2		〃 (2)	〃
1-1-3		〃 (3)	〃

2. 銘木・その他　3. 集成材　4. その他

L. 金属工事

1. 一般構造金物

1-3-1	ラス	富士波ラスシート	安宅産業㈱
1-3-2		ヤマリブ・YM式ラスチャンネル	㈱山中製作所
1-3-3		中川式ダイヤラス・鉄筋ラス・ラスシート	㈱中川ラス製作所
1-4-1	軽量鉄骨下地	日進式軽量鉄骨	㈱奥村重兵衛商店
1-4-2		MK式軽量鉄骨下地	近藤金属工業㈱
1-4-3		マンテンネールロック・エコニースタッド	㈱マンテン
1-4-4		モリソン軽鉄下地	森村金属㈱

2. 一般附属金物

2-1-1	レジスター・ガラリー	協和自然換気レジスター・ガラリ	㈱協和製作所
2-2-1	ノンスリップ	アトラスノンスリップ	アトラス産業㈱
2-2-2		ハイステップ（ノンスリップ）	㈱中博光商店
2-3-1	カーテンレール	SMカーテンレール	エスエム工業㈱
2-4-1	その他	オパール印天井床点検口	㈱中博光商店
2-4-2		ニッコー式マンホール各種蓋	ニッコー機工㈱
2-4-3		モリソンピクチャーレール／他金具	森村金属㈱

3. 外装金物

3-2-1	化粧金属板	菊川アルミキャスト	菊川工業㈱
3-3-1	サンコントロール	フレクサラム・サンルーパー	安宅産業㈱
3-3-2		神鋼ノースロップ・サンコントロール	神鋼ノースロップ㈱

4. 特殊金物

4-1-1	ステンレス製品	タジマフロンティア18—8	㈱田島順三製作所
4-2-1	アルミ製品	中博光アルミビニール手摺	㈱中博光商店
4-2-2		アルフロア（帯電防止自由揚げ床装置）	住友商事㈱ 京都ダイカスト工業㈱

M. 左官工事

1. 内装用

1-1-1	プラスター	SSSプラスター	サンエス石膏㈱
1-2-1	塗り床	E.M.アートフロアー	中外商工㈱
1-2-2		タフコンカラー／スチール	美州興産㈱ 中外鉱産㈱
1-2-3		トルギノール／他	恒和化学工業㈱
1-2-4		カラーコンク・テツコン／他	東洋カラー・コンク㈱
1-3-1	繊維壁	梅彦の繊維壁	㈱梅彦
1-3-2		シンコーの繊維壁材	㈱新興建材工業所
1-3-3		セイコーの繊維壁材／他	㈱清光社
1-3-4		日本繊維塗料の繊維壁	㈱日本繊維塗料製造所
1-3-5		ニッペキの繊維壁	日本壁材工業㈱
1-3-6		富士川の繊維壁材	富士川建材工業㈱
1-4-1	パーライト	ネオパールスキン	共栄パーライト販売㈱
1-4-2		共栄パーライトモルタル	〃

2. 外装用

2-1-1	吹付材	ミュールコート	旭化成工業㈱
2-1-2		ダイヤリシン	恒和化学工業㈱
2-1-3		エバーサンド吹付／他	合同特許建材工業㈱
2-1-4		ヘキサイトーV	日本塗料化学㈱
2-1-5		ケニテックス	三井金属鉱業㈱
2-1-6		セラスキン	山本窯業化工㈱
2-1-7		サンドサテン／他	阪田化成品㈱
2-1-8		エマルスキン／他	明研化学工業㈱
2-2-1	その他	ポンタイル	ポンタイル㈱

3. その他

3-1-1	混和剤	スタッコボンドL-500／シーラーA型	日本スタッコ㈱
3-2-1	混和材	スタッコセメント／ハードスタッコ	〃
3-2-2		エースセメント（左官用セメント混和材）	原田今商事㈱
3-3-1	着色剤	チエリーカラー（着色顔料）	㈱新興建材工業所

N. 建具工事

1. 木製建具
2. 鋼製建具
3. アルミ建具

3-1-1	既製品	エコンアルミサッシ「Econ70」	八幡エコンスチール㈱
3-1-2		工場サッシ「NF—50」	日本アルミニウム工業㈱
3-1-3		NKクールサッシ	日本建鉄㈱
3-1-4		リコーキドアー・S	理研鋼機㈱
3-2-1	その他	エルミン窓	日本エルミンサッシ㈱
3-2-2		サンエックス窓	不二サッシ販売㈱
3-2-3		神鋼建材アルミ・サッシ・ドア70	神鋼建材工業㈱
3-2-4		JIS-NA80	日本アルミニウム工業㈱

4. ステンレス建具他
5. シヤッター

5-1-1	シヤッター	鈴木プラネ電動開閉機	鈴木シヤタア工業㈱
5-1-2		トーヨースチールシヤッター	東洋シヤッター㈱

6. 可動間仕切

6-1-1	可動間仕切	NSN MY—WALL	日本スライドウォール㈱ 日本アコーデイオンドア販売㈱
6-1-2		ハニウォール（可動間仕切）	万邦ポリエステル工業㈱
6-1-3		マンテン「KILD」壁（乾式遮音軽量間仕切壁）	㈱マンテン

7. オペレーター
8. 自動扉

8-1-1	自動扉	寺岡オートドアエンジン	寺岡オートドア㈱
8-1-2		ナブコLS型ドアーエンジン	日本エヤーブレーキ㈱

9. 特殊扉

9-1-1	特殊扉	強力ガラスドア	旭硝子㈱ 日本板硝子㈱ セントラル硝子㈱

10. 建具金物

10-1-1	錠前	ゴールドアロック	㈱ゴール
10-1-2		昭和ドアロック	昭和金属工業㈱
10-2-1	フロアーヒンジ・ドアチェック	ニュースタードアチェック・フロアーヒンジ	日本ドアーチエック製造㈱
10-2-2		デンセイオートヒンジ	日恵機材㈱ 日本電気精器㈱
10-3-1	扉用付属金物	三栄ピボットヒンジ	三栄建材工業㈱
10-3-2		帝金ピボットヒンジ	帝金㈱
10-4-1	引戸用付属金物	協和ドアーハンガー	㈱協和製作所

O. 硝子工事

1. 硝子

1-1-1	板状硝子	板硝子 (1)	旭硝子㈱
1-1-2		〃 (2)	日本板硝子㈱
1-1-3		特殊ガラス／二次加工品	セントラル硝子㈱
1-2-1	成型品硝子	NEGガラスブロック	日本電気硝子㈱

2. 有機硝子

2-2-1	成型品樹脂	アクリライト	三菱レイヨン㈱

P. 塗装工事

1. 一般塗料

1-1-1	一般塗料	油性調合ペイント／合成樹脂調合ペイント	川上塗料㈱
1-1-2		さび止塗料	
1-1-3		さび止塗料／金属前処理塗料	
1-1-4		トタンペイント／アルミニウムペイント	関西ペイント㈱
1-1-5		フェノール樹脂塗料／フタル酸樹脂塗料	神東塗料㈱
1-1-6		ラッカー	大日本塗料㈱
1-1-7		アミノアルキド脂樹塗料／ポリウレタン樹脂塗料	東亜ペイント㈱
1-1-8		塩化ビニル樹脂塗料	日本ペイント㈱
1-1-9		エポキシ樹脂塗料	日本油脂㈱
1-1-10		タールエポキシ樹脂塗料／塩化ゴム塗料	
1-1-11		エマルションペイント	
1-1-12		砂壁塗料／外装リシン状塗料	
1-1-13		合成樹脂調合ペイント／金属前処理塗料	ロックペイント㈱
1-1-14		さび止塗料	
1-1-15		トタンペイント／アルミニウムペイント	
1-1-16		建設機械用高性能エナメル／フタル酸樹脂塗料	
1-1-17		アミノアルキド樹脂塗料（常温硬化型）／ラッカー	
1-1-18		木部用ポリウレタン樹脂塗料／金属用ポリウレタン樹脂塗料	
1-1-19		合成樹脂エマルションペイント／外装リシン状塗料	
1-1-20		塩化ビニル樹脂塗料	
1-1-21		アルミ材用塗料／難燃性塗料／防カビ塗料	

2. 特殊塗料

2-1-1	特殊塗料	特殊塗料 (1)	川上塗料外上記6社
2-1-2		〃 (2)	
2-1-3		セキューレート（結露防止剤）	㈱林塗装店／茶谷産業㈱

3. 塗装

Q. 内装工事

1. 床材

1-1-1	リノリューム系	リノリューム・リノタイル	東洋リノリューム㈱
1-3-1	合成樹脂系	三星印プラスチック床タイル	田島応用化工㈱
1-3-2		マチコV・マチコソフト・マチコS	東洋リノリューム㈱
1-3-3		フクビソフトタイル	福井ビニール工業㈱
1-3-4		マルエス印日新床タイル	日新工業㈱
1-4-1	ゴム・合成ゴム系	高砂ゴムタイル	高砂ゴム工業㈱
1-4-2		日満ゴムタイル	日満ゴムタイル商事㈱
1-5-1	木製品	TOPモザイクパーケット・フローリングブロック	伊丹木材㈱

2. 壁・天井材

2-2-1	合板	アサヒファンシー	朝日特殊合板㈱
2-2-2		トーケンニューダブレ	東洋棉花㈱／トーケン工業㈱
2-2-3		ゆたかファンシー	ゆたか木材工業㈱
2-2-4		ビデオンファンシー／他	浪速合板㈱
2-3-1	化粧板	メラミン樹脂化粧板「デコラ」	住友ベークライト㈱
2-3-2		日立化粧板	日立化成工業㈱
2-4-1	鉱物質板	グラスロン・ルーフボード	旭ファイバーグラス㈱
2-4-2		タイセイスタイロボード・ブルースターボード・パネル	大成化工㈱
2-4-3		アスベストラックス	日本アスベスト㈱
2-4-4		ユニオンボード／他	旭化工板製造㈱
2-5-1	不燃吸音板	浅野パーライトボード・浅野パーライト吸音板	浅野スレート㈱
2-5-2		三星ロックスター	田島応用化工㈱／三星ロックスター㈱
2-5-3		ダイロートン	大建工業㈱
2-5-4		うずしお不燃ボード	ニチマグ㈱
2-5-5		ミネラートン	日東紡績㈱
2-5-6		イビダイナ	揖斐川電気工業㈱
2-6-1	金属製品	ベストップスパンドレル・パネル	鋼鈑工業㈱
2-6-2		アートボンド・ユニボンド	八幡エコンスチール㈱
2-6-3		Tライン天井システム／他	新晃工業㈱
2-7-1	合成樹脂製品	マーベロン	㈱宮村商店
2-7-2		シンエツ大口径パイプ・ポリスタルドア／他	㈱宮村商店

R. 雑工事

1. 壁紙・クロス

1-1-1	壁紙・クロス	パインブル・パインフスマ	常盤レザー工業㈱
1-1-2		リンデン壁紙／テクニカラー	丹治商事㈱／丹治加工製紙㈱
1-1-3		ハマウッドシート／タイル	ハマ化成㈱／吉村産業㈱

2. 敷物・たたみ

3. カーテン

3-1-1	カーテン	川島織物カーテン・椅子張／他	㈱川島織物

4. ブラインド

5. 金庫

5-1-1	金庫	HAYASHI 鍵保管箱	㈱林健三商店

6. 家具

6-1-1	家具	パイプ製家具	日本エスエス管工業㈱
6-1-2		イトーキカウンター	㈱イトーキ

7. 調理器具

8. チョークボード

9. ダストシュート

10. 放射線防護

10-1-1	放射線防護	レイプロット製品（放射線防護材）	蛍光産業㈱

11. 郵便受

12. 接着剤

12-1-1	接着剤	建築用接着剤ボンド	㈱小西儀助商店
12-1-2		建築用接着剤 セメダイン	セメダイン㈱
12-1-3		建築用接着剤 ペンギンセメント	サンスター化学工業㈱

13. 保全美装

14. その他

S. 外部工事

1. 造園

2. 運動場、遊戯施設、運動具

3. 囲障

3-1-1	囲障	エコンフェンス	八幡エコンスチール㈱

4. 道路

4-1-1	道路	NHヒューム管／他	日本ヒューム管㈱

5. 噴水

6. ポール

T. 電気工事

1. 受変電機器

1-2-1	高圧受電キューピクル	日新高圧閉鎖配電盤	日新電機㈱
1-3-1	変圧器	変圧器	大阪変圧器㈱

2. 予備発電機

2-1-1	予備発電機	ディーゼル発電設備	ダイハツディーゼル㈱

3. 蓄電池、充電器

3-1-1	蓄電池充電器	据置蓄電池・整流器	湯浅電池㈱
3-1-2		蓄電池	日本電池㈱

4. 配分電盤、操作盤

4-1-1	配電盤	配電盤・監視盤	太洋電機工業㈱／㈱高村電機製作所
4-2-1	動力操作盤、分電盤	動力操作盤、分電盤	日満電機㈱／森井電業㈱

5. 照明器具

5-1-1	照明器具	サンヨーカドニカ誘導灯	三洋電機㈱
5-1-2		東芝陽光ランプ	東京芝浦電気㈱
5-1-3		東芝SCR調光装置	東芝商事㈱
5-1-4		三菱空調形蛍光灯器具	三菱電機㈱

6. 舞台照明

6-1-1	舞台照明	シーリングスポットライト・フットライト	パグナル㈱
6-1-2		舞台照明（RCL調光装置）	㈱松村電機製作所

7. 換気扇

7-1-1	換気扇	三洋換気扇	三洋電機㈱
7-1-2		東芝換気扇	東芝商事㈱

8. 拡声装置

9. 電話設備

10. 表示器

10-1-1	表示器	表示装置	㈱岡田信号機製作所

▶きりとり線

▶きりとり線

11. インターホーン
12. 電気時計
13. 火災警報
14. 自動車管制

14-1-1	自動車管制	日本信号駐車場信号管制装置	日本信号㈱

15. テレビ

15-1-1	テレビ	八木アンテナ・テレビ共同聴視システム	八木アンテナ㈱

16. 避雷針

16-1-1	避雷針	避雷針	大阪避雷針工業㈱

17. ネオン

17-1-1	ネオン	ネオンサイン	大阪クロードネオン電気㈱

18. その他

18-1-1	その他	日新ビル用監視制御機器	日新電機㈱

U. 給排水・衛生工事

1. 水槽

1-1-1	水槽	三菱樹脂ヒシタンク	三菱樹脂㈱

2. 洗濯装置
3. ポンプ

3-1-1	ポンプ	エハラS型片吸込渦巻ポンプ／他	㈱荏原製作所
3-1-2		ポインターフリクト水中汚水汚物ポンプ(1)	新明和工業㈱
3-1-3		〃 (2)	〃

4. 温水ボイラー

4-1-1	温水ボイラー	三洋温水ボイラ	三洋電機㈱
4-1-2		巴ボイラ	㈱巴商会

5. 湯沸器
6. 太陽熱温水器
7. 浴槽

7-1-1	ポリバス	トートライトバス(FRP製)	東洋陶器㈱
7-2-1	ホーローバス	ヨドバス	㈱淀川製鋼所

8. ユニット便槽
9. 浄化槽

9-1-1	浄化槽	西原・ネオ浄化そう	西原ネオ工業㈱

10. さく泉
11. 消火装置
12. マンホール類

12-1-1	マンホール類	SF式・マンホールカバー	福西鋳物㈱
12-1-2		建築衛生設備用排水器材	㈱小島製作所

13. 塵芥処理設備
14. 厨房器具

14-1-1	厨房器具	厨房器具	富士厨房設備㈱

15. 衛生器具

15-1-1	衛生器具	衛生器具	東洋陶器㈱

16. その他

16-1-1	その他	丹式ノービスミラー	㈱丹照堂

V. 暖冷房工事

1. 大型冷凍機

1-1-1	電動ターボ	19DA型エハラターボチリングパッケージ	㈱荏原製作所
1-1-2		三菱ヨークターボ冷凍機	三菱ヨーク㈱／三菱重工業㈱
1-1-3		日立チラユニット	㈱日立製作所／大阪日立冷機㈱
1-2-1	吸収式	KSK吸収式冷凍機	汽車製造㈱

2. 冷却塔

2-1-1	冷却塔	日立クーリングタワー	㈱日立製作所／大阪日立冷機㈱
2-1-2		シンワSBC型冷却塔	信和産業㈱
2-1-3		ヒシタワー(クーリングタワー)	三菱樹脂㈱

3. ボイラー

3-1-1	鋳鉄製分割式	A3型／FR形鋳鉄製温水ボイラ	汽車製造㈱
3-1-2		昭和ボイラ	昭和鉄工㈱
3-1-3		高砂セクショナルボイラ	高砂暖房器㈱
3-1-4		前田セクショナルボイラ	㈱前田鉄工所
3-2-1	煙水管式	KS形炉筒煙管ボイラ	汽車製造㈱
3-2-2		MPボイラ	㈱平川鉄工所
3-2-3		巴ボイラ	㈱巴商会

4. 放熱器

4-1-1	JIS規格	暖房用鋳鉄放熱器	昭和鉄工㈱／高砂暖房器㈱／㈱前田鉄工所
4-2-1	その他	放熱器	木村工機㈱

5. 送風機

5-1-1	送風機	谷山送風機	㈱谷山鉄工所

6. 空気清浄機

6-1-1	電気集塵機	三菱電機集塵機	三菱電機㈱
6-2-1	空気沪過機	空気沪過機	日本エアーフィルター㈱／進和貿易㈱

7. ハンドリングユニット

7-1-1	ハンドリングユニット	ダイキン・エヤハンドリングユニット	ダイキン工業㈱
7-1-2		キムコー・エヤハンドリングユニット	木村工機㈱
7-1-3		三菱電機・エアハンドリングユニット	三菱電機㈱

8. ファンコイルユニット

8-1-1	ファンコイルユニット	シーズンマスター(ファンコイルユニット)	木村工機㈱
8-1-2		ファンコイルユニット	新晃工業㈱

9. インダクションユニット

9-1-1	インダクションユニット	インダクションユニット／他	新晃工業㈱

10. パツケージ型空調機

10-1-1	大型	日立パッケージ型空調機	㈱日立製作所／大阪日立冷機㈱

11. 空調自動制御

11-1-1	空調自動制御	オートスキャンA空調監視制御装置	㈱東京計器製造所
11-1-2		システム6J中央監視装置	山武ハネウェル㈱

W. 機械設備

1. 昇降機設備

1-1-1	昇降機設備	規格型クマリフト／シヤフト	クマリフト㈱
1-1-2		東洋オーチスエレベータ	東洋オーチス・エレベータ㈱
1-1-3		富士輸送機エレベータ／他	富士輸送機工業㈱
1-1-4		日立昇降設備	㈱日立製作所
1-1-5		三菱エレベータ	三菱電機㈱
1-1-6		三菱エスカレータ	〃
1-1-7		規格型荷物用(Freight)エレベータ	三洋輸送機工業㈱

2. 機械式駐車設備

2-1-1	機械式駐車設備	新明和パーキングタワー／パレコンパーク	新明和工業㈱
2-1-2		新明和二段式駐車装置Zパーク／ターンテーブル	〃
2-1-3		新明和ロープ式自動車用エレベータ・油圧式自動車用エレベータ	〃
2-1-4		油圧式ターンカーリフト	大光工業装備㈱

3. 舞台設備

3-1-1	舞台設備	三精舞台装置	三精輸送機㈱

4. 屋内コンベヤー

4-1-1	屋内コンベヤー	チエンリフター／他	オリエンタルチエン工業㈱
4-1-2		カードスライダ	第一工業㈱

5. エヤーカーテン

5-1-1	エアカーテン	エアカーテンカマクラコンパクタ	㈱鎌倉製作所

6. 電動式ゴンドラ

6-1-1	電動式ゴンドラ	ワッシングゴンドラ	三精コンベヤ㈱

7. エヤーシューター

7-1-1	エヤーシューター	上野製作所気送管	㈱上野製作所

8. その他

X. 特殊工事

1. 断熱材料

1-1-1	断熱材料	ダイヤフオーム	音熱化工㈱／三菱江戸川化学㈱
1-1-2		吹付岩綿スプレエース	八幡化学工業㈱

2. 防音・防振材料
3. プレハブ
4. 実験用器具

4-1-1	実験用器具	DALTONドラフトチヤンバー／他	㈱三英製作所

5. 模型
6. 製図用具
7. 青写真

7-1-1	青写真	青写真	㈱内外写真
7-1-2		図面管理	〃

8. 調査、測量、土質調査

8-1-1	調査、測量、土質調査	地質調査ボーリング	㈱東京ソイルリサーチ

9. テント
10. プール

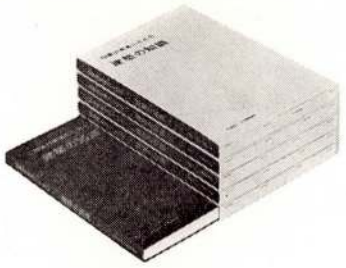
10-1-1	プール	プール浄化装置	安宅建設工業㈱

11. 建築写真
12. その他

日本建築協会・図書案内

新　刊

設備技術者のための 建築の知識（44年9月：刊行）

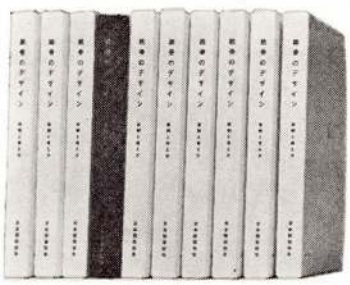


目次：第1章建築生産／第2章設計図・仕様書・施工図／第3章建築の種類とその計画／第4章建築構造／第5章仮設工事／第6章躯体工事／第7章仕上工事材料／第8章仕上工事／第9章工程計画と工程表／附録：建築用語の解説／工事に必要な諸官庁署関係手続一覧表

建築を初めて学ぶ人に理解しやすいよう平易に，建築全般にわたる初歩的解説から，建築図面の見方，工程管理などの基礎的知識，建築工事と設備工事との技術的関連など，建築工事全般にわたり必要事項は細部に至るまで懇切に記述している。

■ B5判　9P活字一段横組400頁
（折込図面 50枚）
■ 定価 2,300円 会員特価 2,000円
送料 250円

鉄骨のデザイン＜実例と考え方＞（44年10月末：第2版刊行）



目次：鉄骨構造の考え方／実例＝平家建の倉庫・溶接構造の給油所・鋸屋根のある工場・クレーンのついた倉庫・2階建の工場内食堂・3階建の事務所・鋼管構造の工場・屋上独立鉄塔・軽量形鋼による工場／建築鉄骨の溶接設計／構造計算書について／設計資料＝鋼構造設計規準案による断面算定表・その他／各種鉄骨材料一覧表とその解説

本書の断面算定表は，学会新規準案に準拠し，ＪＩＳ規格鋼材のほとんどを網羅して，独自な工夫で作成したもので，この算定表を利用すれば断面設計はきわめて容易になる。設計例はすべて新規準案により計算し，部分的に現行規準と新規準案が対照できるように編集している。また鉄骨設計の急所を施工上の注意すべき点も併せて解り易く詳細に解説している。巻末の豊富な資料・懇切な解説からも実際の設計にあたり数々のヒントが得られて，常に設計者の座右の書として欠かすことができない。

■ B5判　8P活字一段横組400頁
（設計図面 88枚）
■ 定価 2,500円 会員特価 2,200円
送料 250円

近　刊

改訂・増補版　建物および設備の保全
編集：清水寿栄次

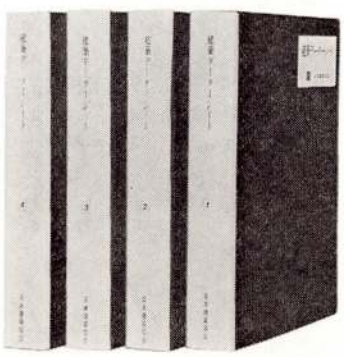
建築基礎工法と実例
編集委員長：山肩邦男
幹　　事：山口安男・多々見市蔵

既　刊

建築の風力係数
著者：石崎澄雄・京大教授
A5判100頁 定価350円 会員特価300円 送料55円

鉄骨鉄筋コンクリート構造設計実例集
計算書　B5判 500頁　　図面　A4判 200頁
定価 3,500円　会員特価 3,000円　送料 250円

建築データシート ファイル



1冊の定価　350円
送料　実費
1冊の収納シート
約150シート（4冊で全シートが収納）

■購入の方法
送付希望の場合は：「はがき」に下記要項をご記入の上願います。
「氏名」「勤務先」「送付先」「連絡電話」「冊数」
直接購入の場合は：事務局事業課で代金と引換えにお渡しいたします。
特典：ファイル購入の方には，総目次と工事別目次を贈呈いたします。

編集発行　社団法人 日本建築協会
郵便番号　541　大阪市東区北浜3―37
電話　231―9640・9648・9649・5936

日本建築協会 月間の動き

□昭和44年8月分□

理　事　会

21日　4時～5時半　於会館集会室
出席者　東畑，鷲尾正副会長ほか9理事2支部長
議事(1)第16回青年技術者選衡委員会委員委嘱の件
(2)国家褒章候補者推せんの件
(3)ウィーン建築会議への参加有無照会の件
(4)建築データシート掲載会社確保の件
(5)東海支部復活10周年記念事業実施企画の件
(6)入退会者承認の件
(7)報告事項

出　版　委　員　会

基礎構造編集幹事会
1日　6時～8時半　於会館集会室
出席者　山肩委員長，山口，多々見幹事
議事　原稿検討について

建築の知識出版記念会
19日　6時～8時　於北水
出席者　執筆者5名，伊藤編集委員長ほか6委員

建築データシート編集委員会

編集Dグループ打合会
5日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　松村副委員長，埴田幹事ほか2委員
議事(1)編集グループの運営について
(2)掲載依頼会社について

編集Bグループ打合会
12日　6時～8時　於会館集会室
出席者　篠崎幹事ほか2委員
議事(1)次回の掲載シートについて
(2)グループの運営について

幹　事　会
21日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　中原，松村正副委員長ほか5幹事
議事(1)特別委員への依頼文書，方法について
(2)東京での執筆説明会について
(3)中間総合目次について
(4)企画グループの編成について

編集Cグループ打合会
29日　正午～2時　於会館3階会議室
出席者　樫原幹事ほか1委員
議事(1)次回の掲載シートについて
(2)グループの運営について

事　業　委　員　会

各種説明会小委員会
6日　5時半～8時　於会館3階会議室
出席者　三宅幹事，上松，平岡委員
議事(1)消防法についての説明会開催について
(2)耐火材料についての説明会開催について
(3)そのほか

見学会小委員会
7日　5時半～7時半　於会館3階会議室
出席者　金子，今井委員
議事(1)7月に実施した見学会についての報告
(2)8月～10月の見学会企画について
(3)11月以降44年度内の見学会企画について
(4)そのほか

各種説明会打合会
26日　正午～2時　於会館集会室
出席者　田中消防局建築係長，3委員および3説明会社
議事(1)第1回説明会の名称について
(2)説明者について
(3)そのほか
29日　正午～2時　於会館集会室
出席者　京大堀内教授，近藤副委員長，三宅幹事，3委員および3説明会社
議事(1)第2回説明会の名称について
(2)説明者について
(3)そのほか

住　宅　委　員　会

住宅展懇親会打合会
11日　5時半～9時　於会館集会室
出席者　黒谷副委員長ほか19名
議事　住宅展懇親会スケジュールの発表諸準備など

住宅委員会委員懇親会
16日～17日　於徳島
参加者　35名

編　集　委　員　会

作品作風小委員会
12日　5時半～9時　於会館集会室
出席者　寺嶋主査ほか5名
議事　九州地方新建築調査に関して方針・スケジュールなどの打合せをした。

委　員　会
13日　4時～7時　於会館集会室
出席者　足立委員長，石崎編集理事ほか4委員
議事(1)海洋開発特集経過報告
(2)民家の系譜特集経過報告
(3)第16回青年技術者特集
(4)九州特集
(5)来年1月号以降の特集テーマ

九州特集本文編集幹事会
20日　5時半～8時　於福岡食糧ビル
出席者　広岡特別幹事ほか5名
議事　12月号の本文を共同グループでまとめるについての企画・調査の基本事項打合せ

作品作風小委員会
26日　5時半～9時　於会館集会室
出席者　寺嶋主査ほか8名
議事(1)10月号の作品決定
(2)九州地方新建築調査の最終的打合せ

教　育　委　員　会

建築工事実務講習会の反省と懇親会
20日　6時～8時　於大成閣
出席者　岩下副委員長ほか7講師
受講者より提出したアンケート集計表，講義内容，講義時間，テキスト等について協議のあと懇親会を開催した。

見　学　会

新設のビール工場を見学する会
「サントリー桂工場」
設計・監理　株式会社安井建築設計事務所
施工　株式会社竹中工務店
2日　1時半～4時
参加者　19名

新建築研究ゼミナールと見学会
「大阪三菱ビルディング新築工事」
（大阪府建築士会／日本建築学会近畿支部と共催）
設計・監理　三菱地所株式会社
施工　株式会社　大林組
ゼミナール
建物の概要について
大林組堂浜工事事務所長　永井義徳氏
施工計画について
大林組堂浜工事建築係　脇村典夫氏
仕上工事と設備の概要について
大林組堂浜工事建築主任　内田昭雄氏
外装材のテストについて(スライド併用)
大林組堂浜工事(元)建築主任　新開信之氏
11日　1時半～5時
参加者　132名

東京の超高層建築見学会
「新築中の世界貿易センタービルと昨年完成した霞ケ関ビル」
世界貿易センタービル

設計・監理　日建設計工務株式会社
武藤研究室
施工　鹿島建設株式会社

霞ケ関ビル
設計・監理　三井不動産株式会社
株式会社山下寿郎設計事務所
施工　鹿島建設株式会社
三井建設株式会社

20日　1時～4時半
参加者　24名

新建築研究ゼミナールと見学会
「ホテルプラザ新築工事」
（大阪府建築士会／日本建築学会近畿支部と共催）

設計・施工　大成建設株式会社
ゼミナール
ホテルプラザの建設について
ホテルプラザ企画業務部長　秋田次平氏
設計計画について
大成建設大阪支店建築部設計課長
中村　功氏
構造計画について
大成建設大阪支店建築部設計課
構造主任　宮沢正躬氏
空調衛生設備計画について
大成建設ホテルプラザ作業所
設備主任　神原吾市氏
電気設備計画について
大成建設ホテルプラザ作業所
電気主任　中砂文郎氏
高層建築物の施工基本方針と施工について
大成建設ホテルプラザ作業所工事長
松岡照夫氏

28日　1時半～5時
参加者　167名

講　演　会

日本万国博建築講演会
「ソ連展示館講演会」
（大阪府建築士会，日本建築学会近畿支部／日本建築家協会関西支部と共催）

ソ連館の紹介（スライド併用）
前モスクワ市建築計画総局設計局
構造担当技師長
現ソ連商業会議所エキスポグループ
技師長　A．N コンドラチェフ氏
通訳
伊藤忠商事株式会社　岡島和生氏

5日　1時半～3時半
於大阪科学技術センター
聴講者　61名
予定していたアメリカ館についての講演は設計者の都合により中止した。

若い会員の集い

「日本万国博覧会の建築」
ゲスト
日本万国博覧会協会建築課長上田稔氏ほか
見学　2時半～3時半　万博会場見学
座談会　3時半～5時　於万博協会本部ビル

23日
参加者　31名

3会事業委員長打合会

21日　正午～2時　於大阪府建築士会
出席者　岡本協会事業副委員長
矢野士会事業委員長ほか事務局員6名
議事　9月以降の共催事業について打合せ

第2回日本建築祭事務打合会

15日　2時～4時　於会館集会室
出席者　共催団体事務局員9名
議事　委員会規約その他について

関西都市・住宅会議事務打合会

6日　1時半～3時　於会館集会室
出席者　共催団体事務局員7名
議事(1)収支予算について
(2)開催日時場所について
(3)講師について

8月の入会者〔敬称略〕

〔団体会員　6社〕

鹿島建設株式会社	財団法人建設物価調査会
有限会社小林鋳造所	同和火災海上保険株式会社
日本住宅公団量産試験場	古沢建設株式会社

〔個人会員　29名〕

安藤龍一	北田秀樹	中村英雄
青山一雄	北脇三徳	野田泰弘
赤沢浩千	近藤一夫	松井　一
芦田好信	近藤恵計	松田泰典
伊賀太郎	桜井一彦	松本健治
岡田　毅	柴田勝正	三浦英一
奥野晴弘	角倉幹章	水谷忠清
加藤利光	橘　正明	森山　峻
川田　宏	寺下和宏	吉田勝彦
川端正造	寺地　清	

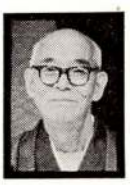
〔准会員　2名〕（氏名省略）



故 **山本　潔氏**
（元本会評議員／山本窯業化工㈱社長）
昭和44年7月25日胃癌の為逝去
享年 76才

氏は明治，大正，昭和の3代に亘って実に60数年の長期間タイルとともに歩み，タイルとともに生きてこられたのでありますが，その間ラスモザイク（地下鉄動物園駅壁面のキリン・サルなどの動物画一改装のため今はない一）を発明し，セラストン，セラスキンを開発して「タイルの神様」とまで呼ばれるまでになられたのであります。

本会においては建材部門の代表として評議員，住宅委員，明治建築調査委員として活躍せられ，斯界の向上発展に努められました。



故 **大和榮衛氏**
（元本会常務理事，事務局長）
昭和44年7月30日老衰の為逝去
享年 79才

氏は，大正12年本会事務局に就職せられ，以来昭和29年8月常務理事を辞任せられるまで，実に30数年の長きに亘って協会発展に努められましたが，戦後社会状勢に応じての建築総合団体への脱皮など過渡期においては2代会長竹腰健造氏のもとに大いに力量を発揮し，とくに各支部設立に際しての功績は実に大なるものがありました。

また，常務理事，事務局長辞任後もしばらく嘱託として日本建築材料協会の育成発展を通じて本会との協力体制の基を築かれたのであります。



故 **東出清光氏**
（元本会嘱託）
昭和44年8月8日肺炎の為逝去
享年 76才

氏は，戦後本会職員となって「建築と社会」その他出版物の広告を担当し，その温厚篤実な性格によって着々と成果をあげ，雑誌発行の一翼を担ってこられたのでありますが，広告の編集についてもたえずアイディアを提供して質の向上に努められたのであります。

現在毎号掲載されている新建築の特別広告企画は，氏のアイディアによるものであります。

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話　大阪364代表 0206～9

室谷

内装資材専門店

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　（英和ビル）
直通電話　神戸（33）0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50（堂ビル5階　502号室）
直通電話　大阪（364）2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5（電話㉒2923）

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

OKUYAMA-KAKOGYO WATER-PROOF OAM

カッパー防水帯 コーパータイト

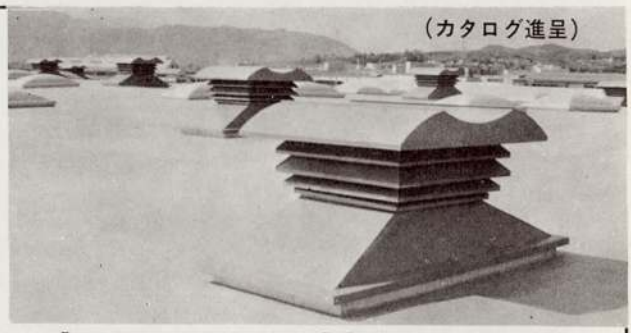
パーフェクトな 冷工法 デラタイト

奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座8－4－11　電話(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所　大阪市都島区都島中通り5－4　電話(921)2497・(922)7280
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話(811)3660・3104

特許　岩元式ベンチレーター
（電動式並固定型各種）

岩元式ベンチレーター　A型・B型・固定型
岩元式連塔換気装置（コンチニヤス・ベンチレーター）
新型　換気塔 NSライン　（強制換気扇付）
新型　換気塔 SFスーパー　（特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する）
最新型　採光排気塔（風光）スーパーライン特殊増幅装置付
スカイライト工事・通風ルーパー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式



（カタログ進呈）

岩元工業株式会社

大阪市東成区東今里四丁目40番地
電話（981）0616～0618

暖冷房・換気・温湿度調整・衛生諸設備
設計・施工

暁建設工業株式会社

本社　東京都中央区日本橋通３－１　電話(201) 0181(代)
支店　大阪市北区芝田町１０１　電話(372) 2146～9
出張所　名古屋・九州・前橋

創業　暖冷房・換気・温湿度空気調和　設計
大正二年　病院諸設備・給排水衛生・水族館設備　施工

株式会社 斎藤省三商店

東京店　東京都千代田区丸の内２の２　丸ビル６７６号　電話 212(代)3751
大阪店　大阪市西区土佐堀通１の１　大同ビル６１６号　電話 443代 3361
札幌店　札幌市北十条西１８丁目３６番地　電話 61(代)4371
名古屋店　名古屋市中区栄３の５番２９号　千代田ビル５１４号　電話 261(代)0641
京都店　京都市南区西九条春日町４８番地　電話 681(代)1781

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本店　大阪市東淀川区加島町357　電話 (302)2271～9(代)
大阪支社　同上
東京本社　東京都港区芝浜松町2－7　電話 (434) 6171(大代)
支店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・盛岡・横浜・神戸

冷暖房　給排水、衛生水道　電気　厨房
各種サッシ　環境衛生施設　荷役運搬機械　化学鉱山機械

三機工業 株式会社 大阪支店

取締役社長　大前玉男
取締役支店長　樋口勝栄
大阪市東区北浜２丁目２２番地　電話 大阪 (202) 代表3071
本店　東京・日比谷・三信ビル
支店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、富山
出張所　横浜、金沢、静岡、高松

電気・空調・給排水・衛生設備・設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長　菅谷知巳

本店　大阪市西区江戸堀１－６０　電話 (441) 8231大代
支店　東京・名古屋・福岡
営業所　札幌・仙台・金沢・神戸・広島
出張所　京都・岡山・高松・熊本・横浜
新潟・富山・福井・豊田

空気調和・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃商会

本社　大阪市北区富田町16番地　電話(363)大代表1371
支店　東京都千代田区神田小川町2丁目1番地　電話(292) 代表7751
広島市紙屋町１丁目２番22号　電話(47) 代表4535
福岡市大名１丁目８番12号　電話(76) 代表3795
出張所　名古屋・富山・金沢・福井・京都・松江

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4945(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸34局 5892

須賀工業株式会社

空気調和　衛生設備

大阪市西区土佐堀通１丁目１４　電話 441－5171
支店－東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所－広島　出張所－北九州

営業種目●空気調和設備●給排水衛生設備●塗装設備
●蒸気噴射式冷凍機／設計・製作・施工

空気調和のケンザイ 株式会社 建材社

本社・東京支店＝東京都中央区銀座６－６－７　㊫(572)7411 代
大阪支店＝大阪市北区中之島２－22　㊫(203)3721 代
名古屋支店＝名古屋市中区錦２－２－13　㊫(211)1535 代
出張所＝札幌・仙台・北陸・神戸・広島・松山・九州

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工

第一企業株式会社大阪支店

大阪市北区北同心町１丁目５７
電話 (351) (代表) ２８０８
本社　東京都文京区本郷１丁目１２－５
電話 (814) (代表) ５１５１
支店出張所　名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町１１番地
電話 大阪 (443) ５０４１～５番
東京本社　東京都千代田区大手町２の８番地(日本ビル)
電話 東京 (270) ７４１１番 (代表)
札幌営業所　札幌市南大通西4丁目1札幌道銀ビル　電話 札幌 22)5756
金沢営業所　金沢市高岡町２番１６号　電話 金沢 21)2074
福井出張所　福井市御幸２の１　電話 福井 24)2436
高松出張所　高松市２番丁９　電話 高松 21)5195
岡山出張所　岡山市大供３８０の１　電話 岡山 24)5486

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並二施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町３０　電話 (361) ５１７７(代) (364) ０９７７(代)
本社　東京都千代田区丸ノ内３－２(新東京ビル)
電話 (211) ８５１１・８５６１(代)
仙台支店　仙台市新伝馬町６０
電話 (21) ４４９１
名古屋支店　名古屋市東区東門前町３－６
電話 (971) ３６２１

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設 計 施 工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区梅田8番地(新阪急ビル8階)
電話 大阪(312) 4 5 2 1 (代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生 設備　設 計 施 工

不二熱學工業株式會社

本　店　大阪市南区順慶町2－50　電話 261－2436㈹
東京支店　東京都大田区西馬込1－2－1　電話 773－1231㈹
営業所　銀座・浜松・京都・神戸・福岡

Carrier
空気調和装置、各種冷凍機
設 計・製 作・施 工

東洋キヤリア工業株式会社
大阪支店

大阪市北区堂島浜通1－25(新大ビル)
電話 大阪(344) 1512(大代)
本社 東京都中央区日本橋本石町4－2(三井第二別館)
支店東京・名古屋出張所 九州
工場 埼玉県北足立郡・東京都足立区

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設 計 施 工

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1丁目62　電話(443) 代表8161～9
支店　名古屋市中村区水主町1の12　電話(541)0966(551)1655
出張所　東京都港区赤坂2丁目3～12
赤坂ビークビル5階　電話 (583) 1467
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1　電話 (34) 1778・4386

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目　TEL(443) 8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支店　名古屋・福岡

空気調和装置・冷暖房・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設 計・製 作・施 工

理研鋼機株式会社

大阪支店　大阪市東区高麗橋5－45(興銀ビル別館)
電話 (06) 202－7745番(代表)
本社・工場　東京都北区神谷3の10の8
電話 (03) 902－3111番(代表)
支店　東京・名古屋・仙台

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設 計 並 施 工

日本管工業株式会社
代表取締役 市川繁雄

本社　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪営業所　大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話 (352) **3501～3**
四日市営業所　四日市市浜田西末広町　電話㊿7431～3
津営業所　津市栄町2－111　電話⑧3610
鳥取営業所　鳥取市品治町鳥取農協会館内　電話 (22) 4477

Carrier
冷暖房はCARRIER キャリア
東洋キヤリア工業(株)製品販売店・特約工事店

日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1－16(石川ビル)
電話大阪 (443) 3661～5

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11　電話大阪(458)3531番
出張所＝京都・福岡

エレベータ・リフト・カーリフト
設　計　・　製　作

日本エレベータ工業株式会社

代表取締役　長尾正大

本社　大阪市大淀区天神橋筋六(天六阪急ビル)　(351) 4927代 4540
大阪営業所　(351) 4927代　サービス事業所　(328) 0364代
東京営業所　(822) 0995代　工場　(328) 0363代

平山工業株式会社
衛生・空気調和設備・設計・施工

TEL (441)㈹ 1994.(443) ㈹0331　大阪市西区江戸堀通2の2

カーテン・室内装飾・リノリューム
ビニールタイル・壁張り

合名会社 **利倉幸商店**

営業所　大阪市南区長堀橋筋二ノ二〇(日本橋バス停前)
電話 大阪(211)0571～4
(販売部)　電話 大阪(211)0575・6923
京都出張所　京都市中京区河原町夷川下ル指物町
電話 京都(231)3277・8779

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長　浅海正雄

本　社　大阪市北区老松町ノ丁目22
電話大阪(362)8701
東京支社　東京都港区赤坂1丁目5番7号
電話(481)8621代表
支　店　名古屋・札幌・福岡
営業所　旭川・横浜・浜松・姫路・高松

電気設備 ε 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本博三

本　社　大阪市北区中之島3の3　朝日ビルディング
TEL　代表　(448)　1361
営業所　大阪市西区土佐堀通り4の8
TEL　代表　(448)　1361
営業所　京都市西京極郡三反田町11の5
TEL　代表　(311)　1185

電気工事設計施工

太陽工藤工事株式会社

取締役会長　西村庄市
取締役社長　小林四郎

本　社　大阪市此花区恩貴南之町73
電力工事本部　TEL(06) 462−1301(代)
施設　大阪市北区野崎町69
工事本部　TEL(06) 313−3451(代)

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大阪支社

支社長　姉川正男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地　電話大阪(202)0325〜9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番地5号
支　社　札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所　旭川・白河・横浜・静岡・富山

電気工事・計装工事
設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長　栗原信英

大阪市北区高垣町16番地(東阪急ビル)
電話　大阪(313)1101(大代)
支店　東京・名古屋・舞鶴・広島・九州・神戸

電気工事 中 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長　中本正明

本　社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話大阪(931)代表7341〜5
0388・2193
資材倉庫　大阪市城東区野江東之町三丁目一一　電話大阪(931)7004
奈良営業所　奈良県御所市御国通り360　電話御所(2)2607・4259

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役　林　敏夫

本　社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話㊫3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話㊫1478(代)
出張所　川崎・相模原・堺・福山

各種電気工事設計施工・制御盤製作

野里電気工業株式会社

取締役社長　池内文夫

本　社　大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電話大阪(472)代表1101〜7
支　店　東京都品川区西五反田6丁目25番11号(福島ビル)
電話東京(491)1746(492)0182・0350
営業所　北九州市小倉区鋳物師町23番地
電話小倉(56)5665・5818
出張所　群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納伝三

本　社　大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル三階)
電話(364)1471(代)
支　社　東京都中央区明石町6−23(辻孝ビル)
電話(542)561
営業所　名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話(991)5131〜3
出張所　神戸市・堺市・高槻市・姫路市

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長　田中実

本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(541) 0564〜7・7148〜9
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

電気工事・計装工事・設計施工

中央電気工業株式会社

取締役会長　今村騰
取締役社長　立石行男

本　社　大阪市北区梅ケ枝町56番地
電話　大阪　大代表(312)8881
支　店　東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所　松山・京都・草津・静岡・水島・福岡

各種電気工事設計施工

株式会社 ヤマト電気商会

取締役社長　山本永造

本　社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(364)代3056
東京支店　東京都港区新橋5−34−6　相馬ビル5階
電話　東京(434) 3848・(431) 8435
出張所　大阪南・札幌・名古屋・四日市・松山・徳山

奉仕感謝の店

タイル工事施工

特許申請中・完全滑止タイル

SSS（サンエス） タイル 新発売

（カタログ進呈）

㊊ 株式会社 **川岸窯業商店**

大阪市西区靱本町２丁目９８　靱本町電停前

電話　大阪　（532）０４６１～４番

窓掛、緞帳、日除、壁紙 **室内装飾** 絨毯、舗床材一般

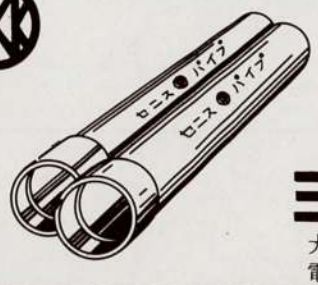
東洋リノリューム
川島織物 代理店

亀井株式會社

大阪市東区南久宝寺町四丁目（心斎橋筋）

電話　大阪（251）1353（代）～６・9996

営業所　名古屋・福岡・札幌・東京

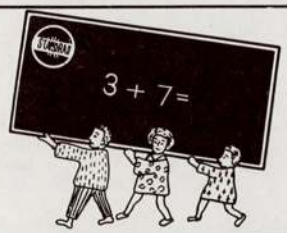


トラフ・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール

株式会社
三幸商會

大阪市北区与力町一ノ一〇

電話　大阪（358）４０３１



Standard Board&Slate

フタバ黒板

大阪市東住吉区桑津町三丁目１０１番地　電話大阪（717）4561～２

営業品目

- ● ㊀ホボウゴーレックス防水
- ●化粧壁材ソリジットスタイン吹付
- ●樹脂砂壁エバーサンド吹付
- ●樹脂蛭石エバテックス吹付

合同特許建材工業株式会社

本社営業所・大阪市東住吉区駒川町３－54　電話（702）代7814～６

特約代理店・東京・名古屋・金沢・広島・今治・福岡

●法定不燃材の屋根長尺現地成型

ガスにも／熱にも
酸・薬品にも
大丈夫です

●責任施工・型録送呈

特許●耐酸・耐アルカリひふく鉄板

オリエンタルメタル

●永久建材の超ひふく鉄板

スーパーオリエンタルメタル（SPM）

カラースーパーオリエンタルメタル（CSPM）

●新時代にマッチした各種のカラー製品があります

オリエンタルメタル製造株式会社

本社工場　兵庫県尼崎市長州字稲川新田44　電話　大阪（481）8085～９
大阪支店　兵庫県尼崎市長州字稲川新田44　電話　大阪（481）8085～９
東京支店並工場　埼玉県蕨市塚越５－６－３２　電話　蕨（42）３１１５
支店・出張所　郡山・八幡・名古屋・川崎・岩国・宇部・延岡・敦賀・三原・徳島・徳山

特許　内外式　意匠登録

電動ベンチレーター

屋上強制換気装置製作のパイオニア

50年の豊富な経験と技術、研究により

1．最高の換気率　4．価格の低廉
2．スマートな外観　5．直傭工による施工の完璧
3．雨仕舞の完全　6．行届いたアフターサービス

近畿ヨカコーラボトリング美原工場
NK型口径 900m /m（モートル 3HP）40基

内外建材株式会社

移転仮営業所　大阪市西区江戸堀北通２の３（新坂ビル）　TEL（441）3983～４・4396
工　場　大阪市城東区天王田町１の１４１　TEL（962）１１４９

内外式コンチニアスベンチレーター
筒型ベンチレーター
内外式ガラス屋根
内外式連続採光換気装置
設計施工

製造発売元・責任施工

特許ニッポン防水液
ニッポン防水液B号
ニッポン急結液壱号
ニッポン耐寒剤
ニッポン防水目地材
ビルコート

標準セメント防水剤

特許 ニッポン セメント防水剤
国立大阪工業試験所御創製
強度増加 絶対防水 硬化促進

黒川化学のセメント防水

有限会社 黒川化学工業所
本店 工場 神戸市東灘区住吉町反高林 TEL (85) 2723

内外

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト（樹脂）
モルタル工事

N.G.C.式
米国パブコ・アスファルトコンパウンド
米国バイヤーライト・アスファルトコンパウンド
販売
各種シート防工事 責任施工
新防水材リベットルーフ 責任施工

内外工業株式会社
本社 大阪市阿陪野区旭町1丁目1番地30号 電話(641)3434～6
(631)0810(夜間)
工場 大阪市東住吉区桑津町3丁目16番地

スチール
アルミ
ステンレス
サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター
三高式オペレーター・ドアーハンガー

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社 三高製作所
本社・工場 尼崎市神崎五反田280番地
電話 大阪(499) 8151 代表

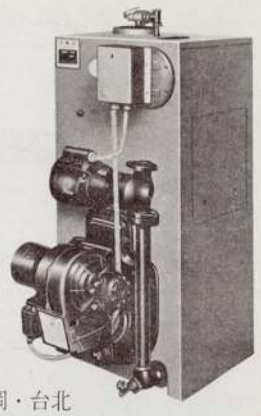
近代建築の要求する
＊特許 小俣式 ステンレス・アルミニウム 防火シャッター

設計
製作
施工

小俣シャッター工業株式会社大阪支店
大阪支店 大阪市北区若松町30 電話大阪(364)9004・9016・4825
本社工場 東京都北区田端町1138 電話東京(893)5211～5

セントラルヒーティングは世界最大の規模を誇る

アメリカン・スタンダード社製 **A-3ボイラ**



＊予算が許せるなら、多少のむりを押してもA—3ボイラを組み込んで下さい。必らず施主から感謝される高級品です。

AMERICAN STANDARD IDEAL STANDARD 提携 汽車製造株式會社

■米国市場の80%を独占■鋳鉄製本体は耐久性抜群(米国で70年、日本で40年の実績あり)
■暖房と給湯が一台で可能■全自動で操作は簡単■静かな運転者 ■A重油・灯油・軽油いずれでも可
■家庭用から営業用まで72機種■部品の在庫豊富

KSK 汽車製造株式會社 大阪市此花区島屋町406 〒554 電話(06)461-8001 札幌・東京・名古屋・草津・広島・福岡・台北

KANDAN

●空気調和設備 ●給排水衛生設備
●各種送排風機 設計施工

関西媛房工業株式会社

本 社 大阪市住吉区万代東六丁目三番地 電話 大阪(672)大代表1281
出張所 名古屋・広島・福岡 工 場 和泉・名古屋

全国で好評の……新興の内装壁材を!

新しい時代の新らしい壁
ヒル石基材の燃えぬ壁材
ダイシンコート
(特長)
塗付・吹保・防音・耐温・耐水・耐火

革新塗料現る
①ソフトな感覚、優雅な味
②ペイント塗料に優る
③塗りかえ自由
④安価で塗りよい
⑤吹付施工も自由
⑥洗いも下地も自由
繊維塗料の
シンコゾール
全国有名建材店又は当社へ

繊維壁材(通称)わたかべ
耐水、耐アルカリ性時代来る
(特長)
漆喰・ドロマイドプラスター・セメントモルタル下地塗面に強く
差支なし
落ちない
良く
強く

すき・すゞか・新いすゞ・四香・七宝・錦紋・王座

●カタログお送りします

発売元
(株)新興建材工業所
大阪市西区西長堀南通1丁目5番地 TEL 大阪(538)2951~5・(541)5757~9
営業所 東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

新興壁材工業(株)
大阪市住吉区粉浜本町4丁目26番地 TEL 大阪(672)1661~3
(株)九州新興建材工業所
福岡市上牟田八田町26の1 TEL 福岡(41)5225~6

ニードルパンチカーペットの決定版

ユーロン®パンチョス

ポリプロ　70％　ナイロン　30％

P.Pの特性とナイロンの特徴を最大限に生かし、独特の新方法を加え、
ニードルの欠点を全く解決した驚異的な……パンチョス
表に特殊加工（特許申請中）
裏に合成ゴム（特許）
ピリングを防止し、伸縮がなく、耐摩耗性にすぐれ、耐久力は抜群……
土足のところに絶対強く、フレヤーの起らない……ユーロンパンチョス

本州・四国・九州地区発売元　装栄株式会社　　北海道地区発売元　株式会社　三晃

電植、ナイロン100％
ニチレ®ナイロン ユーロン®カーペット

デラックス……スベリ止め加工、重量感のある豪華さ。
スタンダード……裏は板ゴムで特に工事向の価格。

TSK 大誠化工株式会社　本社　大阪市東区安土町1丁目23(新船場ビル)　電話（06)261－5716(代表)
工場　京都市南区吉祥院西ノ庄向田町8　電話(075)313－8834(代表)

コーキングパテ

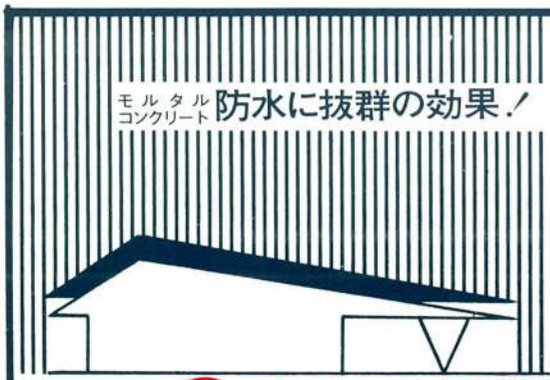
ウヅラ印



柏原瀝青株式会社

本社工場　大阪市西淀川区御幣島東2ノ5　電話大阪(471)1493～4・8267
第二工場　大阪市西淀川区御幣島西3ノ99　電話大阪(471)　0426

パテタイル



モルタル コンクリート 防水に抜群の効果！

マノール防水剤

マノール防水剤は、屋上、内外壁、地下室などのモルタルやコンクリート、ブロックの防水、防湿に最適です。
その上、亀裂予防はもちろん、作業能率も著るしくあがり、仕上り面が特にきれいな点にも人気があつまっています。

マノール製品
〈モルタル コンクリート用〉
防水剤
急結剤
早強剤
接着剤
剥離剤
防凍剤
エスコート（セメント起泡剤）
エアコール（空気連行剤）
山富貴黄華（着色剤）

株式会社 油脂化工社
東京都品川区大井1-15-1 電東京(774)4111代表

大阪営業所 大阪市東成区西今里町2－48 電 大阪(971)4765-6
名古屋営業所 名古屋市中区門前町5－37 電 名古屋(231)5440
福島営業所 福島県信夫郡吾妻町下野寺遠原 電 福島(34)7428
盛岡営業所 盛岡市南大通3－12－50 電 盛岡(22)2204

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

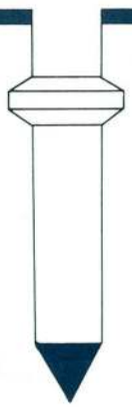
ウォータイトB号

CEMENT WATER-PROOF WOTAITO

仕様書 型録 贈呈

株式会社 日本セメント防水剤製造所

本社 大阪市東区船越町2—31（船越ビル）電話（941）2626・2628
連絡所 宝塚市高台上の池 電話 宝塚（86）2153
出張所 電話 東京(431)8648・名古屋(331)1531・仙台(23)0721・札幌(87)1111
オォータイト式防水工事代行店 電話 大三工業 高松（2）0016 安藤工事 福岡（28）5207 豊永建材 広島（61）6371 東邦防水工業 電話 札幌（82）3133



●基礎施工の悪條件を克服する

武智式 日信三角杭

特許●第233744号
特許●第250108号
実用新案●第25—10942号
実用新案●第37—36106号

株式会社 武智工務所

本社 大阪市東区高麗橋2—20（高麗新ビル）
TEL 大阪（202）3233(代)・7501(代)
名古屋営業所 名古屋市中区錦1—3—2（殖産住宅ビル）
TEL 名古屋（211）3086(代)
大阪工場 大阪市住吉区北加賀屋町5—27
TEL 大阪（672）3223・3224
名古屋工場 愛知県海部郡弥富町佐古木
TEL 弥富（7）1191・1192

日本建鉄の



PS80Aレディメードサッシ

PA60A・PA70Aサッシドア

日本建鉄株式会社

本社 東京都千代田区大手町2～8 TEL東京(270)6511(大代)
大阪支店 大阪市北区梅田町47（新阪神ビル） TEL大阪（341）4331(代)

建築と社会 “ARCHITECTURE AND SOCIETY” 第50輯第10号
■昭和44年10月25日発行(毎月1回25日発行)・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

技術の日立



分速300m
日本一の超スピード!

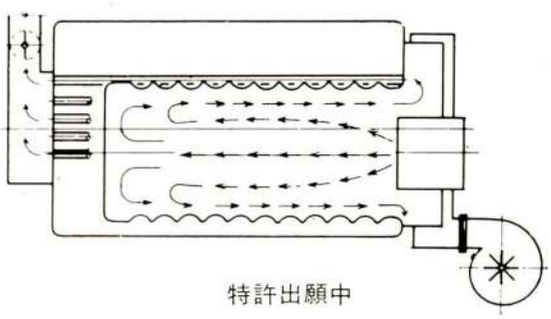
36階をわずか35秒——
話題を呼ぶ地上147mの霞が関ビル。
マンモス都市東京を眼下に、遠く富士を望む36階の大展望台へ——日立超高速エレベータがわずか35秒でご案内します
分速300mのエレベータの中は、スピードを感じさせない超スピードの世界。
快適な乗り心地に訪れる人々は感嘆しています。もちろんわが国では、最初に開発された超スピードのエレベータです

日本の超高層ビル時代のために——
独自の技術で切り開いた
日立超高速エレベータ

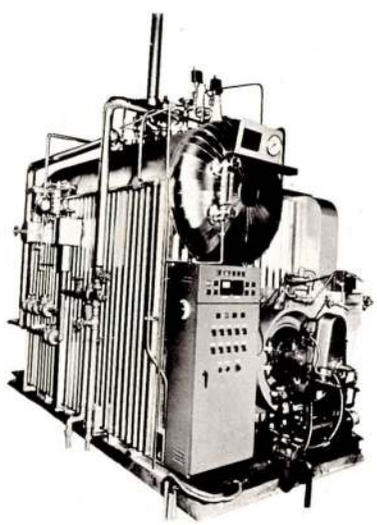
日立製作所 大阪営業所
大阪市北区梅田2番地(第一生命ビル)TEL(361)1301大代

わが国初の戻り燃焼方式!!

MPボイラ 800型



特許出願中



特 長
●ボイラ効率90～88%
●すす吹きはワンタッチ
●構造簡単・小形軽量
●スチームアップが早い

〈その他の営業品目〉
用廃水処理装置

株式会社 平川鉄工所

WTP水管ボイラ
●25T/Hまでトレーラで輸送できます

本社・工場 大阪市大淀区大淀町北1丁目11番地 電話(06) 458－8681(代)
東京支店 東京都中央区八重洲6の7城辺橋ビル 電話(03) 272－2721(代)
名古屋営業所 名古屋市中区新栄町1の6中日ビル 電話(052)262－2451(代)
札幌26－8018 福岡76－3146 滋賀工場(07758) 7－1450

■ご入会のお申込は・社団法人 日本建築協会 大阪市東区北浜3－37 電話大阪(06)231-9648・9649・9640 振替口座大阪39975番

定価 300円(送料共)